

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成24年6月

和歌山工業高等専門学校

目 次

I	対象高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	4
	基準2 教育組織（実施体制）	9
	基準3 教員及び教育支援者	24
	基準4 学生の受入	42
	基準5 教育内容及び方法	52
	基準6 教育の成果	88
	基準7 学生支援等	116
	基準8 施設・設備	177
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	194
	基準10 財務	203
	基準11 管理運営	219

I 対象高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

和歌山工業高等専門学校

(2) 所在地

和歌山県御坊市名田町野島77

(3) 学科等構成

学 科：知能機械工学科，電気情報工学科

物質工学科，環境都市工学科

専攻科：メカトロニクス工学専攻，

エコシステム工学専攻

(4) 学生数及び教員数

(平成24年5月1日現在)

学生数：学 科829名

専攻科44名

教員数：63名

本科現員表 (平成24年5月1日現在)

学科	1年	2年	3年	4年	5年	単位(人)
計	169	164	178	163	155	829

専攻科現員表 (平成24年5月1日現在)

専攻名	1年	2年	計
メカトロニクス工学	9	12	21
エコシステム工学	10	13	23
計	19	25	44

教員 (常勤) 現員表 (平成24年5月1日現在)

学科	教授	准教授	講師	助教	計
計	27	30	1	5	63

2 特徴

和歌山工業高等専門学校 (以下本校と言う) は実践的技術者養成のための高等教育機関として昭和39年4月に開設された。教育理念として「5年間の一貫教育を通じて、エンジニアとしての素養を身につける基礎教育」を行い、「工学を社会の繁栄と環境との調和のために生かす創造力と問題解決能力」を身につけ、「豊かな人間性と国際性を備えた人材」を育成する事を謳い、さらに地域環境に配慮すべく「地域社会の特色を生かしつつ、地球環境に配慮した新技術の開発に貢献し、新たな課題に挑戦」する事を目標に掲げている。その上で「本校での教育・研究活動が、国際社会にアピールできるよう努力を重ねる。」事を宣言している。これらの理念の下に教育活動を進め、「地域貢献」、「国際化」、「地域環境」、「情報化」をキーワードに活動を行っている。

本校卒業生は、卒業後直ぐか、専攻科や大学に進んだ

後かの違いがあるが、ほぼ全員が企業の技術者となっている。このことは本校に入学する事が、将来の職業を決めることを意味しており、このことを社会に広く周知する必要がある。そのため本校では専門学科毎に「望まれる学生像」、「卒業生像」を策定し、アドミッション・ポリシーとして広く社会に公表し、このポリシーに基づいた体験実習入試を実施している。さらに毎年大阪府下および和歌山県下の中学校 (平成23年度は258校) を訪問して本校ポリシーを説明し、本校の趣旨に沿った学生を集める努力を続けている。

教育内容は5年間の技術者教育を考慮した課程を設定し、その中で取り扱う内容は、例えば数学は専門学科毎に内容を変える等、技術者として必要な事柄に重点を置いた教育を行っている。さらにこれらの教育を行う教員は63名中46名が博士号取得者であり、23名が企業経験(6ヶ月以上)を有する等、十分な能力と資質を備えている。

また設立間もない昭和44年からインターンシップを導入し、4学年学生ほぼ全員を夏期休暇中にインターンシップに参加させ、社会経験を通じて、社会を垣間見せることで、勉学への動機付けや、社会人としての素養を身につけられるように配慮している。

卒業生に対する企業の評価は極めて高く、例年卒業生の約55%を占める就職希望者数の10~20倍の求人がある。学生主事を中心とした進路対策委員会によるきめ細かなフォローアップとも相まって、卒業生の約45%を占める進学希望者を含む卒業生のほぼ全員が、毎年卒業までに進路を決定している。

本校は全国有数の規模の学生寮を有しており、毎年本校学生の過半数に当たる定員一杯の520名余の学生が生活している。また低学年に全寮制を敷き、共同生活の体験を義務づけることにより、技術者として必要な協調性等の涵養に資している。この大規模寮を、寮務主事を中心とする学寮委員会と学生課寮務係、および寮生で構成する指導寮生委員会と寮生会で運営している。学生寮では集団生活はもとより学生の自主性を引き出すボランティア活動や社会人としてのマナー教育等、種々の施策を実行し、現在まで全国高専の模範的な寮として毎年のように他高専関係者の訪問を受けている。

本校の位置する和歌山県は高等教育機関が少なく、県民の本校への期待も大きい。この期待に応えるべく、2つの産官学交流会を設立して地域産業との連携を図っている。会員企業には旅館やゴルフ場といった異業種企業も含まれており、工業系の企業の発展に止まらず、広く地域社会の発展に資するようにしている。平成24年春には専門誌が本校の地域貢献の特集を組むなど、成果が目に見える形で現れつつある。

地域共同テクノセンターと情報処理教育センターを中心に小中学生を対象とした公開講座や出前授業、社会人を対象とした講座を実施している。また地域と共に「きのくにロボットフェスティバル」を毎年実施し、小中学生に夢を与える活動を続けている。図書館を地域に開放し、多数の地域住民が利用しており、地域の情報発信基地としての役割を果たしている。さらに、近い将来予想される東南海地震に対して津波発生時のハザードマップを作成し、地域住民への説明会を開催するなど、地元自治体と一体となった防災・減災活動を続けている。

II 目的

和歌山工業高等専門学校の目的

本校は技術者の養成および地域社会への貢献を目的に活動している。以下に技術者の養成を中心に説明する。

まず本校は、「教育基本法」の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的として、以下（資料0-1）に掲げる教育研究理念を掲げて、技術者養成のための教育を行っている。また専門を深く学びたい学生のために平成14年度に専攻科を設置し、本科とのつながりを考慮した教育プログラム、「地域環境デザイン工学」の構築を進めている。このプログラムは、「環境に配慮した様々なシステム的设计・開発を行う能力を持つ技術者」を養成することを目的として、専攻科でのマンツーマン指導による2年間の特別研究の特徴を生かし、本科と専攻科とを合わせた高専での7年間の教育で、大学院修士課程修了時のレベルに近い問題解決能力を持つ技術者の育成を目指している。この教育プログラムの学習・教育目標も併せて以下（資料0-2）に示す。

資料0-1 和歌山高専の教育理念

本校は、5年間の一貫教育を通じて、エンジニアとしての素養を身につける基礎教育と、実践を重視した専門教育を効果的に行うことにより、工学を社会の繁栄と環境との調和に生かすための創造力と問題解決能力を身につけ、豊かな人間性と国際性を備えた人材の育成を目指す。

とりわけ自然環境に恵まれた和歌山県中南部に位置する本校は、地域社会の特色を生かしつつ、地球環境に配慮した新技術の開発に貢献することにより、新たな課題に挑戦する。

こうした環境と地域連携を考慮した教育・研究活動が、国際社会へもアピールできるよう努力を重ねる。

(出典 本校ホームページ, 2011年度学校要覧)

この教育理念を具現化するために、卒業生が身につけるべき事柄を以下の4項目に定めている。

資料0-2 本校の学習・教育目標

- (A) 和歌山県の地球環境、地域社会との共生に関する理解および倫理観を身につけ、公共の安全や利益に配慮したものづくりの考え方を理解し説明できる。
- (B) 社会のニーズおよび環境に配慮し、かつ与えられた制約下で、工学の基礎的な知識・技術を統合して課題を解決するデザイン能力を身に付ける。
- (C) 自主的・継続的な学習を通じて、事故の専門分野で深い学問的知識や経験に加え、他分野にまたがる幅広い知識を身に付ける。
 - (C-1) 自然科学・情報技術に関する基礎的素養を有し、それぞれの専門分野での問題解決のためにそれらを駆使できる能力を身に付ける。
 - (C-2) それぞれの専門分野に関する深い学問的知識と実験・実習で得た多くの経験を持ち、それらを問題解決のために応用できる能力を身に付ける。
 - (C-3) 長期的視点に立ち、計画的に継続して自らの能力を向上させようとする習慣とそれを実現する能力を身に付ける。
- (D) 自分の考えを論理的に文章化する確かな記述力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション能力を身につける。

(出典 本校ホームページ, 2012年度学生便覧)

そして本校の目的を中学生に理解して貰うために、「本校が求める学生像」（資料0-3）として教育理念を平易に書き改めたものを学生募集要項に掲載し、周知を図っている。さらに本校の目的に沿った学生に広く門戸を開くために、平成17年度入学者選抜試験（16年度に実施）から従来の推薦による選抜、学力試験による選抜に加えて、専門への適性を体験実習で判断する「体験実習入試」を実施している。

このように専門に興味を持つ学生を集める努力を続けるとともに、入学後は本校の設立趣旨に沿った、特色ある技術者教育が行えるように、かつ科学技術の進歩に対応できるようにカリキュラムの改善を続けている。最近では平成21年度に機械工学科の名称を「知能機械工学科」に変更し、時代の要請に応えるべくカリキュラムの見直しを行っている（資料0-4）。

また本校を卒業してゆく学生の約55%が企業に就職し、45%が専攻科への進学や、大学に編入学しており、卒業生の進路決定率は毎年ほぼ100%となっている。とりわけ企業からの求人数は、本校卒業生の就職希望者数の10~20倍に達するなど、本校卒業生の社会からの評価は極めて高く、実践的技術者養成という本校の目的を達成できているものとする。また進学希望者は本校専攻科や国公立大学を中心に、希望者のほぼ全員が進学を決めている（資料0-5）。

さらに教育理念に謳われている地域との連携を具現化するために本校地域共同テクノセンターが中心になって、平成9年には御坊市を中心とした企業・自治体と「和歌山高専産官学技術交流会」を、続いて平成11年には田辺市を中心とした企業・自治体と「南紀熊野産官学技術交流会」を設立し、地域との連携を深めている。また企業からの共同研究や技術相談、さらには公開講座や出前授業等も地域共同テクノセンターが窓口になり、地域との連携と地域へのサービス向上に努めている（資料0-6）。

(資料0-3) 「本校が求める学生像」

知能機械工学科

- ・ 機械はもちろん、コンピュータにも関心があり、自己を高めたいと考えている学生
- ・ 将来、機械工学の知識を活かした仕事に就きたいと考えている学生

電気情報工学科

- ・ 電気・電子・情報技術について興味がある学生
- ・ 将来、電気情報工学の知識を活かした仕事に就きたいと考えている学生

物質工学科

- ・ 化学や生物工学の世界に興味がある学生
- ・ 実験や観察が特に好きな学生
- ・ 将来、化学や生物工学の知識を活かした仕事に就きたいと考えている学生

環境都市工学科

- ・ 街・道・港・橋などを作りたい学生
- ・ 地球環境を守りたい学生
- ・ 災害から人の命を守りたい学生

(出典 本校ホームページ, 2012年度学生募集要項)

資料0-4 知能機械工学科の新規開設科目 (平成21年度入学生から適用)

新設科目	ロボット創作実習, 電子制御Ⅰ, 電子制御Ⅱ, 電子制御Ⅲ, メカトロニクス設計, 情報工学
廃止科目	電気工学概論, 電子制御, メカトロ概論, 情報機器
単位変更科目	機械工作法, 工作実習, 自動制御

(出典 知能機械工学科シラバス)

資料0-5 平成23年度本校卒業生の進路状況

学科	卒業予定者 (人)	進学希望者 (人)	就職希望者 (人)	その他 (人)	求人企業数 (社)	求人数 (人)	求人 倍率	専攻科 進学者(人)	大学 進学者(人)
機械工学科	39	18	21	0	440	440	21.0	6	12
電気情報工学科	42	15	25	2	453	453	18.1	3	12
物質工学科	39	18	20	1	228	228	11.4	8	10
環境都市工学科	41	16	24	1	202	202	8.4	2	14
合計	161	67	90	4	1323	1323	14.7	19	48

(出典 学生課資料)

資料0-6 共同研究および技術相談, 研究会の状況

活動内容	受託研究	共同研究	技術協力 技術相談	他機関との 研究会
件数	7	7	20	3

(出典 平成23年度年報原稿)

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 高等専門学校の目的が、それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校では学則「第1章第1条」(資料1-1-①-1)で「教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成する」ことを目的としている。これを基にして本校の教育理念を「工学を社会の繁栄と環境との調和に生かすための創造力と問題

解決能力を身につけ、豊かな人間性と国際性を備えた人材の育成を目指す。」と定めている(資料1-1-①-2)。

本校の学則に記載されている目的、及び本校の教育理念は、学校教育法第70条の2に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に合致している。高等専門学校に一般に求められる目的を包括した教育理念を学校全体の目的とし、さらにその目的を平易に表現した目標を各学科、及び専攻毎に設定している(資料1-1-①-3～4)。これらの目標と、学校教育法第70条の2の「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」との対応関係は次の通りである(資料1-1-①-5)。

資料 1-1-①-1

和歌山工業高等専門学校学則 第1章(目的)

第1条 和歌山工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、教育基本法(平成18年法律第120号)の精神にのっとり、及び学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的とする。

(出典 学生便覧)

資料 1-1-①-2

■ 教育理念

本校は、5年間の一貫教育を通じて、エンジニアとしての素養を身につける基礎教育と、実践を重視した専門教育を効果的に行うことにより、工学を社会の繁栄と環境との調和に生かすための創造力と問題解決能力を身につけ、豊かな人間性と国際性を備えた人材の育成を目指す。

とりわけ自然環境に恵まれた和歌山県中南部に位置する本校は、地域社会の特色を生かしつつ、地球環境に配慮した新技術の開発に貢献することにより、新たな課題に挑戦する。

教育目標

知能機械工学科の教育目標

1. 自然科学に関する基礎知識を修得し、これらの基礎知識を専門分野に応用できる能力を身につける。
2. 1.材料とその強さ, 2.運動と振動, 3.熱と流体の流れ, 4.情報と制御, 5.設計と工作, 等の基礎知識を身につけ、「ものづくり」に適用する能力を養成する。
3. 実験・実習を通して、計画・遂行の手法を学び、結果を解析し、工学的に考察して報告書にまとめる能力を養成する。
4. もっとも得意とする専門分野の知識を地球環境・保全・安全に配慮して設計・加工に適用させる能力を養成する。
5. 設定された研究テーマに対して、これを解決する手法を自ら企画・立案し、創造的かつ継続的に解析・実行して、得られた成果を報告書にまとめる能力を身につける。また、その成果をプレゼンテーションする能力を養成する。

(出典 和歌山工業高等専門学校ホームページ及び学校要覧)

資料1-1-①-3

各学科の教育目標

知能機械工学科の教育目標

1. 自然科学に関する基礎知識を修得し、これらの基礎知識を専門分野に応用できる能力を身に付ける。
2. 1.材料とその強さ、2.運動と振動、3.熱と流体の流れ、4.情報と制御、5.設計と工作、等の基礎知識を身に付け、「ものづくり」に適用する能力を養成する。
3. 実験・実習を通して、計画・遂行の手法を学び、結果を解析し、工学的に考察して報告書にまとめる能力を養成する。
4. もっとも得意とする専門分野の知識を地球環境・保全・安全に配慮して設計・加工に適用させる能力を養成する。
5. 設定された研究テーマに対して、これを解決する手法を自ら企画・立案し、創造的かつ継続的に解析・実行して、得られた成果を報告書にまとめる能力を身に付ける。また、その成果をプレゼンテーションする能力を養成する。

(出典 本校ホームページ)

資料1-1-①-4

専攻科で身に付ける能力

和歌山高専専攻科

専攻科概要



専攻科は、高専本科卒業生およびこれと同等の資格を有する社会人等を対象として、さらに深く、幅広く教育研究を行う2年制の課程です。

本校の専攻科では、

- ① 持続可能な社会の形成に活かせる創造力
- ② 多面的に問題を発見し、解決する能力
- ③ 豊かな人間性と国際性

を備えた人材の育成を目的としています。

本校の専攻科には、「メカトロニクス工学専攻」(定員8名)と「エコシステム工学専攻」(定員8名)の2専攻が設置されています。本科の機械工学科、電気情報工学科を卒業した学生はメカトロニクス工学専攻に、また物質工学科、環境都市工学科を卒業した学生はエコシステム工学専攻に進学できます。

本校では、本科第4学年から専攻科修了までの4年間、「地域環境デザイン工学」教育プログラムを設定しています。本プログラムは、JABEE(日本技術者教育認定制度)認定されています。

本校の専攻科修了生は、大学評価・学位授与機構の審査を経て、大学工学部卒業生と同じ学士(工学)の学位を取得できます。

(出典 本校専攻科紹介パンフレット)

(分析結果とその根拠理由)

学則で掲げた目的を、より平易な表現で学校要覧の冒頭に掲げている。また学生募集要項等ではさらに平易な表現を用いて、中学生の理解を助けている。以上のことから、本校は、高等専門学校として目的を明確に定めている。

本校で定められた教育理念は学校教育法70条で詠われている目的に合致しており、また養成する人材像や卒業(修了)時に身につけるべき資質・学力についても、学校教育法の高等専門学校の目的との対応を明確に意識して策定している。以上のことから、本校の目的は高等専門学校一般に求められる目的に適合するものである。

資料1-1-①-5

教育基本法と教育理念の対応

	『深く専門の学芸を教授し』に対応	『職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成』に対応
教育理念	工学を社会の繁栄と環境との調和に生かすための創造力と問題解決能力を身に付け、豊かな人間性と国際性を備えた人材の育成を目指す。	エンジニアとしての素養を身につける基礎教育と、実践を重視した専門教育を効果的に行う。 地球環境に配慮した新技術の開発に貢献することにより、新たな課題に挑戦する。
入学案内パンフレットより	新しい時代に対応した創造力に富み、人間性豊かで、また、国際社会にも貢献できるエンジニア育成のための教育指導を行っている。	講義のほかに実験・実習に重点をおいた教育を行い、高度な知識と技術を身につけたエンジニアの養成をめざしている。
専攻科入学案内より	メカトロニクス工学専攻教育方針 習得した専門科目を基礎として、更にそれらをより専門的に系統化・融合化させたカリキュラムを学ぶ。 エコシステム工学専攻教育方針 習得した基礎学力と技術を基盤として、環境の保全及び改善を考慮できる人材育成を目的とする。	メカトロニクス工学専攻教育方針 メカトロニクスに関する研究開発能力に優れた技術者の育成を目的とする。 エコシステム工学専攻教育方針 発展的に工業生産及び社会基盤の形成に貢献できる人材育成を目的とする。

(出典 学校要覧, 入学案内, 専攻科学生募集要項)

観点1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的及び教育理念を記載した学校要覧（資料1-2-①-1）を学校の構成員全員および関係部署に配布して周知を図っている（資料1-2-①-2）。また本校のホームページにも掲載するとともに（資料1-1-①-2参照）、学生便覧にも掲載し（資料1-1-①-1参照）、周知を図っている。さらに入学案内パンフレットや専攻科パンフレット（資料1-1-①-4参照）、学生募集要項、専攻科学生募集要項等には学科やプログラム毎の学習目標を掲載している。また教職員採用時の初任者研修では、本校の使命、教育理念、教育目標、養成すべき人材像および卒業（修了）時に身につけるべき学力や資質・能力についても説明し、目的の周知を図っている（資料1-2-①-3）。さらに学生（専攻科生）には学習教育目標についてアンケート調査を行い、アンケート対象者23名中20名（約9割）の学生が学習・教育「知っている」と答え、残りの3名も「聞いた事がある」と

資料1-2-①-1 学校要覧の教育理念

和歌山高専の教育研究理念

本校は、5年間の一貫教育を通じて、エンジニアとしての素養を身につける基礎教育と、実践を重視した専門教育を効果的に行うことにより、工学を社会の繁栄と環境との調和に生かすための創造力と問題解決能力を身につけ、豊かな人間性と国際性を備えた人材の育成を目指す。

とりわけ自然環境に恵まれた和歌山県中南部に位置する本校は、地域社会の特色を生かしつつ、地球環境に配慮した新技術の開発に貢献することにより、新たな課題に挑戦する。

こうした環境と地域連携を考慮した教育・研究活動が、国際社会へもアピールできるよう努力を重ねる。

（出典 平成23年度学校要覧）

回答しており、目的をブレイクダウンした学習教育目標が学生等学校の構成員に対して、おおむね周知されていると判断する（資料1-2-①-4）。

（分析結果とその根拠理由）

本校の使命等を掲載した学生便覧等を全教職員及び全学生に配布すると共に、ホームページや募集要項等にも掲載しているほか、教職員には会議や研修を通じて周知を図っている。またその周知状況を把握するために、専攻科修了生にアンケート調査を行い9割の学生が学習・教育目標を「知っている」と答えており、学校の目的が学生等構成員に対して、おおむね周知されている。

資料1-2-①-2 学校要覧 配布先リスト

平成23年度学校要覧配布先一覧

宛先	配布先	部数	備考
文部科学省専門教育課	郵送	3	
高専機構本部	郵送	3	
長岡技術科学大学	郵送	1	
豊橋技術科学大学	郵送	1	
和歌山県企画部	郵送	3	
和歌山県工業技術センター	郵送	3	
国立国会図書館 東京本館	郵送	5	
国立国会図書館 関西館	郵送	5	
和歌山県立図書館	郵送	3	
御坊市総務課	郵送	3	
御坊商工会議所	郵送	5	
国立私立高等専門学校	郵送	62	
近畿地区国立大学等	郵送	15	
名誉教授(非常勤講師除く)	配布	23	
非常勤講師	配布	33	
学内(非常勤職員除く)	配布	132	
父兄	郵送等	900	留学生含む、兄弟重複
中学校・就職用	学生課	3,500	
オープンキャンパス	学生課	300	
学校説明会	学生課	300	
企業訪問用	学生課	100	
ロボットコンテスト	学生課	100	
ロボットフェスティバル	企画	100	
その他の催し物	企画	100	
その他	企画	100	
来客用	総務	200	
常備用(校長室、部長室、寮事務所)	—	50	
予備	—	50	
合計		6,100	

（出典 総務課資料）

資料1-2-①-3 平成24年度初任者研修資料

平成24年度 新任教職員研修会 (FD委員会)

日 時 平成24年5月11日 (金) 16:15~

場 所 本館1階会議室 (1)

日 程 16:15~ 大久保副校長↓
 16:20~ 山川教務主事↓
 16:40~ 福田学生主事↓
 17:00~ 野村事務主事↓
 17:20~ 坂本総務課長補佐↓
 17:40~ 窪田学生課長補佐↓
 18:00 (終了予定)

(出典 総務課資料)

資料1-2-①-4 学習教育目標に対するアンケート結果

学習教育目標を知っている 20/23
 聞いたことがある 3/23
 知らない 0/23
 その他 0/23

(出典 総務課資料)

観点1-2-②: 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の教育理念等はホームページ(資料1-1-①-2参照)に記載するとともに、学校要覧や学生便覧、学生募集要項、編入学学生募集要項、専攻科学生募集要項にも記載しており、これらの冊子はホームページ上からも閲覧できるようにしている。また学校案内のパンフレット(資料1-2-①-1参照)等の資料を毎年開催する中学校訪問(資料1-2-②-1)で持参し、中学校関係者に説明している。さらにオープンキャンパス(資料1-2-②-2)や学校説明会(資料1-2-②-3)、公開講座等の場でも参加者に配布し、本校の目的の周知に努めている。

資料1-2-②-1 中学訪問校数の推移

	県内	県外
H19	82	54
H20	98	65
H21	128	104
H22	117	77
H23	97	73

(出典 学生課資料)

資料1-2-②-2 オープンキャンパス

和歌山高専
オープンキャンパス



8/27 (土) 10:00-15:00

- 【イベント内容】
- ☆実験室公開 (実験設備 (機能) 等の実演や保存体験)
 - ☆ロボコンロボットの展示
 - ☆入試説明会 (10:00~、13:00~)
 - ☆各科概要パネル展示
 - ☆和歌山高専公開講座 (※事前申込が必要です。)
 - 「世界の化学・生物実験 ~Flavor フレーブの香り~」
 - 「ビューティロボットで遊ぶ」

和歌山高専遠征バス時刻表 (無料)

出発地	和歌山	和歌山	和歌山
9:30	9:45	10:30	10:45
11:00	11:15	13:00	13:15
13:20	13:45	14:00	14:15
14:20	14:45	15:00	15:15

交通案内

- 和歌山駅より徒歩15分
- 和歌山駅より徒歩15分 (和歌山駅南口)
- 和歌山駅より徒歩15分 (和歌山駅南口)
- 和歌山駅より徒歩15分 (和歌山駅南口)
- 和歌山駅より徒歩15分 (和歌山駅南口)
- 和歌山駅より徒歩15分 (和歌山駅南口)

オープンキャンパスでは、実験室の公開、体験操作や入試説明会を行います。そして10月15日(土)には、学科での体験学習が行える「学校説明会」も予定しています。ぜひこの機会に、和歌山高専を詳しく見ていただきたいと思います。

和歌山高専 50周年 2017

〒941-8501 和歌山県和歌山市 073-9-29-6242 (学生課相談室)

http://www.wakayama-nct.ac.jp/

(出典 平成23年度オープンキャンパスポスター)

(分析結果とその根拠理由)

ホームページに本校の使命、教育理念等を掲載しているほか、本科や専攻科の募集要項等に記載して、本校への入学希望者にとどまらず、オープンキャンパスや学校説明会、公開講座、出前授業等への参加者にも配布する等、あらゆる機会に本校の目的を記載した資料を配布しており、本校の目的は広く社会に公表されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の使命や教育理念等を多くの冊子に記載すると共に、それらの冊子をホームページ上から閲覧出来るようにしている。また多数開催している公開講座等でこれらの冊子を積極的に配布し、本校の使命や教育理念の公表に努めている。

(改善を要する点)

全学生を対象としたアンケート調査をここ数年は行っておらず、本校の教育理念や学習教育目標が学生に十分周知されていることの確認を取っていない。早急を実施し改善したい。

(3) 基準1の自己評価の概要

本校では、創設時に学校の使命を定め、それを現在に至るまで貫いている。また求める人材像や教育課程、学科毎の養成すべき人材像や卒業(修了)時点で身に付けるべき学力、資質・能力をより平易に具体的に定めることにより、学生が本校において学習する際の具体的な指針を示し、効果的な技術者養成のための教育を行っている。

本校の使命は、高等専門学校創設の趣旨および学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて定められたものであり、教育理念、養成すべき人材像、卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力は、学校教育法の高等専門学校の目的との関連を明確にして策定されていることから、本校の目的は高等専門学校一般に求められる目的に適合するものである。

教職員に対しては、本校の使命、養成すべき人材像、卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力について、学生に対しては求める人材像、卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力、養成すべき人材像について、それぞれ積極的に周知を図っており、また周知状況調査のためのアンケート結果からも、目的が学校の構成員に概ね周知されていることを確認している。

また本校の目的は、ホームページや刊行物へ掲載しているのをはじめ、オープンキャンパスや学校見学会、公開講座や出前授業、和歌山県及び大阪府泉南地域の中学校訪問時の説明の際等、あらゆる機会を捉えて入学案内や学校要覧等の刊行物を配布することによって、社会に対して広く公表する努力を続けている。

資料1-2-②-3 学校説明会

和歌山工業高等専門学校
学校説明会

実施内容

- 学校説明
- 学科紹介(実験実習)
- 前回の入試体験
- 体験実習入試解説ビデオ上映

※ 専攻科も掲載できます。(各科 300円)、要事前予約

日時 平成23年10月15日(土)10:00~16:00
場所 和歌山工業高等専門学校
参加申込締切: 10月11日(火)

交通案内

★ 電車でお越しの方
和歌山駅から... 和歌山線 和歌山駅南口から徒歩10分(無料、要事前予約)
和歌山駅から... 和歌山線 和歌山駅南口から徒歩10分(無料、要事前予約)
和歌山駅から... 和歌山線 和歌山駅南口から徒歩10分(無料、要事前予約)
和歌山駅から... 和歌山線 和歌山駅南口から徒歩10分(無料、要事前予約)

★ お車でお越しの方
和歌山方面から... 阪和自動車道 和歌山IC下車、国道4号を南下約20分、
和歌山方面から... 阪和自動車道 和歌山IC下車、国道4号を北上約10分、

お申し込み先・お問い合わせ先
和歌山工業高等専門学校 学生課教務係
〒644-0023 和歌山県和歌山市田町野島7-7
TEL 0738-29-8242 FAX 0738-29-8254
E-Mail kyoumu@wakayama-nct.ac.jp

(出典 平成23年度学校説明会ポスター)

基準 2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点 2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校は昭和39年に機械工学科、電気工学科及び工業化学科の3学科で発足し、昭和44年に土木工学科を設置した。工学を社会の繁栄と環境との調和に生かすための創造力と問題解決能力を身につけた人材の養成のため、社会の要請の変化に応じて学科の変更とともに、その教育内容を時代に対応させてきている。平成5年に工業化学科をバイオテクノロジーや地球環境についても十分な知識を備えた技術者養成のために物質工学科に変更を行い、4年次以降2コース制（物質コースと生物コース）を採っている。物質工学科は化学系、食品系企業が多い和歌山県の状況（資料2-1-①-1）とニーズに十分対応できている。平成6年には構造物と環境との調和を考えられる技術者の養成のため、土木工学科を環境都市工学科に変更し、土木工学に加えて近年多発する自然災害に対処するための教育を行っている。更に、電子情報技術の発展に対応できる技術者養成のため電気工学科を平成16年より電気情報工学科に変更して、時代に対応できる人材教育を実施している。平成21年には機械装置のハードに関するものづくり知識だけでなく、コンピュータやプログラム作成といったソフト面の両面をバランスよく習得するカリキュラム再編に伴い、機械工学科を智能機械工学科に変更を行った（資料2-1-①-2）。このように本校の学科構成は、産業の基盤となる智能機械工学科、電気情報工学科を基本とし、それらに加えて和歌山県の状況に対応すべく物質工学科と環境都市工学科を設置している。

資料 2-1-①-1

平成 21 年度和歌山県製造業新規求人数

製造業	4,559
食品製造業	1,358
飲料・たばこ・飼料製造業	161
繊維工業	680
木材・木製品製造業	128
家具・装備品製造業	158
パルプ・紙・紙加工品製造業	56
印刷・同関連業	70
化学工業	382
石油製品・石炭製品製造業	3
プラスチック製品製造業	165
ゴム製品製造業	37
窯業・土石製品製造業	60
鉄鋼業	182
非鉄金属製造業	23
金属製品製造業	314
はん用機械器具製造業	129
生産用機械器具製造業	101
業務用機械器具製造業	65
電子部品・デバイス・電子回路製造業	146
電気機械器具製造業	172
情報通信機械器具製造業	1
輸送用機械器具製造業	60
その他の製造業	108

（出典

和歌山県ホームページ内公開資料：

平成 23 年刊行和歌山県統計年鑑

C 労働・賃金 8. 新規求人数（産業・規模別））

（分析結果とその根拠理由）

基盤産業である機械、電気系学科と和歌山県の特徴を考慮した物質、環境系学科をバランスよく配置し、科学技術の発展や地域産業の状況に対応した学科改組を行っている。以上のことから適切な学科構成となっている。

資料 2-1-①-2

国立和歌山工業高等専門学校
Wakayama National College of Technology

知能機械工学科 電気情報工学科 物質工学科 環境都市工学科 一般科目 専攻科

知能機械工学科
MENU

知能機械工学科概要 平成21年度より、和歌山高専では、時代のニーズを先取りし機械工学科を知能機械工学科に名称変更いたしました。日本の他の高専の中に、知能機械工学科という名称はありません。和歌山高専が他の高専に先駆けて機械と知能の融合を目指します。知能機械工学科では、ニーズに機械に対応する積極的な学生を求めています。是非、知能機械工学科の門戸を叩いてみてください。

教員・研究紹介

学科カリキュラム

～ 機械工学科から知能機械工学科へ ～

(出典 本校 HP 知能機械工学科)

観点 2-1-②： 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校専攻科は、知能機械工学科と電気情報工学科を基礎とするメカトロニクス工学専攻、物質工学科と環境都市工学科を基礎とするエコシステム工学専攻で構成されている。専攻科の教育目標は、環境に調和がとれ、将来に渡って持続可能な技術開発を行える、人間性豊かな技術者の育成である。この目標を具現化すると以下の3項目の学習・教育目標に集約できる。

- ① 持続可能な社会の形成に活かせる創造力
- ② 多面的に問題を発見し、解決する能力
- ③ 豊かな人間性と国際性

このうち②の項目に対しては専攻毎に、メカトロニクス工学専攻では②-1 地球環境に配慮したさまざまな電気・電子・機械システムの設計、開発を行うことが出来る能力を持つ技術者の養成、そしてエコシステム工学専攻に対しては②-2 地球環境に配慮して物質・構造物・環境システム等の設計・開発を行うことが出来る能力を持つ技術者の養成と、さらに具現化し、目標をより明確に示している。以上の教育目標を本科4年次から専攻科課程修了までの4

資料 2-1-②-1

Japan Accreditation Board for Engineering Education
一般社団法人
日本技術者教育認定機構
東京都港区芝 5-26-20 建銀会館 4F 〒108-0014
TEL. 03-5439-5031(代表) FAX. 03-5439-5033
http://www.jabee.org E-mail:office@jabee.org

JABEE 総発 24 第 6-11067 号
2012 年 4 月 27 日

和歌山工業高等専門学校
校長
堀江振一郎 殿

一般社団法人日本技術者教育認定機構
会長 木村 正

JABEE 技術者教育プログラム認定審査結果のご報告

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、下記の技術者教育プログラムは、2011 年度認定継続審査の結果 JABEE 認定技術者教育プログラムとして認定が継続となりましたので、認定審査結果報告書を同封しご報告致します。つきましては「JABEE 認定プログラム修了生」名簿の厳正な管理についてご配慮いただけますようお願い致します。

敬具

記

学部・学科・コース等： 専攻科
認定プログラム名： 地域環境デザイン工学
認定分野： 工学（融合複合・新領域）関連分野

以上

(出典 JABEE 認定継続審査結果)

年間で実施する「地域環境デザイン工学」プログラムは2006年度にJABEEに新規認定され、2011年度の継続審査を経て2017年度までの継続が認定されている（資料2-1-②-1）。

（分析結果とその根拠理由）

工学基盤および和歌山県の地域性に配慮した本科の学科構成に配慮した上で、さらに想像力・解決力・人間性と国際性を育成する教育目標を達成する2つの専攻を設置している。以上のことから適切な構成となっている。

観点2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

全学的なセンターとして①情報処理教育センター、②地域共同テクノセンターおよび③図書館を設置している。①情報処理教育センターの目的は、学内の情報処理教育を推進することであり授業や実習で頻繁に利用されている（資料2-1-③-1）。平成22年に教育用PCの更新を行い、現在の教育用PCは第1演習室に49台、第2演習室に11台、第3演習室に49台が設置されている。専攻科棟マルチメディア室にはPC31台が設置されている。②地域共同テクノセンターは、産学共同研究の推進および地域産業への技術協力、公開講座等を通じた社会貢献、学内の共同研究の推進、学生に対する産業技術教育の充実を目的として設置されている。近隣小中学生および地域住民向けの社会貢献として、平成23年度には16回の公開講座と10回の出前講座が開催された（資料2-1-③-2, 3）。平成22年度には計34件の寄付金や共同研究等の産学連携の成果があった（資料2-1-③-4）。また、平成21年度から本校および紀陽銀行、和歌山県中小企業団体中央会の主催で就職活動を控えた本科4年生、専攻科1年生、近隣高校生を対象とした合同企業説明会を開催しており、就職への心構えや地元企業の紹介を行っている（資料2-1-③-5）。③図書館は学生および教員の教育研究活動の拠点としての機能だけでなく、平成12年度から一般開放し、地域住民へのサービス拠点としても機能している。そのため、理工学系の専門書、学習参考書、一般教養書などの図書や新聞・雑誌などの情報誌といった蔵書に加えて、ビデオテープ・CD・DVDなどのAV教材を備えている。平成23年度にはのべ19,384人の入館者があり、うち636名は地域住民であった（資料2-1-③-6）。

（分析結果とその根拠理由）

情報処理教育センターは、学生への教育面及び地域住民へのサービス等で機能している。また地域共同テクノセンターも企業との関係を密にすべく企業訪問や交流会を開催している。図書館は地域住民にも広く利用されており、社会人や中学生に対する地域教育の発展に大きく貢献している。よって適切なものとなっている。

資料 2 - 1 - ③ - 1

	月								火								水							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
第1演習室	4A	4A		5B	5B			3D	3D	3D	3D	3A	3A	3A				5B	5B					
第3演習室	2C	2C		2D	2D	4D	4D			1C	1C					2B	2B	5C	5C	1A	1A	4B	4B	
MM			ME1	ME1	E2	E2		M2	M2	E2	E2	M12	M12			ME2	ME2							

	木								金							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
第1演習室	3B	3B	3B		3A	3A	4A	4A	4B	4B	4B		4B	4B	5A	5A
第3演習室	5B	5B	3D	3D		2D	2D	1B	1B	1D	1D	2A	2A	4D	4D	
MM	M2	M2	ME1	ME1	ME1	ME1	ME1									

(出典 平成 24 年度前期時間割)

資料 2 - 1 - ③ - 2

平成 23 年度開催の公開講座一覧

講座名	開設期日	開催会場	受講対象者	募集人員
おもしろ科学の実験工作教室 (知能機械工学科) (電気情報工学科) (物質工学科) (環境都市工学科)	8月4日～8月5日	県工業技術センター (和歌山市)	小学生 (高学年) 中学生	30名
おもしろ科学の実験工作教室 (知能機械工学科) (電気情報工学科)	8月8日	田辺商工会議所 (田辺市)	小学生 (高学年) 中学生	30名
ロボットの「しくみ」で学ぶ知能機械工学 ～エレキ編～ (知能機械工学科)	8月27日	本校	中学生 (2、3年生)	10名
指導者養成講習会6足ロボットの製作と競技方法 (知能機械工学科)	6月18日	本校	小中学校理数系 教員	30名
太陽電池とソーラーカー (電気情報工学科)	7月25日	本校	中学生 小学生4年生以上	30名
ヒューマノイドロボットで遊ぼう (電気情報工学科)	8月27日	本校	中学生	10名
LEGOロボットを作ろう (電気情報工学科)	8月19日	本校	中学生	15名
簡単なコンピュータ回路を作ろう (電気情報工学科)	8月25日	本校	中学生	40名
DNA Profiling: DNAの鑑定 (物質工学科)	7月30日	田辺市ビッグU	中学3年生	20名
DNA Profiling: DNAの鑑定 (物質工学科)	7月31日	和歌山市ビッグ愛	中学3年生	20名
夏の楽しい化学実験 色の不思議と遺伝子の抽出を体験しよう! (物質工学科)	8月1日	本校	中学3年生	40名
世界の化学・生物実験 ～ Flavor: フルーツの香り～ (物質工学科)	8月27日	本校	中学生	20名
和歌山高専に隠された宝を探せ?VoL. 3 (環境都市工学科)	7月30日	本校	中学生	30名
物語られた世界—科学技術と人間 2011— (一般科目)	9月下旬	和歌山市	一般	30名
物語られた世界—社会と文学 2011— (一般科目)	11月下旬	御坊市	一般	20名
お手軽アニメーションの作成 (情報処理教育センター)	7月23日	本校	中学生	20名

(出典 平成 23 年度学校要覧 p. 25)

資料 2 - 1 - ③ - 3

平成 23 年度開催の出前講座一覧

大学等開放推進事業 (2011年度)

講座名	開設期日	開催会場	受講対象者	募集人員
なるほど体験科学教室	11月5日 (高専祭)	本校	小学生 中学生	100名程度

出前講座 (2011年度)

共催先	講座名	開催日	対象
名田中学校	ロボットの技術体験	5月6日	中学生
吉座川町教育委員会	光センサで音楽スタート	7月29日	小学生
印南町教育委員会	化学変化は色んな世界!	7月28日	小学生
	水の汚れをはかる	8月4日	小学生
かつらぎ町教育委員会	犯人を捜せ!	8月5日	小学5-6年生
	セメントで色鮮やか 文鎮づくり	12月10日	小学5-6年生
	トンボ玉を作ろう	11月26日	中学生
電気学会関西支部、大阪市立科学館 なごみ会	小中学生のための電気教室	8月10日	小、中学生
	風上にすむ車	8月22日	小学生

(出典 平成 23 年度学校要覧 p. 25)

資料 2 - 1 - ③ - 4

平成 22 年度外部資金

科学研究費補助金 (2011年度)

研究種目	件数	金額 (円)
研究活動スタート支援	1	880,000
若手B	1	2,300,000
基盤研究 (C)	4	3,600,000

外部資金の導入 (2010年度)

区分	件数	金額 (円)
寄附金	19	12,942,924
受託研究	4	9,051,351
受託事業	1	12,000,000
民間等との共同研究	5	1,150,000
補助金等 (科研除く)	2	10,042,632

(出典 平成 23 年度学校要覧 p. 25)

資料 2 - 1 - ③ - 5

平成 23 年度 県内企業合同説明会

県内企業合同説明会開催 近隣高校生も参加

12月13日(日)に本校および紀陽銀行、和歌山県中小企業団体中央会の主催の下で平成21年度『和歌山県内企業合同説明会』を開催し、4年生176名と近隣高校生46名が参加した。

この説明会は、学生に県内企業の事を知って貰う目的で昨年度初めて実施したもの。

2回目となる今回は近くの工業系高校である県立紀央館高校と田辺工業高校の生徒を加えて実施した。

堀江校長の挨拶に引き続いて高校生には和歌山県経営者協会常務理事の塩路茂一氏が、また高専生に対しては紀州ファスナー(株)専務取締役の片山幹雄氏が、それぞれ県内企業の状況や就職に当たっての心構えなどを話した。

講演後、学生らは体育館でブースを構える地元企業38社の担当者のもとで会社の所在地や業務内容等について詳しい説明を受けていた。

参加した学生は「普段ふれることの少ない地元企業から直接話を聞けて良かった。」「和歌山にも良い企業がたくさんあることが判って良かった。」と感想を述べていた。

(出典 本校 HP 新着情報 2011)

資料 2 - 1 - ③ - 6

平成 18～23 年度図書館利用状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
昼間 (8:30～)	20,737 (644)	18,100 (601)	16,906 (674)	13,656 (454)	14,943 (1,061)	14,705 (540)
夜間 (17:15～)	4,363 (169)	3,959 (325)	4,782 (236)	4,406 (189)	4,287 (148)	4,679 (96)
合計	25,100 (813)	22,059 (926)	21,688 (910)	18,062 (643)	19,230 (1,209)	19,384 (636)

* ()は、一般利用者(内数)

* 定期試験期間中の夜間開館は、17:00～21:50

(出典 学生課資料)

観点2-2-①： 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

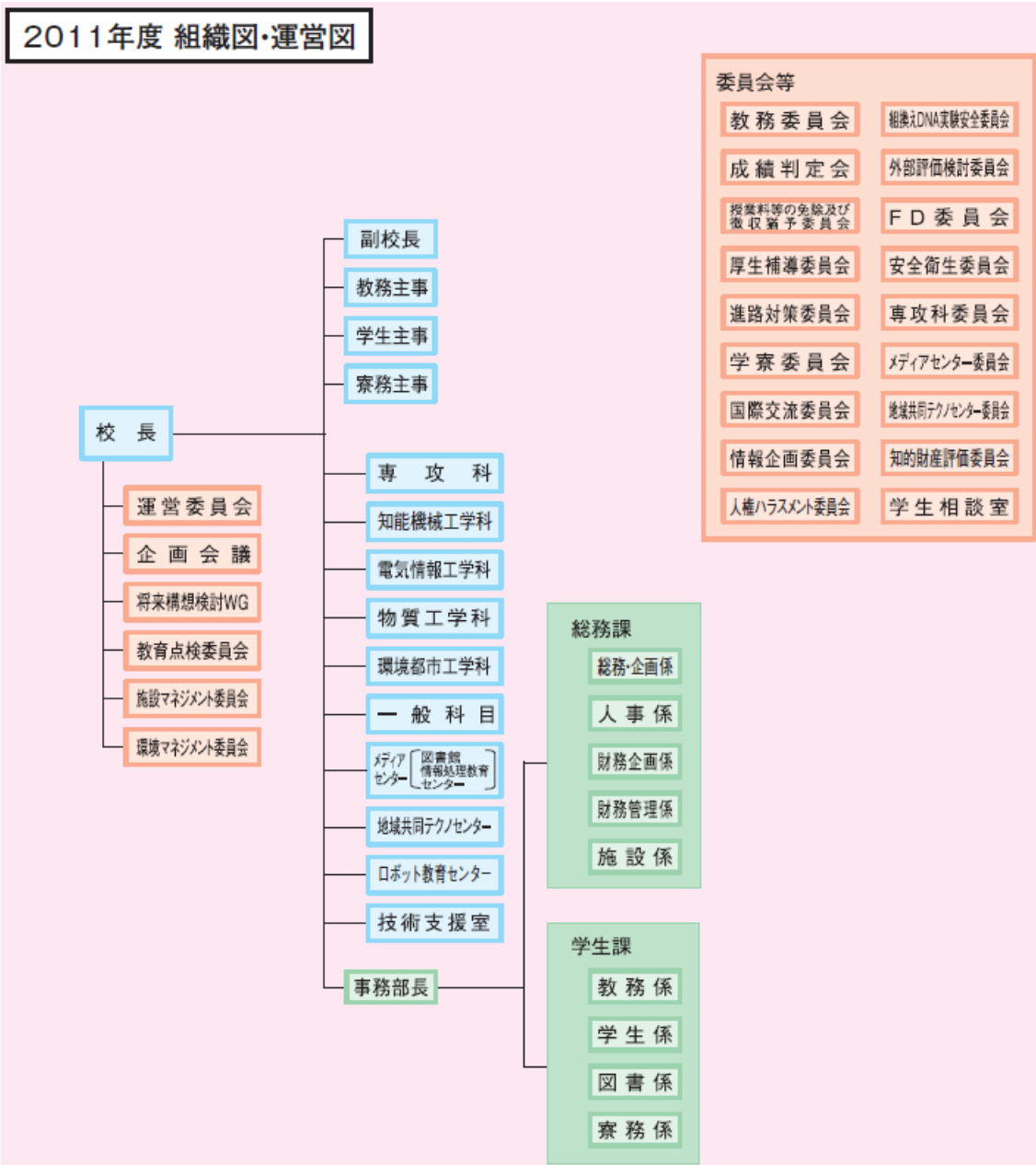
(観点に係る状況)

本校の運営組織は(資料2-2-①-1)のとおりである。教育課程全般にわたる大きな課題は、校長が各科から選んだ教授で構成し校長が議長となる企画会議や運営委員会で検討している(資料2-2-①-2)。教育課程の細部については各学科の委員で構成し、教務主事が総括する教務委員会で定期的に審議しており、委員会での決定事項を運営委員会に報告している(資料2-2-①-3)。また専攻科の設置等、学校の根幹に関わる事項の場合には、校長の下に時限のプロジェクトチームを設置して対応している。専攻科の教育課程については、各科の委員で構成し、企画会議委員および運営委員を兼任する専攻科長が総括する専攻科委員会で検討している(資料2-2-①-4)。

(分析結果とその根拠理由)

教育の将来展望や大枠を企画会議で議論し、運営委員会に諮って学内に周知している。そこで決定した方針に沿って教務委員会や専攻科委員会で具体的な事項を議論し、再度運営委員会に諮っている。また専攻科の設置等、限られた時間内に遂行すべき事項が発生した場合には、プロジェクトチームを立ち上げて対処している。よって運営体制が整備され、必要な活動を行っている。

資料 2-2-①-1



(出典 平成 23 年度学校要覧 p.5)

資料 2-2-①-2

委員会名	委員長	主事補・副等	委員名	所掌
企画会議 (リスク管理室兼務)	堀江校長	大久保副校長	山川教務主事, 福田学生主事, 野村寮務主事, 藤本専攻科長, 中本テクノセンター長, 森川メディアセンター長, 徳永事務部長	総務課長
運営委員会	堀江校長		大久保副校長, 山川教務主事, 福田学生主事, 野村寮務主事, 藤本専攻科長, 北澤知能機械工学科主任, 佐久間電気情報工学科主任, 米光物質工学科主任, 辻原環境都市工学科主任, 宮本一般科目主任, 中本テクノセンター長, 森川メディアセンター長, 山口技術支援室長, 徳永事務部長	総務・企画係

(出典 平成 24 年度公務分掌)

資料 2-2-①-3

平成 23 年度第 23 回教務委員会概要

日 時 平成 24 年 3 月 15 日 (木) 14 時 00 分～1 時 00 分
 場 所 図書館棟 3 セミナール室
 出席者 山川教務主事, 森教務主事補, 小池教務主事補, 吉田教務主事補
 北澤知能機械工学科委員, 米光物質工学科委員, 辻原環境都市工学科委員
 陪席者 窪田学生課長補佐, 上山教務係長 (記録)
 欠席者 佐久間電気情報工学科主任, 宮本一般科目委員

(出典 平成 23 年度第 23 回教務委員会概要)

資料 2-2-①-4

第 12 回専攻科委員会議事概要

日 時 : 平成 24 年 2 月 22 日 (木) 17 時 05 分～18 時 35 分
 場 所 : 専攻科棟 3 階 専攻科長室
 出席者 : 藤本専攻科長、山東副専攻科長、河地副専攻科長、坂田委員、佐久間委員、
 土井委員、辻原委員、宮本委員、(陪席) 野々村教務係員

(出典 平成 23 年度第 12 回専攻科委員会概要)

観点 2-2-② : 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

教務委員会、厚生補導委員会、学寮委員会等の各委員会での議案は、4 つの専門学科と一般科目がそれぞれ定期的開催する学科ミーティングで報告および意見交換がなされ、各学科の意見を踏まえて再び委員会で議論される連携サイクルが構築されている(資料 2-2-②-1)。特定の科目の取組みとして、数学・物理ワーキンググループが設立され、学科を超えて数学教育および物理教育のあり方や問題点を解決する取り組みがなされている(資料 2-2-②-2)。

(分析結果とその根拠理由)

様々な議題を学科ミーティングで議論することで学科内教員の連携は十分に機能しており、他学科間の連携は各委員会を通じた意見交換による連携サイクルおよびワーキンググループにより機能的に行われている。

資料 2-2-②-1

教務委員会と各学科の意見集約および意見聴取例

3. 卒研発表会の実施場所について（資料 3）

前回の教務委員会において、各科に持ち帰り意見を聞くこととなっていた卒研発表会の実施場所について、知能機械工学科が、今年度より 4 年生にも卒研発表会を聞かせることとするため、他学科と同様に広い部屋での実施について要望があり、審議の結果、23 年度は次の場所で実施することとした。また、今後は、実施場所となる 4 部屋を年度毎に学科で順番に交代していくこととした。

	(23 年度)	[参考] (24 年度)	(25 年度)
100 番教室 …	知能機械工学科	環境都市工学科	物質工学科
階段教室 …	電気情報工学科	知能機械工学科	環境都市工学科
視聴覚教室 …	物質工学科	電気情報工学科	知能機械工学科
専攻科棟教室 …	環境都市工学科	物質工学科	電気情報工学科

4. 規則の一部改正について（資料 4）

山川教務主事より、資料に基づき説明があり、次の点について各科に持ち帰って意見を聞くこととし、1 月最初の教務委員会において再度審議することにした。

- ・取扱要項及び実施細目の改正（案）
- ・単位振替可能科目を高位学年配当科目から順としていることの可否
- ・資格取得からの申請期間について、英語科の見解
- ・取扱要項及び実施細目の別表について、各科で変更すべき箇所はないか確認

(出典 平成 23 年度第 15 回教務委員会概要)

資料 2-2-②-2

数学・物理ワーキンググループ

平成 23 年度第 1 回 数学・物理 WG 委員会概要

日 時	平成 23 年 10 月 24 日（月）16 時 30 分～17 時 30 分
場 所	本館会議室（1）
出席者	山川委員長 数学 WG：山東委員，濱田委員，佐久間委員，西本(真)委員，林(和)委員 右代谷委員，平岡委員，秋山委員 物理 WG：福田委員，渡邊委員，森田委員，山田(宰)委員
陪席者	上山教務係長（記録）
欠席者	数学 WG：徳田委員 物理 WG：溝川委員

議題等

1. 昨年度の取り組みと成果の総括

今年度の学習到達度試験に取り組むにあたり、昨年度の取り組みと成果について確認が行なわれた。

なお、昨年度、試験監督をした教員から、試験の最中に一部の生徒が居眠りをする等、やる気がない生徒が見受けられたとの報告があった。

2. 平成 23 年度の取り組み

(出典 平成 23 年度第 1 回数学・物理 WG 委員会概要)

観点 2-2-③： 教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

事務部の教育支援活動として、学生課教務係、学生係及び寮務係が、それぞれ教務委員会、厚生補導委員及び寮務委員会を所掌し、担当教員と連携して委員会の運営にあたっている(資料 2-2-③-1, 2, 資料 2-2-①-3, 4 参照)。教育・研究活動を技術面でサポートする組織として技術支援室が設置されている。技術支援室の主な業務には、①学生の実験・実習および卒業研究等の技術支援、②教育研究のための技術支援、③各学科、情報処理教育センター、実習工場などの共同利用施設における実習設備の維持管理、④地域連携活動のための技術支援等がある(資料 2-2-③-3)。

学級担任を務める一般科目教員は、クラス所属学科のミーティングでクラスの状態を報告し、専門科目教員に周知している。各学年 1 名の担任教員を学年主任とし、担任会議の開催や意見集約を行っている(資料 2-2-③-4)。クラブ活動の指導体制は、責任教員である部長を総括者として、クラブの活動状況に応じた人数の指導教員を配置し学生指導にあたっている(資料 2-2-③-5)。

学業やプライベート等の様々な悩みを持つ学生の窓口として学生相談室があり、学生相談室長をはじめ各学科委員、保健室職員、外部カウンセラーで組織されている(資料 2-2-③-6)。カウンセラーは月 4 回程度来校しており、時間予約制で守秘相談することができる(資料 2-2-③-7)。

(分析結果とその根拠理由)

担任やクラブ活動での教育指導を多人数で相談、分担し円滑に行うシステムが確立している。技術支援室職員や学生課事務職員による技術サポートや委員会の運営も機能している。これらのことから支援体制が十分機能している。

資料 2-2-③-1

平成 24 年度 教務委員会, 厚生補導委員会, 学寮委員会

委員会名	委員長	主事補・副等	委員名		所 掌
教務委員会	山川主事	森, 小池, 重松	5 学科主任		教務係
			成績判定会	5 学科主任, 藤本専攻科長, 森, 小池, 重松 オプ: 大久保副校長, 福田学生主事, 野村寮務主事	
厚生補導委員会	福田主事	佐野, 森田, 桑原	機械新任, 謝, 林純, 靄巻, 吉田		学生係
学寮委員会	野村主事	梶原, 赤崎, 秋山	西本圭, 竹下, 岩本, 久保井, 中出		寮務係

(出典 平成 24 年度公務分掌)

資料 2-2-③-2

平成 23 年度 第 22 回学寮委員会議事録(案)

寮務主事 野村 英作

日 時: 平成 24 年 2 月 23 日 (木) 16:20~17:45

場 所: 学寮 1 号館会議室

出席者: 野村寮務主事、岸本寮務主事補、赤崎寮務主事補、秋山寮務主事補、
西本委員、竹下委員、石丸委員、靄巻委員、中出委員

陪席者: 森川学生課長(欠)(教務委員会)、小林寮務係長

(出典 平成 23 年度第 22 回学寮委員会概要)

資料 2-2-③-3

平成 24 年度 第 1 回技術支援室ミーティング記録

日 時 : 4 月 4 日 (水) 13 時 00 分～15 時 00 分
 場 所 : 技術支援室
 出席者 : 山口, 眞田, 林, 小口, 田中弘, 田中扶, 巨海, 濱口, 寺西, 花田, 松本
 中嶋, 小川
 欠席者 : 谷
 配布資料 : ミーティング資料
 平成 24 年度所要見込額調「技術支援室」
 平成 24 年度 業務一覧
 平成 23 年度 技術支援室年報原稿
 第 14 回 近畿地区国立高等専門学校技術職員研修日程表

(議題)

1. 新任技術職員および技術支援室職員の自己紹介
 新任の電気・情報グループ中嶋崇喜さん、化学・環境グループ小川忠繁さんおよび技術支援室職員の自己紹介を行った。
2. 技術支援室長あいさつと技術支援室業務の再確認
 山口室長から、技術支援室の目的、業務を再確認し、本校の教育・研究や地域貢献等の発展にご尽力をお願いしたい。特に、業務全体を把握でき、継承も円滑に行えるように努めたい。また、自立した職業人として PDCA の実行と説明責任の遂行に努め技術支援室の業務を行いたいと挨拶の後、下記の技術支援室の目的、業務について再度確認した。
 (目的)
 第 2 条 支援室は、技術に関する業務を組織的かつ効率的に行うとともに、その職務遂行に必要な能力、資質等の向上を図り、教育・研究に関する技術的支援と専門的業務を円滑かつ効果的に行うことを目的とする。
 (業務)
 第 3 条 支援室は、前条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。
 一 学生の実験・実習、卒業研究及び課外活動等の技術支援に関すること。
 二 工作機器・実習設備等の保守に関すること。
 三 教員の教育・研究活動に伴う技術支援に関すること。
 四 地域連携活動に伴う技術支援に関すること。
 五 技術の習得、継承、保存及び研修に関すること。
 六 その他教育・研究の支援に関すること。

(出典 平成 24 年度第 1 回技術支援室ミーティング記録)

資料 2-2-③-4

平成 24 年度 本科学級担任

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
(知能)機械工学科	太古	濱田	右代谷	三原	坂田
電気情報工学科	山吹	和田	岡本	村田	徳田
物質工学科	奥野	平岡	綱島	岸本	土井
環境都市工学科	芥河	平山	伊勢	山田	三岩

イタリックは学年主任

(出典 平成 24 年度公務分掌)

資料 2-2-③-5

平成 24 年度 クラブ部長, 指導教員

(体育系クラブ)

ク ラ ブ 名	部 長	指 導 教 員	指 導 教 員	指 導 教 員	指 導 教 員
陸上競技	芥河 晋	直井 弘之	佐野 和男		
バレーボール	北澤 雅之	山田 宰	津田 尚明	後藤 多栄子	
バスケットボール	小池 信昭	坂田 光雄	林 和幸	竹下 慎二	
ソフトテニス	溝川 辰巳	大久保 俊治	村田 充利	西本 真琴	
卓球	森田 誠一	和田 茂俊	佐久間 敏幸	平山 規義	
柔道	桑原 伸弘	徳田 将敏			
剣道	中本 純次	山田 宰			
硬式野球	岩本 仁志	野村 英作	奥野 祥治	平岡 和幸	徳田 将敏
ハンドボール	三岩 敬孝	山東 篤	早坂 良		
サッカー	赤崎 雄一	森川 寿	岸本 昇	伊勢 昇	
ラグビー	森岡 隆	中出 明人	秋山 聡		
バドミントン	西本 圭吾	久保井 利達	鶴巻 峰夫	岡本 和也	
空手道	山吹 巧一	綱島 克彦			
少林寺拳法	土井 正光	平岡 和幸			
弓道	三原 由雅	福田 匡	辻原 治	森 徹	
水泳	宮本 克之	藤本 晶			
テニス	樫原 恵蔵	山口利幸	山川文徳	鶴巻 峰夫	綱島 克彦
ボクシング	米光 裕	岡本 和也			
フットサル同好会	秋山 聡	重松 正史			

(文化系クラブ)

写真	濱田 俊彦				
吹奏楽	河地 貴利	吉田 芳弘	太古 隆治	右代谷 昇	青山 欽生
自動車	山東 篤				
コンピュータ	森 徹	村田 充利	青山欽生	謝 孟春	
軽音楽	重松 正史	伊勢 昇			
ロボコン	山口 利幸	佐野 和男	津田尚明	竹下 慎二	
サイエンス同好会	林 純二郎	岸本 昇			
電気技術研究会	山吹 巧一				
総合美術同好会	後藤 多栄子				
音楽同好会	渡邊 仁志夫				
和の文化研究会	謝 孟春	佐久間 敏幸			
囲碁・将棋同好会	平岡 和幸	濱田 俊彦			

(出典 学生課資料)

2. 10 学生なんでも相談室

学生なんでも相談室って？

どんな悩みでも、ちょっと誰かに話してみることで気持ちが楽になったり、自分では気づかなかった解決策が見つかったりすることもあります。

学生なんでも相談室は、皆さん一人一人が悩みながらも充実した学生生活を送られるようにサポートしていくところです。相談内容については、秘密を固く守りますので安心してください。

スタッフは？

皆さんが授業や学生・寮生生活を通じて（たぶん）会ったことのある教員・職員のなかから、今年下記スタッフが担当します。

また、学外の専門のカウンセラーにもお話を聞いて頂けます。誰に相談してもいいんですよ。

相談場所は？ いつ？

各相談員の部屋は「教室配置図」を参照してください。また、相談時間は原則として「いつでもOK」です。

なお、カウンセラーの先生は、週1日 午後国際交流会館2階の「オレンジルーム」におみえです。カウンセラーの先生に相談のある場合は、時間の調整をしますので、保健室の看護師までご連絡ください。（日程、担当者は事前に掲示します。）

平成24年度学生相談員スタッフ

所属等	氏名	連絡先等
(相談室長) 知能機械工学科教員	溝川 辰巳	
(相談室員) 電気情報工学科教員	直井 弘之	
(相談室員) 物質工学科教員	西本 真琴	
(相談室員) 環境都市工学科教員	林 和幸	
(相談室員) 一般科目教員	芥河 晋	
(相談室員) 保健室職員	小川 敏子	
(相談室員) カウンセラー	坂田 鈴	月4回来校

メールで相談したい時は、相談室のメールアドレスもあります。

毎日相談室長がチェックしていますので、誰に相談して良いかわからない時などに利用して下さい。匿名でもかまいません。

例えば、どんな相談？

☆ 学業について

なんとなくやる気がしない
先生とのトラブルや授業についていけないあせり、など

☆ 進路について

進路変更や、休学・退学に関する悩み
就職や将来のこと
自分の生き方の悩み、など

☆ 性格や対人関係について

人との接触がうまくいかない
本音で話せる友人がいらない、など

☆ 健康について

落ち込んで何もしたくない
夜眠れず、食欲もない、など

☆ その他

家庭の事情や親子関係で悩んでいる
アルバイト先のトラブルや経済的なことで困っている
恋愛や性のことで悩んでいる、など

.....どんなことでもいいんですよ。

遠慮なく気軽に学生相談室を活用して、楽しく実りある学生生活を過ごしてください。

(出典 平成 23 年度学生便覧 p. 13)

(3) 基準 2 の自己評価の概要

本科は和歌山県の地域性と科学技術の発展に即した学科改組によりバランスのよい学科構成となっている。専攻科は専門分野の地域性に加えて問題解決能力および国際性を育成するための構成となっており、本科 4 年次からの 4 年間の教育プログラムは JABEE 技術者教育プログラムに認定されている。情報処理センター、地域共同テクノセンター、図書館は授業や地域貢献の役割を果たしている。教員間の連携は学生課が所掌する各委員会と学科ミーティングの双方向の情報交換により機能している。

専門技術を要する実習を支援する技術支援室や、学生指導を複数の教員で円滑に行う担任、クラブ部長、学生相談室が整っている。

基準3 教員及び教育支援者等

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点到に係る状況)

本校の一般科目教員の現員は、設置基準を満足する専任教員19名と、非常勤教員が16名である。内訳は国語担当教員が4名（内非常勤教員2名）、社会担当教員が4名（同2名）、外国語担当教員が10名（同4名）、数学担当教員が4名、物理・化学担当教員が1名ずつ（同5名）、体育担当教員が3名、音楽担当非常勤教員1名となっている（資料3-1-①-1, 2, 3）。数学、物理、化学の一部は専門学科の専任教員も分担している。国際性を育成する学習目標のために留学生の積極的な受け入れ、平成16年から上海電機学院との交流（資料3-1-①-4）等を行っており、外国語担当者を6名配置し英語を中心とした外国語教育の充実を図っている。

資料 3-1-①-1
一般科目教員の専門分野と職位

分野	専任教員				非常勤
	教授	准教授	助教	計	
国語	2	0	0	2	2
社会	1	1	0	2	4
外国語	3	3	0	6	4
数学	0	4	0	4	0
物理	0	1	0	1	1
化学・生物	0	1	0	1	4
体育	0	3	0	3	0
音楽	0	0	0	0	1
計	6	13	0	19	16

(准教授は講師を含む。括弧内は博士号取得者で内数)

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

高等専門学校における設置基準を満たし、各分野の基礎を学ぶために必要な人員を配置している。数学、物理、化学については、その一部を各学科の専門科目とスムーズに連携させるために専門学科教員も担当している。国際性の育成という観点から外国語担当教員を6名配置し、学生への外国語教育の充実を図っている。よって適切に配置されている。

資料 3-1-①-2
一般科目担当非常勤教員

非常勤講師		
所 属	氏 名	担 当 科 目
元・公立高校	市瀬 賢二	環境と社会、倫理
元・公立高校	井上 卓	英文法
元・公立高校	妹脊 修治	物理
大阪市立大学大学院生	小笠原愛子	国語
元・公立高校	小田 憲	政治・経済
元・公立高校	北澤 正憲	国語
元・和歌山高専工学博士	高木 浩一	化学
	陳 梅隠	第2外国語C
元・和高専	富上健次郎	化学
元・公立高校	平松 章弘	生物
元・公立高校	増元 貞夫	化学
	孫本 真次	保健・体育
元・公立高校	道明 熙	日本史、政治・経済
元・公立高校	満澤 由美	音楽
	山本 Tracey	英会話
	李 鵬	第2外国語C

*は専攻科担当教員（専攻科科目）

(出典 平成23年度学校要覧 p.20)

資料 3-1-①-3

一般科目担当専任教員

職名	氏名	担当科目
教授	教育学修士 宮本 克之* MIYAMOTO Katsuyuki	国語、 ビジネスコミュニケーション*
	修士 (英語学) 森川 寿* MORIKAWA Hisashi	英語総合、英会話、地域と文化、 英語 B、時事英語*
	修士 (法学) 後藤多栄子* GOTOH Taeko	英語、英作文、英語 B、知的財産権、 テクニカルライティング*、技術者倫理*
	博士 (歴史学) 重松 正史* SHIGEMATSU Masafumi	日本史、環境と社会、政治・経済、 地域と文化、社会と人間、 現代アジア論*
	文学修士 太古 隆治 TAIKO Ryuji	英語総合、英文法、第2外国語 B、英語 A
	文学修士 和田 茂俊* WADA Shigetoshi	国語、 ビジネスコミュニケーション*
准教授	博士 (文学) 赤崎 雄一* AKASAKI Yuichi	世界史、現代の世界、地域と文化、 現代アジア論*
	博士 (理学) 秋山 聡* AKIYAMA Satoru	数学、応用数学、 線形代数*
	修士 (学術) 芥河 晋 AKUTAGAWA Susumu	保健・体育
	理学修士 右代谷 昇 USHIROYA Noboru	数学、数学特論
	修士 (学術) 桑原 伸弘 KUWABARA Nobuhiro	保健・体育
	中出 明人 NAKADE Akito	保健・体育
	博士 (工学) 平岡 和幸* HIRAOKA Kazuyuki	数学
	文学修士 平山 規義 HIRAYAMA Noriyoshi	英語、英語総合、第2外国語 B
	文学修士 森岡 隆* MORIOKA Takashi	英語総合、英作文、英語 A、実用英会話*
	文学修士 吉田 芳弘 YOSHIDA Yoshihiro	英語総合、地域と文化、第2外国語 A
	准教授	博士 (理学) 青山 歆生* AOYAMA Yoshio
博士 (理学) 濱田 俊彦* HAMADA Toshihiko		数学、数学特論、 数理工学*
博士 (工学) 岩本 仁志* IWAMOTO Hitoshi		情報処理、無機化学、量子化学、 物質基礎実験、物質工学実験、 生物工学実験、化学

(出典 平成 23 年度学校要覧 p. 20)

資料 3-1-①-4

平成 24 年 3 月上海電機学院への短期留学

上海電機学院へ短期留学生たちを派遣

平成24年3月21日(水)から3月31日(土)の11日間、10名の日本人学生と2名の外国人留学生の計12名の学生が、本校の提携校である中国上海市の上海電機学院へ短期留学した。彼らは英語での面接を経て選ばれ、さらに2回の事前オリエンテーションを経て留学することとなった。

今年で8回目になるこの短期留学プログラムは臨港新城にある上海電機学院の新キャンパスで行われた。滞在中、学生たちと引率教員(霧巻教授、森岡准教授)は同キャンパス内のビジター用の寮(ホテル形式、教員1室/1名、学生2名/1室)に宿泊し、食事は原則学内の学生食堂を利用した。

毎年、この留学プログラムには多彩な授業と催しが用意されている。講義等では、中国語講座、書法、水墨画、太極拳の中国文化を体験した。また、学生交流では、日中学生交流、中国文化体験(二胡などの演奏)、日中学生親睦会などが催され、どの催しでも熱い歓迎を受けた。滞在期間中は上海電機学院学生会のメンバーや本校への短期留学の経験のある学生たちが積極的に対応してくれ、本校の学生たちはプログラム外でも盛んに交流を行っていた。

観光等では上海市内(オリエンタルパールタワー、上海博物館、外灘、南京路)、東海大橋及び洋山景観地区、蘇州(拙政園、寒山寺)などを訪問した。参加した学生たちは中国での生活とこの教育プログラムを大いに楽しみ、充実した短期留学を体験した。

(出典 本校 HP 新着情報 2011)

観点 3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点到に係る状況)

専門学科の現員は、知能機械工学科は専任教員が11名であり、分野別には機械工作系3名、熱流体系3名、力学材料系2名、情報制御系2名、専門基礎1名の配置となっている。さらに非常勤教員が6名である。電気情報工学科は、専任教員が12名であり、分野別には強電系3名、電子材料系2名、制御系2名、情報系3名、基礎系2名の配置となっている。さらに非常勤教員が3名である。物質工学科は専任教員が11名であり、分野別には有機・無機化学4名、化学工学・物理化学・分析系4名、生物工学3名の配置となっている。さらに非常勤教員8名となっている。環境都市工学科は専任教員が10名であり、分野別には構造系に2名、建設材料系に2名、環境系に2名、都市計画・災害に4名の配置となっている。さらに非常勤教員が7名である。専門学科の専任教員44名のうち、40名の教員が博士の学位を有しており、高等専門学校において十分な教育研究レベルを保っている(資料 3-1-②-1, 2, 3)。

(分析結果とその根拠理由)

各専門学科とも、特定の分野に偏ること無くバランス良く教員を配置できている。専門科目担当教員の大多数が博士号を有しており、高等専門学校における十分な教育研究レベルを保っている。これらのことから適切に配置されている。

資料 3-1-②-1

専門科目教員配置表

学科	専任教員				非常勤
	教授	准教授	助教	計	
知能機械	6(6)	4(2)	1(1)	11(9)	6
電気情報	6(5)	4(3)	2(2)	12(10)	3
物質	6(6)	4(4)	1(1)	11(11)	8
環境都市	5(5)	4(4)	1(1)	10(10)	7
計	23(22)	16(13)	5(5)	44(40)	24

(准教授は講師を含む。括弧内は博士号取得者で内数)

(出典 総務課資料)

資料 3-1-②-2

専門学科担当非常勤教員例 (電気情報工学科)

嘱託教員

職名	氏名	担当科目
嘱託教授	若野憲一郎* WAKANO Kenichiro	電機製品概論、電気回路、 論理回路、電子回路、マルチメディア工学、 電気情報工学実験、応用電子回路*

非常勤講師

所属	氏名	担当科目
元・和歌山高専 博士(工学)	猪飼 健夫*	電動応用、パワーエレクトロニクス、 応用エネルギー工学*
(株)エスアールアイ	鈴木 保	システム設計
(出)関西電気管理技術者協会 中平電気管理事務所	中平 仁司	電気設計、電気機器、 高電圧工学、電気法規・電気施設管理
元・関西電力(株)	西垣内秀俊	送配電工学、発電工学
(有)松房電機	松房 次郎	情報通信、通信工学、電子物性、 電気製図、電気工学概論

*は専攻科担当教員(専攻科科目)

(出典 平成 23 年度学校要覧 p. 11)

資料 3-1-②-3

専門学科担当専任教員例（電気情報工学科）

電気情報工学科 専任教員

職 名		氏 名	担 当 科 目
教 授	博 士 (工 学)	佐久間敏幸* SAKUMA Toshiyuki	電機製品概論、応用数学、電子デバイス、 電気情報工学実験、基礎数学、数学、 ビジネスコミュニケーション*
	工学博士	藤本 晶* FUJIMOTO Akira	電機製品概論、電子工学、 光エレクトロニクス、電子デバイス、 電気情報工学実験、電気工学概論、 センサー工学*
	博 士 (工 学)	山口 利幸* YAMAGUCHI Toshiyuki	電機製品概論、電気回路、電気材料、 回路網理論、電気情報工学実験、基礎数学、 電気工学概論、機能材料学*
	博 士 (工 学)	謝 孟春* XIE Mengchun	長期海外出張
	博 士 (工 学)	徳田 将敏* TOKUDA Masatoshi	電機製品概論、メカトロニクス、 実験計画法、電気情報工学実験、基礎数学、 数学、計測工学、計測制御工学*
	理学修士	渡邊仁志夫 WATANABE Nishio	電機製品概論、応用数学、応用物理、 情報科学、電気情報工学実験
准 教 授	博 士 (工 学)	直井 弘之* NAOI Hiroyuki	電機製品概論、電気回路、電気機器、 電気情報工学実験
	博 士 (工 学)	村田 充利* MURATA Mitsutoshi	情報基礎、計算機入門、電機製品概論、 計算機アーキテクチャ、情報処理、 情報セキュリティ、情報通信、IC応用回路、 電気情報工学実験
	工学修士	森 徹* MORI Toru	アルゴリズムとデータ構造、電機製品概論、 情報処理、マイクロコンピュータ、データベース論、 数値解析、電気情報工学実験、 情報伝送工学*
	博 士 (工 学)	山吹 巧一* YAMABUKI Koichi	電機製品概論、電気磁気学、電子計測、 自動制御、電気情報工学実験、 パワーエレクトロニクス特論*
助 教	博 士 (工 学)	岡本 和也 OKAMOTO Kazuya	電気情報工学実験
	博 士 (工 学)	竹下 慎二 TAKESHITA Sinji	電気情報工学実験

※担当科目は平成 23 年度時点
(出典 平成 23 年度学校要覧 p. 11)

観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

専任の専攻科授業担当教員はメカトロニクス工学専攻で23名、エコシステム工学専攻で22名(資料3-1-③-1)であり、45名中21名の教員は企業経験を有している。このうち、特別研究を担当する43名の教員は全員博士号を所持している(資料3-1-②-2, 3参照)。さらに、一般科目教員9名と非常勤講師5名が授業を担当している(資料3-1-①-3参照)。

資料 3-1-③-1
専攻科担当教員数

専攻	専任教員					非常勤
	教授	准教授	助教	計	企業経験	
メカトロニクス	10(10)	10(8)	3(3)	23(21)	10	5
エコシステム	11(11)	9(9)	2(2)	22(22)	9	
一般	5(1)	4(3)	0	9(4)	1	

(准教授は講師を含む。括弧内は博士号取得者で内数)

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

45名の専門科目専任教員と9名の一般科目専任教員、5名の非常勤教員が授業を担当している。2専攻の主要な専門科目および人文科学系は専任教員が担当し、実務の最前線を扱う一部の科目を実務経験豊富な非常勤講師が担当している。従って、教育目標を達成するためのカリキュラムに最適な授業担当教員の配置がなされている。

観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

(観点に係る状況)

博士号の未取得者には大学院への社会人入学を認めており、最近7年間で4名の教員が本制度を利用して博士号を取得した(資料3-1-④-1)。新規採用では公募制を敷いており、本校の年齢構成を考慮しながら募集する職位を決定し、実務者の育成という観点から豊富な実務経験または博士号の所持を必須としている。

資料 3-1-④-1
教員の大学院への社会人入学実績

年度	学科	取得大学	分野
2005年	物質	大阪大学	薬学
2006年	物質	和歌山大学	工学
2006年5月	物質	九州大学大学院	工学
2009年3月	機械	岡山大学	工学

(出典 総務課資料)

女子学生の人数増に対応するため女性教員の男女共同参画を推進しており、平成23年度には特に女子学生の比率の高い物質工学科で女性教員を1名採用した。現在3名の女性教員が在籍(資料3-1-④-2)しているが、本校の女子学生比率は12%、女性教員比率は5%であり、いずれも国立高専全体を下回っているだけでなく学生の男女比率に対して女性教員数が十分とはいえない。それを改善する活動を今後推進する方針である(資料3-1-④-3)。

(分析結果とその根拠理由)

新規採用では博士号を取得した研究者だけでなく企業での実務経験者も多く採用し、女子学生の増加に対応するため女性教員の採用を進めている。博士の学位の未取得者には、大学院への社会人入学

を認めている。博士号取得および企業経験を有する教員数は適正であるが、本校学生の男女比を考慮すると女性教員の採用をさらに積極的に推進する必要がある。

資料 3-1-④-2

専任教員の年齢および性別構成

2011. 5. 1現在

		知能機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	環境都市工学科	一般科目	計
年齢別	60歳以上63歳以下	3	3	1	2	1	10
	55歳以上60歳未満	3	0	1	1	3	8
	50歳以上55歳未満	1	4	2	2	6	15
	45歳以降50歳未満	3	0	3	0	3	9
	40歳以上45歳未満	0	3	3	2	2	10
	35歳以上40歳未満	1	1	2	2	1	7
	30歳以上35歳未満	1	0	2	1	0	4
	30歳未満	0	1	0	0	0	1
男女別	計						
	男	12	11	13	10	15	61
	女	0	1	1	0	1	3

(年齢は2011. 3. 31現在)

(出典 平成23年度学校要覧 p.4)

資料 3-1-④-3

男女共同参画行動計画について

(1) 独立行政法人国立高等専門学校機構「男女共同参画行動計画」について

校長から、9月12日(月)に役員会決定された計画につき資料2に基づき次のように説明があり、当面企画会議において対応する旨、報告があった。

- 1 教育活動全般を通じた男女共同参画の推進について、国立高专全体の女子学生割合は17%であるところ、本校は12%程度と少ない。全国大学工学部全体での割合も12%であるが比率向上が必要。
- 2 教育・研究・就業における男女共同参画の推進で、教員中の女性比率は高专機構全体では7%であるところ、本校は5%程度と少なく、当面の新採中の20%を目指す。
- 3 男女共同参画の意識啓発が必要である。
- 4 法人・学校運営における意思決定への男女共同参画の推進。

(出典 平成23年度第15回運営委員会議事概要)

観点3-2-①： 全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか。

(観点に係る状況)

各教員が客観的な授業改善を行うため、①教員同士による授業参観と参観後の懇談(資料3-2

①-1, 2), ②保護者による授業参観(資料 3-2-①-3, 4), ③web入力による学生への授業アンケート(資料 3-2-①-5, 6)を実施し, これらの結果を授業担当教員にフィードバックしている。教育の貢献度を評価するシステムとして業務調査がある(資料 3-2-①-7)。年度中の教育, 研究および学校運営に関する目標を目標管理表に記入し, 昨年度の目標に対する達成度を記入する。後日, 校長, 副校長および企画会議のメンバーと面談し, 記入した業務調査票を元に教員自らが自身の活動状況を点検する。

教育に関して優秀な教員を表彰するシステムとして, (独)国立高等専門学校機構(以下, 高専機構)が募集する教員顕彰に加えて, 本校が募集する教員表彰がある(資料 3-2-①-8)。教員表彰は, ①教育活動に顕著な功績があった者, ②研究活動に顕著な功績があった者, ③学生指導に顕著な功績があった者, ④社会貢献に関して顕著な功績があった者を自薦他薦問わず広く募っており, 毎年数名の教員が表彰されている(資料 3-2-①-9, 10)。

(分析結果とその根拠理由)

教員の教育活動は校長, 副校長, 企画会議メンバーが点検する目標管理表および個別面談と, 教員が点検する教員間の授業参観および参観後の懇談, 保護者が点検する保護者授業参観, 学生が点検する授業アンケートがあり, 教育目標や授業の進行に問題があれば面談時に議論し, アンケート結果は自己評価資料として活用されている。高専機構主催の教員顕彰に加えて本校独自の教員表彰を実施し, 教育活動の評価を明確に公表している。以上のことから, 教育活動の評価及び改善の取組は適切に機能している。

資料 3-2-①-1

教員授業参観実施要領

1. 実施目的

教員相互に授業参観することにより, 学生に分かりやすい授業の実現に資する教育力の向上をはかる。

2. 実施要領

- (1) 各科, 原則として所属教員の半数に対して授業参観を実施する。
(ただし, 各教員とも2年に1度は授業参観をうけるものとする。)
非常勤教員(嘱託を含む)についても参観を行う。
- (2) 参観を受ける授業は, 担当科目のうち1科目とする。
- (3) 授業参観は, 原則として被参観教員の所属学科の教員2名で実施する。
- (4) 参観教員は, 授業アンケートの結果を授業参観および後の面談の参考とすること。また, 参観の際は, 学生の授業態度にも留意すること。
- (5) 授業参観後, 被参観教員と参観教員で面談を実施し, 授業参観教員は授業参観報告書を作成し, 各科教務委員に提出する。
被参観教員が非常勤(嘱託を含む)の場合は, 面談を行わなくともよい。
- (6) 各科教務委員は, 各学科の授業参観報告書を取りまとめて, 教務委員会に提出する。

(出典 教員授業参観実施要領)

資料 3-2-①-2

教員間の授業参観後の面談と報告書

教務主事

授業参観報告書

平成 年 月 日

科 氏名

学年・学科 科目名・授業担当者	年 工学科(名) ・ 教員
参観日・時限	平成 年 月 日() 時限目
参観者(所属)	()・ ()・ ()
授業担当者との面談日 出席者	平成 年 月 日() ()・ ()・ ()・ ()
当日の授業テーマ	
講 評	
改善すべき点	
改善の具体的方法	
そ の 他	

(出典 教員授業参観報告書様式)

Web 入力による学生への授業アンケートの設問

〔設問欄〕

あなたの授業に対する取り組みについて

1. 出席状況はどうでしたか。
2. 科目に興味を持ってのぞみましたか。
3. 先生に質問しましたか。
4. 予習をしていますか。
5. 復習をしていますか。
6. ノートを取っていますか。

授業の様子について

7. 成績評価や授業の進め方について説明がありましたか。
8. 授業内容はよく準備されていると思いますか。
9. 説明は分かりやすいですか。
10. 授業中、教員の声や言葉は明瞭で聞き取りやすいですか。
11. 黒板の字は見やすいですか。
12. 授業の理解を深めるような演習、小テスト、宿題は行われていますか。
13. 教員の授業に対する熱意を感じますか。
14. 授業の進み具合は適当ですか。

成績について

15. 試験の内容はどうでしたか。
16. 成績評価は適切ですか。

授業全般について

17. 授業の結果、内容が理解できましたか。
18. 授業の結果、内容に興味を持てますか。
19. この教科の目的や意義を理解できましたか。
20. この授業を総合評価するとあなたはどれくらいに評価しますか。

〔回答欄〕 該当する番号に○をしてください。

- | | | | | | |
|-----|------------|-----------|-------|-------|------------|
| 1. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 90%以上 | 90~80 | 80~70 | 70~60 | 60%以下 |
| 2. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 興味あり | | | | 興味なし |
| 3. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | よく質問した | ときどきした | | | 全くしなかった |
| 4. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | いつもしている | ときどきしている | | | したことがない |
| 5. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | いつもしている | ときどきしている | | | したことがない |
| 6. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | いつもとっている | ときどきとっている | | | とったことがない |
| 7. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 説明があった | | | | 説明がなかった |
| 8. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | よく準備されている | | | | 全く準備されていない |
| 9. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | とても分かりやすい | | | | とても分かり難い |
| 10. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | とても聞き取りやすい | | | | とても聞き取りにくい |
| 11. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | とても見やすい | | | | とても見にくい |
| 12. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 十分行われている | | | | 全く行われていない |
| 13. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | とても感じる | | | | 全く感じない |
| 14. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 早い | 適当 | | | 遅い |
| 15. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 難しすぎる | 適当 | | | 易しすぎる |
| 16. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 厳しい | 適切 | | | 甘い |
| 17. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 十分理解できた | | | | 全く理解できなかった |
| 18. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | とても持てる | | | | 全く持てない |
| 19. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | とても理解できた | | | | 全く理解できない |
| 20. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 高く評価する | | | | 全く評価しない |

(出典 学内公開ページ：授業アンケート設問)

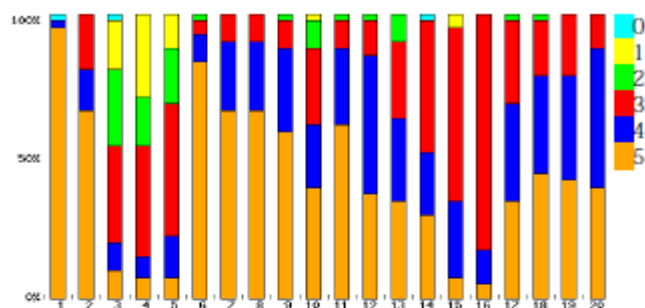
資料 3-2-①-6

平成23年度 授業アンケート分析例（2年物質工学科：有機化学）

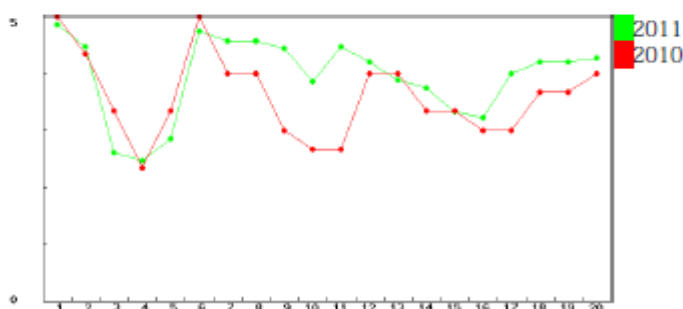
国立和歌山工業高等専門学校 2011年度

学科	学年	科目	担当教諭	必・選	単位数	未入力
物質工学科	2	有機化学(2C708ORS10)		必	1	2/43

設問	評価						平均
	5	4	3	2	1	無回答	
1	39 (95.1%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	4.9
2	27 (65.9%)	6 (14.6%)	8 (19.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.5
3	4 (9.8%)	4 (9.8%)	14 (34.1%)	11 (26.8%)	7 (17.1%)	1 (2.4%)	2.6
4	3 (7.3%)	3 (7.3%)	16 (39.0%)	7 (17.1%)	12 (29.3%)	0 (0.0%)	2.5
5	3 (7.3%)	6 (14.6%)	19 (46.3%)	8 (19.5%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)	2.9
6	34 (82.9%)	4 (9.8%)	2 (4.9%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.7
7	27 (65.9%)	10 (24.4%)	4 (9.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.6
8	27 (65.9%)	10 (24.4%)	4 (9.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.6
9	24 (58.5%)	12 (29.3%)	4 (9.8%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.4
10	16 (39.0%)	9 (22.0%)	11 (26.8%)	4 (9.8%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	3.9
11	25 (61.0%)	11 (26.8%)	4 (9.8%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.5
12	15 (36.6%)	20 (48.8%)	5 (12.2%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.2
13	14 (34.1%)	12 (29.3%)	11 (26.8%)	4 (9.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.9
14	12 (29.3%)	9 (22.0%)	19 (46.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	3.7
15	3 (7.3%)	11 (26.8%)	25 (61.0%)	0 (0.0%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	3.3
16	2 (4.9%)	5 (12.2%)	34 (82.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.2
17	14 (34.1%)	14 (34.1%)	12 (29.3%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
18	18 (43.9%)	14 (34.1%)	8 (19.5%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.2
19	17 (41.5%)	15 (36.6%)	9 (22.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.2
20	16 (39.0%)	20 (48.8%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.3



担当教員による分析と課題
 全体的に前年度の評価より改善している。特に、授業の説目の分かりやすさや板書の見やすさなどは評価が高く（2.5→4.6）なっている。一方で授業中の質問や復習を行う率はやや低下しており（3.3→2.6）、授業中に質問のしやすい雰囲気を作り、授業後に適切な課題を科すなどの工夫が必要と考えている。



（出典 学内公開ページ：授業アンケート集計結果）

資料 3-2-①-7

平成23年度目標管理表

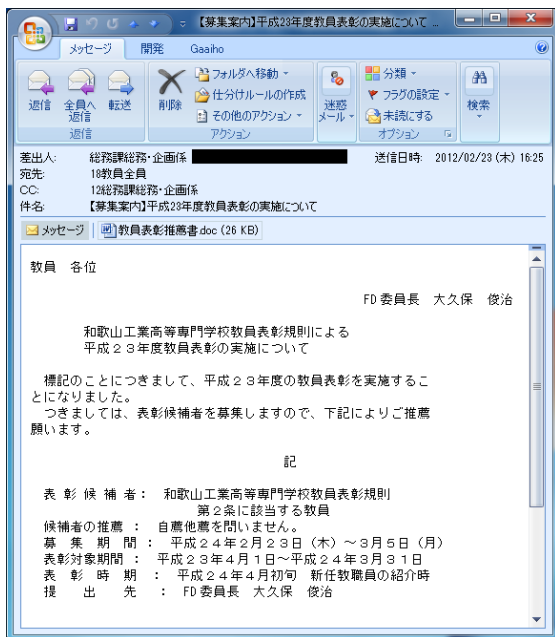
氏名 _____ 記入日 平成23年 月 日

	目標	自己評価
1、教育	3~4回ごとに学習シート(別紙)を作成し、項目ごとの到達目標を明らかにし、演習問題等を通じて到達度をチェックする。年間このような教育方法で行うことを目標にする。また現在の教育ニーズ取り組み支援プログラムのアイデア「ZZZZ」について、学科を通じて運営委員会に提案していく。	
2、研究	外部資金を獲得するために「××××」のテーマについて、A教員、B教員と学科内共同研究を進める。また科研費獲得に向け研究目的を明らかにし、「OOOO」のテーマで科研費に申請をおこなう。	
3、地域	企業から「△△」の新材料の開発依頼にたいして研究を進める。学校がかかっている、外部に対する教育貢献として出前実験や公開講座等に参加する。	
4、校務	厚生福導委員として学生支援の具体策として「XXXXYY」の案を提案する。クラブの部長としてクラブ員、特にキャプテンとの会合を定期的に持ち、クラブ指導について話し合う。	
5その他		
平成20年 月 日 面談教員		
校長印	コメント欄	サイン
希望業者24年度外地研修員制度を利用して、COOP教育の実態を視察し、研究を行い、本学にフィードバックできるようにしたい。そのための外地研修員制度を希望します。		

(出典 目標管理表)

資料 3-2-①-8

平成 23 年度教員表彰



(出典 教員表彰実施案内メール)

資料 3-2-①-9

平成 18～23 年度 教員表彰受賞教員一覧

号数	表彰年度	学科	氏名	表彰理由	教員表彰規則
1	平成18年	物質工学科		学位取得	第2条2号
2	平成18年	環境都市工学科		社会貢献	第2条4号
3	平成18年	物質工学科		学位取得	第2条2号
4	平成18年	物質工学科		教育奨励費	第2条1号
5	平成19年	物質工学科		学位取得	第2条2号
6	平成19年	知能機械工学科		教育奨励費	第2条1号
7	平成19年	一般科目		教育奨励費	第2条1号
8	平成19年	電気情報工学科		学生指導	第2条3号
9	平成20年	知能機械工学科		学生指導	第2条5号
10	平成20年	知能機械工学科		教育奨励費	第2条1号
11	平成20年	電気情報工学科		学生指導	第2条5号
12	平成20年	環境都市工学科		学生指導	第2条3号
13	平成20年	環境都市工学科		学生指導	第2条3号
14	平成20年	一般科目		教育奨励費	第2条1号
15	平成20年	一般科目		教育奨励費	第2条1号
16	平成21年	知能機械工学科		教育奨励費	第2条1号
17	平成21年	電気情報工学科		教育奨励費	第2条1号
18	平成21年	物質工学科		学会発表	第2条2号
19	平成21年	環境都市工学科		学生指導	第2条3号
20	平成22年	知能機械工学科		論文賞	第2条2号
21	平成22年	一般科目		教育奨励費	第2条1号
22	平成22年	一般科目		教育奨励費	第2条1号
23	平成22年	電気情報工学科		教育奨励費	第2条1号
24	平成22年	物質工学科		教育奨励費	第2条1号
25	平成22年	知能機械工学科		学位取得	第2条2号
26	平成23年	物質工学科		教育奨励費	第2条1号
27	平成23年	電気情報工学科		教育奨励費	第2条1号
28	平成23年	環境都市工学科		デザイン指導	第2条3号

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

採用や昇格に関する基準や手続きが明確に定められており、採用や昇格時には専門分野や業績だけでなく、学科内はもとより学校全体の年齢構成も考慮している。よって、規則に従った運用がなされている。

資料3-2-②-1

独立行政法人国立高等専門学校機構教職員の初任給，昇格，昇給等の基準に関する細則

独立行政法人国立高等専門学校機構規則第80号

制定 平成20年3月14日
 一部改正 平成20年9月30日
 一部改正 平成22年3月30日
 一部改正 平成22年7月26日
 一部改正 平成23年3月30日
 一部改正 平成24年3月30日
 一部改正 平成24年4月27日

(目的)

第1条 この細則は、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員給与規則（独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）規則第8号。以下「給与規則」という。）第42条の規定に基づき、教職員の職務の級についての標準的な職務の内容、職務の級及び号給を決定する場合の基準等について定めることを目的とする。

(出典 独立行政法人高等専門学校機構規則第80号)

和歌山工業高等専門学校 知能機械工学科教員公募

1. 募集人員 助教 1名
2. 所属学科 知能機械工学科
3. 専門分野 流体工学関連分野
4. 担当予定科目
水力学、流体力学、機械工学実験、情報処理、応用数学、卒業研究など
5. 応募資格
 - (1) 博士の学位取得者（着任までに取得見込みの方を含む）
 - (2) 高専の教育・研究・学生指導（課外活動含む）に理解と情熱のある方
 - (3) 企業や海外での活動経験を有する方および女性の応募を歓迎します
6. 採用予定日 平成24年4月1日
7. 応募期限 平成23年10月31日(月)必着
8. 提出書類
 - (1) 履歴書(写真貼付)
 - (2) 研究業績リスト(著書, 学術論文, 学会発表, 特許等に分類して記載すること:A4用紙)
 - (3) 主要論文の別刷又はコピー(主要なもの3編)
 - (4) (3)の主要論文等の概要(A4用紙, 1編1000字以内)
 - (5) これまでの研究概要と今後の研究計画(A4用紙2000字程度)
 - (6) 推薦書1通, 又は応募者について照会可能な方1名の氏名・所属、連絡先を明記した書類
9. 選考方法 1次選考:書類審査 2次選考:面接審査
10. 書類提出先:〒644-0023 和歌山県御坊市名田町野島77 和歌山工業高等専門学校 総務課
人事係 TEL: [REDACTED] (簡易書留で封筒に「知能機械工学科(流体工学関連分野)教員
応募書類在中」と朱書きのこと。なお、原則として提出された書類は返却いたしません。特に
返却を希望される場合は切手を貼付した返信用封筒を同封してください。)
11. 問い合わせ先:和歌山工業高等専門学校 知能機械工学科主任 教授 [REDACTED]
TEL: [REDACTED] E-mail: [REDACTED]

(出典 平成24年度知能機械工学科教員公募)

観点3-3-①: 学校における教育活動を展開するに必要な事務職員, 技術職員等の教育支援者
等が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

事務部の構成は, 事務部長をはじめ常勤職員42名, 非常勤職員21名が総務課, 学生課, 技術支援
室, 後援会事務に配属されている(資料3-3-①-1)。総務課には常勤17名, 非常勤7名の職
員が学内外行事の管理や人事, 会計, 施設管理等の学校運営関連業務に従事している。学生課には常
勤12名, 非常勤13の職員が, 教務, 学生の厚生, 寮に関する学生支援業務を行っている。教育・研

究活動を技術面でサポートする技術支援室には常勤 12 名、非常勤 1 名の専門職員が配置されている。

(分析結果とその根拠理由)

事務職員は関連委員会と連携し学校全体の職務を遂行している。技術職員は技術支援室所属として全学的な職務に柔軟に対応している。

資料 3-3-③-1

事務組織一覧および職員配置表

課	係	常勤	非常勤	計
事務部長		1	0	1
総務課	課長・課長補佐等	3	0	3
	総務企画係	3	2	5
	人事係	4(1)	1	5(1)
	財務企画係	2	1	3
	財務管理係	3(1)	1	4(1)
	施設係	1	2	3
	情報マネジメント室	1	0	1
学生課	課長・課長補佐等	2	0	2
	教務係	4(1)	1	5(1)
	学生係、保健室	3	2	5
	図書係	1	4	5
	寮務係	2	6	8
技術支援室		12(1)	1(1)	13(2)
計		42(2)(2)	17(1)	58(3)(2)

※括弧内は内数, 0: 育休, 【】: 再雇用

(出典 総務課資料)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校では技術者教育に特化した特色ある高専独自の5年一貫教育を実現できるように教育内容を見直す過程で、数学、化学、物理の授業を一般科目教員と専門学科教員の両方で指導している。また国際化に対応するべく、外国語担当教員を6名配置するなど、一般科目教員と専門学科の教員を柔軟かつ適切に配置している。各専門学科においても、特定の分野に偏ることなく、教員を適切に配置できている。また実践的な教育ができるように専門科目教員に企業経験者を多く配置している。

専攻科においては、博士の学位を有する教員と豊富な企業経験を持つ非常勤講師が、両専攻とも教育目標を達成するカリキュラムに即した配置となっている。

新規採用では、年齢構成と専門分野を考慮しつつ企業等実務経験者や女性の採用を進め、教員組織の活性化を図っている。教員の昇格や採用に当たっては学内規程に従って企画会議で審議している。

教員個々の業務評価では、前年度活動の自己評価及び今年度の目標を各教員が設定し、企画会議メンバーとの面談により活動を点検している。顕著な功績のある教員は、高専機構が募集する教員顕彰制度に毎年応募するとともに、本校独自の制度である教員表彰の選考対象となっている。

(改善を要する点)

学生の男女比率に対して女性教員の人数が少ないため、今後も男女共同参画を推進する必要がある。

(3) 基準3の自己評価の概要

一般科目の教員数は設置基準を満たしており、国際性を育成するために外国語担当教員を多く配置している。実践的な教育のため専門学科の専任教員には企業経験者を多く配置している。専攻科においては博士の学位を有する教員を重点的に配置し、実務関連科目を企業経験豊富な非常勤講師が担当することで教育水準の維持向上に努めている。教員の採用や昇格においては、学内の年齢構成や専門分野を考慮しながら女性の採用を推進し、組織の活性化を図っている。採用や昇格は学内規程に従って本校企画会議で審議している。教員個々の業務評価では、目標管理システムによる自己点検に加えて授業参観、授業アンケートにより目標設定および評価が行われ、業務改善に繋がっている。事務職員は各種委員会と連携して多様な学校運営を補佐している。技術職員は全学的な技術支援室に所属し、特定の学科にとらわれずに、職務に柔軟に対応できるシステムが構築されている。

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点 4-1-①: 教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点に係る状況）

本校では、教育の指針として全学的なアドミッション・ポリシーである「教育理念」を定め、卒業（修了）時まで身に付ける能力を示した「学習・教育目標」を掲げている。さらに、学科毎に、学生募集方針を判り易く表現した「本校が求める学生像」、および養成する人材の姿を示した「人材養成目的」を設定している。

「教育理念」はホームページ上、および年次発行の学校要覧に掲載して学内外に周知を図っている（資料 4-1-①-1）。また、本校への入学を希望する中学生には、学生募集要項に「本校が求める学生像」を記載して周知している（資料 4-1-①-2）。本校 4 年次への編入学を希望する高校生には、編入学生募集要項に「各学科の人材養成目的」を記載して周知している（資料 4-1-①-3）。専攻科を目指す学生のためには、専攻科学生募集要項に「専攻科アドミッション・ポリシー」および「各専攻の教育方針と内容」（資料 4-1-①-4）を記載している。さらに本校入学後の学生に卒業（修了）生像を意識させるために、各ホームルーム教室の前方に「学習・教育目標」を掲示している。

毎年、県内すべておよび近隣府県の一部の中学校を訪問する際に上記の資料等を説明に用いている。加えて、オープンキャンパス、学校説明会、公開講座等の様々な広報活動の機会に資料を配布して入学者受入方針の周知に努めている（資料 4-1-①-5）。

資料 4-1-①-1

教育理念

■ 教育理念

本校は、5年間の一貫教育を通じて、エンジニアとしての素養を身につける基礎教育と、実践を重視した専門教育を効果的に行うことにより、工学を社会の繁栄と環境との調和に生かすための創造力と問題解決能力を身につけ、豊かな人間性と国際性を備えた人材の育成を目指す。

とりわけ自然環境に恵まれた和歌山県中南部に位置する本校は、地域社会の特色を生かしつつ、地球環境に配慮した新技術の開発に貢献することにより、新たな課題に挑戦する。

こうした環境と地域連携を考慮した教育・研究活動が、国際社会へもアピールできるよう努力を重ねる。

（出典 本校ホームページ）

資料 4 - 1 - ① - 2

本校が求める学生像

和歌山工業高等専門学校では、講義のほかに実験・実習に重点をおいた教育を行い、高度な知識と技術を身につけたエンジニアの養成をめざしています。

この理念のもと、本校が求める学生像を次に示します。

- ・自らの考えを文書や口頭で説明し、理解させることができる学生
- ・科学技術に興味を持ち、充実した高専生活を送りたい学生

さらに、各科で求める学生像を次に示します。

知能機械工学科

- ・機械はもちろん、コンピュータにも関心があり、自己を高めたいと考えている学生
- ・将来、機械工学の知識を活かした仕事に就きたいと考えている学生

電気情報工学科

- ・電気情報技術について、エンジニアとしての優れた素養を持つ学生
- ・将来、電気情報工学の知識を活かした仕事に就きたいと考えている学生

物質工学科

- ・化学や生物工学の世界に興味がある学生
- ・実験や観察が特に好きな学生
- ・将来、化学や生物工学の知識を活かした仕事に就きたいと考えている学生

環境都市工学科

- ・街・道・港・橋などを作りたい学生
- ・地球環境を守りたい学生
- ・災害から人の命を守りたい学生

以上のとおり、本校では、大学とは異なる高等教育機関として、ものづくりなど専門的な技術に興味や関心を持つ学生に対し、高等専門学校本来の特色である、新しい時代に対応した創造力に富み、人間性豊かで、また、国際社会にも貢献できるエンジニア育成のための教育・指導を行っています。

(出典 平成 24 年度学生募集要項 p. 1)

資料 4 - 1 - ① - 3

各学科の人材養成目的

また、各学科の人材養成目的は、次のとおりとする。

学科名	人材養成目的
知能機械工学科	幅広い産業における機器やシステムの設計、開発、研究、保守、操業等の業務において、創造的かつ主体的に取り組むための基礎技術や制御・知能化技術を含めた総合力を身につけ、日々進歩する科学技術を推進できる基本的学識と知的好奇心を備えた機械技術者の養成
電気情報工学科	私たちの豊かな生活を支え、社会、産業の発展に大きく寄与している電気・電子・情報・通信などの基礎技術を身につけ、日々進歩し続ける電気情報技術に柔軟に対応できる課題発見解決型の電気情報技術者の養成
物質工学科	人々の生活を支える様々な物質について、化学および生物工学に基づく基礎的理解と工学的センスを身につけ、ものづくりに誇りを持って地球環境保全の立場から人類に役立つ物質を実践的に創造できる化学・生物工学技術者の養成
環境都市工学科	地震や津波に対する防災技術、地球温暖化問題に対する環境保全・自然との共生をはかる環境マネジメント技術、機能的で快適な街をつくる都市計画技術、橋梁など社会基盤の構造設計技術などを身につけ、グローバルデザイン能力に優れた創造的技術者の養成

(出典 平成 25 年度編入学生募集要項 p. 9)

資料 4-1-①-4

専攻科アドミッション・ポリシーおよび各専攻の教育方針

2. 専攻科のアドミッションポリシー（入学者受入れ方針）

本校専攻科では、次のような学生の入学を期待しています。

- ① 幅広い専門性を身に付けた技術者として、持続可能な社会の形成に貢献したい人
- ② 自主的・継続的に学習や研究に取り組み、自己の向上を目指したい人
- ③ 技術者教育を受けるために必要な専門基礎や英語などについての基礎能力を持っている人

3. 各専攻の教育方針と内容

(1) メカトロニクス工学専攻

高等専門学校等の機械工学及び電気・情報工学系学科において修得した専門科目を基礎として、更にそれらをより専門的に系統化・融合化させたカリキュラムを学ぶことによってメカトロニクスに関する研究開発能力に優れた技術者の育成を目的とします。このため、計測制御工学、パワーエレクトロニクス特論、ロボット工学等の専門科目を開設しています。メカトロニクス設備の高性能化に対応するため、機能材料学や精密加工学、熱流体工学の科目を設け、更に生産工学や情報伝送工学の科目などFA生産実習システムを用いた実験実習科目も開設しています。

(2) エコシステム工学専攻

高等専門学校等の物質工学及び環境都市工学系学科で修得した基礎学力と技術を基盤として、環境の保全及び改善を考慮しながら発展的に工業生産及び社会基盤の形成に貢献できる人材育成を目的としています。このため、物質工学及び環境都市工学系学科で修得した内容を更に深める科目として、反応有機化学、有機機能材料、遺伝子工学、細胞工学、生体高分子、応用地盤工学、応用材料工学、建設設計工学を開設しています。また、環境について科学的な理解と思考を促すための科目として、物質と環境の係わりを扱う環境化学工学、細胞工学、水圏工学、そして社会基盤の形成と環境の係わりを扱う社会基盤計画学、環境アセスメント、地域環境工学を開設しています。

(出典 平成 25 年度専攻科学生募集要項 p.10)

資料 4-1-①-5

平成 23 年度各種広報資料等の作成部数

名 称	部 数
学校要覧	6,000
学生募集要項	4,000
編入学学生募集要項	600
専攻科学生募集要項	500
パンフレット入学案内	15,000
リーフレット「凄い！」	22,000
リーフレット和高専ガール	5,000
リーフレット卒業後進学例	5,000
オープンキャンパス(ポスター)*	898
学校説明会(ポスター)*	803
学生便覧	1,100
年報	1,500

* : 配布部数

(出典 総務課, 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

学校全体としてのアドミッション・ポリシーである「教育理念」、学科毎の「求める学生像」、そして卒業（修了）時まで身に付けて欲しい「学習・教育目標」が適切に定められ、それぞれを学校要覧、学生募集要項、編入学生募集要項、専攻科学生募集要項、ホームページ等に掲載、または教室に掲示する等、多様な機会を使って学内外への周知が図られている。したがって、求める学生像および入学者受入方針が適切に定められ、かつ周知されている。

観点 4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

本校は、本科課程学生および4年次編入学生について学力入試と学校長推薦入試によって入学者を選抜してきた。さらに、平成16年度より本科課程入試において「体験実習入試」を導入した。これは、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れをより明確にするために設けた選抜方法で、入試当日に学科別を実施する体験実習、面接、小論文の結果をもとに合格者を判定するものである（なお、平成16年度から20年度までは「A0入試」と呼称した）（資料4-2-①-1, 2）。

本科課程学力入試では、従来、数・理・英・国・社5科目の学力検査を実施していたが、理数系の得意な、技術者への適性の高い学生が入学できるよう検討を行い、平成21年度入試より「社会」を除く4科目の検査によって選抜することとした（資料4-2-①-3）。

また、本科課程の学校長推薦入試においては中学校側から提出された調査書と面接により学生を選抜しており、面接時には本校の専門教育の内容に興味があるかどうかを判断材料に入れて、本校の教育方針に沿った学生を選抜している（資料4-2-①-4, 訪問調査時の確認資料）。

さらに受験生の適性をより正確に把握するため、平成18年度入試から編入学希望者を含む受験生全員に「志望理由書」を提出させている（資料4-2-①-5）。

また、専攻科においては、学力と学校長推薦の2通りの選抜を行っており、いずれの選抜においても面接によって専攻への適性を判断している（資料4-2-①-6, 訪問調査時の確認資料）。

資料4-2-①-1

体験実習入試の概要

4. 選抜方法

(1) 得点の配分を次のとおりとし、学科毎に得点上位者から選抜します。

調査書	10% (数学、理科、英語の評価を重視します。)
体験実習	50%
面接	15%
小論文	25% (小論文は、600字程度を予定しています。)

(2) 志望理由書及び活動報告書は面接時の参考資料として使用します。

(出典 平成24年度学生募集要項 p.9)

体験実習入試の過去出題問題

体験実習入試の課題(過去5年間)

年度	知能機械工学科 (機械工学科)	電気情報工学科	物質工学科	環境都市工学科
	体験実習選抜 解説動画 Windows Media Player でご覧いただけます	体験実習選抜 解説動画 Windows Media Player でご覧いただけます	体験実習選抜 解説動画 Windows Media Player でご覧いただけます	体験実習選抜 解説動画 Windows Media Player でご覧いただけます
平成19年度	風車をつくり、風速と回 転数の関係を調べよう	回路の特性を調べよう	混合物の分離	交通量を調べよう
平成20年度	棒のたわみ	合成抵抗の計算と回 路シミュレータ	水溶液の性質	立体把握(ブロックを使 って考えよう)
平成21年度	歯車列の回転数を調 べる	MATLABを用いた基礎 的なプログラミング、及 び2次式の計算・描画	塩化銅と亜鉛の化学 反応	環境アセスメントに挑 戦してみよう
平成22年度	発電機の実出力電圧を 調べよう	回路シミュレータを用 いたトランジスタ回路の 設計	分子モデルで考えよう	力と運動
平成23年度	浮力(浮く力)について 考えよう	電気回路の抵抗値と 電流値	薄層クロマトグラフィー による色素の分離	水中の物体にはたらく 力

(出典 本校ホームページ)

本科学力入試検査科目の変更

3. 平成21年度学力検査入試について

教務主事から、資料3「入試判定資料」(審議終了後回収)により、教務委員会において「社会」科目の取扱について議論された説明がなされた後、協議の結果、校長に一任することで了承された。

3. 平成21年度入学試験選考基準案及び学生募集要項案について

説明前に校長から、前回の運営委員会において、校長に一任となっていた、入試科目について、社会を外すことにした旨の報告があった。

学生課長から、資料3「入学試験選考基準案及び学生募集要項案」について説明があり、一部修正のうえ、了承された。

(出典 平成20年度第8,9回運営委員会議事録)

資料 4 - 2 - ① - 4

本科学校長推薦入試面接資料

整理番号 _____ 受験番号 _____ 氏名 _____

項 目	評 価
1. [Redacted]	1・2・3・4・5
2. [Redacted]	1・2・3・4・5
3. 工学や専門への関心の度合いはどうか (関心)	1・2・3・4・5
4. [Redacted]	

~~~~~ 以下省略 ~~~~~  
(出典 学生課資料)

資料 4 - 2 - ① - 5

志望理由書

平成 年 月 日

和歌山工業高等専門学校長 殿

|            |     |    |
|------------|-----|----|
| 志望学科       | 工学科 | 氏名 |
| [Redacted] |     |    |

~~~~~ 中略 ~~~~~

| |
|------------|
| [Redacted] |
|------------|

記入要領 学ぶ目的、学びたい内容、高専卒業後の勉学の成果の生かし方をこれまでのあなたを振り返りながら具体的に述べてください。

- 注意事項
- ① 1枚にまとめて記入してください。
 - ② ※印は記入しないでください。
 - ③ 黒のボールペンを用いて丁寧に自筆で書いてください。

※ この様式 (Adobe PDF 形式) は、ホームページ (<http://www.wakayama-nct.ac.jp/>) よりダウンロードが可能です。

(出典 平成 24 年度学生募集要項)

資料 4-2-①-6

専攻科学校長推薦入試面接票

面接教員氏名 _____

| | |
|--|------|
| 受験番号 | |
| 【評価方法】
各項目を5点満点（最低点1点）で評価し、合計点（最高30点満点）を算出する。 | |
| 【評価項目】 | |
| 1 | / 5 |
| ~~~~~ 中略 ~~~~~ | |
| 6 | / 5 |
| 合 計 | / 30 |

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

学校長推薦入試や編入学試験の際に、受験生の学力だけでなくアドミッション・ポリシーに合致しているかについても判断している。また、本校を志望した理由を提出させ、適性の判断材料にしている。さらに専門分野への受験生の適性を重視した体験実習入試を実施するなど多様な選抜を行っている。また、専攻科入試においては面接などで専攻への適性の判断がなされている。これらのことから適切な入学者選抜が実施されている。

観点 4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

(観点に係る状況)

本校で実施している本科課程の3種の入試（学力、学校長推薦、体験実習）区分別に入学者の成績推移を追跡調査している（資料 4-2-②-1）。

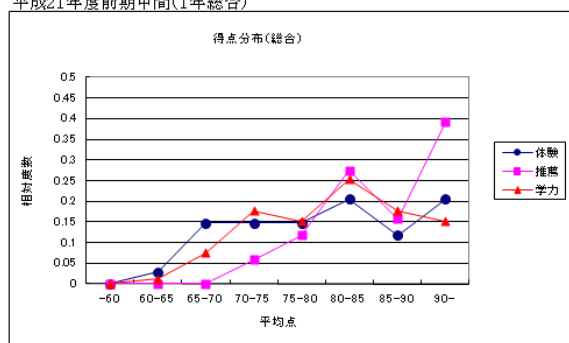
資料 4 - 2 - ② - 1

入試区分別入学者の成績推移分布表
平成21年度入学者(現1年生)の入学区分別成績推移

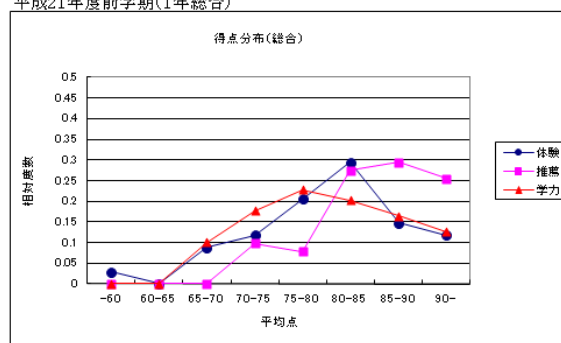
受験別入学者数

| 体験入学者 | 推薦入学者 | 学力入学者 | | | 合計 |
|-------|-------|-------|----|----|-----|
| | | 体験 | 推薦 | 学力 | |
| 34 | 51 | 79 | | | 164 |
| | | 31 | 20 | 28 | |

平成21年度前期中間(1年総合)



平成21年度前学期(1年総合)



(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

学力入試および学校長推薦入試を経た入学者の追跡調査を適宜行い、留年生や退学者数等の変化を追跡している。これらのことからアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証している。一方、その検証結果を入学者選抜の改善に結びつける取組は遅れている。

観点 4 - 3 - ①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われる等、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

本校にはそれぞれ定員40名の知能機械工学科、電気情報工学科、物質工学科、および環境都市工学科の4学科があり、合計定員は160名である。平成22～24年度入試においては定員の2.3～2.7倍(学力入試)、2.0～2.4倍(学校長推薦入試)、4.3～5.0倍(体験実習)の応募者があり(資料4-3-①-1)、各学科の入学者が40名になるように選抜している。ただし合格のボーダーラインに複数の受験者が存在し、甲乙付けがたい状況が生じた場合には、40名を越えて入学者を選抜し、選抜者のほとんどが入学している(資料4-3-①-2)。また、本校専攻科にはメカトロニクス工学専攻およびエコシステム工学専攻の2専攻を設置しており、定員は各専攻8名の計16名となっている。これに対して毎年定員を超える応募者があり、学校長推薦と学力入試とで定員を確保している(資料4-3-①-3)。

資料4-3-①-1

平成24年度本科入試倍率

体験実習

| 学科名 | 入学定員 | 募集人員 | 志願者数 | | | 出願倍率 |
|---------|------|------|------|----|-----|------|
| | | | 男 | 女 | 計 | |
| 知能機械工学科 | 40 | 8 | 43 | 2 | 45 | 5.63 |
| 電気情報工学科 | 40 | 8 | 27 | 0 | 27 | 3.38 |
| 物質工学科 | 40 | 8 | 26 | 4 | 30 | 3.75 |
| 環境都市工学科 | 40 | 8 | 32 | 5 | 37 | 4.63 |
| 計 | 160 | 32 | 128 | 11 | 139 | 4.34 |

※体験実習による出願倍率は、入学定員の20%(各科8名)を基準にしています。

推薦

| 学科名 | 入学定員 | 募集人員 | 志願者数 | | | 出願倍率 |
|---------|------|------|------|----|-----|------|
| | | | 男 | 女 | 計 | |
| 知能機械工学科 | 40 | 12 | 21 | 0 | 21 | 1.75 |
| 電気情報工学科 | 40 | 12 | 25 | 1 | 26 | 2.17 |
| 物質工学科 | 40 | 12 | 20 | 17 | 37 | 3.08 |
| 環境都市工学科 | 40 | 12 | 22 | 7 | 29 | 2.42 |
| 計 | 160 | 48 | 88 | 25 | 113 | 2.35 |

※推薦による出願倍率は、入学定員の30%(各科12名)を基準にしています。

学力

| 学科名 | 入学定員 | 募集人員 | 志願者数 | | | 出願倍率 |
|---------|------|------|------|----|-----|------|
| | | | 男 | 女 | 計 | |
| 知能機械工学科 | 40 | 20 | 50 | 0 | 50 | 2.50 |
| 電気情報工学科 | 40 | 20 | 41 | 1 | 42 | 2.10 |
| 物質工学科 | 40 | 20 | 42 | 11 | 53 | 2.65 |
| 環境都市工学科 | 40 | 20 | 46 | 10 | 56 | 2.80 |
| 計 | 160 | 80 | 179 | 22 | 201 | 2.51 |

※学力による出願倍率は、入学定員の50%(各科20名)を基準にしています。

(出典 本校ホームページ)

資料4-3-①-2

本科入学志願者・入学者数

| 専攻 | 2008 | | 2009 | | 2010 | | 2011 | | 2012 | |
|---------|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|
| | 志願者 | 入学者 | 志願者 | 入学者 | 志願者 | 入学者 | 志願者 | 入学者 | 志願者 | 入学者 |
| 機械工学科 | 60 | 40 | / | / | / | / | / | / | / | / |
| 知能機械工学科 | / | / | 63 | 40 | 65 | 42 | 59 | 41 | 74 | 40 |
| 電気情報工学科 | 73 | 42 | 56 | 41 | 74 | 42 | 62 | 41 | 66 | 41 |
| 物質工学科 | 69 | 40 | 78 | 42 | 84 | 42 | 82 | 41 | 76 | 41 |
| 環境都市工学科 | 59 | 40 | 68 | 41 | 77 | 41 | 71 | 40 | 79 | 41 |
| 計 | 261 | 162 | 265 | 164 | 300 | 167 | 274 | 163 | 295 | 163 |

いずれの学科も定員40名

(出典 学校要覧等より抜粋作成)

資料 4 - 3 - ① - 3

専攻科入学志願者・入学者数

| 専攻 | 2008 | | 2009 | | 2010 | | 2011 | | 2012 | |
|------------------------|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|
| | 志願者 | 入学者 | 志願者 | 入学者 | 志願者 | 入学者 | 志願者 | 入学者 | 志願者 | 入学者 |
| メカトロニクス工学専攻
(定員:8名) | 21 | 14 | 29 | 13 | 24 | 12 | 19 | 13 | 20 | 9 |
| エコシステム工学専攻
(定員:8名) | 23 | 11 | 21 | 8 | 27 | 12 | 12 | 13 | 20 | 10 |
| 計 | 44 | 25 | 50 | 21 | 51 | 24 | 31 | 26 | 40 | 19 |

(出典 学校要覧等より抜粋作成)

(分析結果とその根拠理由)

本科課程においては体験実習入試，学校長推薦入試，学力入試の3つの選抜方法によって定員160名を数名越える入学者を選抜しており，選抜したほぼ全員が入学している．また，専攻科においても学校長推薦と学力による選抜を実施して定員16名を上回る入学者を確保している．よって入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られている．

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学校全体の教育理念，教育方針等のアドミッション・ポリシーを明確に定めた上で，ホームページや学校要覧上で積極的に公開している．また，教育理念だけでなく，一般社会，在校生，本校に入学を希望する中学生，本校に編入学を希望する高校生等，対象に合わせてアドミッション・ポリシーを卒業生像や卒業生が身につけるべき能力等と言い換えて平易に理解できるように工夫している．このアドミッション・ポリシーに沿って学校長推薦入試や体験実習入試を実施し，選抜した学生を受け入れている．さらに，入学した学生について選抜方法別に追跡調査を実施している．これらの入試を実施した結果，毎年本科においては定員160名を数名上回る学生を，また，専攻科においても定員を確保している．

(改善を要する点)

入試区分別に入学者の成績推移を追跡調査しているが，そのデータを選抜方法の改善に結びつけるための取り組みが不足している．

(3) 基準 4 の自己評価の概要

学校全体の教育理念，教育方針等のアドミッション・ポリシーが明確に定められ，外部に積極的に公開している．また，対象に合わせてアドミッション・ポリシーの表現を変えて平易に理解できるように工夫している．さらにこのアドミッション・ポリシーに沿って学校長推薦入試や体験実習入試を実施して学生を受け入れ，入学した学生の追跡調査を行っている．これらの入試により，毎年本科，専攻科とも適正な学生を受け入れている．

基準 5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

＜準学士課程＞

観点 5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

学業成績評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則（資料 5-1-①-1）の第12条に卒業認定に関する基準が記載されている。一般科目について75単位以上、専門科目について82単位以上、かつ合計で167単位以上を修得した者は、本科の全課程を修了したものとして、校長が卒業を認定する。学科教育目標の下、学年ごとに適切な授業科目が体系的に配置され、担当授業を教員が教授し、学生の学習に役立つように工夫されている。（資料 5-1-①-2～3）

資料 5-1-①-1

II. 授業に関する規則

学業成績評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則

制定 昭和42年7月14日
最近改正 平成22年4月1日

第1章 総則

(目的)

第1条 この規則は、和歌山工業高等専門学校（以下「本校」という）における試験、学業成績の評価、進級及び卒業の認定等について定めるものとする。

第2章 試験

(種類)

第2条 試験は、次の3種類とする。

- 一 平常試験
- 二 中間試験
- 三 期末試験

(実施要領)

第3条 試験は次により実施する。

- 一 平常試験は、随時各授業科目担当の教員が実施する。
- 二 中間試験は各学期の中間に、期末試験は各学期末に、一定期間を定め、各授業科目について1回実施する。ただし、授業科目の性格その他の事情によっては、実施しないことがある。

第3章 学業成績の評価

(学業成績)

第4条 学業成績は、通年で開設する科目については前学期成績及び学年成績とする。ただし、前学期又は後学期のみに開設する科目については、その学期成績を学業成績とする。

2 前学期成績判定会の結果、前学期で終了する科目に、履修した科目に未修得科目があった場合、第14条に定める前学期特別指導を実施することができる。

3 前学期特別指導の結果、合格と判断した場合は、第10条に定める未修得科目に該当しないものとする。

(科目の履修)

第5条 科目の履修は、次のとおり行う。

一 科目を履修するためには、授業時間数の2/3以上出席しなければならない。

ただし、特別な事由がある場合は、成績判定会で審議の上、履修を認定する。

二 未履修となった場合の欠課時間数は、欠席した時間数とする。

(学業評価)

第6条 成績評価は、次のとおり行う。

一 成績は、平常試験、中間試験、期末試験の成績及び平常点（課題、レポート、平常の学習態度等）により、100点法で評価する。

二 卒業研究の成績は、可否によって評価する。

三 未履修となった科目の評価は、0点又は否とする。

四 前各号に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

(故意に試験に欠席した場合等の成績)

第7条 故意に試験に欠席したと認められた者の当該授業科目の試験の成績は、0点とする。

(不正行為をした場合の成績)

第8条 定期試験（中間試験及び期末試験をいう。）中に不正行為を行った者は、当該科目の受験を停止させ、当該試験の成績は0点とする。

第4章 進級、仮進級並びに卒業の認定

(進級認定)

進級は、学業成績及び特別活動（ホームルーム及び諸行事）の履修状況を成績判定会に付し、校長が認定する。

次の各号に掲げる条件を満たし、各学年における修得単位数が別表に定める単位数以上で、かつ必修科目を修得している者は、その学年の課程を修了したものと認め進級させることができる。

科目の学業成績が、全て60点以上であること。

5 学年においては、卒業研究の成績が合であること。

… 各号に掲げる条件を満たさない者は、成績判定会で審議の上、及落を決定する。

4 休学した場合は、落第とする。

(仮進級認定)

第10条 前条第2項第1号に掲げる条件を満たしていない者のうち、学年成績が60点未満の科目（以下「未修得科目」という。）が原則として2科目以内で、かつ未修得科目の単位数の合計が6単位以内である者は、成績判定会で審議のうえ、校長は同人の進級（以下「仮進級」という。）を認定することができる。

2 仮進級を認定された者は、未修得科目について、第14条に定める仮進級特別指導を受けなければならない。

3 第3学期末において、履修した科目に未修得科目がある者が退学を希望した場合は、成績判定会による審議の上、前項に定める仮進級特別指導に準じた指導を実施することができる。

(仮進級認定者の進級)

第11条 仮進級を認定された者が、仮進級特別指導を受けた結果、未修得科目の全てが修得できた場合、校長は同人の仮進級を解除し進級を認定する。

2 仮進級を認定された者が、仮進級特別指導を受けた結果、未修得科目の修得ができなかった場合であっても、在籍学年における学年成績が、第9条第2項に定める条件を満たしているときは、成績判定会で審議のうえ、校長は同人の次の学年への仮進級を認定することができる。この場合、未修得の必修科目については、卒業までに再度評価を受け、修得しなければならない。

物質工学科

1. 学科の概要

物質は色々な形で私達の生活に大きく関わりをもっています。プラスチック、繊維、塗料、界面活性剤、ゴム、医薬品、食品などはその例ですが、これらは直接利用される他に、様々な産業分野でさらに加工され、形を変えて、人々の生活空間に広く浸透し利用されています。

物質工学科では、このような物質について化学的および生物学的な面から理解し、さらにそれらの知識を基礎にして、地球環境保全の立場から人類に役立つ物質を新たに創造できる人材の育成を目標にしています。このため下表に示す「教育目標」を掲げ、物質について、組成、構造、変化等の基礎的な事項を理解すると共に、人類や自然との関わりを考慮しながら、その知識を発展的に応用できる能力を有する人材の育成に努めています。

物質工学科としてのカリキュラムは、低学年からくさび形に専門科目を配置し、3年次までに基礎科目や共通科目を履修して基礎的な化学的センスを培い、4年次からは「物質工学コース」と「生物工学コース」に分かれて、さらに高度な専門的科目を履修するように構成されています。

「物質工学コース」では、新素材、機能性材料の特性および化学プロセスを生産に取り入れた製造工程全般に関する技術や知識を学びます。「生物工学コース」では、生物材料の特徴および生物機能を工業的に利用するためのバイオテクノロジー等の技術や知識を学びます。両コースは、物質（分子）間の化学反応を基礎に置いており元来密接に関連しています。さらに、選択科目は全てコース共通に設定されており、選択する科目の組み合わせによりこの関連性を補強出来るようになっていきます。これにより、それぞれのコースで修得する高度の技術と知識に加えて、各人の個性に合わせて化学から生物に至る範囲の工業関連の実用知識を修得出来るようになっていきます。

以上の背景に基づき、物質工学科では下表に示す教育目標を掲げています。

| 番号 | 物質工学科の教育目標 |
|-----|--|
| (1) | 自然科学および工学に関する基礎知識を修得し、これらの基礎知識を専門分野に応用できる能力を身に付ける。 |
| (2) | 関連する専門分野（物質工学系、生物工学系）の知識を身に付ける。 |
| (3) | 実験を通して、材料や機器を正しく取り扱い、目的とする測定データ等を取得・整理し、報告書にまとめる能力を身に付ける。 |
| (4) | 卒業研究において、課題の設定、解決のためのアプローチの手法の決定、実験・シミュレーション等の実施、結果の整理と検討、口頭発表による他者への説明（質疑によるコミュニケーションを含む）、論文の作成を行い、以上の一連の過程を通して、実社会で直面する諸課題に積極的に取り組むことができる能力を身に付ける。 |

資料 5-1-①-3

専門科目系統図
物質工学コース(平成13年度以降入学)

| | 1学年 | 2学年 | 3学年 | 4学年 | 5学年 |
|---------|----------------------|-------------------------------|--|--|---|
| 数理工学系 | 情報処理入門(2) | 情報処理(1) | 情報処理(1)
応用物理(2) | 応用数学(2)
応用物理(2) | 計測制御工学(1)
機械工学概論(1)
電気工学概論(1)
物質工学特論(1)
物質実用数学(1) |
| 化学系 | 化学Ⅰ(3)**
化学Ⅱ(2)** | 分析化学(2)
無機化学(1)
有機化学(1) | 分析化学(1)
無機化学(2)
有機化学(2)
物理化学(2) | 有機材料化学(2)*
無機材料化学(2)*
有機化学(1)
物理化学(2) | 合成化学(2)*
反応工学(2)*
量子化学(1)
物性物理化学(2)
移動速度論(1) |
| 生物系 | 生物(1)** | 生物(1) | 応用微生物学(2) | 生物化学(2) | 食品工学(2)
蛋白質工学(1) |
| 化学生物工学系 | | | | 高分子化学(2)
機器分析Ⅰ(1)
化学工学(3)
工業外国語(1) | 化学工学(2)
生物物理化学(1)
機器分析Ⅱ(1)
有機資源化学(1)
環境工学(1) |
| 実験 | 物質基礎実験Ⅰ(2) | 物質基礎実験Ⅰ(3) | 物質基礎実験Ⅱ(4) | 物質工学実験Ⅰ*(8) | 物質工学実験Ⅱ*(6) |
| 開設単位数 | 4 | 9 | 16 | 29 | 35 |

卒業研究(7)

()内は単位数

□ 必修科目(*はコース別科目,**は一般科目のうち特に密接に関連する科目)
▭ 選択科目

(出典 シラバス 3頁)

(分析結果とその根拠理由)

学生便覧の記載されている成績評価や進級，そして卒業認定の規則に基づき，教育課程が編成され，教育目標のもと，学年ごとに適切な授業科目が体系的に配置されている。また，担当授業を教員が学生の学習に役立つようにしつつ教授している。内容そして水準ともに適切である。

観点 5-1-②： 教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮しているか。

(観点に係る状況)

機械工学科は学生のニーズに対応するべく，そして学術の発展の動向に合わせて，知能機械工学科と名称を変更し，授業科目内容においても調整をおこなった。(資料 5-1-②-1~2)

また，外部の学識経験者や企業経営者を招へいし，諮問委員会を開催しているが，平成21年度は，

「高専教育の在り方ー高専卒業生に期待することー」というテーマの下で活発な議論がおこなわれさまざまな提言を得ている。(資料 5-1-②-3)

高等教育機関コンソーシアム和歌山に加盟し単位互換を行っている。和歌山大学や大阪大学や京都大学等と教育研究に関する協定を締結しておりこれらの教育機関で単位取得が可能である等、多くの学生ニーズに柔軟に対応出来る仕組みを整えている。(資料 5-1-②-4)

必修科目に加えて、さらなる学生のニーズにこたえるため、一般科目そして専門科目における多様な選択科目を開講し学生たちに提供している。(資料 5-1-②-5~6) 例えば、舞鶴高専と合同での英語合宿を行い英語力の強化に努めている。企業での昇進や入社時に問われるようになった社会のニーズにあわせ、TOEIC対策の英語の授業を4年生は全員そして5年生は選択して学べる仕組みになっている。日本のみならず世界的に知財戦略が高まってきた変化に対応するべく、知的財産権の授業も行っている。

資料 5-1-②-1

3. 知能機械工学科 Department of Intelligent Mechanical Engineering

必要とされる技術・機械工学

機械工学の専門基礎知識はさまざまな産業の分野で必要とされています。現製品の設計や製造のみならず、新製品や生産技術の開発を担うとともにさらにはロボットやシミュレーション技術にも通曉した機械技術者が求められています。

「ものづくり」を原点に

本校の知能機械工学科では「ものづくり」を原点に置き、5年間の一貫教育を行う利点を生かして、効率よく一粒授業科目と機械工学の幅広い分野の専門科目を組み合わせています。これにより、工学の基本的な理論体系の知識を修得するとともに、機械技術の急速な進歩に対処しています。

機械エンジニアを育成するカリキュラム

1学年から機械製図、工作実習を行い、機械工学への興味を喚起すると同時に、高学年では工学実験に学生自らが計画する自主実験を取入れ、5年生では実用的なテーマから学生自身が興味を持つ設計製図を行うなど、実践的かつ総合的な視野を持つ機械エンジニアを育てることを心掛けています。

さらに、カリキュラムを力学・材料系、熱・流体系、設計・工作系、情報・制御系の4分野に編成し、加えて工学実験、学外実習、卒業研究、工業外国語等を総合科目と位置付けて、これらから最新技術の習得を可能とし、独創性あふれた創造的能力をもった機械エンジニアを育成することを意図しています。

設計・製作の理念と社会

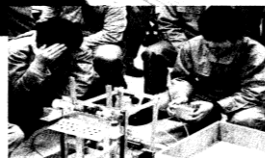
機械工学では、所定の機能を満たし、安全が保証でき、実現可能性が確認できるものを設計し、さらに、その考えを他者に伝える手法を学びます。もちろん、社会にとって害をなすものではなく、有益なものであることが前提となります。



NC旋盤、そのほかフライス盤、マシンングセンター、溶接等の実習がある。



CADによる製図
情報センターの
PCを用い、2次元および3次元
CADを学ぶ。



ロボット創作実習
自分たちで設計・製作したロボットを用いて競技会を行う。

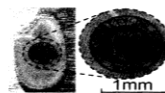
卒業生プロフィール

静 弘生 兵庫県立大学
(機械工学科2001年卒)



高専の卒業研究で研究活動の面白さに目覚め、卒業後は大学、大学院(修士、博士)と進学し、現在は大学にて教鞭を執っています。

高専在籍時はなかなか勉強について行けず成績もかなり低空飛行していた記憶がありますが、高専で学んだことは大学はもとより現在に至るまで非常に役に立っております。専門は生産加工(微細加工・超精密加工)で、日々学生相手に教育・研究活動に励んでいます。



米粒への大学ロボットの
微細切削加工例



被削材
兵庫県立大学
ダイヤモンド工具による
超精密加工例

知能機械工学科 専任教員

| 職名 | 氏名 | 担当科目 |
|-----|-------------------------------------|--|
| 教授 | 博士 (工学) 北澤 雅之*
KITAZAWA Masayuki | 機構学、機械設計法、機械設計製図、情報処理、工作実習、ロボット創作実習、機械工学実験 |
| | 博士 (工学) 福田 匡*
FUKUDA Tadashi | 熱力学、工業熱力学、機械概論、エネルギー工学、機械工学実験、物理、熱流体工学* |
| | 博士 (工学) 坂田 光雄*
SAKATA Mitsuo | 応用数学、振動工学、水力学、流体力学、機械概論、流体工学、機械工学実験、熱流体工学* |
| | 博士 (工学) 西本 圭吾*
NISHIMOTO Keigo | 機械設計製図、機械工作法、工作実習、ロボット創作実習、機械工学実験、精密加工学* |
| | 工学博士 藤原 昭文*
FUJWARA Akibumi | 応用数学、工業力学、材料力学、機械概論、材料力学特論、機械工学実験、機械工学概論、生産工学* |
| | 工学博士 溝川 辰巳*
MIZOGAWA Tatsumi | 電子制御、機械工学実験、物理、量子力学* |
| 准教授 | 博士 (工学) 櫻原 恵藏*
KASHIHARA Keizo | 材料学、機械設計製図、材料強度学、機械工学実験、材料科学* |
| | 佐野 和男*
SANO Kazuo | 工作実習、電子制御、ロボット創作実習、メカトロ概論、機械工学実験、計測制御工学* |
| | 博士 (工学) 津田 尚明*
TSUDA Naoaki | 情報処理、工作実習、自動制御、ロボット創作実習、情報機器、機械工学実験、ロボット工学* |
| | 博士 (理学) 濱田 俊彦*
HAMADA Toshihiko | 数学、数学特論、応用数学、数理工学* |
| | 工学修士 三原 白雅*
MIHARA Yoshimasa | 機械設計法、機械設計製図、工作実習、ロボット創作実習、機械工学実験 |
| 講師 | 博士 (工学) 山東 篤*
SANDOH Atsushi | 応用数学、コンピュータ入門、工作実習、機械工学実験、建築学概論、物理、数値計算・解析法* |

嘱託教員

| 職名 | 氏名 | 担当科目 |
|-------|----------------------|--------|
| 嘱託准教授 | 矢野 敏雄
YANO Toshio | 機械工学実験 |

非常勤講師

| 所属 | 氏名 | 担当科目 |
|-------------------|--------|-------------------|
| 元・和歌山高専 | 久保井徳洋 | 応用物理 |
| 元・日立金属株 | 佐々木俊明 | 環境・福祉工学、デザイン工学 |
| 元・和歌山高専
博士 工学 | 谷口 遼 | 機械システム工学 |
| 元・TMC CEO
元 社長 | 西畑 秀夫 | 工業外国語、工作機械、生産工学概論 |
| 和歌山電気協会 | 田村 敏雄* | 技術者倫理* |
| イトーキョウ | 吉岡 慎一* | 生産工学* |

*は専任科目担当教員 専任科目目

専門科目教育課程

平成18年度以降入学

| 授業科目 | 単位数 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
|--------------------|-------|----|----|-----|----|------|
| 必修科目 | | | | | | |
| 応用数学 | 4 | | | | 2 | 2 |
| 応用物理 | 4 | | | 2 | 2 | |
| 工業外国語 | 1 | | | | 1 | |
| 工業力学 | 2 | | 2 | | | |
| 振動工学 | 1 | | | | | 1 |
| 材料力学 | 4 | | | 2 | 2 | |
| 材料科学 | 3 | | | 2 | 1 | |
| 熱力学 | 1 | | | 1 | | |
| 工業熱力学 | 2 | | | | 2 | |
| 水力学 | 1 | | | 1 | | |
| 流体力学 | 2 | | | | 2 | |
| 機構学 | 2 | | 2 | | | |
| 機械概論 | 1 | 1 | | | | |
| 機械設計法 | 3 | | | 2 | 1 | |
| 機械システム工学 | 2 | | | | | 2 |
| 機械設計製図 | 8 | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| コンピュータ入門 | 2 | 2 | | | | |
| 情報処理 | 3 | | | 1 | 2 | |
| 機械工学科必須科目 | | | | | | |
| 機械工作法 | 4 | | 2 | 2 | | |
| 工作実習 | 8 | 2 | 3 | 3 | | |
| 電気工学概論 | 2 | | | | 2 | |
| 自動制御 | 1 | | | | 1 | |
| 電子制御 | 3 | | | | 2 | 1 |
| 知能機械工学科必須科目 | | | | | | |
| 機械工作法 | 3 | | 2 | 1 | | |
| 工作実習 | 6.5 | 2 | 3 | 1.5 | | |
| ロボット創作実習 | 1.5 | | | 1.5 | | |
| 電子制御Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ | 5 | | | 2 | 2 | 1 |
| 自動制御 | 2 | | | | 2 | |
| メカトロニクス設計 | 2 | | | | | 2 |
| 機械工学実験 | 4.5 | | | | 3 | 1.5 |
| 卒業研究 | 8.5 | | | | | 8.5 |
| 小計 | | | | | | |
| 機械工学科 | 77 | 7 | 11 | 18 | 25 | 16 |
| 知能機械工学科 | 79 | 7 | 11 | 19 | 24 | 18 |
| 選択科目 | | | | | | |
| 材料力学特論 | 1 | | | | | |
| 材料強度学 | 2 | | | | | 2 |
| エネルギー工学 | 2 | | | | | 2 |
| 流体工学 | 2 | | | | | 2 |
| 工作機械 | 1 | | | | 1 | |
| 生産工学概論 | 2 | | | | | 2 |
| 計測工学 | 1 | | | | 1 | |
| 環境・福祉工学 | 2 | | | | 2 | |
| デザイン工学 | 2 | | | | | 2 |
| 機械工学科選択科目 | | | | | | |
| メカトロ概論 | 2 | | | | | 2 |
| 情報機器 | 2 | | | | | 2 |
| 知能機械工学科選択科目 | | | | | | |
| 情報工学 | 2 | | | | | 2 |
| 企業実践講座 | 1 | | | | 1 | |
| 学外実習 | 1 | | | | | 1 |
| 小計 | | | | | | |
| 機械工学科 | 21 | | | | | 21 |
| 知能機械工学科 | 19 | | | | | 19 |
| 開設単位数 | | | | | | |
| 機械工学科 | 98 | 7 | 11 | 18 | 18 | 62 |
| 知能機械工学科 | 98 | 7 | 11 | 19 | 19 | 61 |
| 修得単位数 | | | | | | |
| 機械工学科 | 82以上 | 7 | 11 | 18 | | |
| 知能機械工学科 | | 7 | 11 | 19 | | 注 |
| 一般科目合計 | | | | | | |
| 開設単位数 | 99 | 26 | 25 | 17 | 14 | 17 |
| 修得単位数 | 75以上 | 26 | 25 | 17 | | 17 |
| 総計 | | | | | | |
| 開設単位数 | | | | | | |
| 機械工学科 | 197 | 33 | 36 | 35 | | 93 |
| 知能機械工学科 | 197 | 33 | 36 | 36 | | 92 |
| 修得単位数 | | | | | | |
| 機械工学科 | 167以上 | 33 | 36 | 35 | | 63以上 |
| 知能機械工学科 | | 33 | 36 | 36 | | 62以上 |

(出典 学生便覧 8頁)

Ⅱ 平成21年度和歌山工業高等専門学校諮問委員会（平成21年11月24日開催）

1. 諮問委員会メンバー出席者

和歌山大学 システム工学部長 瀧 寛和
 和歌山県工業技術センター 所長 請川 孝治
 フォリティ(株) 代表取締役 浦 聖治
 和歌山工業高等専門学校同窓会 会長 小笠原 俊成
 和歌山工業高等専門学校後援会 会長 西岡 祐治代理 高垣 定夫 後援会副会長
 中紀精機(株) 代表取締役社長 林 俊男
 株式会社島精機製作所 取締役 総務部長 藤田 紀
 和歌山県 企画部長 前裕 健作
 京都大学名誉教授・前松江高専校長 宮本 武明
 和歌山銀行 専務取締役営業推進本部長 米坂 享

2. 本校出席者

校長 堀江振一郎、副校長 藤本 晶、教務主事 山口利幸、学生主事 米光 裕
 事務主事 坂田光雄、専攻科長 大久保俊治、地域共同テクノセンター長 野村英作
 企画会議委員 森川 寿、総務課長 玉置佳史、国際交流委員長 藤原 昭文
 電気情報工学科主任 徳田将敏、学生課長 森川 潔

3. 配付資料

- ・昨年度だされた意見への学校の対応状況
- ・学生の進路等状況について
- ・本校本科での教育の特色
- ・専攻科での教育の特色

4. 開催日時・場所

平成21年11月24日（火） 14時00分～16時30分
 本校会議室

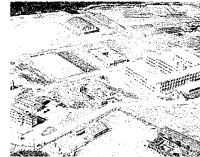
5. 諮問事項

和歌山における高専教育の在り方—高専卒業生に期待すること—

資料 5-1-②-4

沿革

- 1964 (昭和39年)
4月1日 機械工学科、電気工学科および工業化学科の3学科で発足した。
(昭和39年法律第9号、入学定員各科40名、計120名)
- 1965 (昭和40年)
4月12日 御坊市名田町野島77番地に本校舎を移転した。
- 1969 (昭和44年)
4月1日 土木工学科を設置した。(入学定員40名)
- 1993 (平成5年)
4月1日 工業化学科を物質工学科に改組した。(入学定員40名)
- 1994 (平成6年)
4月1日 土木工学科を環境都市工学科に改組した。(入学定員40名)
- 2002 (平成14年)
4月1日 専攻科(メカトロニクス工学専攻、エコシステム工学専攻)を設置した。
(各定員8名、修業年限2年)
- 2002 (平成14年)
6月27日 上海電機技術高等専門学校(中国)(現上海電機学院)と学術交流に関する協定書に調印した。
- 2003 (平成15年)
4月1日 総合技術教育研究センターを地域共同テクノセンターに改称した。
- 2004 (平成16年)
4月1日 独立行政法人国立高等専門学校機構が設立され、同機構が設置する国立高等専門学校となった。
電気工学科を電気情報工学科に改めた。(入学定員40名)
- 2006 (平成18年)
3月7日 和歌山大学大学院システム工学研究科と推薦入学に関する協定を締結した。
- 2006 (平成18年)
3月20日 独立行政法人大学評価・学位授与機構による機関別認証評価の結果、高等専門学校評価基準を満たしていると認定された。
- 2006 (平成18年)
3月29日 大阪大学工学部・大学院工学研究科と教育研究交流に関する協定を締結した。
- 2006 (平成18年)
11月26日 アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2006全国大会に準優勝した。
(翌年2007全国大会にも2年連続準優勝した。)
- 2006 (平成18年)
12月11日 上海電機学院(中国)と学生交流に関する協定書に調印した。
- 2007 (平成19年)
3月28日 京都大学工学部・大学院工学研究科と教育研究交流に関する協定を締結した。
- 2007 (平成19年)
5月14日 専攻科が、「地域環境デザイン工学」教育プログラムにより、
日本技術者教育認定機構(JABEE)の基準に適合していると認定された。
(認定開始年度:2006年度)
- 2007 (平成19年)
10月30日 大阪大学基礎工学部・大学院基礎工学研究科と教育研究交流に関する協定を締結した。
- 2007 (平成19年)
11月8日 和歌山県教育委員会と和歌山県内工業高校との連携協力包括協定を締結した。
- 2008 (平成20年)
3月3日 株式会社紀陽銀行と包括的な連携協力協定を締結した。
- 2008 (平成20年)
5月19日 ロボット教育センターを設置した。
- 2009 (平成21年)
4月1日 機械工学科を知能機械工学科に改めた。(入学定員40名)
- 2010 (平成22年)
4月30日 国際交流会館を設置した。
- 2011 (平成23年)
3月23日 上海電機学院(中国)と新たな協定を締結し、長期留学が可能となった。



資料 5-1-②-5

環境都市工学科 専任教員

| 職名 | 氏名 | 担当科目 |
|-----|-------------------------------------|--|
| 教授 | 博士 (工学) 辻原 治*
TSUJIHARA Osamu | 環境都市工学通論、情報処理、構造力学、総合演習、振動工学、耐震工学、建設設計工学* |
| | 工学博士 大久保俊治
OHKUBO Toshitaru | 暮らしと環境問題、水環境工学、総合演習、水道工学、下水道工学、基礎実験、環境アセスメント* |
| | 博士 (工学) 中本 純次*
NAKAMOTO Junji | 建設材料学、コンクリート構造学、総合演習、コンクリート構造学特論、社会基盤メンテナンス工学、基礎実験、応用材料工学* |
| | 博士 (工学) 久保井利達*
KUBOI Yoritachi | 測量学、測量学実習、環境地盤工学、道路工学、基礎実験、応用地盤工学* |
| | 博士 (工学) 轟巻 峰夫*
TSURUMARI Mineo | 基礎情報処理、基礎製図、設計製図、測量学実習、応用情報処理演習、都市環境工学、環境計画学、資源循環システム学、環境マネジメント* |
| 准教授 | 博士 (工学) 小池 信昭*
KOIKE Nobuaki | 水理学、水工水理学、基礎実験、水圏工学* |
| | 博士 (工学) 三岩 敬孝*
MITSUWA Yoshitaka | 構造力学、構造力学演習、コンピュータ製図、設計製図、基礎実験、複合構造工学* |
| | 博士 (工学) 山田 宰*
YAMADA Osamu | コンピュータリテラシー、測量学、設計製図、測量学実習、応用情報処理演習 |
| 助教 | 博士 (工学) 伊勢 昇*
ISE Noboru | 応用数学、設計製図、都市地域計画、計画数理、交通システム、基礎実験、数理統計学*、社会基盤計画学* |
| | 博士 (工学) 林 和幸*
HAYASHI Kazuyuki | 土質力学、設計製図、測量学実習、土質力学特論、地域環境工学* |

非常勤講師

| 所属 | 氏名 | 担当科目 |
|---------------------------------|-------|-------------|
| 南岡本土木技術 | 大平 智巳 | 設計製図 |
| 元・和歌山高専工学博士 | 小川 一志 | 鋼構造学、構造力学特論 |
| 元・国土交通省 | 桐野 利男 | 機械工学概論 |
| パシフィックコンサルタンツ㈱ 技術士(総合監理部門、建設部門) | 小西 弘朗 | 景観工学 |
| 南Soro | 外園 勝 | 景観工学 |
| 応用技術㈱ | 林 博文 | 地形情報処理学 |
| 元・川崎重工㈱ 技術士(総合監理部門、建設部門) | 山田 正年 | 施行管理学 |
| 日本GPSソリューションズ | 山本 昌也 | 測量学実習 |

*は専攻科担当教員(専攻科科目)

専門科目教育課程

平成18年度以降入学

| 授業科目 | 単位数 | 単位数 | | | | |
|--------------|-----------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
| 必修科目 | | | | | | |
| 応用数学Ⅰ,Ⅱ | 4 | | | | 4 | |
| 応用物理 | 2 | | | 2 | | |
| 環境都市工学通論 | 1 | 1 | | | | |
| コンピュータリテラシー | 1 | 1 | | | | |
| 基礎情報処理 | 1 | | 1 | | | |
| 情報処理 | 2 | | | 2 | | |
| 構造力学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ | 5 | | 1 | 2 | 2 | |
| 構造力学演習 | 2 | | | 2 | | |
| 建設材料学 | 1 | | 1 | | | |
| コンクリート構造学Ⅰ,Ⅱ | 2 | | | 1 | 1 | |
| 土質力学 | 2 | | | | 2 | |
| 水理学Ⅰ,Ⅱ | 4 | | | 2 | 2 | |
| 測量学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 暮らしと環境問題 | 1 | | 1 | | | |
| 水環境工学 | 1 | | | 1 | | |
| 基礎製図 | 1 | 1 | | | | |
| コンピュータ製図 | 1 | | 1 | | | |
| 設計製図Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ | 5 | | | 1 | 2 | 2 |
| 基礎実験Ⅰ,Ⅱ | 4 | | | 2 | 2 | |
| 測量学実習Ⅰ,Ⅱ | 5 | | 3 | 2 | | |
| 総合演習Ⅰ | 1 | | | | 1 | |
| 卒業研究 | 10 | | | | | 10 |
| 小計 | 60 | 4 | 9 | 18 | 17 | 12 |
| 選択科目 | | | | | | |
| 応用情報処理演習Ⅰ,Ⅱ | 2 | | | | 2 | |
| 振動工学 | 1 | | | | 1 | |
| 鋼構造学 | 2 | | | | 2 | |
| 構造力学特論 | 1 | | | | | 1 |
| 耐震工学 | 1 | | | | | 1 |
| コンクリート構造学特論 | 1 | | | | 1 | |
| 社会基盤メンテナンス工学 | 1 | | | | | 1 |
| 土質力学特論 | 1 | | | | | 1 |
| 環境地盤工学 | 1 | | | | | 1 |
| 施工管理学 | 2 | | | | | 2 |
| 道路工学 | 1 | | | | | 1 |
| 水工水理学 | 2 | | | | | 2 |
| 地形情報処理学 | 1 | | | | | 1 |
| 都市地域計画 | 1 | | | | 1 | |
| 計画数理 | 1 | | | | | 1 |
| 交通システム | 1 | | | | | 1 |
| 景観工学 | 1 | | | | | 1 |
| 都市環境工学 | 1 | | | | 1 | |
| 環境計画学 | 1 | | | | 1 | |
| 資源循環システム学 | 1 | | | | | 1 |
| 水道工学 | 1 | | | | 1 | |
| 下水道工学 | 1 | | | | | 1 |
| 工業外国語 | 1 | | | | 1 | |
| 機械工学概論 | 1 | | | | | 1 |
| 電気工学概論 | 1 | | | | | 1 |
| 建築学概論 | 1 | | | | | 1 |
| 総合演習Ⅱ | 1 | | | | | 1 |
| 企業実践講座 | 1 | | | | | 1 |
| 学外実習 | 1 | | | | | 1 |
| 小計 | 33 | | | | | 33 |
| 開設単位数 | 93 | 4 | 9 | 18 | 17 | 62 |
| 修得単位数 | 82以上 | 4 | 9 | 18 | | 注 |

一般科目合計

| | | | | | | |
|-------|------|----|----|----|----|----|
| 開設単位数 | 99 | 26 | 25 | 17 | 14 | 17 |
| 修得単位数 | 75以上 | 26 | 25 | 17 | | 注 |

総計

| | | | | | |
|-------|-------|----|----|----|------|
| 開設単位数 | 192 | 30 | 34 | 35 | 93 |
| 修得単位数 | 167以上 | 30 | 34 | 35 | 68以上 |

注 一般科目75単位以上、専門科目82単位以上、かつ合計167単位以上修得すること。
(専門科目の選択科目のうち22単位は必須、一般科目又は専門科目の選択科目のうち10単位以上 167-75-82)は自由に選択可能

(出典 学校要覧 17頁)

資料 5-1-②-6

一般科目 専任教員

| 職名 | 氏名 | 担当科目 |
|-----|--|---|
| 教授 | 教育学修士 宮本 克之*
Miyamoto Kazuyuki | 国語、
ビジネスコミュニケーション* |
| | 修士 (英語学) 森川 寿*
MORIKAWA Hisashi | 英語総合、英会話、地域と文化、
英語B、時事英語* |
| | 修士 (法学) 後藤多栄子*
GOTOHI Taeiko | 英語、英作文、英語B、知的財産権、
テクニカルライティング*、技術者倫理* |
| | 博士 (歴史学) 重松 正史*
SHIGEMATSU Masahiro | 日本史、環境と社会、政治・経済、
地域と文化、社会と人間、
現代アジア論* |
| | 文学修士 太古 隆治
TAIKO Ryuji | 英語総合、英文法、第2外国語B、英語A |
| | 文学修士 和田 茂俊*
WADA Shigetoshi | 国語、
ビジネスコミュニケーション* |
| 准教授 | 博士 (文学) 赤崎 雄一*
AKASAKI Yuichi | 世界史、現代の世界、地域と文化、
現代アジア論* |
| | 博士 (理学) 秋山 聡*
AKIYAMA Satoru | 数学、応用数学、
線形代数* |
| | 修士 (学術) 芥河 晋
AIBUJOGAWA Susumu | 保健・体育 |
| | 理学修士 石代谷 昇
ISHIROYA Noboru | 数学、数学特論 |
| | 修士 (学術) 桑原 伸弘
KAWABARA Nobuhiro | 保健・体育 |
| | 中出 明人
NAKADE Akito | 保健・体育 |
| | 博士 (工学) 平岡 和幸*
HIRAOKA Kazuyuki | 数学 |
| | 文学修士 平山 規義
HIRAYAMA Noriyoshi | 英語、英語総合、第2外国語B |
| | 文学修士 森岡 隆*
MORIOKA Takashi | 英語総合、英作文、英語A、実用英会話* |
| | 文学修士 吉田 芳弘
YOSHIDA Yoshihiro | 英語総合、地域と文化、第2外国語A |

非常勤講師

| 所属 | 氏名 | 担当科目 |
|-----------------|-----------|-----------|
| 元・公立高校 | 市瀬 賢二 | 環境と社会、倫理 |
| 元・公立高校 | 井上 卓 | 英文法 |
| 元・公立高校 | 妹倉 修治 | 物理 |
| 大阪市立大学大学院生 | 小笠原愛子 | 国語 |
| 元・公立高校 | 小田 憲 | 政治・経済 |
| 元・公立高校 | 北澤 正憲 | 国語 |
| 元・和歌山高専
工学博士 | 高木 浩一 | 化学 |
| | 陳 梅聡 | 第2外国語C |
| 元・和歌高専 | 富上健次郎 | 化学 |
| 元・公立高校 | 平松 尊弘 | 生物 |
| 元・公立高校 | 増元 貞夫 | 化学 |
| | 孫本 真次 | 保健・体育 |
| 元・公立高校 | 遼明 照 | 日本史、政治・経済 |
| 元・公立高校 | 濱澤 由美 | 音楽 |
| | 山本 Tracey | 英会話 |
| | 李 鵬 | 第2外国語C |

*は専攻科担当教員(専攻科科目)

一般科目教育課程

平成21年度以降入学

| 授業科目 | 単位数 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
|---|-------|----|----|----|----|----|
| 必修科目 | | | | | | |
| 国語 | 9 | 3 | 3 | 3 | | |
| 世界史 | 2 | 2 | | | | |
| 日本史 | 2 | | 2 | | | |
| 環境と社会 | 1 | 1 | | | | |
| 現代の世界 | 1 | | 1 | | | |
| 政治・経済 | 2 | | | 2 | | |
| 倫理 | 1 | | | 1 | | |
| 日本経済論 | 1 | | | | 1 | |
| 知能機械工学科・物質工学科・環境都市工学科 必修科目 | | | | | | |
| 数学Ⅰα | 3 | 3 | | | | |
| 数学Ⅰβ | 3 | 3 | | | | |
| 数学Ⅱα | 4 | | 4 | | | |
| 数学Ⅱβ | 2 | | 2 | | | |
| 数学Ⅲα | 3 | | | 3 | | |
| 数学Ⅲβ | 2 | | | 2 | | |
| 電気情報工学科 必修科目 | | | | | | |
| 基礎数学 | 6 | 6 | | | | |
| 数学 | 11 | | 6 | 5 | | |
| 物理 | 5 | 2 | 3 | | | |
| 保健・体育 | 10 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 音楽 | 1 | 1 | | | | |
| 英語 | 2 | | | | 2 | |
| 英語総合 | 10 | 4 | 4 | 2 | | |
| 英文法 | 2 | 2 | | | | |
| 英会話 | 1 | | 1 | | | |
| 英作文 | 2 | | | 2 | | |
| 知能機械工学科・電気情報工学科・環境都市工学科 必修科目 | | | | | | |
| 化学Ⅰ | 3 | 3 | | | | |
| 化学Ⅱ | 2 | | 2 | | | |
| 生物 | 1 | | 1 | | | |
| 物質工学科 必修科目 | | | | | | |
| 化学Ⅰ | 3 | 3 | | | | |
| 化学Ⅱ | 2 | | 2 | | | |
| 生物 | 1 | | 1 | | | |
| 必須科目小計 | | | | | | |
| 知能機械工学科 | 75 | 26 | 25 | 17 | 5 | 2 |
| 電気情報工学科 | | | | | | |
| 環境都市工学科 | | | | | | |
| 物質工学科 | 75 | 29 | 22 | 17 | 5 | 2 |
| 選択科目 | | | | | | |
| 地域と文化Ⅰ | 1 | | | | | 1 |
| 地域と文化Ⅱ | 1 | | | | | 1 |
| 地域と文化Ⅲ | 1 | | | | | 1 |
| 地域と文化Ⅳ | 1 | | | | | 1 |
| 第2外国語AⅠ | 3 | | | | 3 | |
| 第2外国語BⅠ | 3 | | | | 3 | |
| 第2外国語CⅠ | 3 | | | | 3 | |
| 英語A | 2 | | | | | 2 |
| 英語B | 2 | | | | | 2 |
| 第2外国語AⅡ | 2 | | | | | 2 |
| 第2外国語BⅡ | 2 | | | | | 2 |
| 第2外国語CⅡ | 2 | | | | | 2 |
| 知的財産権 | 1 | | | | | 1 |
| 電気情報工学科のみ開設 | | | | | | |
| 数学特論Ⅰ | 1 | | | | 1 | |
| 数学特論Ⅱ | 1 | | | | 1 | |
| 選択科目小計 | | | | | | |
| 知能機械工学科 | 24 | | | | 9 | 15 |
| 物質工学科 | | | | | | |
| 環境都市工学科 | | | | | | |
| 電気情報工学科 | 26 | | | | 10 | 16 |
| 開設単位数 | | | | | | |
| 知能機械工学科 | 99 | 26 | 25 | 17 | 14 | 17 |
| 環境都市工学科 | | 29 | 22 | | | |
| 物質工学科 | | | | | | |
| 電気情報工学科 | 101 | 26 | 25 | 17 | 16 | 17 |
| 修得単位数 | | | | | | |
| 知能機械工学科 | 75以上 | 26 | 25 | 17 | | 注 |
| 電気情報工学科 | | | | | | |
| 環境都市工学科 | | | | | | |
| 物質工学科 | | 29 | 22 | | | |
| 注 一般科目75単位以上、専門科目82単位以上、かつ合計167単位以上修得すること。 | | | | | | |
| 特別活動 | 単位時間数 | 1年 | 2年 | 3年 | | |
| | 90 | 30 | 30 | 30 | | |

(分析結果とその根拠理由)

学科の改称や授業内容の再編成，他の教育機関との連携や単位互換をとおして，学生の多様なニーズや学術の発展の動向に対応している．また，外部の学識経験者や企業経営者からの意見を受け，社会からの要請等に配慮した内容へ順応するべく対応している．教養科目や専門科目においても多様な選択科目を開講し学生たちに提供している．英語の教科や知的財産の教育等をとおしても，学術や社会や学生のニーズにあう教育内容や編成を行っている．

観点 5-2-①： 教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか．

(観点に係る状況)

教育目標の下に，座学，演習，実験そして実習がバランスよく配置されている．そしてそれぞれの教授内容，実験内容に応じガイドラインになるような指導が施されている．(資料 5-1-①-2～3 参照) (資料 5-2-①-1～2)

FD活動の一環として，例年，教員同士の授業参観を積極的におこなっている．各授業に2名の教員が参観し，良い点や改善点を指摘し，授業をおこなった教員はそれらの指摘点を受けて，どのように対応するかの改善策を報告するしくみをとっている．また，数学や物理は工学基礎教育の土台であり，ワーキング・グループ (WG) をつくって学生たちの問題点や改善点や方法策について話し合いをおこない教育に反映させている．

教育に対する取り組みをバックアップするものとして，授業に対する教員の新しい取組みのために，平成17年度より教育奨励研究費の名称のもと教育研究助成をおこない，教育への貢献が顕著な教員に対し，教育表彰をおこなっている．

各教室にはプロジェクターやスクリーンを設置し，PCやDVDなどの器機を使用した授業に対応できるようにになっている．

資料 5-2-①-1

2. 授業科目の系統

物質工学科のカリキュラムは，物質についての幅広い知識と専門的な実験技術を修得できるように構成されています。低学年から専門科目を効果的に配置し，3学年までに基礎的の科目を履修します。4学年からは物質工学コースと生物工学コースに分かれて，さらに高度な専門科目を履修するように構成されています。

授業科目は，以下の5つの系統および卒業研究に大別することができ，それぞれの系統分野についての効果的な学習ができるように科目が配置されています。

- 1) 数理工学系科目では，数理工学の各分野から，物質工学にとって重要な知識を学習します。
- 2) 化学系科目では，化学の分野での重要な知識を学習します。
- 3) 生物系科目では，生物や生物工学の分野での重要な知識を学習します。
- 4) 化学生物工学系科目では，化学，化学工学，生物工学および融合分野での重要な知識を学びます。
- 5) 実験系科目では，物質工学における重要な実験技術と知識について学び，知識を実践的に応用できる能力を身につけます。
- 6) 卒業研究では，各科目で修得した知識と技術に基づき，研究開発能力を持つ実践的技術者，研究者となるための研究を行います。各自に与えられる研究テーマに対して，自らが調査して実験を行い，最後に本校での卒業論文としてまとめます。

3. 専門科目系統図

上で述べた学習科目を表で分類すると，次のようになります。

(出典 シラバス 2 頁)

資料 5-2-①-2

2 C物質基礎実験 I

1年生で行なった物質基礎実験をもとに化学や生物に関する基本的実験を行なう。この実験では3学年以降での専門的実験操作に必要な基礎的学力を身につける。また、実験のレポート作成を通じて実験内容や結果をまとめる能力を養う。さらに、演習や口頭試問等を行い各実験内容に対する理解を深める。

実験ではクラスを3グループに分けて行なう。各グループが分野別実験室をローテーションしながら1年間をかけて全テーマを実施する。

分野別の主な実験内容と学習事項

第1週～10週（生物化学関連）

- ・植物の細胞を光学顕微鏡で観察し、オルガネラの形態、膜の性質、染色体の分裂状態などを知る。
- ・動物の細胞を光学顕微鏡で観察し、それらの形態、膜の性質、染色体の分裂状態などを知る。
- ・浸透圧による細胞状態の変化を観察し、細胞壁と細胞膜の物質透過性を確認する。
- ・動物組織を観察し、各組織の構造を理解する。
- ・代表的なカビ、酵母、細菌を用いて、微生物の無菌操作および観察を行う。

第11週～20週（有機・無機化学関連）

【無機化学】

水の状態変化と温度の関係、ヨウ素やナフタレンの昇華の実験を通じて物質の状態（固体、液体、気体＝3態）と熱の出入りの関係を理解する。また、溶解度の測定や分別結晶の実験から溶解の仕組みと溶解度についての理解を深める。さらに、特殊な溶液状態であるコロイド溶液の性質についての理解を深める。

【有機化学】

有機化合物の基礎要素（元素構成、官能基、立体構造）を理解するため、分子模型および簡単な反応による身近な有機化合物について学習する。有機化合物の性質を理解するにはその立体構造を把握しなければならない。メタン・エタン・エチレン・シクロヘキサンなど基本的な有機化合物の分子模型を組み立て観察することで立体化学の基礎を身につける。また、身近な有機化合物として、アルコールのエステル化反応および石鹼の化学、高分子化合物であるナイロンの合成、サリチル酸を原料とした医薬品成分の合成を行い、生活に利用されている有機化合物を知るとともに官能基の性質についても理解を深める。

第21週～30週（分析化学関連）

溶液の濃度決定としてよく用いられる「滴定」について原理と操作を学習する。滴定（容量分析）は化学実験の中で最も基本的かつ重要な実験操作の一つであり、操作が比較的簡易で応用範囲が広い。また、習熟すれば十分な精度での分析が可能である。機器を用いる分析の基礎操作としても容量分析操作が重要になる場合が多い。この部分で学び取るべき事項は以下の通りである。

- ・化学量論計算、濃度計算
- ・測容器具の取り扱い方
- ・酸塩基中和滴定とpH測定
- ・キレート形成反応と金属指示薬
- ・キレート滴定

（出典 シラバス 21頁）

（分析結果とその根拠理由）

FD活動や授業改善のためのWG活動、また、教育奨励助成や表彰をとおして、座学や実験などのそれぞれの授業形態にあわせた設備を配置するように工夫され、教育目標に沿った、バランスのとれた適切な内容である。

観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

各学科はシラバスを作成し、一般科目そして専門科目の必修科目と選択科目についてすべてのシラバスが用意されている。内容は、科目名、担当教員名、学科、単位数、授業概要、到達目標、評価方法、教科書、毎週の教授内容、そしてJABEEとの関連などである。加えて、学生への学習指導として、さらに留意を要するポイントなどが説明されており、学生の予習そして復習時の手助けとなっている。本校のホームページにもアップロードされているので、現在の履修学生のみならず、保護者の方々や、これから本校を受験する予定の中学生も参照することが出来る。(資料 5-2-①-2 参照) (資料 5-2-②-1) 教員はシラバスにもとづき授業をおこなうが、中間そして期末の区切り目に、授業進捗報告書を作成しアップロードする仕組みになっている。ほかの教員も他の授業の進捗状況などを参照することが可能であり、同じクラスを担当している場合や担任にとりとてもよい参考資料になっている。(資料 5-2-②-2：授業進捗報告書)

資料 5-2-②-1

| 科 目 | 必・選 | 担 当 教 員 | 学 年 ・ 学 科 | 単 元 数 | 授業形態 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|----------------|-------|----------|-----------|---------|-------|-------------------------|-----|-------|------------------------------------|-----|-------|--------------------|-----|-------|--------------------------------------|-----|-------|---------------------------|-------|-------|--------------------|-----|-------|-------------------|------------|-------|-------------------|-----|-------|-------------------|-----|--------|-----|-----|--------|------------|-----|--------|-----------|-----|--------|---------|-----|--------|------------|-----|--------|-----|-----|--------|------------------------|-----|--------|--------------------|-----|--------|----------|-----|--------|-----------|-----|--------|-----------|-----|--------|--------|-----|--------|------------|-----|--------|----------------|-----|--------|------------|-----|--------|---------------|-----|--------|----------|-----|--------|--------------------|-----|--------|--|-----|--------|--|-----|--------|-----|-----|
| 物質基礎実験 I
(Fundamental Experiment
for Industrial Chemistry) | 必 | 米光, 野村, 河地,
奥野, 岩本, 森田,
西本 | 2 年 生
物質工学科 | 3 | 講義
実習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 化学および生物に関する基礎実験を通じて基本的な実験操作を習得するとともにそのための実験内容について学習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 物質工学に関する基本的実験操作を理解し、行なうことができる。
実験内容から科学レポートを作成することができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | レポート 50%, 実験態度 (実験ノート等を含む) 50% として評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書等 | 教科書: プリント
参考書: (総) 実験を安全に行なうために (化学同人) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 内 容 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>単元・教育目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>第 1 週</td><td>諸注意、器具、顕微鏡の取り扱い、観察方法の説明</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 2 週</td><td>植物細胞オルガネラの観察 (ミトコンドリア、葉緑体、核、京珠質運動)</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 3 週</td><td>植物細胞染色体の観察 (体細胞分裂)</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 4 週</td><td>植物細胞原形質分離の観察 (浸透圧による細胞壁および細胞膜の性質を考察)</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 5 週</td><td>動物細胞の観察 (浸透圧による半透性細胞膜の確認)</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 6 週</td><td>動物組織の観察 (横紋筋、軟骨組織)</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 7 週</td><td>微生物培養と観察 (カビ 3 種)</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 8 週</td><td>微生物培養と観察 (酵母 3 種)</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 9 週</td><td>微生物培養と観察 (細菌 4 種)</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 10 週</td><td>まとめ</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 11 週</td><td>諸注意、水の状態変化</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 12 週</td><td>昇華および融点測定</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 13 週</td><td>コロイドの性質</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 14 週</td><td>固体の溶解度と再結晶</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 15 週</td><td>まとめ</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 16 週</td><td>諸注意、分子模型による立体構造の把握 (1)</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 17 週</td><td>分子模型による立体構造の把握 (2)</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 18 週</td><td>アルコールの反応</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 19 週</td><td>高分子化合物の合成</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 20 週</td><td>医薬品の合成と検出</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 21 週</td><td>諸注意、説明</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 22 週</td><td>潤滑ガラス器具の検定</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 23 週</td><td>NaOH 溶液調製と濃度決定</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 24 週</td><td>pH 滴定曲線の測定</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 25 週</td><td>炭酸のカルシウム濃度の測定</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 26 週</td><td>混合物の濃度決定</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 27 週</td><td>キレート形成反応と金属指示薬の色変化</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 28 週</td><td>キレート滴定による Ca^{2+} および Mg^{2+} 濃度測定 (1)</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 29 週</td><td>キレート滴定による Ca^{2+} および Mg^{2+} 濃度測定 (2)</td><td>C-1</td></tr> <tr><td>第 30 週</td><td>まとめ</td><td>C-1</td></tr> </tbody> </table> | | | | | 内 容 | 単元・教育目標 | 第 1 週 | 諸注意、器具、顕微鏡の取り扱い、観察方法の説明 | C-1 | 第 2 週 | 植物細胞オルガネラの観察 (ミトコンドリア、葉緑体、核、京珠質運動) | C-1 | 第 3 週 | 植物細胞染色体の観察 (体細胞分裂) | C-1 | 第 4 週 | 植物細胞原形質分離の観察 (浸透圧による細胞壁および細胞膜の性質を考察) | C-1 | 第 5 週 | 動物細胞の観察 (浸透圧による半透性細胞膜の確認) | C-1 | 第 6 週 | 動物組織の観察 (横紋筋、軟骨組織) | C-1 | 第 7 週 | 微生物培養と観察 (カビ 3 種) | C-1 | 第 8 週 | 微生物培養と観察 (酵母 3 種) | C-1 | 第 9 週 | 微生物培養と観察 (細菌 4 種) | C-1 | 第 10 週 | まとめ | C-1 | 第 11 週 | 諸注意、水の状態変化 | C-1 | 第 12 週 | 昇華および融点測定 | C-1 | 第 13 週 | コロイドの性質 | C-1 | 第 14 週 | 固体の溶解度と再結晶 | C-1 | 第 15 週 | まとめ | C-1 | 第 16 週 | 諸注意、分子模型による立体構造の把握 (1) | C-1 | 第 17 週 | 分子模型による立体構造の把握 (2) | C-1 | 第 18 週 | アルコールの反応 | C-1 | 第 19 週 | 高分子化合物の合成 | C-1 | 第 20 週 | 医薬品の合成と検出 | C-1 | 第 21 週 | 諸注意、説明 | C-1 | 第 22 週 | 潤滑ガラス器具の検定 | C-1 | 第 23 週 | NaOH 溶液調製と濃度決定 | C-1 | 第 24 週 | pH 滴定曲線の測定 | C-1 | 第 25 週 | 炭酸のカルシウム濃度の測定 | C-1 | 第 26 週 | 混合物の濃度決定 | C-1 | 第 27 週 | キレート形成反応と金属指示薬の色変化 | C-1 | 第 28 週 | キレート滴定による Ca^{2+} および Mg^{2+} 濃度測定 (1) | C-1 | 第 29 週 | キレート滴定による Ca^{2+} および Mg^{2+} 濃度測定 (2) | C-1 | 第 30 週 | まとめ | C-1 |
| 内 容 | 単元・教育目標 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 1 週 | 諸注意、器具、顕微鏡の取り扱い、観察方法の説明 | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 週 | 植物細胞オルガネラの観察 (ミトコンドリア、葉緑体、核、京珠質運動) | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 3 週 | 植物細胞染色体の観察 (体細胞分裂) | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 4 週 | 植物細胞原形質分離の観察 (浸透圧による細胞壁および細胞膜の性質を考察) | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 5 週 | 動物細胞の観察 (浸透圧による半透性細胞膜の確認) | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 6 週 | 動物組織の観察 (横紋筋、軟骨組織) | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 7 週 | 微生物培養と観察 (カビ 3 種) | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 8 週 | 微生物培養と観察 (酵母 3 種) | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 9 週 | 微生物培養と観察 (細菌 4 種) | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 10 週 | まとめ | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 11 週 | 諸注意、水の状態変化 | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 12 週 | 昇華および融点測定 | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 13 週 | コロイドの性質 | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 14 週 | 固体の溶解度と再結晶 | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 15 週 | まとめ | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 16 週 | 諸注意、分子模型による立体構造の把握 (1) | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 17 週 | 分子模型による立体構造の把握 (2) | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 18 週 | アルコールの反応 | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 19 週 | 高分子化合物の合成 | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 20 週 | 医薬品の合成と検出 | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 21 週 | 諸注意、説明 | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 22 週 | 潤滑ガラス器具の検定 | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 23 週 | NaOH 溶液調製と濃度決定 | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 24 週 | pH 滴定曲線の測定 | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 25 週 | 炭酸のカルシウム濃度の測定 | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 26 週 | 混合物の濃度決定 | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 27 週 | キレート形成反応と金属指示薬の色変化 | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 28 週 | キレート滴定による Ca^{2+} および Mg^{2+} 濃度測定 (1) | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 29 週 | キレート滴定による Ca^{2+} および Mg^{2+} 濃度測定 (2) | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 30 週 | まとめ | C-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (特記事項) | <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="11">JABEEとの関連</th> </tr> <tr> <th>JABEE</th> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d1</th> <th>d2+d3</th> <th>e</th> <th>f</th> <th>g</th> <th>h</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本校の学習・教育目標</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>C-1</td> <td>C-1</td> <td>C-2</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>D</td> <td>C-3</td> <td>B</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | JABEEとの関連 | | | | | | | | | | | JABEE | a | b | c | d1 | d2+d3 | e | f | g | h | | 本校の学習・教育目標 | A | A | C-1 | C-1 | C-2 | B | B | D | C-3 | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| JABEEとの関連 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| JABEE | a | b | c | d1 | d2+d3 | e | f | g | h | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 本校の学習・教育目標 | A | A | C-1 | C-1 | C-2 | B | B | D | C-3 | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。
 2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価満点を均等とします。(例) 年4回定期試験の平均評価が 2.5% (4/16) の場合、25% (1/4) の割合で評価する。

(出典 シラバス 20 頁)

資料 5-2-②-2

| | | |
|------|------|------|
| 学級担任 | 教務委員 | 教務主事 |
| | | |

授業進捗報告書

学科(専攻) 機械 電気情報(電気) 〇物質 環境都市
 一般科目 メカトロニクス エコシステム
 提出 24年2月16日
 氏名 市瀬 賢二

第 9 週～第 15 週の進捗状況を下記の通り報告します。

| クラス | 1A | 科目名 | 環境と社会 |
|-----|-------|------------------------------|---|
| 週 | 月日 | シラバス(予定) | 実績 |
| 9 | 12/15 | 環境破壊と今後の取り組み 1 | メダカ産卵への警鐘。オゾン層の破壊と、その対応(オゾンホール・フロンガスも) |
| 10 | 1/12 | 環境破壊と今後の取り組み 2 | 美しい砂浜の減少と赤ウミガメの減少を考察。琵琶湖の異変と、新しい取り組み。 |
| 11 | 1/19 | 環境破壊と今後の取り組み 3 | 経済的な有機スズを含有した船舶に使用される新塗料が開発された。ただその有機スズが海水に溶け貝類に生殖異常を起こしている。バイ貝・ワニ等の生殖異常等環境ホルモン(内分泌攪乱物質)作用について。 |
| 12 | 1/26 | 限りある資源 化石燃料からクリーンエネルギーへ | 石油の異常な高騰を契機として、環境を意識した多様なクリーンエネルギーへの挑戦が行われている。又原発問題と関連電力。 |
| 13 | 2/2 | 「ダム」に対する価値観の変化 | 脱ダム宣言から、ダム不要論が高まり財政悪化・公共事業の削減と相まって、これまでのダムに対する価値観が大きく変わってきている。メリット・デメリット考察。 |
| 14 | 2/9 | 戦争は最大の環境破壊 パラオ共和国(アンガウル島の教訓) | 戦後 60 年の今、アンガウル島に奇跡が起こった(オカガニの存在が熱帯雨林を回復) |
| 15 | 2/16 | 漁師が上流に豊かな森を作る | 白浜の漁師達だけではない。湧流域で植樹、栄養豊富な水を求めてカキの海を守る広島取り組みもある。 |
| 備考 | | | |

注：期末試験までの7週分を記入の上、クラス担任に提出してください。
 クラス担任の方は内容をチェックの上、各科(1年生は一般科目)教務委員に回してください。
 教務委員の方は当該学科(一般科目は1年生)の提出状況をチェックの上、教務主事までお願いします。

(出典 授業進捗報告書)

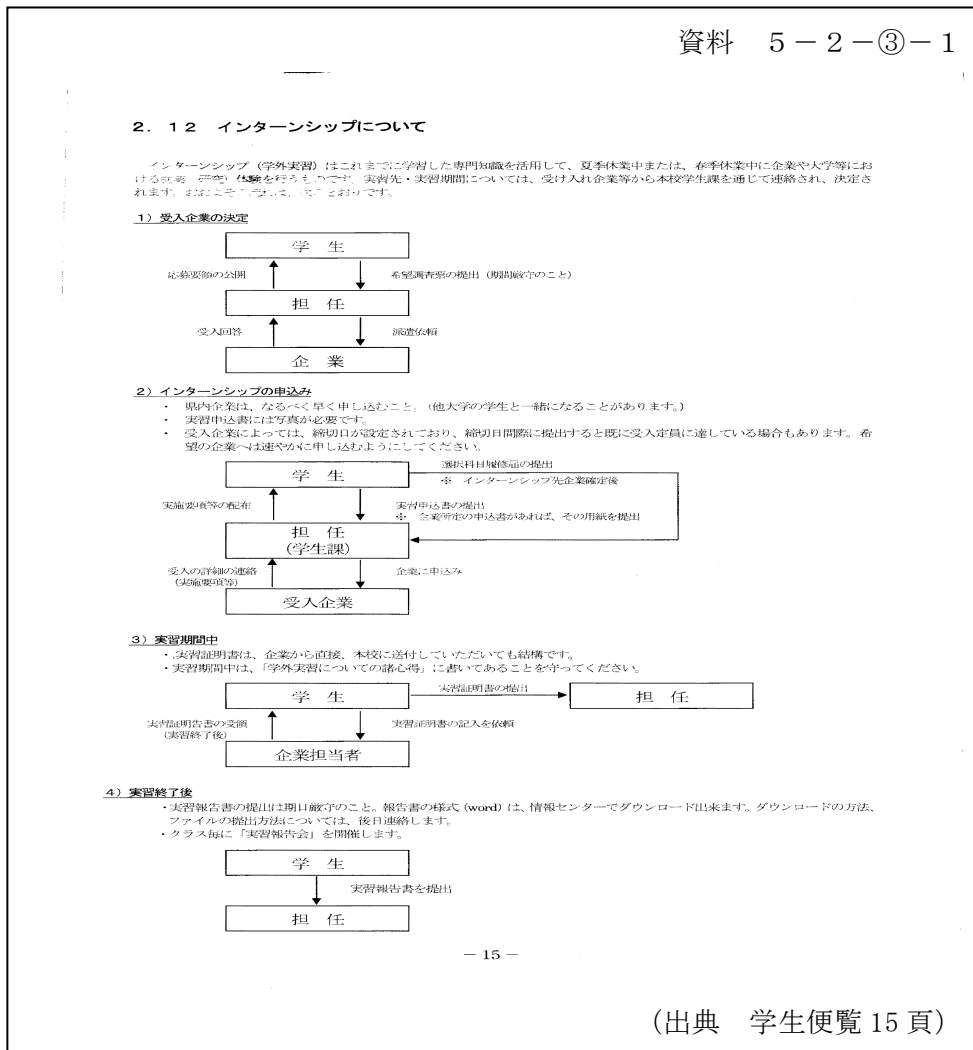
(分析結果とその根拠理由)

教育目標に基づいた課程趣旨に沿ったシラバスが適正に作成されている。予習や復習に役立つ勉強のポイントが簡潔に記述され、達成目標や評価方法が明確に示されているので、教授する教員側そして授業を履修する学生にとっても大変わかりやすく勉強の手助けとなる内容である。十分よく準備させた内容でありかつ適正に活用されている。

観点 5-2-③： 創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。

(観点に係る状況)

創造性をはぐくむ工夫としては、平成11年から機械工学科の必須科目の工作実習の中で創造実習教育を行っている。知能機械工学科と学科名が変更になった現在も、3年生の必修科目の工作実習の中で、学生にロボットを作成させ競技をおこなわせている。競争をさせて、順位を競わせることにより、各班は、勝つために創意工夫をこらし、創造性をはぐくむ効果を生じさせている。本校は昭和44年にインターンシップを始めて以来、第4学年のほぼ全員が参加している。インターンシップの期間は企業によるものの、単位認定の要件である32時間から長いもので2週間の場合もある。参加者はインターンシップ終了後にインターンシップ報告書を提出すると共に、学科毎に報告会を開催している。インターンシップが教育に十分活用されている状況である。(資料 5-2-③-1)



(分析結果とその根拠理由)

創造性を育む実習教育が積極的におこなわれている。また、学生のほぼ全員がインターンシップに参加している。

観点 5-3-①： 教育課程の編成において、一般教育の充実や特別活動の実施等、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また、教育の目的に照らして、課外活動等において、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

教育課程において、幅広い教養、総合的な判断力、そして豊かな人間性をはぐくむために、一般科目による一般教養教育の充実が図られている。必須科目である物理、国語、数学、英語、社会、化学、体育、音楽のみならず、日本や世界の文化や歴史や言語そして経済や倫理や法律と幅広い教養を教授している。(資料 5-3-①-1~2)

水泳、柔道、弓道、バレー、ボクシングなどの体育系クラブ、そして吹奏楽、ロボコン、総合美術などの文科系のクラブの活動を行っている。学生会主催による高専祭や体育大会そして、寮生会活動等を通して、学生たちは、協力しあい、創意工夫を凝らして、リーダーシップを培う成果を生み出している。ボランティアサークルのアメーバの活動もボランティア活動の重要性を学ぶよい機会となっている。このように人間性をはぐくむ十分な教育的工夫や仕組みが整っている。(資料 5-3-①-3)

資料 5-3-①-1

| 一般科目 | | 第1学年 | 必修科目 | 数学Ⅰβ
物理
化学Ⅰ
化学Ⅱ
生物
保健・体育
音楽
英語総合
英文法 | |
|------------------|----------------------|------|------|--|-------------|
| | | 第2学年 | 必修科目 | 国語
日本史
現代の世界
数学Ⅱα
数学Ⅱβ
物理
保健・体育
英語総合
英会話 | |
| | | 第3学年 | 必修科目 | 国語
政治・経済
倫理
数学Ⅲα
数学Ⅲβ
保健・体育
英語総合
英作文 | |
| | | 第4学年 | 必修科目 | 日本経済論
保健・体育
英語 | |
| | | | 選択科目 | 第2外国語AⅠ
第2外国語BⅠ
第2外国語CⅠ | |
| | | 第5学年 | 必修科目 | 保健・体育
地域と文化Ⅰ
地域と文化Ⅱ
地域と文化Ⅲ
地域と文化Ⅳ | |
| | | | 選択科目 | 英語A
英語B
第2外国語AⅡ
第2外国語BⅡ
第2外国語CⅡ
知的財産権 | |
| 専門科目
(外国人留学生) | 一般科目【教育課程表】(第3学年編入生) | | | | |
| | 第3学年 | | | 必修科目 | 日本語
日本事情 |

(出典 シラバス目次)

資料 5-3-①-2



(出典 学校要覧 19 頁)

資料 5-3-①-3

クラブ活動

本校学生はクラブ活動を通して、高専体育大会、高専ロボコン大会、県高校体育連盟、県高校野球連盟等の競技大会で活躍しています。また、演奏会や公開講座などによって地域の文化向上にも貢献しています。

体育系クラブ

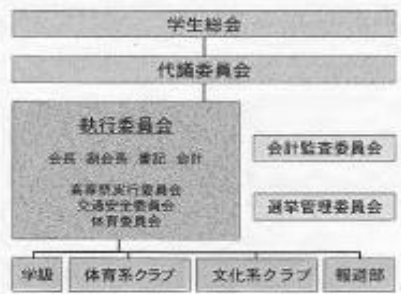
陸上競技部、種式野球部、サッカー部、ラグビー部、テニス部(硬式)、ソフトテニス部、水泳部、バレーボール部、バスケットボール部、バドミントン部、卓球部、ハンドボール部、ボクシング部、柔道部、剣道部、弓道部、空手道部、少林寺拳法部、フットサル同好会

文化系クラブ

ロボコン部、コンピュータ部、自動車部、サイエンス同好会、電気技術研究会、吹奏楽部、音楽同好会、軽音楽部、写真部、総合美術同好会、国際文化研究会、ボランティアサークル・アモーバ

学生会

本会は、学生の自発的な活動を通してその人間形成を助長することを目的に学生会員で構成されています。学生会の活動中心である執行委員会、高専祭、体育大会などを主催するほか、近畿地区高専との交流会等を通じ、自主活動の促進に努めています。



(出典 学校要覧 33 頁)

(分析結果とその根拠理由)

一般教育の核であるさまざまな一般科目の授業が適正に提供されている。課外活動である部活に学生たちは活発に参加し、各教員の指導そして外部のコーチの指導とともに、文科系そして体育系の部や同好会の活動、そして学生会や寮生会活動などをとおして、人間関係を学び、学生たちの豊かな人間性の涵養が図られている。

観点 5-4-①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定に関しては、「学業成績評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則」(資料 5-1-①-1 参照)にて基準が定められている。学外での単位認定に関しては「学外実習単位並びに他の高等専門学校及び高等専門学校以外の教育施設等で修得した単位等の認定に関する取扱要項により認定された単位について」に定められている。(資料 5-4-①-1)

資料 5-4-①-1

II. 授業に関する規則

(卒業認定)

第 12 条 第 5 学年の課程を終了し、一般科目について 7 単位の以上、専門科目について 8.2 単位の以上、かつ合計 16.7 単位の以上を修得した者として、第 5 学年の課程を修了したものと見て、校長が卒業を認定する。
(第 5 学年の修了認定)

第 13 条 第 5 学年において、第 9 条第 2 項第 1 号を満たさず、前学年成績 60 点未満の科目の合計が原則として 2 科目以内かつ 6 単位の以上であるとき、又は第 9 条第 2 項第 2 号を満たさないときには、成績判定会で審議の上、第 5 学年の課程の修了を延期させることとする。

2 前項により修了を延期された者は、第 14 条に定めるところの特別指導を受けなければならない。

3 卒業特別指導を受けることになった再評価の結果合格した場合は、当該科目を修得したものと認定する。この際の評価点は 60 点又はその半額である。修得の対象となった科目の再評価によって合格した場合には、校長が卒業を認定する。

4 卒業特別指導を受ける者が再評価の結果合格しなかった場合は、留級に留める。

第 5 章 特別指導
(特別指導)

第 14 条 特別指導(卒業特別指導、留級特別指導、卒業特別指導及び第 10 条第 3 項に定める指導)をいう。以下同じ。)は、留級した科目のうち未修得となった科目について、当該科目の担当教員(以下「特別指導教員」という。)による特別指導を実施する。

2 特別指導の方法等については、別に定める。
(特別指導の実施時期)

第 15 条 特別指導は、次の各号の時期に行う。

一 留級特別指導は、前学期成績判定会終了後、後学期成績判定会までに行う。

二 留級特別指導は、後学期成績判定会終了後に行う。

三 第 10 条第 3 項に定める指導及び卒業特別指導は、後学期成績判定会終了後、年度末までに行う。

特別指導による単位の認定

第 16 条 特別指導教員は、指導終了時に結果の評価を行い、合格と判断した場合は、当該科目の単位の修得を認定する。この場合、当該科目の成績は 60 点とする。

第 6 章 編入学及び外国人留学生の取扱い
(編入学)

第 17 条 校長は、高等学校から第 4 学年に編入した者については、当該編入学科の本校第 1 学年から第 3 学年までの課程を修了したものとみなす。
(外国人留学生)

第 18 条 校長は、外国人留学生で本校に入学した者については、入学した学年までの本校当該学科の課程を修了したものとみなす。

第 7 章 学業成績の取扱い
(成績の取扱い)

第 19 条 各授業科目の担当教員は、学期末試験の終了後、速やかに成績を評価し、前学期は学期成績、後学期は学年成績を評価表に記入し教務係へ提出する。特別の場合には、前学期の成績に限り、一時「保留」とすることができる。
(成績通知表)

第 20 条 成績通知表に記入する評価は、卒業研究以外は 1.0 から 5.0 までの範囲とし、前学期成績と学年成績を保護者に通知する。
(成績証明書)

第 21 条 校外に対して成績証明書を発行する場合は、俊、良、可又は不可の用語を用いる。成績標準の区分は、別に定める。

第 8 章 退学
(退学)

第 22 条 同一学年において、休学又は外国留学した場合を除き、2 回卒業認定を受けた者は、学期第 16 条第 2 項により退学させる。ただし、成績判定会で審議の上、その学修の改善を認めて、卒業にしようとするものが適切と認められる場合は、期間の延長を認めることがある。

5. 表

| 平成 19 年度以降入学 | | | | | |
|---------------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 学科名 | 1 学年 | 2 学年 | 3 学年 | 4 学年 | 5 学年 |
| 機 械 工 学 科 | 33 単位 | 36 単位 | 37 単位 | 37 単位 | 63 単位以上 |
| 電 気 情 報 工 学 科 | 32 単位 | 34 単位 | 37 単位 | 37 単位 | 66 単位以上 |
| 造 材 工 学 科 | 33 単位 | 34 単位 | 37 単位 | 37 単位 | 70 単位以上 |
| 環境都市工学科 | 30 単位 | 34 単位 | 37 単位 | 37 単位 | 68 単位以上 |

| 平成 20 年度以降入学 | | | | | |
|---------------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 学科名 | 1 学年 | 2 学年 | 3 学年 | 4 学年 | 5 学年 |
| 電 気 情 報 工 学 科 | 32 単位 | 36 単位 | 35 単位 | 37 単位 | 64 単位以上 |

| 平成 21 年度以降入学 | | | | | |
|--------------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 学科名 | 1 学年 | 2 学年 | 3 学年 | 4 学年 | 5 学年 |
| 機 械 工 学 科 | 33 単位 | 36 単位 | 36 単位 | 37 単位 | 62 単位以上 |

附 則
(省略)

(出典 学生便覧 43 頁)

シラバスには、成績評価について、例えば、定期試験：60%、課題等：40%などのように分かりやすく記載されており、学生が参考にしている。また、1回目の授業では、教員はシラバスを示し

ながら、当該授業の目的や達成する目標成績評価そして、成績評価について学生に周知をしている。
(資料 5-2-②-1 参照)

成績評価と進級、卒業認定は教務主事、学生主事、寮務主事、学科主任、各科目責任者で構成されている成績判定会で前後期末に審議している。また学外で取得した単位認定は教務主事と主事補や各学科委員で構成された教務委員会で検討して決定を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定に関する規定は、学生便覧やシラバスに掲載し、学生への周知を徹底しているし、規定に基づいた実施が適正に行われている。

＜専攻科課程＞

観点 5-5-①： 教育の目的に照らして、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況)

専攻科のカリキュラムは本科のカリキュラムとの整合性を考慮して配置している。とりわけ、学生が自ら自分の技術や学術の幅を広げる事が出来るように工夫している。一般科目のみならず、両専攻からも履修が可能なように専門共通科目を設置している。また、カリキュラムの見直しを適宜行い、常に時代に則した技術や学術を学べるような体制にしている。本科で学んだ研究への興味を花開かせるようなカリキュラムである。本科の4年生から専攻科修了までの4年間は「地域環境デザイン工学」教育プログラムに基づいた教育が行われている。JABEEの審査を通った国際水準を満たしたカリキュラム構成である(資料 5-5-①-1)。

資料 5-5-①-1

(2) 和歌山高専専攻科設立の理念と学習・教育目標

和歌山県の中部に位置する和歌山高専は、周りに高等教育機関の無いこともあり、周辺地域からも大きな期待を持たれています。和歌山高専が発展することはその地域が発展することに繋がります。和歌山高専の責任は重大です。そのため和歌山高専はこれまで工業高専の使命としての技術者教育と全人教育、そして紀中・紀南地区唯一の高等教育機関として地域への貢献を進めてきました。高専本科卒業生およびこれと同等な資格を有する社会人等に更に2年間の教育を行う本校専攻科は、この方針を念頭に置いて平成14年4月に設立されたものです。

本校が位置する和歌山県は太平洋に面し、豊かな自然と美しい景観を有しています。地場産業としては果樹栽培に代表される農業、そして林業や水産業が中心であり、本校が主として関係する工業は比較的小規模の企業が中心となっています。このような点から、豊かな自然と調和した産業の育成や小規模の企業でも役立つ技術開発等が必要とされ、本校の責務の柱である地域貢献ではこれらの点を考慮する必要があります。

そのため本校専攻科では、知能・機械工学系と電気・情報工学系の卒業生を対象とした「メカトロニクス工学専攻」と物質工学系と環境都市工学系の卒業生を対象とした「エコシステム工学専攻」の二つの専攻から構成されています。

さらに、本科第4学年から専攻科修了までの4年間は、「地域環境デザイン工学」教育プログラムー工学(複合・融合領域)ーに基づいた教育が行われます。本教育プログラムは日本技術者教育認定機構(JABEE)の審査を受け、国際水準を満足した内容になっています。

本校専攻科では、受け入れた学生に対して、本科との持続性を生かして

- ①持続可能な社会の形成に活かせる創造力
- ②多面的に問題を発見し、解決する能力
- ③豊かな人間性と国際性

を備えた技術者の育成を目標に掲げています。

さらに②の項目に対して具体化させ、メカトロニクス工学専攻では②-1「地球環境に配慮したさまざまな電気・電子・機械システムの設計・開発を行うことが出来る能力を持つ技術者」、また、エコシステム工学専攻では②-2「地球環境に配慮して物質・構造物・環境システム等の設計・開発を行うことが出来る能力を持つ技術者」の養成を行います。

上記の技術者を養成するため、本校の学習・教育目標が以下のように定められています。

- (A) 和歌山県の地域環境、地域社会との共生に関する理解および倫理観を身につけ、公共の安全や利益に配慮したもののづくりの考え方を理解し説明できる。
- (B) 社会のニーズおよび環境に配慮し、かつ与えられた制約下で、工学の基礎的な知識・技術を統合して課題を解決するデザイン能力を身につける。
- (C) 自主的・継続的な学習を通じて、自己の専門分野で深い学問的知識や経験に加え、他分野

(分析結果とその根拠理由)

専攻科のカリキュラムは本科のカリキュラムとの整合性を考慮して配置している。とりわけ、学生が自ら自分の技術や学術の幅を広げる事が出来るように工夫している。カリキュラムの見直しを適宜行い、常に時代に則した技術や学術を学べるような体制にしている。JABEEの審査を通った国際水準を満たしたカリキュラム構成となっている。

観点5-5-②： 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

専攻科では、本科で培った専門を基礎に、各専攻の中心的な科目をより掘り下げ、それぞれの専攻で専門家としての素養を深めると同時に、これまで培ってきた自己の「技術の幅を広げる」ことを教育理念として謳っている。

これらの目的を考慮して、専門を深めるために各専攻の中心となる「専門専攻科目」を両方の専攻に配置している。また技術の幅を広げるために両方の専攻から選択できる「専門共通科目」を設定し、さらに上述の専門専攻科目においても、他の専攻から選択できるように配慮している。同じく教育理念の中に「地域環境に配慮する」ことも謳っており、この目的のために専門共通科目の中に環境に関連した科目を導入している。これらの課程に加えて、技術者としてのより深い一般教養を身につけるための一般科目として、技術者倫理、英語を含むコミュニケーション、それにアジアとの連携を模索する科目も開設している(資料 5-5-②-1~2)。

資料 5-5-②-1

エコシステム工学専攻(平成25年度修了生用)

| 区分 | 授業科目 | 単位数 | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | 備考 |
|------------------|---------------|--------|--------|------|------|------|--|
| 一般科目 | ○時事英語 | 2 | 2 | | | | |
| | ○実用英会話 | 2 | | 2 | | | |
| | 現代アジア論 | 2 | | | 2 | | |
| | ビジネスコミュニケーション | 2 | 2 | | | | |
| | テクニカルライティング | 2 | | 2 | | | |
| | ○技術者倫理 | 2 | | | | 2 | |
| 一般科目 開設単位数 | 12 | 4 | 4 | 2 | 2 | | |
| 一般科目 修得単位数 | | 6単位以上 | | | | | |
| 専門共通科目 | 数理統計学 | 2 | | 2 | | | 必修科目は、一般科目から6単位、専門科目から22単位の合計28単位修得すること。 |
| | 数理工学 | 2 | 2 | | | | |
| | 線形代数 | 2 | 2 | | | | |
| | 数値計算・解析法 | 2 | | 2 | | | |
| | 量子力学 | 2 | 2 | | | | |
| | 物性物理 | 2 | | | 2 | | |
| | 情報理論 | 2 | | 2 | | | |
| | センサー工学 | 2 | 2 | | | | |
| | 応用エネルギー工学 | 2 | | 2 | | | |
| | 環境分析 | 2 | | 2 | | | |
| | 環境化学工学 | 2 | 2 | | | | |
| | 環境アセスメント | 2 | | 2 | | | |
| | 創造プログラミング | 2 | | | 2 | | |
| | 環境マネジメント | 2 | | | | 2 | |
| 専門共通科目 開設単位数 | 28 | 10 | 12 | 4 | 2 | | |
| 専門共通科目 修得単位数 | | 12単位以上 | | | | | |
| 専門専攻科目 | ○工学特別ゼミナール | 4 | 2 | | 2 | | 選択科目は、一般科目と専門科目から34単位以上修得すること。ただし、専門共通科目から12単位以上、専門専攻科目から14単位以上修得すること。 |
| | ○工学特別実験 | 4 | 2 | 2 | | | |
| | ○特別研究 | 14 | 2 | 2 | 4 | 6 | |
| | 反応有機化学 | 2 | | 2 | | | |
| | 化学反応論 | 2 | | | 2 | | |
| | 有機機能材料 | 2 | | | 2 | | |
| | 置換子工学 | 2 | 2 | | | | |
| | 細胞工学 | 2 | | 2 | | | |
| | 分離工学 | 2 | | 2 | | | |
| | 生体高分子 | 2 | | | 2 | | |
| | 応用材料工学 | 2 | 2 | | | | |
| | 応用地盤工学 | 2 | | 2 | | | |
| | 建設設計工学 | 2 | | | 2 | | |
| | 社会基盤計画学 | 2 | | | 2 | | |
| | 水圏工学 | 2 | | 2 | | | |
| | 地域環境工学 | 2 | | | 2 | | |
| | 複合構造工学 | 2 | | | 2 | | |
| | インターンシップ | 2 | 2 | | | | |
| | 専門専攻科目 開設単位数 | 52 | 12 | 14 | 20 | 6 | |
| | 専門専攻科目 修得単位数 | | 36単位以上 | | | | |
| 一般・専門科目 開設単位数 合計 | 92 | 26 | 30 | 26 | 10 | | |
| 一般・専門科目 修得単位数 | | 62単位以上 | | | | | |

【注】 ○印は必修科目。
 インターンシップ2単位は1年次又は2年次で履修できる。開設単位数の欄では便宜上1年前期に集計してある。
 工学特別ゼミナールは、通年履修科目であるが、開設単位数の欄では、便宜上、1、2年次共、前期に集計してある。

(出典 専攻科シラバスA-8)

資料 5-5-②-2

(2) 修了要件

専攻科の修了要件は、以下の条件を満たしていることとします。したがって、「地域環境デザイン工学」教育プログラムの内容をよく理解し、その修了要件を満たすように勉学に取り組んでください。

- ①専攻科の教育課程を修了していること。
- ②学位取得のための学修成果レポートを大学評価・学位授与機構に提出していること。
- ③地域環境デザイン工学教育プログラムにおいて124単位以上修得していること。
- ④総学習時間が1800時間以上であること。
- ⑤人文科学・社会科学（語学教育を含む）等の学習時間が250時間以上であること。
- ⑥数学・自然科学及び情報技術の学習時間が250時間以上であること。
- ⑦専門科目の学習時間が900時間以上であること。
- ⑧別に定める達成度評価基準に合格していること。

なお、専攻科の教育課程を修了するためには下表に示す所定の単位を修得しなければなりません。専門専攻科目36単位以上の内訳は、必須22単位と選択14単位以上です。

| | 一般科目 | 専門科目 | | 合計 |
|-------------|-------|--------|--------|--------|
| | | 専門共通科目 | 専門専攻科目 | |
| メカトロニクス工学専攻 | 6単位以上 | 12単位以上 | 36単位以上 | 62単位以上 |
| エコシステム工学専攻 | 6単位以上 | 12単位以上 | 36単位以上 | 62単位以上 |

(3) 科目の単位と時間数

各授業科目の単位数は、1単位45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。授業の方法に応じて、当該授業による教育効果、授業時間以外の学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算しています。

- ①講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- ②演習、工学特別ゼミナール、特別研究については、30時間の授業をもって1単位とする。
- ③実験及び実習については、45時間の授業をもって1単位とする。

授業回数は、110分授業の場合は15回、90分授業の場合は18回とします。講義については1単位につき30時間の自宅学習が必要になります。自宅学習についてはシラバスの中で記述されています。単位の意味を十分理解して到達目標をクリアされることを期待します。

- A-9 -

(出典 専攻科シラバスA-9)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科では、本科で培った基礎に、各専攻の中心的な科目を掘り下げ、それぞれの専攻で専門家としての素養を深めると同時に、これまで培ってきた自己の「技術の幅を広げる」ことを教育理念として謳っている。「専門専攻科目」を両方の専攻に配置、また、両方の専攻から選択できる専門共通科目を設定し、さきの、専門専攻科目においても、他の専攻から選択できるように配慮している。これらに加えて、技術者倫理、英語を含むコミュニケーション、それにアジアとの連携を模索する科目を一般科目として開設し、技術者の素養を身につけている。これらのことから教育の目的を達成するために適切なものになっている。

観点5-5-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。

(観点に係る状況)

専攻科の目的の一つとして「多面的に問題を発見し、解決する能力」を身につけることを謳っている。その目的のために専門共通科目については基本的に両方の専攻の学生が選択できるように配慮しており、専門専攻科目においても、その専攻の学生だけでなく、他専攻の学生も受講できるようにしている。また平成16年度に高等教育機関コンソーシアム和歌山の単位互換協定に加盟し、加盟している他の教育機関で単位を取ることが出来(資料 5-1-②-4参照)、実際に単位取得をした学生がいる。

(分析結果とその根拠理由)

高等教育機関コンソーシアム和歌山に加盟している。また、和歌山大学や大阪大学や京都大学等と教育研究に関する協定を締結しており、学生のニーズに柔軟に対応する仕組みを整えている。

観点5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

(観点に係る状況)

教育目標の下に、座学、演習、実験そして実習がバランスよく配置されている。そしてそれぞれの教授内容、実験内容に応じガイドラインになるような指導が施されている(資料5-5-②-1～2参照)。

(分析結果とその根拠理由)

座学、実験などのそれぞれの授業形態にあわせた設備を適切に配置し、教育目標に沿った、バランスのとれた適切な内容であり、各教育内容に応じた工夫もなされている。

観点5-6-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

シラバスをメカトロニクス工学専攻そしてエコシステム工学専攻とそれぞれ作成し、一冊のシラバス冊子となっている。一般科目そして専門科目の必修科目と選択科目のすべてのシラバスが用意されている。学生は専攻科入学時のガイダンスで、シラバスについての説明を受けている(資料 5-6-②-1)本校のホームページに掲載されているので、学生や保護者は閲覧して参考にすることが容易である。内容は、科目名、担当教員名、学科、単位数、授業概要、到達目標、評価方法、教科書、毎週の教授内容、そしてJABEEとの関連などである。加えて、学生への学習指導として、さらに留意を要するポイントなどが説明されており、学生の予習そして復習時の手助けとなっている。課題を毎回学生に課して、予習や復習勉強に役立つように工夫している(資料 5-6-②-2～3)。

教員はシラバスにもとづき授業をおこなうが、期末の区切り目に、本科と同様の授業進捗報告書を作成しアップロードする仕組みになっており、学内から自由に閲覧できる(資料 5-6-②-4)。

資料 5-6-②-1

専攻科1年生の皆さんへ

平成24年4月8日
専攻科長 藤本 晶

学修に関するオリエンテーション資料（第1回）

資料等一覧

| 資料一覧 | 本資料の
関連項目 | 備考 |
|-----------------------|--------------|------------------|
| オリエンテーション資料 | | |
| 専攻科学修の手引き・シラバス | 2-12 | |
| 学生便覧 | 3 | |
| 新しい学士への途・平成24年度版 | 4,10 | |
| 学位授与申請書類・平成24年度版 | 4,10 | |
| 選択科目履修届 | 10 | 副専攻科長へ提出 |
| 教科書発注書 | 10 | 書店へ提出 |
| 特別研究実施時間報告書（前期／後期） | 7 | 特研指導教員へ提出 |
| 工学特別ゼミナール選択届 | 8 | 副専攻科長へ提出 |
| 工学特別ゼミナール実施時間報告書（年度末） | 8 | ゼミ指導教員へ提出 |
| インターンシップに関する調査 | 9 | 副専攻科長へ提出 |
| 学生証 | 13 | |
| ロッカーのキー | 14 | 希望者のみ、学生課で手続き |
| 在学証明書 | 15 | |
| 住所等確認表 | 16 | 学生課から配付済み。学生課へ提出 |
| 健康診断票 | 17 | 受診後、学生課へ提出 |

1. 専攻科委員の紹介

| | | | |
|-------|--------|---------|-----------|
| 専攻科長 | 藤本 晶 | M, 電気情報 | |
| 副専攻科長 | 山東 篤 | M, 知能機械 | 1M, 2M 担任 |
| 副専攻科長 | 河地 貴利 | E, 物質 | 1E, 2E 担任 |
| 専攻科委員 | 坂田 光雄 | M, 知能機械 | |
| | 佐久間 敏幸 | M, 電気情報 | |
| | 米光 裕 | E, 物質 | |
| | 鶴巻 峰夫 | E, 環境都市 | |
| | 宮本 克之 | 一般科目 | |

□ M：メカトロニクス工学専攻，E：エコシステム工学専攻

2. 学習教育目標

参照資料：専攻科学修の手引き・シラバス

- (A) 和歌山県の地域環境，地域社会との共生に関する理解および倫理観を身に付け，公共の安全や利益に配慮したもののづくりの考え方を理解し説明できる。
- (B) 社会のニーズおよび環境に配慮し，かつ与えられた制約下で，工学の基礎的な知識・技術を統合して課題を解決するデザイン能力を身につける。
- (C) 自主的・継続的な学習を通じて，自己の専門分野で深い学問的知識や経験に加え，他分野にまたがる幅広い知識を身につける。
- (C-1) 自然科学・情報技術に関する基礎的素養を有し，それぞれの専門分野での問題解決のためにそれらを駆使できる能力を身につける。
- (C-2) それぞれの専門分野に関する深い学問的知識と実験・実習で得た多くの経験を持ち，それらを問題解決のために応用できる能力を身につける。
- (C-3) 長期的視点に立ち，計画的に継続して自らの能力を向上させようとする習慣とそれを実現する能力を身につける。

(出典 専攻科生オリエンテーション資料)

資料 5-6-②-2

| 科目 | 必・選 | 担当教員 | 学年・学科 | 単位数 | 授業形態 | | | | | | |
|------------------------------|---|---------------------------|-----------------|-----------|------------|-------|--------|---|---|-----|---|
| センサー工学
Sensor Engineering | 選 | 藤本 晶 | 専攻科第一学年
専門共通 | 学修単位
2 | 前期
週2時間 | | | | | | |
| 授業概要 | 配布プリントと教科書を基に授業を進める。センサーの使い方に関して現実の問題を想定した課題に対し、レポートを提出してもらって理解を深める。さらに夏休みを利用してセンサーの作製実習を行い、実際にセンサーに触れる楽しさも体験してもらう。 | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 種々のセンサーの機構と動作原理を知り、最適なセンサーを選定出来る。
市販のセンサーを用いて、計測回路の概要を設計できる。 | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 課題・レポート等の提出物（60%）とプレゼンテーション（40%）で評価する。
評価60点以上で及第とする。 | | | | | | | | | | |
| 教科書等 | 【教科書】山崎弘郎著「センサ工学の基礎」, 昭晃堂
【参考書】森泉豊栄, 中本高道共著「センサ工学」, 昭晃堂
都甲潔, 宮城幸一郎共著「センサ工学」, 培風館 | | | | | | | | | | |
| 内 容 | (110分授業を15回実施する。なお、1回の自宅演習は240分を目処にする。) | | | | 学習・教育目標 | | | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション | : センサーとは何か。センサーの役割, 種類。 | (自宅演習) | C-1 | | | | | | | |
| 第2回 | 信号変換のしくみ (I) | : 情報とエネルギー, センサーの出力信号 | (自宅演習) | C-1 | | | | | | | |
| 第3回 | 信号変換のしくみ (II) | : 計測技術と信号変換, 計測機器の信号変換 | (自宅演習) | C-1 | | | | | | | |
| 第4回 | 力, 圧力のセンサー | : 抵抗歪み計, 変位による計測, 課題出題 | (自宅演習) | C-1 | | | | | | | |
| 第5回 | 長さ, 速度のセンサー | : 速度センサー, 波動を利用した計測 | (自宅演習) | C-1 | | | | | | | |
| 第6回 | 課題発表 (I) | : 物理センサーの応用 | (自宅演習) | C-1 | | | | | | | |
| 第7回 | 流速・流量センサー | : 流速センサーの原理, 種々の流速センサー | (自宅演習) | C-1 | | | | | | | |
| 第8回 | センサーデバイス (I) | : 半導体物性の基礎 | (自宅演習) | C-1 | | | | | | | |
| 第9回 | センサーデバイス (II) | : 光, 熱, 磁気, 超音波センサー, 課題出題 | (自宅演習) | C-1 | | | | | | | |
| 第10回 | 温度測定と温度センサー | : 接触形と非接触形温度測定 | (自宅演習) | C-1 | | | | | | | |
| 第11回 | 課題発表 (II) | : 実用的なセンサーシステム | (自宅演習) | C-1 | | | | | | | |
| 第12回 | 成分センサー (I) | : ガスセンサー, 半導体ガスセンサー | (自宅演習) | C-1 | | | | | | | |
| 第13回 | 成分センサー (II) | : pHセンサー, イオンセンサー | (自宅演習) | C-1 | | | | | | | |
| 第14回 | センシング技術の進歩 | : 新しいセンサー, センサーフュージョン | (自宅演習) | C-1 | | | | | | | |
| 第15回 | 課題発表 (III) | : 最新の論文に見るセンサー | (自宅演習) | C-1 | | | | | | | |
| (特記事項) | JABEEとの関連
90分授業の場合は、上記内容を15週間に18回の授業で行う。 | | | | | | | | | | |
| | JABEE | a | b | c | dI | d2a)d | d2b)c) | e | f | g | h |
| | 本校の学習・教育目標 | A | A | C-1 | C-1 | C-2 | B | B | D | C-3 | B |
| | | | | | ◎ | | | | | | |

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

専門共通 第1学年 センサー工学(Sensor Engineering)

第1週

授業のやり方や評価方法について説明します。またシステムにおけるセンサーの役割と特徴、種類等について学びます。

第2～3週

測定対象である物理量や化学量を電気信号に変換するものがセンサーです。その信号変換の種類や方法について学びます。

第4週

力とその面積当たりの値である圧力を測るセンサーの種類や構造について学びます。

第5週

基本的な物理量である長さや、その時間変化である速度のセンサーについて、その原理や構造を学びます。

第6週

物理センサーの応用についての課題を発表して貰います。

第7週

液体や気体の流速を測るセンサーの種類や原理、構造について学びます。

第8週

多くのセンサーデバイスに用いられている半導体について、その種類、物性、特徴等を概観します。

第9週

光センサー、温度センサー、磁気センサー、超音波センサー等半導体を用いたセンサーデバイスの原理や構造について学びます。

第10週

比較的身近な計測対象である温度について、センサーの種類、原理と構造等を学びます。

第11週

センサーシステムに関する課題についてプレゼンテーションをして貰います。

第12週

化学センサーの中で、気体を対象とするガスセンサーや、その応用である匂いセンサーについて、その原理と構造を学び、最新の研究状況を概観します。

第13週

化学センサーの中で、液体を対象にしたpHセンサーやイオンセンサー等の原理と構造を学びます。

第14週

最新のセンサーデバイスやセンサーシステム、将来の統合センサーシステム等を概観します。

第15週

センサーに関する最新の英文論文を読んで、解説してもらいます。

(出典 専攻科シラバスB-23)

資料 5-6-②-4

授業進捗報告書（専攻科）

科目区分； 一般 専門共通 メカ専門専攻 エコ専門専攻授業時間； 90分 110分

提出 24年 6月 5日

氏名 森 徹

第 1 回～第 8 回の進捗状況を下記の通り報告します。

| クラス | 2M | 科目名 | 情報伝送工学 |
|-----|------|-------------------------|--|
| 回 | 月日 | シラバス（予定） | 実績 |
| 1 | 4/10 | オリエンテーション
デジタル伝送とは | オリエンテーション
デジタル伝送とは（情報の表現）
デジタル伝送の基礎技術
符号化と変調（ブロードバンド伝送方式） |
| 2 | 4/17 | デジタル伝送の基礎技術
符号化と変調 | デジタル伝送の基礎技術
符号化と変調（ベースバンド伝送方式） |
| 3 | 4/24 | デジタル伝送の基礎技術
同期方式と多重化 | デジタル伝送の基礎技術
同期方式と多重化 |
| 4 | 5/8 | デジタル伝送の基礎技術
誤り制御 | デジタル伝送の基礎技術
符号分割多重化、誤り制御 |
| 5 | 5/15 | デジタル伝送の基礎技術
情報保護と暗号化 | デジタル伝送の基礎技術
暗号方式、デジタル署名 |
| 6 | 5/22 | 伝送制御手順
ベーシック手順 | 伝送制御手順
ベーシック手順、HDLC 手順 |
| 7 | 5/29 | 伝送制御手順
HDLC 手順 | 伝送制御手順 HDLC 手順
TCP/IP TCP |
| 8 | 6/5 | TCP/IP
TCP と UDP | TCP/IP
UDP、IP アドレス、IPv4、IPv6 |
| 備考： | | | |

注)

- 1) 科目区分および授業時間を文字囲あるいは丸印で示してください。
- 2) シラバス（予定）と実績にずれが生じた場合は、その説明及び対応について備考欄に必ず記載して下さい。
- 3) 上表において行の数が不足する場合は、適宜追加してください。
- 4) 前期については、6/6(水)までと授業完了時の進捗度をそれぞれ提出して下さい。
- 5) 後期については、12/3(月)までと授業完了時の進捗度をそれぞれ提出して下さい。

提出先：メカ専門専攻科目→雑賀副専攻科長（メカ）、一般科目およびエコ専門専攻科目→辻原副専攻科長（エコ）、
専門共通科目→主たる担当教員の所属学科が属する専攻の副専攻科長に電子メール添付でご提出ください。

(出典 授業進捗報告書)

(分析結果とその根拠理由)

教育目標に基づいた課程趣旨に沿ったシラバスが適正に作成されている。予習や復習に役立つ勉強のポイントが簡潔に記述され、達成目標や評価方法が明確に示されている。また入学時にガイダンスを行っており、シラバスが適正に活用されている。

観点5-6-③： 創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。

(観点に係る状況)

創造性を育む授業には工学特別実験があり、創造デザイン部門では毎年さまざまなテーマをかかげて学生たちの創造性を育成する工夫をしている。平成21年度は「特許をとろう」のテーマで、学生は班ごとに特許となるアイデアを出してパテントコンテストに応募した。結果、一チームは特許登録する成果を得る事が出来た(資料 5-6-③-1)。平成24年度は「環境浄化技術の開発」のテーマで行っている。また「創造プログラミング」も創造性を育む教育として実施されている(資料 5-6-③-2)。

専攻科のインターンシップは2単位の選択科目である。これまで約半数の学生が1年次にインターンシップに参加している。期間は本科より長く、各学生は約2週間のインターンシップを体験している。過去4年間の参加者数を以下の表で示す(資料 5-6-③-3~4)。また最近では高専機構本部の海外インターンシップにも応募している。

| 科目 | 必・選 | 担当教員 | 学年・学科 | 単位数 | 授業形態 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------------|---|-------------------------|--------------------|-----------|------------|--------|---|---|-----|----|-------|--------|---|---|---|---|------------|---|---|-----|-----|-----|---|---|---|-----|---|--|--|--|--|--|--|---|---|--|--|---|
| 工学特別実験
(Advanced Experiments) | 必 | 専攻科教員 | 1年生
メカトロニクス工学専攻 | 4
学修単位 | 通年
週6時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 創造デザイン部門とテーマ別実験部門から構成される。創造デザイン部門では、「環境浄化技術の開発」を課題として、企画・実験・報告・プレゼンテーション等を体験して技術開発の基礎を体験する。テーマ別実験部門では、前半は機械系学生は電気系の、電気系学生は機械系の基礎実験を行うことにより、メカトロニクスの広い基礎と視野の広さを養う。後半は全学生がメカトロニクス関連のより進んだテーマで実験を行い、授業の理解を深めるとともに技術力、解析力や洞察力を養う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の専門分野での学問的知識や経験をもとに、総合的視野に立った技術開発計画を立案でき、問題解決する手法について理解する。(B)-(e) 2. 与えられた環境および期間で積極的に実験等に取り組み、要求された課題を遂行する。(B)-(h) 3. 工学の基礎知識・技術を統合して実験等のデータを正確に解析し、工学的に考察し、説明できる。(B)-(d2)b)c) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | <ol style="list-style-type: none"> ① 創造デザイン部門において、アイデア報告(配点率20%)、開発技術と報告書(配点率40%)、報告会(配点率20%)、活動記録(配点率20%)により100点満点で評価する。(B)-(e) ② テーマ別実験部門において、要求された課題の遂行を含め実験等への取り組みを100点満点で評価する。(B)-(h) ③ テーマ別実験部門において、実験レポートにより100点満点で評価する。(B)-(d2)b)c) <p>【総合評価】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ①, ②, ③のうち、いずれかが60点未満の場合は総合評価を「不可」とする。 2) ①, ②, ③のすべて60点以上の場合、総合評価は①, ②, ③にそれぞれ40%, 20%, 40%の配点率を乗じた点数とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書等 | テーマ毎の実験内容をまとめた資料を配布する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 内容 | | | | | 学習・教育目標 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第1～9回 | 【創造デザイン部門】
「環境浄化技術の開発」
【テーマ別実験部門】 | | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第10回 | 電気情報工学科出身学生課題 | 機械工学科出身学生課題 | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第11回 | 熱と流体力学に関する実験
(福田, 坂田) | エネルギーの利用と制御
(山吹, 直井) | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第12回 | | | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第13回 | 材料加工と評価 | 計算機ネットワークの構築 | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第14回 | (西本, 福田) | (森) | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第15回 | | | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第16回 | 金属材料に関する実験1 | フィルタの設計 | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第17回 | (櫻原, 山東) | (村田) | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第18回 | | | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第19回 | シーケンス制御に関する実験 | 電子材料の作製と特性評価 | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第20回 | (溝川) | (山口) | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第21回 | | | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第22回 | 電力の発生と輸送に関する実験 | | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第23回 | (山口, 山吹) | | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第24回 | センサーの応用計測に関する実験 | | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第25回 | (藤本) | | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第26回 | 金属材料に関する実験2 | | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第27回 | (櫻原, 山東) | | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第28回 | 数値計算工学に関する実験 | | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第29回 | (佐久間) | | | (自宅演習) | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第30回 | まとめ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (特記事項) | JABEEとの関連
<table border="1"> <thead> <tr> <th>JABEE</th> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d1</th> <th>d2a)d</th> <th>d2b)c)</th> <th>e</th> <th>f</th> <th>g</th> <th>h</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本校の学習・教育目標</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>C-1</td> <td>C-1</td> <td>C-2</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>D</td> <td>C-3</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | JABEE | a | b | c | d1 | d2a)d | d2b)c) | e | f | g | h | 本校の学習・教育目標 | A | A | C-1 | C-1 | C-2 | B | B | D | C-3 | B | | | | | | | ◎ | ◎ | | | ◎ |
| JABEE | a | b | c | d1 | d2a)d | d2b)c) | e | f | g | h | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 本校の学習・教育目標 | A | A | C-1 | C-1 | C-2 | B | B | D | C-3 | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | ◎ | ◎ | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

*合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

資料 5-6-③-2

| 科目 | 必・選 | 担当教員 | 学年・学科 | 単位数 | 授業形態 | | | | | | |
|-----------------------------------|--|-------------------------|-----------------------------------|-----------|------------|-------------------|---|---|---|-----|---|
| 創造プログラミング
Creative Programming | 選 | 謝 孟 春 | 第2学年
メカトロニクス工学専攻
エコシステム工学専攻 | 学修単位
2 | 半期
週2時間 | | | | | | |
| 授業概要 | 技術者を志す専攻科生は専門知識を修得するだけでなく、それを応用し新しいものを創り出す能力が必要とする。この授業では、人工知能の手法に基づいて、それぞれの専門分野で利用可能な創作的プログラムを作成する。また、作成したプログラムの発表及び解説書の作成を実施し、創造性、デザイン能力、及びプレゼンテーション能力を養う。 | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1) 専門分野での問題解決のために、計算機を使用したプログラムを作成できる。
(2) 人工知能の基本手法を理解できる。
(3) プログラムの企画、立案、作成などをプランニングできる。
(4) 作成した内容を説明できる。 | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | プログラムの完成度（内容・機能性・プログラム報告書）60%、プレゼンテーション40%（その内、学生による相互評価20%）で総合的に評価する。60点以上を合格とする。 | | | | | | | | | | |
| 教科書等 | | | | | | | | | | | |
| 内 容 | (110分授業を15回実施する。なお、1回の自宅演習は240分を目標にする。) | | | | 学習・教育目標 | | | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション、プログラムの企画、立案及びフローチャート図 | | | (自宅演習) | B | | | | | | |
| 第2回 | 最適化手法 | 遺伝的アルゴリズム | | (自宅演習) | B | | | | | | |
| 第3回 | シミュレーション手法 | セルオートマトン法 | | (自宅演習) | B | | | | | | |
| 第4回 | 学習手法 | 強化学習 | | (自宅演習) | B | | | | | | |
| 第5回 | 計画発表 | 計画プログラムの内容説明（プレゼンテーション） | | (自宅演習) | B | | | | | | |
| 第6回 | 創造的プログラムの作成 | | | (自宅演習) | B | | | | | | |
| 第7回 | 〃 | | | (自宅演習) | B | | | | | | |
| 第8回 | 〃 | | | (自宅演習) | B | | | | | | |
| 第9回 | 〃 | | | (自宅演習) | B | | | | | | |
| 第10回 | 〃 | | | (自宅演習) | B | | | | | | |
| 第11回 | 〃 | | | (自宅演習) | B | | | | | | |
| 第12回 | 〃 | | | (自宅演習) | B | | | | | | |
| 第13回 | 〃 | | | (自宅演習) | B | | | | | | |
| 第14回 | 創造的プログラム報告会 | プレゼンテーション | | (自宅演習) | B | | | | | | |
| 第15回 | プログラム解説書と報告書の作成 | | | (自宅演習) | B | | | | | | |
| (特記事項) | 90分授業の場合は、上記内容を15週間118回の授業で行う。 | | | | | | | | | | |
| | JABEEとの関連 | | | | | | | | | | |
| | JABEE | a | b | c | d1 | d2(a) d2(b) d2(c) | e | f | g | h | |
| | 本校の学習・教育目標 | A | A | C-1 | C-1 | C-2 | B | B | D | C-3 | B |
| | | | | | | | ㊦ | ○ | | | ○ |

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。
2. 定期試験において、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。（例）4回定期試験を履修した場合は、毎定期試験の25%が20分計。

(出典 専攻科シラバス B-40)

資料 5-6-③-3

| | |
|---------|------|
| 平成 20 年 | 17 名 |
| 平成 21 年 | 14 名 |
| 平成 22 年 | 17 名 |
| 平成 23 年 | 16 名 |

(出典 教務係資料)

資料 5-6-③-4

| 科目 | 必・選 | 担当教員 | 学年・学科 | 単位数 | 授業形態 | | | | | | |
|---------------------------------------|---|--------|------------------------|-----------|----------|---------|---------|---|---|-----|---|
| インターンシップ
(Internship) | 選 | 企業等関係者 | 第1, 2学年
メカトロニクス工学専攻 | 学修単位
2 | 集中研修 | | | | | | |
| 授業概要 | 国、地方公共団体、企業、大学院において、メカトロニクス工学に関わる技術の研修・実習を10日(80時間)以上行う。 | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 実社会において、メカトロニクス工学の専門的技術の重要性や技術の具体的な活用方法を習得する。
(C-2, C-3/d2, g) | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 実習報告書の内容をもとに判断・認定する。 | | | | | | | | | | |
| 教科書等 | | | | | | | | | | | |
| 内容 | (110分授業を15回実施する。なお、1回の自宅演習は240分を目処とする。) | | | | 学習・教育目標 | | | | | | |
| 第1回 | 4-7月: インターンシップ内容の説明 | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第2回 | 和歌山県インターンシップ制への登録 | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第3回 | 受け入れ機関の紹介 | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第4回 | 実習申込み・決定 | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第5回 | 8-9月: 実習 | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第6回 | 実習報告書作成 | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第7回 | 9-12月: 実習報告書提出 | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第8回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第9回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第10回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第11回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第12回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第13回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第14回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第15回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第16回 | 1月: 大学院でのインターンシップ申し込み | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第17回 | 2月: 配属先決定 | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第18回 | 3月: 実習 | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第19回 | 実習報告書作成 | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第20回 | 4月: 実習報告書提出 | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第21回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第22回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第23回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第24回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第25回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第26回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第27回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第28回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第29回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| 第30回 | | | | | (自宅演習) C | | | | | | |
| (特記事項) 90分授業の場合は、上記内容を15週間に18回の授業で行う。 | JABEEとの関連 | | | | | | | | | | |
| | JABEE | a | b | c | d1 | d2a) d) | d2b) c) | e | f | g | h |
| | 本校の学習・教育目標 | A | A | C-1 | C-1 | C-2 | B | B | D | C-3 | B |
| | | | | | | ◎ | | | | ◎ | |

*合格ラインについて、特記記載の無いものは、60点以上を合格とします。

(出典 専攻科シラバスB-54)

(分析結果とその根拠理由)

創造性創出のための授業が学生たちに提供され、インターンシップも適正に活用されている。

観点5-7-①: 教育の目的に照らして、教養教育や研究指導が適切に行われているか。

(観点到に係る状況)

エンジニアのための教養の幅を広げ、そして教養教育の充実をはかるため、一般科目から必須科目として「時事英語」、「実用英会話」、「技術者倫理」(各2単位)、選択科目として「現代アジア論」、「ビジネスコミュニケーション」、「テクニカルライティング」(各2単位)を開設している(資料 5-7-①-1)。

特別研究の各テーマには、主担当の教員である主査に加えて、主査をサポートする教員の副査を

配置し、マンツーマンのきめ細かな個人指導を進めるとともに、複数人の教員で指導することにより、教員の資質による指導の偏りを防いでいる。学生には進捗報告を兼ねて年に2回の研究発表を実施している。専攻科で修学するにふさわしい研究指導が行われている（資料 5-7-①-2）。

資料 5-7-①-1

エコシステム工学専攻(平成24年度修了生用)

| 区分 | 授業科目 | 単位数 | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | 備考 | |
|------------------|---------------|---------|--------|------|------|------|--|--|
| 一般科目 | ○時事英語 | 2 | 2 | | | | | |
| | ○実用英会話 | 2 | | 2 | | | | |
| | 現代アジア論 | 2 | | | 2 | | | |
| | ビジネスコミュニケーション | 2 | 2 | | | | | |
| | テクニカルライティング | 2 | | 2 | | | | |
| | ○技術者倫理 | 2 | | | | 2 | | |
| | 一般科目 開設単位数 | 12 | 4 | 4 | 2 | 2 | | |
| | 一般科目 修得単位 | | 6 単位以上 | | | | | |
| | 専門共通科目 | 数理統計学 | 2 | | 2 | | | 必修科目は、一般科目から6単位、専門科目から22単位の合計28単位修得すること。 |
| | | 数理工学 | 2 | 2 | | | | |
| 線形代数 | | 2 | 2 | | | | | |
| 数値計算・解析法 | | 2 | | 2 | | | | |
| 電子工学 | | 2 | 2 | | | | | |
| 物性物理 | | 2 | | | 2 | | | |
| 情報理論 | | 2 | | 2 | | | | |
| センサー工学 | | 2 | 2 | | | | | |
| 応用エネルギー工学 | | 2 | | 2 | | | | |
| 環境分析 | | 2 | | 2 | | | | |
| 環境化学工学 | | 2 | 2 | | | | | |
| 環境アセスメント | | 2 | | 2 | | | | |
| 創造プログラミング | | 2 | | | 2 | | | |
| 環境マネジメント | | 2 | | | | 2 | | |
| 専門共通科目 開設単位数 | 28 | 10 | 12 | 4 | 2 | | | |
| 専門共通科目 修得単位 | | 12 単位以上 | | | | | | |
| 専門専攻科目 | ○工学特別ゼミナール | 4 | 2 | | 2 | | 選択科目は、一般科目と専門科目から34単位以上修得すること。ただし、専門共通科目から12単位以上、専門専攻科目から14単位以上修得すること。 | |
| | ○工学特別実験 | 4 | 2 | 2 | | | | |
| | ○特別研究 | 14 | 2 | 2 | 4 | 6 | | |
| | 反応有機化学 | 2 | | 2 | | | | |
| | 化学反応論 | 2 | | | 2 | | | |
| | 有機機能材料 | 2 | | | 2 | | | |
| | 遠征子工学 | 2 | 2 | | | | | |
| | 細胞工学 | 2 | | 2 | | | | |
| | 分離工学 | 2 | | 2 | | | | |
| | 生体高分子 | 2 | | | 2 | | | |
| | 応用材料工学 | 2 | 2 | | | | | |
| | 応用地盤工学 | 2 | | 2 | | | | |
| | 建設設計工学 | 2 | | | 2 | | | |
| | 社会基盤計画学 | 2 | | | 2 | | | |
| | 水圏工学 | 2 | | 2 | | | | |
| | 地成環境工学 | 2 | | | 2 | | | |
| | 複合構造工学 | 2 | | | 2 | | | |
| | インターンシップ | 2 | 2 | | | | | |
| 専門専攻科目 開設単位数 | 52 | 12 | 14 | 20 | 6 | | | |
| 専門専攻科目 修得単位 | | 36 単位以上 | | | | | | |
| 一般・専門科目 開設単位数 合計 | 92 | 26 | 30 | 26 | 10 | | | |
| 一般・専門科目 修得単位 | | 62 単位以上 | | | | | | |

[註] ○印は必修科目。
 インターンシップ2単位は1年次又は2年次で履修できる。開設単位数の欄では便宜上1年前期に集計してある。
 工学特別ゼミナールは、通年履修科目であるが、開設単位数の欄では、便宜上、1、2年次共、前期に集計してある。

資料 5-7-①-2

| | | | | | | | | | | |
|-------------|--------------------------------|-------------|--------------------------|---------|----------|----------|-----------|-------------|----------|-------------|
| 教員氏名 | | 学生氏名 | | 学年・クラス | 2M | 実施報告チェック | 教員印 | 実施期間 | 平成24年度通年 | |
| 研究課題 | | | | 専門領域 | | | 平成 年 月 日 | 実施時間 | | |
| 研究概要 | | | | | | | | 学年成績 | 0 | |
| 特別研究進捗状況の評価 | | | | | | | | | | |
| No. | 到達目標 | 指導方法 | 評価方法 | 学習指導要領 | 成績評価(注※) | 配分 | 特記事項 | 教育目標ごとの成績評価 | | |
| 1 | 実験計画を立て、その計画に沿って研究を進めることができる | 指導教員が指導 | 特別研究の進捗状況をもとに指導教員(主査)が評価 | B-e | | 20% | | 0 | | |
| 特別研究論文の評価 | | | | | | | | | | |
| No. | 到達目標 | 指導方法 | 評価方法 | 学習指導要領 | 成績評価(注※) | 配分 | 成績評価(副査)※ | 配分 | 特記事項 | 教育目標ごとの成績評価 |
| 2 | 研究に関連する資料・情報を収集・活用できる | 特別研究論文の作成指導 | 指導教員(主査・副査)が特別研究論文を評価 | B-h | | 15% | | 5% | | 0 |
| 3 | 研究データを収集・整理、問題点を分析し、解決策を考察できる | 特別研究論文の作成指導 | | B-d(2)c | | 15% | | 5% | | 0 |
| 4 | 研究成果を整理して成果報告のための資料を作成できる | 特別研究論文の作成指導 | | B-d(2)b | | 10% | | 10% | | 0 |
| 特別研究発表会の評価 | | | | | | | | | | |
| No. | 到達目標 | 指導方法 | 評価方法 | 学習指導要領 | 成績評価(注※) | 配分 | 特記事項 | 教育目標ごとの成績評価 | | |
| 5 | 研究成果を発表し、討議できる | 口頭発表指導 | 特別研究発表会を聴講した教員が発表状況の評価 | D-f | | 20% | | 0 | | |
| 成績評価基準※ | | | | | | | | | | |
| 点数 | 判断基準 | | | | | | | | | |
| 100点～90点 | 自主的に、設定した目標に到達した。 | | | | | | | | | |
| 89点～80点 | ほぼ、自主的に設定した目標に到達した。 | | | | | | | | | |
| 79点～70点 | 指導教員による補助のもと、設定した目標に到達した。 | | | | | | | | | |
| 69点～60点 | 指導教員によるきめ細かな補助のもと、設定した目標に到達した。 | | | | | | | | | |
| 59点以下 | 達成目標に到達することができなかった。 | | | | | | | | | |

(出典 研究指導報告書)

(分析結果とその根拠理由)

一般科目の授業により教養教育が適正に行われ、きめ細かな特別研究指導によって研究指導が適切に行われている。

観点5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価、単位認定規定が策定されており、シラバス、学生便覧に掲載され、周知されている(資料 5-8-①-1)。専攻科の成績評価や単位認定、修了判定は、学則で定めた判定会議で議論し、基準に沿って適正に判定している。また本科と同様の授業進捗報告書を提出している。成績評価については、答案用紙と成績評価の根拠となった資料等のデータを残し、客観性を持たせるようにしている。

III.専攻科に関する規則

和歌山工業高等専門学校専攻科授業科目の履修に関する規則

制 定 平成14年4月1日
最近改正 平成19年4月1日

- 通則
- 第1条 和歌山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学則第16条第2項及び第49条の規定に基づき、専攻科授業科目の履修方法及び成績の評価並びに履修に関するこの規則の定めるところによる。
- 授業
- 第2条 授業の1単位時間は、標準60分とする。
- 1 専門の履修時間は、授業及び教室外での学習を合わせて4.5単位時間とし、次の基準により単位数を計算するものとする。
- 1 講義については、1.5単位時間の授業をもって1単位とする。
- 2 実習については、3.0単位時間の授業をもって1単位とする。
- 3 実習及び実験については、4.5単位時間の授業をもって1単位とする。
- 履修方法
- 第3条 授業科目の履修に当たっては、年度当初に申請できる履修単を提出しなければならない。
- 試験
- 第4条 試験は定期試験及び追試験とする。
- 1 定期試験は、前期末及び学期末に実施する。
- 2 追試験は、病気その他やむを得ない理由により、定期試験を受けられなかった者に対して実施する。（成績評価）
- 第5条 成績は、授業科目ごとに前条に規定する試験の成績及び授業中の学習状況等を総合して評価する。
- 2 成績の評点及び評定は次のとおりとする。
- | | | | | |
|-----|----------|---------|---------|-------|
| 評 点 | 1.00～8.0 | 7.0～6.0 | 6.9～6.0 | 5.9以下 |
| 評 定 | A | B | C | D |
- （単位の設定）
- 第6条 前条第2項の規定に基づき、A、B及びCに評定された科目については、当該授業科目の単位を履修したものと認定する。
- （再履修）
- 第7条 単位を認定されなかった授業科目は、原則としてその年度において再履修するものとする。（修了に必要な要件）
- 第8条 専攻科の修了は、学則第47条に規定するものにより、専攻科区分による単位を修得し、かつ、原則として、次の各号の要件を満たしていなければならない。
- | 専攻 | 科目 | | 合 計 |
|--------------|-------|---------|--------|
| | 一般科目 | 専 門 科 目 | |
| メカトロニクス工学専攻 | 6単位以上 | 36単位以上 | 62単位以上 |
| エレクトロニクス工学専攻 | 6単位以上 | 36単位以上 | 62単位以上 |
- 1 専攻科修了のための学修成果レポートを大学評価・学修成果評価に提出していること。
- 2 地域連携デザイン工学教育プログラム（以下「DIPプログラム」という。）において12.4単位以上修得していること。
- 3 DIPプログラムにおいて総学習時間が1800時間以上であること。
- 4 DIPプログラムにおいて人文科学・社会科学（授業表を参照）専攻の学習時間が250時間以上であること。
- 5 DIPプログラムにおいて数学・自然科学及び情報技術専攻の学習時間が50時間以上であること。
- 6 DIPプログラムにおいて専門科目の学習時間が24単位以上であること。
- 7 DIPプログラムにおいて別に定める達成度評価基準に合格していること。
- 8 専攻で履修した単位認定
- 第9条 本校の他専攻で開設されている選択科目の履修を希望する者は、あらかじめ指導教員の許可を得たうえで、受講単を提出しなければならない。これにより修得した単位は、8単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修をみなし、その単位の修得として認定することができる。（他の教育施設等での学修等及び単位認定）
- 第10条 大学及び他の高等専門学校の専攻科等（以下「他専攻」という。）で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ大学の許可を得たうえで、受講単を提出しなければならない。これにより修得した単位は、16単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修をみなし、その単位の修得として認定することができる。ただし、これにより修得した一般科目の単位は2単位を限度とし、専門科目の単位は1.4単位を限度とする。
- 2 前項以外で、単位を認定する場合の要項は別に定める。
- （補則）
- 第11条 この規定に定めるもののほか、専攻科の授業科目の履修に関し必要な事項は、別に定める。
- 附 則
- （省略）

（分析結果とその根拠理由）

成績評価、単位認定規定が専攻科シラバスや学生便覧をとおして、学生に周知されている。成績評価や単位認定、修了判定は成績判定会議で行っており、基準に沿って適正に実施がなされている。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学科の改称や授業内容の再編成、他の教育機関との連携や単位互換をとおして、学生の多様なニーズや学術の発展の動向に対応している。また、外部の学識研究者・企業経営者からの意見を受け、社会からの要請等に配慮した内容へ順応するべく対応している。教養科目や専門科目においても多様な選択科目を開講し学生たちに提供している。

専攻科のカリキュラムは本科のカリキュラムとの整合性を考慮して配置している。とりわけ、学生が自ら自分の技術や学術の幅を広げる事が出来るように工夫している。カリキュラムの見直しを適宜行い、常に時代に則した技術や学術を学べるような体制にしている。JABEEの審査を通った国際水準を満たしたカリキュラム構成である。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準5の自己評価の概要

準学士課程である本科、および学士課程である専攻科において、教育の目的に照らして、教育課程が体系的に編成されており、その内容や水準は適切である。学生や社会の多様なニーズに対応した授業内容である。機械工学科から知能機械工学科への改称を行い、知的財産教育や創造教育を導入している。

教育課程を展開するにふさわしい授業形態や学習指導法等が整備されており、豊かな人間性の涵養に関する取組も適切に行われている。FD活動の一環として、教員間の授業参観をし、数学や物理ワーキンググループにより、授業方法や指導方法の改善も進めている。授業目的や成績評価を記載したシラバスが作成され、担当教員は授業進捗を報告している。インターンシップや、学生会そして寮生会、また部活動により、学生たちのリーダーシップや豊かな人間性を育てている。本科と専攻科のカリキュラムは研究の発展性、整合性を配慮して構成され、JABEEの審査基準を満たしている。特別研究について、主査と副査の2名の教員を配置し、きめ細かな研究指導を行っている。成績評価、単位認定、進級・卒業認定、そして修了認定は判定会議で適切に実施している。

基準 6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 6-1-①： 高等専門学校として、その教育の目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成しようとする人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

本校では、教育理念（資料 4-1-①-1 参照）に沿った各学科の人材養成目的（資料 4-1-①-3 参照）を設定し、それを達成するための授業科目を配置している。学生が各授業科目の単位を修得し、卒業（修了）要件（資料 6-1-①-1, 2）を満たすことで身に付けるべき学力や資質・能力に到達したと判断している。

学生の達成状況を把握する方法として、各学期末に成績判定会を実施している（資料 6-1-①-3, 4）。本科課程については「成績一覧表」および「卒業判定資料」（資料 6-1-①-5, 6（訪問調査時の確認資料））を、専攻科課程については「成績一覧表」に加えて「学習時間と単位の換算表及び履修確認表」（資料 6-1-①-7）および「学習目標に対する単位の換算表及び履修確認表」（資料 6-1-①-8）を作成し、達成要件を満たしているか確認した上で、卒業（修了）判定会において卒業（修了）認定を行っている。

資料 6-1-①-1

学業成績評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則

（卒業認定）

第 12 条 第 5 学年の課程を修了し、一般科目について 75 単位以上、専門科目について 82 単位以上、かつ合計 167 単位以上を修得した者は、本校全学年の課程を修了した者として、校長が卒業を認定する。

（出典 平成 24 年度学生便覧 p. 43）

資料 6-1-①-2

専攻科授業科目の履修に関する規則

(修了に必要な要件)

第 8 条 専攻科の修了認定は、専攻科成績判定会議で審議の上、校長が行う。

2 専攻科の修了は、学則第 4 7 条に規定するもののほか、次の区分による単位を修得し、かつ、原則として、次の各号の要件を満たしていなければならない。

| 専攻 | 科目 | 専 門 科 目 | | 合 計 | |
|----|-------------|---------|----------|----------|----------|
| | | 一般科目 | 専門共通科目 | | 専門専攻科目 |
| | メカトロニクス工学専攻 | 6 単位以上 | 1 2 単位以上 | 3 6 単位以上 | 6 2 単位以上 |
| | エコシステム工学専攻 | 6 単位以上 | 1 2 単位以上 | 3 6 単位以上 | 6 2 単位以上 |

- 一 学位取得のための学修成果レポートを大学評価・学位授与機構に提出していること。
- 二 地域環境デザイン工学教育プログラム（以下同プログラムという。）において 1 2 4 単位以上修得していること。
- 三 同プログラムにおいて総学習時間が 1 8 0 0 時間以上であること。
- 四 同プログラムにおいて人文科学・社会科学（語学教育を含む。）等の学習時間が 2 5 0 時間以上であること。
- 五 同プログラムにおいて数学・自然科学及び情報技術の学習時間が 2 5 0 時間以上であること。
- 六 同プログラムにおいて専門科目の学習時間が 9 0 0 時間以上であること。
- 七 同プログラムにおいて別に定める達成度評価基準に合格していること。

(出典 平成 24 年度学生便覧 p. 51)

資料 6-1-①-3

本科成績判定会規則

(設置)

第 1 条 和歌山工業高等専門学校に成績判定会を置く。

(審議事項)

第 2 条 成績判定会は、学業成績評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則に定める本科(第 1 学年から第 5 学年)の学生の成績評価並びに進級及び卒業の認定について審議する。

(組織)

第 3 条 成績判定会は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 教務主事
- 二 各専門学科主任
- 三 一般科目主任
- 四 専攻科長
- 五 教務主事補
- 六 校長が必要と認めた者

2 成績判定会には、副校長、学生主事及び寮務主事がオブザーバーとして参加する。

(運営)

第 4 条 成績判定会は、教務主事が招集し、その議長となる。

2 成績判定会が必要と認めたときは、第 3 条に掲げる者以外の者を出席させて意見を聴することができる。

(成績判定会の事務)

第 5 条 成績判定会に関する事務は、学生課において処理する。

(出典 本校ホームページ 規則集)

資料 6-1-①-4

専攻科成績判定会規則

(設置)

第 1 条 和歌山工業高等専門学校に専攻科成績判定会を置く。

(審議事項)

第 2 条 専攻科成績判定会は、和歌山工業高等専門学校専攻科授業科目の履修に関する規則に定める成績評価及び修了の認定について審議する。

(組織)

第 3 条 専攻科成績判定会は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 専攻科長
- 二 教務主事
- 三 各専門学科主任
- 四 一般科目主任
- 五 副専攻科長
- 六 校長が必要と認めたる者

2 専攻科成績判定会には、副校長、学生主事及び寮務主事がオブザーバーとして参加する。

(運営)

第 4 条 専攻科成績判定会は、専攻科長が招集し、その議長となる。

2 専攻科成績判定会が必要と認めるときは、第 3 条に掲げる者以外の者を出席させて意見を聴することができる。

(専攻科成績判定会の事務)

第 5 条 専攻科成績判定会に関する事務は、学生課において処理する。

(出典 本校ホームページ 規則集)

資料 6-1-①-5

成績一覧表様式

| | | 平成 | | 年度 | | 第 | | 学年 | | 組 | | 担任 | |
|----------|----------|----|---|----|---|---|---|----|---|---|----|----|----|
| 学級
番号 | 科目名 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| | 担当教官 | | | | | | | | | | | | |
| | 氏名 単位数 | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | | | |

(出典 学生課資料)

資料 6-1-①-6

卒業判定資料様式

| 前年度
留年等 | クラス番号 | 氏名 | 選択・必須 | 通年次 | 科目 | 担当 | 単位 | 得点 | 欠課 | 欠課1/3↑ | 期間 | 未履修認定 | 最終単位数 | 判定 | 卒業特別指導 |
|------------|-------|----|-------|-----|----|----|----|----|----|--------|----|-------|-------|----|--------|
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ① - 7

学習時間と単位の換算表および履修確認表

メカトロニクス工学専攻 (機械→メカ)

| 分野 | 履修要件 | 科目 | 学年 | 必・選 | 単位数 | 学籍番号 | | | | |
|------------------------|-------------|---------------|-----|-----|-----|------|------|----|------|-----|
| | | | | | | 氏名 | 時間 | 単位 | 履修時間 | |
| 人文科学、社会科学等(語学教育を含む)の学習 | 学習時間250時間以上 | 英語 | 本4年 | 必修 | 2 | | 45 | 2 | 45 | |
| | | 社会と人間 | 本4年 | 必修 | 1 | | 22.5 | 1 | 22.5 | |
| | | 保健・体育 | 本4年 | 必修 | 2 | | 45 | 2 | 45 | |
| | | 工業外国語 | 本4年 | 必修 | 1 | | 22.5 | 1 | 22.5 | |
| | | 第2外国語A I | 本4年 | 選択 | 3 | | 67.5 | | | |
| | | 第2外国語B I | 本4年 | 選択 | 3 | | 67.5 | 3 | 67.5 | |
| | | 第2外国語C I | 本4年 | 選択 | 3 | | 67.5 | | | |
| | | 保健・体育 | 本5年 | 必修 | 2 | | 45 | 2 | 45 | |
| | | 英語A | 本5年 | 選択 | 2 | | 45 | 2 | 45 | |
| | | 英語B | 本5年 | 選択 | 2 | | 45 | | | |
| | | 地域と文化 I | 本5年 | 選択 | 1 | | 22.5 | 1 | 22.5 | |
| | | 地域と文化 II | 本5年 | 選択 | 1 | | 22.5 | | | |
| | | 地域と文化 III | 本5年 | 選択 | 1 | | 22.5 | | | |
| | | 地域と文化 IV | 本5年 | 選択 | 1 | | 22.5 | | | |
| | | 第2外国語A II | 本5年 | 選択 | 2 | | 45 | | | |
| | | 第2外国語B II | 本5年 | 選択 | 2 | | 45 | | | |
| | | 第2外国語C II | 本5年 | 選択 | 2 | | 45 | | | |
| | | 知的財産権 | 本5年 | 選択 | 1 | | 22.5 | | | |
| | | 時事英語 | 専1年 | 必修 | 2 | | 27 | 2 | 27 | |
| | | 実用英会話 | 専1年 | 必修 | 2 | | 27 | 2 | 27 | |
| | | ビジネスコミュニケーション | 専1年 | 選択 | 2 | | 27 | 2 | 27 | |
| | | テクニカルライティング | 専1年 | 選択 | 2 | | 27 | | | |
| | | 現代アジア論 | 専2年 | 選択 | 2 | | 27 | | | |
| | | 技術者倫理 | 専2年 | 必修 | 2 | | 27 | 2 | 27 | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 小計 | 22 | 423 |
| 数学、自然科学、情報技術の学習 | 学習時間250時間以上 | 応用数学 | 本4年 | 必修 | 2 | | 45 | 2 | 45 | |
| | | 応用数学(学修単位) | 本5年 | 必修 | 2 | | 27 | 2 | 27 | |
| | | 情報処理 | 本4年 | 必修 | 2 | | 45 | 2 | 45 | |
| | | 応用物理 | 本4年 | 必修 | 2 | | 45 | 2 | 45 | |
| | | 数理工学 | 専1年 | 選択 | 2 | | 27 | 2 | 27 | |
| | | 数理統計学 | 専1年 | 選択 | 2 | | 27 | 2 | 27 | |
| | | 数値計算・解析法 | 専1年 | 選択 | 2 | | 27 | 2 | 27 | |
| | | 量子力学 | 専1年 | 選択 | 2 | | 27 | 2 | 27 | |
| | | 線形代数 | 専1年 | 選択 | 2 | | 27 | 2 | 27 | |
| | | | | | | | | | | |

以下省略

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ① - 8

学習目標に対する単位の換算表および履修確認表

メカトロニクス工学専攻 (機械→メカ)

(評価点を記入)

| 学習教育目標 | 科目 | 学年 | 必・選 | 単位 | 関連する基準1 | 履修要件 | 必要単位数 | 単位 | 評価 | |
|---|---|----------|-----|-----|--------------------------------|---|---|-----|----|----|
| (A) 和歌山県の地域環境、地域社会との共生に関する理解および倫理観を身につけ、公共の安全や利益に配慮したもののづくりの考え方を理解し説明できる。 | 社会と人間 | 本4年 | 必修 | 1 | (a) | 社会と人間、地域と文化(本科)、現代アジア論(専攻科)
上記科目よりのうち1単位以上修得を義務づける。
各科目の修得条件はシラバスに記載する | 1 | 1 | 92 | |
| | 地域と文化 I | 本5年 | 選択 | 1 | | | | 1 | 84 | |
| | 地域と文化 II | 本5年 | 選択 | 1 | | | | | | |
| | 地域と文化 III | 本5年 | 選択 | 1 | | | | | | |
| | 地域と文化 IV | 本5年 | 選択 | 1 | | | | | | |
| | 現代アジア論 | 専2年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | | | | | 小計 | | | 2 | 合格 | |
| | (B) 社会のニーズおよび地球環境に配慮し、かつ与えられた制約下で、工学の基礎的な知識・技術を統合して課題を解決するデザイン能力を身に付ける。 | 知的財産権 | 本5年 | 選択 | 1 | (b) | 知的財産権(本科)、技術者倫理、環境アセスメント、環境マネジメント(専攻科)
上記の科目より2単位以上の修得を義務づける。
修得条件はシラバスに記載する。 | 2 | 2 | 77 |
| | | 技術者倫理 | 専2年 | 必修 | 2 | | | | 2 | 85 |
| | | 環境アセスメント | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | |
| 環境マネジメント | | 専2年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | | | | | 小計 | | | | | 4 |
| (C) 工学実験、卒業研究(本科)、工学特別実験、工学特別研究(専攻科)創造プログラミング
上記の科目より31単位以上の修得を義務づける。
修得条件はシラバスに記載。 | 機械工学実験 | 本4年 | 必修 | 3 | (d2_b)
(d2_c)
(e)
(h) | 工学実験、卒業研究(本科)、工学特別実験、工学特別研究(専攻科)
創造プログラミング
上記の科目より31単位以上の修得を義務づける。
修得条件はシラバスに記載。 | 31 | 3 | 82 | |
| | 機械工学実験 | 本5年 | 必修 | 1.5 | | | | 1.5 | 81 | |
| | 卒業研究 | 本5年 | 必修 | 8.5 | | | | 8.5 | 合 | |
| | 工学特別実験 | 専1年 | 必修 | 4 | | | | 4 | 81 | |
| | 特別研究(1年次) | 専1年 | 必修 | 4 | | | | 4 | 79 | |
| | 特別研究(2年次) | 専2年 | 必修 | 10 | | | | 10 | 80 | |
| | 創造プログラミング | 専2年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | | | | 小計 | | 31 | 31 | 合格 | | |
| 情報処理、応用数学、応用物理(本科)数理工学、数理統計学、数値計算、解析法、量子力学、物性 | 情報処理 | 本4年 | 必修 | 2 | | | | 2 | 96 | |
| | 応用数学 | 本4年 | 必修 | 2 | | | | 2 | 85 | |
| | 応用数学(学修単位) | 本5年 | 必修 | 2 | | | | 2 | 87 | |
| | 応用物理 | 本4年 | 必修 | 2 | | | | 2 | 90 | |
| | 数理工学 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | 2 | 78 | |

以下省略

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、教育理念に沿って人材養成目的および授業科目を配置しており、授業科目の単位を修得し、卒業（修了）要件を満たすことで身に付けるべき学力や資質・能力に到達したことを卒業（修了）判定会で認定している。したがって、教育理念に沿って、人材養成目的に合致した人材像、身に付けるべき学力や資質・能力等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。本科課程において人材養成目的の項目別に学力等の達成状況を把握・評価するための取組は十分とは言えないが、専攻科課程においては身に付ける学力や資質・能力等の達成状況を学習・教育目標の項目毎に確認している。

観点 6-1-②： 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、学校としてその達成状況を評価した結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本科課程では、定期試験を年に4回実施し、前・後学期末の成績判定会において全学生の学習達成度を把握している（資料6-1-①-4参照）。平成18～23年度の進級率（本科および専攻科課程平均）は93.8～96.3%であり、全学生約880名中の再履修（留年）者は14～28名（1.7～3.3%）である（資料6-1-②-1）。

本科課程の卒業研究および専攻科課程の特別研究では、学科・専攻毎に年に数回の発表会を実施して進捗状況を把握し、主査・副査による複数指導体制と相まってきめ細かな指導を行っている（資料6-1-②-2, 3）。さらに卒業研究、特別研究での優秀な研究に対しては卒業式で表彰して学生への動機付けを行っている（資料6-1-②-4）。また、学生の学協会発表旅費を学内で予算化する等、外部での研究発表も積極的に支援している（資料6-1-②-5, 6）。その結果、学協会において表彰を受ける件数も増加している（資料6-1-②-7）。

さらに各種英語検定や資格試験合格者に外部単位を認める等、学外の資格取得を奨励し、学生の能力向上を図っている（資料6-1-②-8, 9, 10）。

資料 6 - 1 - ② - 1

進級等の状況

| 分類
年度 | 現員
(年度当初) | 退学者
(年度内) | 休学者
(年度内) | 復学者
(再履修) | 再履修者 | 進級率
(%) | 退学率
(%) | 再履修率
(%) |
|----------|--------------|--------------|--------------|--------------|------|------------|------------|-------------|
| H18 | 881 | 17 | 4 | 2 | 22 | 95.35 | 1.93 | 2.72 |
| H19 | 867 | 25 | 8 | 5 | 24 | 93.77 | 2.88 | 3.34 |
| H20 | 869 | 13 | 5 | 2 | 21 | 95.86 | 1.50 | 2.65 |
| H21 | 875 | 19 | 4 | 1 | 14 | 96.11 | 2.17 | 1.71 |
| H22 | 888 | 15 | 4 | 2 | 16 | 96.28 | 1.69 | 2.03 |
| H23 | 881 | 12 | 0 | 0 | 28 | 95.46 | 1.36 | 3.18 |

(出典 学生課資料より作成)

資料 6 - 1 - ② - 2

専攻科特別研究発表会の実施状況

(1) 特別研究発表会(発表会の形式についてはその都度連絡します。)

| 内容 | 連絡元 → 連絡先 | 配布物等 | 第1,3回特別研究中間発表会 | | | 特別研究最終発表会(2年) | | | 第2回特別研究中間発表会(1年) | | |
|-----------------|-------------------|-------------------------|----------------|-----|-----|---------------|-----|-----|------------------|-----|-----|
| | | | 日程 | 日程 | 日程 | 日程 | 日程 | 日程 | 日程 | 日程 | |
| 専攻科生指導教員へのアナウンス | 副専攻科長 → 専攻科生・指導教員 | 要旨集様式等 | 7月 | 2日 | (月) | 12月 | 10日 | (月) | 1月 | 21日 | (月) |
| 要旨集の提出 | 専攻科生 → 副専攻科長 | 要旨集原稿(PDFファイル、Wordファイル) | 7月 | 25日 | (水) | 1月 | 9日 | (水) | 2月 | 20日 | (水) |
| 要旨集の配布 | 副専攻科長 → 指導教員 | 要旨集(印刷物、PDFファイル) | 7月 | 30日 | (月) | 1月 | 11日 | (金) | 2月 | 25日 | (月) |
| 発表会、聴講教員による成績評価 | 聴講教員 → 副専攻科長 | 聴講教員による成績評価シート | 8月 | 3日 | (金) | 1月 | 16日 | (水) | 2月 | 27日 | (水) |
| 聴講教員による成績評価の配布 | 副専攻科長 → 指導教員 | 聴講教員による成績評価結果 | 8月 | 6日 | (月) | 1月 | 17日 | (木) | 2月 | 28日 | (木) |
| 特別研究評価報告書の提出 | 指導教員 → 副専攻科長 | 特別研究評価報告書、特別研究実施時間報告書 | 8月 | 23日 | (木) | 2月 | 8日 | (金) | 3月 | 4日 | (月) |

(出典 平成 24 年度専攻科シラバス p. C-28)

資料 6 - 1 - ② - 3

専攻科特別研究の評価シート

| | | | | | | | | | | |
|-------------|--------------------------------|-------------|--------------------------|----------|-----------|-----|-----------|-------------|------|-------------|
| 教員氏名 | 学生氏名 | 学年・クラス | 実施報告チェック | 実施期間 | | | | | | |
| | | 2M | 教員印
平成 年 月 日 | 平成24年度通年 | | | | | | |
| 研究課題 | 専門領域 | 実施時間 | | 時間 | | | | | | |
| 研究概要 | | | | 学年成績 | | | | | | |
| | | | | 0 | | | | | | |
| 特別研究進捗状況の評価 | | | | | | | | | | |
| No. | 到達目標 | 指導方法 | 評価方法 | 学習教育目標 | 成績評価(主査)※ | 配分 | 特記事項 | 教育目標ごとの成績評価 | | |
| 1 | 実験計画を立て、その計画に沿って研究を進めることができる | 指導教員が指導 | 特別研究の進捗状況をもとに指導教員(主査)が評価 | B-e | | 20% | | 0 | | |
| 特別研究論文の評価 | | | | | | | | | | |
| No. | 到達目標 | 指導方法 | 評価方法 | 学習教育目標 | 成績評価(主査)※ | 配分 | 成績評価(副査)※ | 配分 | 特記事項 | 教育目標ごとの成績評価 |
| 2 | 研究に関連する資料・情報を収集・活用できる | 特別研究論文の作成指導 | 指導教員(主査・副査)が特別研究論文を評価 | B-h | | 15% | | 5% | | 0 |
| 3 | 研究データを収集・整理、問題点を分析し、解決策を考察できる | 特別研究論文の作成指導 | | B-d(2)c | | 15% | | 5% | | 0 |
| 4 | 研究成果を整理して成果報告のための資料を作成できる | 特別研究論文の作成指導 | | B-d(2)b | | 10% | | 10% | | 0 |
| 特別研究発表会の評価 | | | | | | | | | | |
| No. | 到達目標 | 指導方法 | 評価方法 | 学習教育目標 | 成績評価(主査)※ | 配分 | 特記事項 | 教育目標ごとの成績評価 | | |
| 5 | 研究成果を発表し、討議できる | 口頭発表指導 | 特別研究発表会を聴講した教員が発表状況の評価 | D-f | | 20% | | 0 | | |
| 成績評価基準※ | | | | | | | | | | |
| 点数 | 判断基準 | | 備考 | | | | | | | |
| 100点～90点 | 自主的に、設定した目標に到達した。 | | | | | | | | | |
| 89点～80点 | ほぼ、自主的に設定した目標に到達した。 | | | | | | | | | |
| 79点～70点 | 指導教員による補助のもと、設定した目標に到達した。 | | | | | | | | | |
| 69点～60点 | 指導教員によるきめ細かな補助のもと、設定した目標に到達した。 | | | | | | | | | |
| 59点以下 | 達成目標に到達することができなかった。 | | | | | | | | | |

(出典 平成24年度専攻科シラバス p. C-32)

資料 6 - 1 - ② - 4

特別賞受賞者

| 年度 | 学科/専攻 | 氏名 | 受賞名 |
|---------------|----------------|-----------------|-----------------|
| 20 | 機械工学科 | 坂口 友哉 | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | | 宮本 琢也 | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | | 山本 浩嗣 | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | 電気情報工学科 | 関本 正光 | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | 物質工学科 | 谷藤 可菜 | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | 環境都市工学科 | 山中 悠資 | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | 専攻科メカトロニクス工学専攻 | 伊藤 晃大 | 本校特別研究発表会 最優秀発表 |
| 専攻科エコシステム工学専攻 | 竹中 翔大 | 本校特別研究発表会 最優秀発表 | |
| 21 | 機械工学科 | 岸 大輔 | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | 電気情報工学科 | 坂井 亮太 | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | | 中川 翔太 | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | 物質工学科 | リー ワン イン | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | 環境都市工学科 | 西原 真美 | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | 専攻科メカトロニクス工学専攻 | 東内 基 | 本校特別研究発表会 最優秀発表 |
| 専攻科エコシステム工学専攻 | 池谷 壤 | 本校特別研究発表会 最優秀発表 | |
| 22 | 機械工学科 | 辻本 義孝 | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | 電気情報工学科 | 小川 智史 | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | 物質工学科 | 村瀬 本弥 | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | 環境都市工学科 | 河波 秀美 | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | 専攻科メカトロニクス工学専攻 | 林 明音 | 本校特別研究発表会 最優秀発表 |
| 専攻科エコシステム工学専攻 | 稲葉 慧 | 本校特別研究発表会 最優秀発表 | |
| 23 | 機械工学科 | 成田 昌史 | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | 電気情報工学科 | YUP PUI SAN | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | 物質工学科 | 馬場 竜希 | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | 環境都市工学科 | 笠谷 亮太 | 本校卒業研究発表会 最優秀発表 |
| | 専攻科メカトロニクス工学専攻 | 辻田 和真 | 本校特別研究発表会 最優秀発表 |
| 専攻科エコシステム工学専攻 | 脇村 晋太郎 | 本校特別研究発表会 最優秀発表 | |

(出典 学生課資料)

資料 6-1-②-5

本科学生の学外研究発表旅費補助

【教務係提出期限】平成23年12月9日（金）

学科：物質工学科

| 番号 | クラス | 学生名 | 指導教員 | 学会名称
(開催期間) | 開催場所
住所 | 旅行予定日 | 日帰り
宿泊 | 経費種算(予定額) | | | | 支給額 | 備考 | | |
|----|-----|-----|------|--|---------------------------------|-----------------------|-----------|-----------|---------|---|--------|--------|---------|---------|---------------|
| | | | | | | | | 鉄道 | | その他 | | | | 宿泊料 | 計 |
| | | | | | | | | 経路 | 金額 | 経路 | 金額 | | | | |
| 1 | 5C | | | 2011年日本化学会西日本大会
(H23.11.12-H23.11.13) | 徳島大学工学部 常三島キャンパス
徳島市南常三島町2-1 | H23.11.12 | 日帰り | 御坊⇔和歌山港 | 2,200 | バス和高専⇔御坊900円
(和歌山港⇔徳島大900円
船和歌山港⇔徳島港4,000円) | 5,800 | 8,000 | 8,000 | | |
| 2 | 5C | | | 2011年日本化学会西日本大会
(H23.11.12-H23.11.13) | 徳島大学工学部 常三島キャンパス
徳島市南常三島町2-1 | H23.11.12 | 日帰り | 御坊⇔和歌山港 | 2,200 | バス和高専⇔御坊900円
(和歌山港⇔徳島大900円
船和歌山港⇔徳島港4,000円) | 5,800 | 8,000 | 8,000 | | |
| 3 | 5C | | | 2011年日本化学会西日本大会
(H23.11.12-H23.11.13) | 徳島大学工学部 常三島キャンパス
徳島市南常三島町2-1 | H23.11.12 | 日帰り | 御坊⇔和歌山港 | 2,200 | バス和高専⇔御坊900円
(和歌山港⇔徳島大900円
船和歌山港⇔徳島港4,000円) | 5,800 | 8,000 | 8,000 | | |
| 4 | 5C | | | 日本化学会第92春季年会
(H24.3.25-28) | 徳島大学工学部 常三島キャンパス
徳島市南常三島町2-1 | H24.3.25-28 | 宿泊 | 御坊⇔横浜(白楽) | 24,400 | バス(和高専⇔御坊) | 900 | 6,000 | 31,300 | 10,560 | 注:特別引
学生割引 |
| 5 | 5C | | | 第17回高専シンポジウムin熊本
(2012.1.28) | 森城大学市民ホール
熊本市桜町1-3 | H24.1.28 | 宿泊 | 御坊⇔熊本 | 28,288 | バス(和高専⇔御坊) | 900 | 5,500 | 34,688 | 10,560 | |
| 6 | 5C | | | 第17回高専シンポジウムin熊本
(2012.1.28) | 森城大学市民ホール
熊本市桜町1-3 | H24.1.28 | 宿泊 | 御坊⇔熊本 | 28,288 | バス(和高専⇔御坊) | 900 | 5,500 | 34,688 | 10,560 | |
| 7 | 5C | | | 第17回高専シンポジウムin熊本
(2012.1.28) | 森城大学市民ホール
熊本市桜町1-3 | H24.1.28 | 宿泊 | 御坊⇔熊本 | 28,288 | バス(和高専⇔御坊) | 900 | 5,500 | 34,688 | 10,560 | |
| 8 | 5C | | | 第17回高専シンポジウムin熊本
(2012.1.28) | 森城大学市民ホール
熊本市桜町1-3 | H24.1.27
~H24.1.29 | 宿泊 | 御坊⇔熊本 | 28,288 | バス(和高専⇔御坊) | 900 | 5,500 | 34,688 | 10,560 | |
| 9 | 5C | | | 第17回高専シンポジウムin熊本
(2012.1.28) | 森城大学市民ホール
熊本市桜町1-3 | H24.1.27
~H24.1.29 | 宿泊 | 御坊⇔熊本 | 28,288 | バス(和高専⇔御坊) | 900 | 5,500 | 34,688 | 10,560 | |
| 10 | 5C | | | 第17回高専シンポジウムin熊本
(2012.1.28) | 森城大学市民ホール
熊本市桜町1-3 | H24.1.27
~H24.1.29 | 宿泊 | 御坊⇔熊本 | 28,288 | バス(和高専⇔御坊) | 900 | 5,500 | 34,688 | 10,560 | |
| 11 | 5C | | | 第17回高専シンポジウムin熊本
(2012.1.28) | 森城大学市民ホール
熊本市桜町1-3 | H24.1.27
~H24.1.29 | 宿泊 | 御坊⇔熊本 | 28,288 | バス(和高専⇔御坊) | 900 | 5,500 | 34,688 | 10,560 | |
| 12 | 5C | | | 第14回化学工学会学生発表会学
部大会(2012.3.3) | 宇部高専
宇部市常盤台2-14-1 | H24.3.2
~H24.3.3 | 宿泊 | 御坊⇔宇部新川 | 23,630 | バス(和高専⇔御坊) | 900 | 5,500 | 30,030 | 10,560 | 注:特別引
学生割引 |
| 13 | 5C | | | H23日本化学会近畿支部工業高等専
門学校生 化学研究発表会 | 大阪科学技術センター
大阪市西区鶴本町1-8-4 | H24.3.13 | 日帰り | 御坊⇔本町 | 3,480 | バス(和高専⇔御坊) | 900 | | 4,380 | 4,380 | |
| 14 | 5C | | | H23日本化学会近畿支部工業高等専
門学校生 化学研究発表会 | 大阪科学技術センター
大阪市西区鶴本町1-8-4 | H24.3.13 | 日帰り | 御坊⇔本町 | 3,480 | バス(和高専⇔御坊) | 900 | | 4,380 | 4,380 | |
| 小計 | | | | | | | | | 252,646 | | 25,500 | 50,000 | 328,146 | 127,800 | |

(出典 学生課資料 平成23年度物質工学科例)

資料 6-1-②-6

専攻科学生の学外研究発表旅費補助

専攻科平成23年度学会発表計画

教員申請 教員申請 専攻科計算 専攻科計算 J/1.27(西橋五入)

| クラス | 学生名 | 指導教員 | 学会名称 | 開催時期 | 場所 | 出張日数 | 費用/円 | 費用内訳 | 算出額/円 | 算計内訳 | 補助額 | 備考 |
|-----|-----|------|-------------------------------|---------------|--------------------------------|------|--------|---------------------------------------|--------|--|--------|---------|
| 1E | | | 第4回環境工学研究フォーラム(土木学会) | 2011/11/25-27 | 大岡大学/愛知県名古屋市南区 | 1日 | 16,080 | JR+名鉄:16,980 | 16,080 | 片道バス450,JR乗4200,泊特(800,2410),右
鉄290 | 12,650 | |
| 1E | | | 平成23年度土木学会全国大会 | 2011/9/9-8 | 愛媛大学/愛媛県松山市 | 4日 | 23,880 | バス900,JE22980 | 23,880 | 片道バス450,JR乗670,泊特(1380,2410,
1150) | 18,800 | |
| 2E | | | 電気学会関西支部連合大会 | 2011/10/29-30 | 兵庫県立大学/兵庫県姫路市常三島1-67 | 2日 | 12,320 | 片道バス450,JR乗2850,バス380/名5000 | 12,320 | 片道バス450,JR乗2850,バス380/名5000 | 9,700 | |
| 2E | | | 電気学会関西支部連合大会 | 2011/10/29-30 | 兵庫県立大学/兵庫県姫路市常三島1-67 | 2日 | 12,320 | 片道バス450,JR乗2850,バス380/名5000 | 12,320 | 片道バス450,JR乗2850,バス380/名5000 | 9,700 | |
| 2E | | | 第17回高専シンポジウムin熊本 | 2012/1/28 | 森城大学市民ホール/熊本市桜町1-3 | 1日 | 28,320 | バス:800, JR27420 | 34,780 | 片道バス450,JR乗800特(800,7140),名電
150 | 27,370 | |
| 1E | | | 日本化学会第92春季年会 | 2012/3/25-28 | 徳島大学工学部常三島キャンパス
徳島市南常三島町2-1 | 2日 | 33,178 | バス900, JR28276, 名
5000 | 33,300 | 片道バス450, JR乗7840特(800,4730), 名鉄
150/名6000 | 26,220 | |
| 1E | | | 日本化学会第92春季年会 | 2012/3/25-28 | 徳島大学工学部常三島キャンパス
徳島市南常三島町2-1 | 2日 | 33,178 | バス900, JR28276, 名
5000 | 33,300 | 片道バス450, JR乗7840特(800,4730), 名鉄
150/名6000 | 26,220 | |
| 2E | | | 日本化学会第92春季年会 | 2012/3/25-28 | 徳島大学工学部常三島キャンパス
徳島市南常三島町2-1 | 2日 | 33,178 | バス900, JR28276, 名
5000 | 33,300 | 片道バス450, JR乗7840特(800,4730), 名鉄
150/名6000 | 26,220 | |
| 1E | | | 日本化学会近畿支部工業高等専門
学校生化学研究発表会 | 2012/3/18-17 | 関西大学千里山キャンパス | 1日 | 5,760 | バス900, JR4420, 名
5440 | 4,820 | 片道バス450, JR乗1510, 地下鉄270, 名鉄180 | 3,800 | |
| 1E | | | 第17回高専シンポジウムin熊本 | 2012/1/28 | 森城大学市民ホール/熊本市桜町1-3 | 3日 | 25,840 | JR8780, JR新交通40, 名
+航空費1200, 名1340 | 28,840 | JR8780, JR新交通40, 名+航空費1200, 名
1340+900 | 21,130 | |
| 2E | | | 第8回「次世代の太陽光発電システム」シンポジウム | 2011/8/30-7/1 | じょうろくプラザ
/岐阜市橋本町1丁目10-11 | 1日 | 14,880 | バス900, JR14080(関中割
900, 特8180) | 14,880 | 片道バス450, JR乗3650特(800,2410) | 11,800 | 6/30発表 |
| 2E | | | 第8回「次世代の太陽光発電システム」シンポジウム | 2011/8/30-7/1 | じょうろくプラザ
/岐阜市橋本町1丁目10-11 | 1日 | 14,880 | バス900, JR14080(関中割
900, 特8180) | 14,880 | 片道バス450, JR乗3650特(800,2410) | 11,800 | 6/30発表 |
| 1E | | | 平成23年電気関係学会関西支部連合大会 | 2011/10/29-30 | 兵庫県立大学 姫路書写キャンパス
/姫路市書写2167 | 1日 | 7,320 | バス900+720, JR5700 | 7,320 | 片道バス450, JR乗2850, バス380 | 5,760 | 10/29発表 |
| 1E | | | 平成23年電気関係学会関西支部連合大会 | 2011/10/29-30 | 兵庫県立大学 姫路書写キャンパス
/姫路市書写2167 | 1日 | 7,320 | バス900+720, JR5700 | 7,320 | 片道バス450, JR乗2850, バス380 | 5,760 | 10/29発表 |
| 2E | | | 平成23年電気関係学会関西支部連合大会 | 2011/10/29-30 | 兵庫県立大学 姫路書写キャンパス
/姫路市書写2167 | 1日 | 7,320 | バス900+720, JR5700 | 7,320 | 片道バス450, JR乗2850, バス380 | 5,760 | 10/29発表 |
| 2E | | | 平成23年電気関係学会関西支部連合大会 | 2011/10/29-30 | 兵庫県立大学 姫路書写キャンパス
/姫路市書写2167 | 1日 | 7,320 | バス900+720, JR5700 | 7,320 | 片道バス450, JR乗2850, バス380 | 5,760 | 10/29発表 |
| 1E | | | 第17回高専シンポジウムin熊本 | 2012/1/28 | 森城大学市民ホール/熊本市桜町1-3 | 3日 | 25,840 | 電 連7400 バス 1340
JR 3780 ック17200 | 28,840 | JR8780, JR新交通40, 名+航空費1200, 名
1340+900 | 21,130 | |
| 1E | | | 第17回高専シンポジウムin熊本 | 2012/1/28 | 森城大学市民ホール/熊本市桜町1-3 | 3日 | 25,840 | 電 連7400 バス 1340
JR 3780 ック17200 | 28,840 | JR8780, JR新交通40, 名+航空費1200, 名
1340+900 | 21,130 | |
| | | | | | | | 合計 | 371,858 | 合計 | 380,940 | 合計 | 299,930 |

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ② - 7

学術賞受賞者

| 年度 | 学科/専攻 | 氏名 | 受賞名 |
|----|----------------|--------|-------------------------------------|
| 19 | 専攻科メカトロニクス工学専攻 | 中西 翔 | 平成18年度電気関係学会関西支部連合大会講演発表 奨励賞 |
| | 専攻科メカトロニクス工学専攻 | 吉田 晃周 | 平成18年度電気関係学会関西支部連合大会講演発表 奨励賞 |
| | 専攻科メカトロニクス工学専攻 | 松永 和樹 | 平成19年度電気関係学会関西支部連合大会講演発表 論文誌投稿推薦 |
| 21 | 専攻科メカトロニクス工学専攻 | 中谷 裕紀 | 平成21年度におい・かおり環境学会研究発表 ベストプレゼンテーション賞 |
| | 専攻科エコシステム工学専攻 | 梶原 克之 | 第12回化学工学会学生発表会[福岡大会(西日本地区)]研究発表 優秀賞 |
| 22 | 環境都市工学科 | 白認 裕也 | 2010年度(社)土木学会 土木教育賞 |
| | 環境都市工学科 | 中嶋 弘幸 | 2010年度(社)土木学会 土木教育賞 |
| | 専攻科メカトロニクス工学専攻 | 大谷 龍輝 | 平成22年度電気関係学会関西支部連合大会研究発表 奨励賞 |
| 23 | 専攻科エコシステム工学専攻 | 山本 真由美 | 平成22年度高専連携教育研究プロジェクト成果発表会 学長表彰(優秀賞) |
| | 専攻科メカトロニクス工学専攻 | 大浦 慎右 | 平成22年度電気四学会関西支部講演会講演発表 優秀論文発表賞 |
| | 専攻科エコシステム工学専攻 | 森内 悟 | 第46回地盤工学研究発表会研究発表 優秀論文発表者賞 |

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ② - 8

他の高等専門学校及び高等専門学校以外の教育施設で修得した単位等の認定に関する取扱要領

(趣旨)

第1条 和歌山工業高等専門学校学則第14条の2及び第14条の3の規定により、単位を認定する場合の要項を定める。

(定義)

第2条 他の高等専門学校及び高等専門学校以外の教育施設等における学修とは、次の学修をいう。

- 一 他の高等専門学校における学修
- 二 大学における学修
- 三 知識及び技能に関する審査における成果に係る学修で、別表に定めるもの

(学修手続)

第3条 第2条第一号及び第二号に規定する教育施設において学修しようとするときは、学修しようとする日の2か月前までに、別記様式第1号による他の教育施設における学修許可願を学級担任教員を経て、校長に提出して、その許可を受けなければならない。

2 校長は、前項による願い出が教務委員会において教育上有益と認められた場合には、許可するものとする。

(単位認定)

第4条 第2条各号に規定する学修により、和歌山工業高等専門学校(以下「本校」という。)で、単位の認定を受けようとするときは、別記様式第2号による他の教育施設等における学修単位申請書に、単位修得証明書、成績証明書又は合格証明書(写)を添え、学級担任教員を経て、校長に提出しなければならない。

2 単位の認定は、教育委員会の議を経て校長が行う。

3 第2条第一号及び第二号に規定する学修における総認定単位数の限度は、4単位を超えない範囲とする。

4 第2条第三号に規定する学修における認定単位数の限度等は、別表に定めるとおりとする。ただし、同一の試験で複数の級に合格した場合は、既に認定された単位数と当該上位の単位数との差を修得単位として認定するものとする。

5 前項における総認定単位数の限度は、10単位を超えない範囲とする。

6 認定された単位は、他の教育施設等における学修単位申請書が受理された年度の単位とする。

(その他)

第5条 この取扱要項の実施に関する細目は、別に定める。

附 則

この要項は、平成8年4月1日から施行する。

(出典 平成24年度学生便覧 p.46)

資料 6 - 1 - ② - 8 続き

| 区分 | 資格 | 種類 | 単位数 | | | | 備考 | |
|------------------|-----------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|---|---|
| | | | 機
械 | 電
気 | 物
質 | 環
境 | | |
| 専
門
科
目 | 機械設計技術者試験 | 3級以上 | 2 | | | | | |
| | 品質管理検定 | 3級以上 | 2 | | | | | |
| | 危険物取扱者 | 甲種 | 1 | | 1 | 1 | ただし、乙種(全6類)の資格を全て取得した場合も適用する。 | |
| | 高圧ガス製造保安責任者 | 乙種(機械) | 2 | | | | | |
| | 計算力学技術者(CAE技術者) | 初級 | 2 | | | | | |
| | CAD利用技術者 | 2級以上 | 1 | | | 1 | | |
| | 電気工事士 | 第1種 | | 2 | | | | |
| | | 第2種 | | 1 | | | | |
| | 電気主任技術者 | 第1種 | | 6 | | | | |
| | | 第2種 | | 4 | | | | |
| | | 第3種 | | 2 | | | | |
| | 情報処理技術者試験 | 応用情報技術者 | | | 3 | | | 電気情報工学科において、上位順より「応用情報技術者」、「基本情報技術者」として、第4の4におけるただし書きを適用する。 |
| | | 基本情報技術者 | | 2 | 2 | 2 | | |
| | | ITストラテジスト | | | 1 | | | |
| | | システムアーキテクト | | | 1 | | | |
| | | プロジェクトマネージャ | | | 1 | | | |
| | | ネットワークスペシャリスト | | | 1 | | | |
| | | データベーススペシャリスト | | | 1 | | | |
| | | 情報セキュリティスペシャリスト | | | 1 | | | |
| | | ITサービスマネージャ | | | 1 | | | |
| | システム監査技術者 | | | 1 | | | | |
| | ラジオ音響(AR) 技能検定 | 1級 | | 1 | | | | |
| | デジタル技術検定 | 1級(情報、制御) | | 2 | | | | |
| | | 2級(情報、制御) | | 1 | | | | |
| | 電気通信の工事担任者 | AI・DD総合種 | | 4 | | | | |
| | | AI1種 | | 2 | | | 「AI・DD総合種」の資格を取得した場合は、「AI・DD総合種」を上位として第4の4におけるただし書きを適用する。 | |
| | | AI2種 | | 1 | | | | |
| | | DD1種 | | 2 | | | 「AI・DD総合種」の資格を取得した場合は、「AI・DD総合種」を上位として第4の4におけるただし書きを適用する。 | |
| | | DD2種 | | 1 | | | | |
| | 電気通信主任技術者 | 伝送交換主任技術者 | | 4 | | | | |
| | | 線路主任技術者 | | 4 | | | | |
| | 技術士 | 1次試験合格(技術士補) | | 4 | 4 | 4 | | |
| 測量士 | 測量士補 | | | | 1 | | | |
| 計量士 | 環境計量士(濃度関係) | | | | 1 | | | |
| | 環境計量士(騒音・振動関係) | | | | 1 | | | |
| | 一般計量士 | | | | 1 | | | |
| 公害防止管理者 | 主任管理者 | | | | 1 | | | |
| | 大気関係1~4種 | | | | 1 | | | |
| | 水質関係1~4種 | | | | 1 | | | |
| | 特定粉塵関係 | | | | 1 | | | |
| | 一般粉塵関係 | | | | 1 | | | |
| | 騒音振動関係 | | | | 1 | | | |
| ダイオキシン類関係 | | | | 1 | | | | |
| 土木学会認定技術者 | 2級技術者 | | | | 1 | | | |
| 土木施工管理技術者 | 2級 | | | | 1 | | | |
| 工業英語能力検定 | 2級以上 | | 2 | 2 | 2 | 2 | | |
| | 3級 | | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 一
般
科
目 | 実用英語技能検定 | 1級 | 8 | 8 | 8 | 8 | | |
| | | 準1級 | 4 | 4 | 4 | 4 | | |
| | | 2級 | 2 | 2 | 2 | 2 | | |
| | TOEIC | スコア860点以上 | 8 | 8 | 8 | 8 | | |
| | | スコア730点以上 | 4 | 4 | 4 | 4 | | |
| | スコア470点以上 | 2 | 2 | 2 | 2 | | | |

(出典 平成 24 年度学生便覧 p. 46)

資料 6-1-②-9

大学及び他の高等専門学校専攻科等で開設されている授業科目以外での単位認定に関する取扱要領
(趣旨)

第1 和歌山工業高等専門学校専攻科授業科目の履修に関する規則第10条第2項の規定に基づき、大学及び他の高等専門学校専攻科等(以下「大学等」という。)で開設されている授業科目以外での学修について単位を認定する場合の要項を定める。

(定義)

第2 大学等で開設されている授業科目以外での学修とは、次の学修をいう。

TOEICテストによる学修

(単位認定)

第3 第2に規定する学修により、和歌山工業高等専門学校専攻科で単位の認定を受けようとするときは、別記様式による大学等で開設されている授業科目以外における学修単位申請書に、認定証等の写を添え、専攻科長を経て、校長に提出しなければならない。

2 単位の認定は、専攻科委員会の議を経て校長が行う。

3 第2に規定する学修における認定単位数の限度等は、別表に定めるとおりとする。

4 認定された単位は、大学等で開設されている授業科目以外における学修単位申請書が受理された年度の単位とする。

(出典 平成24年度学生便覧 p.47)

資料 6-1-②-10

外部単位修得状況

他の高等専門学校及び高等専門学校以外の教育施設等で修得した単位等の認定(平成23年度)

| 番号 | 学籍番号 | クラス番号 | 学科・専攻 | 学年 | 申請者氏名 | 事由(検定等の種類) | 認定を申請する科目 | 単位数 |
|----|------|-------|---------|----|-------|--------------|-----------|-----|
| | | | 電気情報工学科 | 4 | | 第2種電気工事士 | 専門 | 1 |
| | | | 電気情報工学科 | 5 | | 第2種電気工事士 | 専門 | 1 |
| | | | 電気情報工学科 | 4 | | 第2種電気工事士 | 専門科目 | 1 |
| | | | 電気情報工学科 | 4 | | 第2種電気工事士 | 専門科目 | 1 |
| | | | 電気情報工学科 | 4 | | 第2種電気工事士 | 専門科目 | 1 |
| | | | 電気情報工学科 | 4 | | 第2種電気工事士 | 専門科目 | 1 |
| | | | 電気情報工学科 | 5 | | 第2種電気工事士 | 専門科目 | 1 |
| | | | 電気情報工学科 | 4 | | 第2種電気工事士 | 専門科目 | 1 |
| | | | 物質工学科 | 4 | | 実用英語能力検定2級 | 一般科目 | 2 |
| | | | 機械工学科 | 5 | | 実用英語技能検定2級 | 一般科目 | 2 |
| | | | 機械工学科 | 5 | | 実用英語能力検定2級 | 一般科目 | 2 |
| | | | 機械工学科 | 4 | | 工業英語能力検定3級 | 専門 | 1 |
| | | | 機械工学科 | 4 | | 工業英語能力検定3級 | 専門科目 | 1 |
| | | | 機械工学科 | 4 | | 工業英語能力検定3級 | 専門 | 1 |
| | | | 電気情報工学科 | 4 | | 工業英語能力検定3級 | 専門 | 1 |
| | | | 電気情報工学科 | 5 | | 工業英語能力検定3級 | 専門 | 1 |
| | | | 電気情報工学科 | 5 | | 工業英語能力検定3級 | 専門科目 | 1 |
| | | | 電気情報工学科 | 5 | | 工業英語能力検定3級 | 工業外国語 | 1 |
| | | | 電気情報工学科 | 5 | | 工業英語能力検定3級 | 工業外国語 | 1 |
| | | | 電気情報工学科 | 5 | | 工業英語能力検定3級 | 専門科目 | 1 |
| | | | 電気情報工学科 | 4 | | 工業英語能力検定3級 | 専門科目 | 1 |
| | | | 物質工学科 | 4 | | 工業英語能力検定3級 | 専門 | 1 |
| | | | 物質工学科 | 4 | | 工業英語能力検定3級 | 専門科目 | 1 |
| | | | 電気情報工学科 | 4 | | 基本情報技術者試験 | 専門 | 2 |
| | | | 電気情報工学科 | 4 | | 基本情報技術者試験 | 専門科目 | 2 |
| | | | 電気情報工学科 | 5 | | 基本情報技術者試験 | 専門科目 | 2 |
| | | | 電気情報工学科 | 4 | | 基本情報技術者試験 | 専門科目 | 2 |
| | | | 電気情報工学科 | 4 | | 基本情報技術者試験 | 専門科目 | 2 |
| | | | 電気情報工学科 | 4 | | 基本情報技術者試験 | 専門科目 | 2 |
| | | | 物質工学科 | 5 | | 危険物取扱者試験 甲種 | 専門科目 | 1 |
| | | | 物質工学科 | 4 | | 危険物取扱者試験 甲種 | 専門科目 | 1 |
| | | | 電気情報工学科 | 5 | | 応用情報技術者試験 | 専門科目 | 1 |
| | | | 物質工学科 | 3 | | TOEIC (950点) | 一般科目 | 8 |
| | | | 環境都市工学科 | 5 | | TOEIC (920点) | 一般科目 | 8 |
| | | | 物質工学科 | 3 | | TOEIC (915点) | 一般科目 | 8 |
| | | | 物質工学科 | 5 | | TOEIC (870点) | 一般科目 | 6 |
| | | | 知能機械工学科 | 2 | | TOEIC (865点) | 一般科目 | 4 |

以下省略

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本科および専攻科課程の平均進級率は約95%である。また、卒業研究や特別研究では複数教員での指導を実施しており、きめ細かな指導を実現している。この結果、学会などの学外での発表件数も増加傾向にあり、内容の充実が図られている。さらに各種英語検定や資格試験合格者に単位を与える等、外部単位の取得を支援できている。よって、教育の成果および効果が上がっているといえる。

観点 6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本科課程では、毎年4学科計160名前後の卒業生を輩出し、その55～65%は就職を希望し、35～45%が進学（専攻科入学ないし大学3年次編入学）を希望している（資料6-1-③-1, 2）。就職状況は一般に、企業業績や経済活動の影響を強く受けるが、本校卒業生に対してそのような影響は認められない。本科卒業生の就職希望者数は、全卒業生の約60%程度の100名前後であるが、それに対して企業からの求人数は1300～2000人に達し、その結果、希望者全員が就職している。

また、全卒業生の約40%を占める約60名の進学希望者も、ほぼ全員が本校専攻科を含む国公立大学への編入学を果たしている。

専攻科課程では、修了生の高い学習意欲や資質により就職・進学率とも100%を続けている（資料6-1-③-2, 3）。

また、本科卒業生および専攻科修了生の職業別・産業別就職者数からも各学科・専攻の人材養成目的に適った就職先へ進んでいることを確認できる（資料6-1-③-4）。

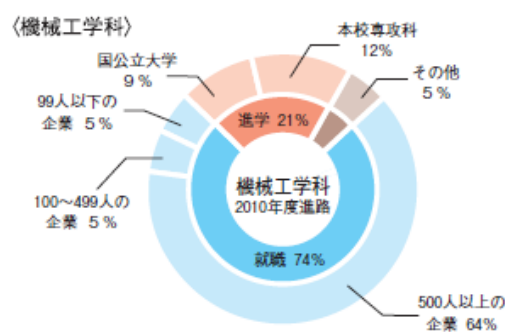
資料 6 - 1 - ③ - 1

平成 18～22 年度本科卒業修了生の進路状況

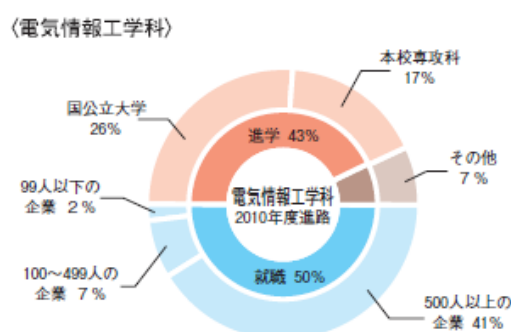
就職

| 本 科 | | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 |
|-------|-----------|------|------|------|------|------|
| 卒業生数 | | 169 | 155 | 165 | 146 | 169 |
| 就職者数 | | 105 | 86 | 91 | 77 | 105 |
| 求 人 数 | | 1569 | 1843 | 2007 | 1462 | 1353 |
| 地 域 別 | 京浜地区 | 23 | 21 | 15 | 11 | 20 |
| | 京阪神地区 | 49 | 36 | 47 | 42 | 49 |
| | 和歌山県 | - | - | 22 | 18 | 26 |
| | その他 | 33 | 29 | 7 | 6 | 10 |
| 企業規模 | 500人以上 | 74 | 63 | 70 | 41 | 75 |
| | 100人～499人 | 15 | 10 | 13 | 27 | 20 |
| | 99人以下 | 12 | 8 | 4 | 8 | 8 |
| | 官公庁等 | 4 | 5 | 4 | 1 | 2 |

| 機械工学科 | | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 |
|-------|-----------|------|------|------|------|------|
| 卒業生数 | | 42 | 42 | 41 | 37 | 42 |
| 就職者数 | | 29 | 28 | 23 | 24 | 31 |
| 求 人 数 | | 538 | 621 | 657 | 465 | 444 |
| 地 域 別 | 京浜地区 | 4 | 7 | 1 | 4 | 5 |
| | 京阪神地区 | 14 | 11 | 13 | 13 | 16 |
| | 和歌山県 | - | - | 5 | 5 | 7 |
| | その他 | 11 | 10 | 4 | 2 | 3 |
| 企業規模 | 500人以上 | 24 | 28 | 22 | 18 | 27 |
| | 100人～499人 | 3 | | 1 | 4 | 2 |
| | 99人以下 | 2 | | | 2 | 2 |
| | 官公庁等 | | | | | |



| 電気情報工学科 | | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 |
|---------|-----------|------|------|------|------|------|
| 卒業生数 | | 43 | 40 | 41 | 43 | 42 |
| 就職者数 | | 24 | 24 | 24 | 22 | 21 |
| 求 人 数 | | 541 | 641 | 669 | 495 | 463 |
| 地 域 別 | 京浜地区 | 7 | 6 | 5 | 3 | 3 |
| | 京阪神地区 | 11 | 8 | 14 | 12 | 11 |
| | 和歌山県 | - | - | 3 | 6 | 3 |
| | その他 | 6 | 10 | 2 | 1 | 4 |
| 企業規模 | 500人以上 | 18 | 13 | 19 | 14 | 17 |
| | 100人～499人 | 5 | 7 | 4 | 6 | 3 |
| | 99人以下 | 1 | 4 | 1 | 2 | 1 |
| | 官公庁等 | | | | | |

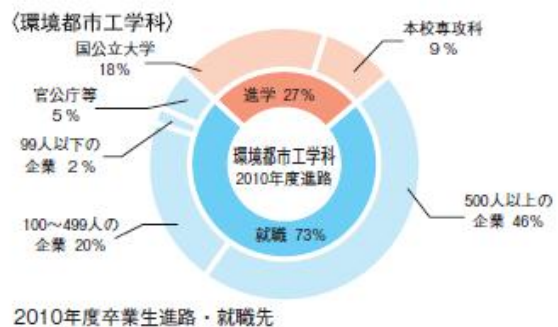
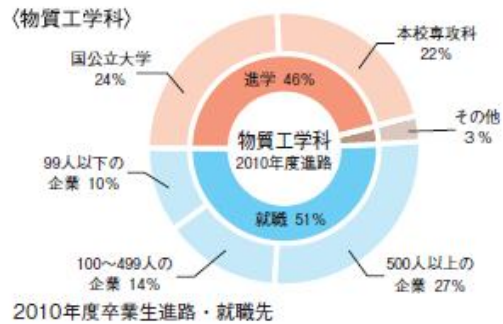


(出典 平成 23 年度学校要覧)

資料 6 - 1 - ③ - 1 続き

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|------|------|------|------|
| 物質工学科 | | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 |
| 卒業生数 | | 42 | 40 | 41 | 33 | 41 |
| 就職者数 | | 24 | 15 | 18 | 13 | 21 |
| 求人数 | | 276 | 335 | 364 | 261 | 249 |
| 地域別 | 京浜地区 | 4 | 3 | 2 | 1 | 2 |
| | 京阪神地区 | 13 | 7 | 8 | 9 | 7 |
| | 和歌山県 | - | - | 8 | 2 | 12 |
| | その他 | 7 | 5 | | 1 | |
| 企業規模 | 500人以上 | 18 | 12 | 12 | 7 | 11 |
| | 100人～499人 | 4 | 2 | 5 | 3 | 6 |
| | 99人以下 | 1 | 1 | 1 | 3 | 4 |
| | 官公庁等 | 1 | | | | |

| | | | | | | |
|---------|-----------|------|------|------|------|------|
| 環境都市工学科 | | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 |
| 卒業生数 | | 42 | 33 | 42 | 33 | 44 |
| 就職者数 | | 28 | 19 | 26 | 18 | 32 |
| 求人数 | | 214 | 246 | 317 | 241 | 197 |
| 地域別 | 京浜地区 | 8 | 5 | 7 | 3 | 10 |
| | 京阪神地区 | 11 | 10 | 12 | 8 | 15 |
| | 和歌山県 | - | - | 6 | 5 | 4 |
| | その他 | 9 | 4 | 1 | 2 | 3 |
| 企業規模 | 500人以上 | 14 | 10 | 17 | 2 | 20 |
| | 100人～499人 | 3 | 1 | 3 | 14 | 9 |
| | 99人以下 | 8 | 3 | 2 | 1 | 1 |
| | 官公庁等 | 3 | 5 | 4 | 1 | 2 |



大学等編入学

| 大学等 | 2008 | 2009 | 2010 |
|----------|------|------|------|
| 和歌山高専専攻科 | 21 | 24 | 25 |
| 豊橋技術科学大学 | 12 | 7 | 7 |
| 和歌山大学 | 5 | 3 | 7 |
| 岐阜大学 | 6 | 4 | 1 |
| 徳島大学 | 5 | 2 | 4 |
| 広島大学 | 4 | 4 | 1 |
| 長岡技術科学大学 | 1 | 2 | 5 |
| 岡山大学 | 1 | 3 | 3 |
| 東京農工大学 | 2 | 3 | |
| 電気通信大学 | | 2 | 1 |
| 静岡大学 | 2 | 1 | |
| 筑波大学 | 1 | | 1 |
| 金沢大学 | 1 | 1 | |
| 愛媛大学 | | | 2 |
| 秋田大学 | | 1 | |
| 群馬大学 | | 1 | |
| 千葉大学 | | 1 | |
| 東京工業大学 | | | 1 |
| 信州大学 | 1 | | |
| 福井大学 | 1 | | |
| 三重大学 | 1 | | |
| 京都工芸繊維大学 | | 1 | |
| 大阪大学 | | 1 | |
| 神戸大学 | 1 | | |
| 香川大学 | 1 | | |
| 九州大学 | 1 | | |
| 日本大学 | 1 | | |
| 大阪産業大学 | | 1 | |
| 岡山理科大学 | | 1 | |
| 計 | 68 | 63 | 58 |



県内企業合同説明会

(出典 平成 24 年 3 月 学園便り)

平成 18～22 年度専攻科修了生の進路状況

〈専攻科進路〉

大学院進学（専攻科）

| 大 学 院 | 2006 | | 2007 | | 2008 | | 2009 | | 2010 | |
|---------------|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|
| | メカ | エコ | メカ | エコ | メカ | エコ | メカ | エコ | メカ | エコ |
| 長岡技術科学大学大学院 | 1 | | | | | 2 | | | 1 | |
| 豊橋技術科学大学大学院 | | 1 | | | | | | | 1 | |
| 金沢大学大学院 | | 1 | | | | | | | | |
| 名古屋大学大学院 | 1 | | | | | | | | | |
| 名古屋工業大学大学院 | | | | | | | | | | |
| 大阪大学大学院 | | | | 1 | | 1 | 1 | | | |
| 和歌山大学大学院 | | 1 | | | | | | | | |
| 高知大学大学院 | | | | | | | | | | 1 |
| 広島大学大学院 | | | 1 | | | | | | | |
| 徳島大学大学院 | | 1 | | | 1 | | | | | |
| 佐賀大学大学院 | | | 1 | | | | | | | |
| 奈良先端科学技術大学院大学 | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 4 |
| 産業技術大学院大学 | | | | | | | 1 | | | |
| 早稲田大学大学院 | | | | | | | | | 1 | |
| 合 計 | 2 | 4 | 2 | 1 | 2 | 4 | 3 | 1 | 5 | 5 |

専攻科就職先一覧

| 専攻
年度 | メカトロニクス工学専攻 | エコシステム工学専攻 |
|----------|---|---|
| 2006 | アイコム㈱、NECネットズエスアイ・エンジニアリング㈱、
㈱NHKテクニカルサービス、㈱NTTファシリティーズ、
シャープ㈱、㈱松風、中外製薬工業㈱、
パナソニックエレクトロニックデバイス㈱2、
ボッシュ㈱ | ソイルアンドロックエンジニアリング㈱、㈱ソユー、
壺山建設㈱、前田道路㈱、三浦工業㈱ |
| 2007 | アトラス情報サービス㈱、オリンパスイメージング㈱、
㈱神戸製鋼所、シャープ㈱3、
大日本印刷㈱、デンソーテクノ㈱、
パナソニックエレクトロニックデバイス㈱、
㈱ハル研究所 | アタカ大機㈱、㈱三宝化学研究所、
塩野義製薬㈱、和光純薬工業㈱ |
| 2008 | ㈱イシダ、塩野義製薬㈱、
パナソニックエレクトロニックデバイス㈱ | ㈱三宝化学研究所、森永乳業㈱ |
| 2009 | 関西電力㈱、紀州ファスナー工業㈱、
シャープ㈱、デュプロ精工㈱、
東燃ゼネラル石油㈱、TOWA㈱、
日新電機㈱、
パナソニック㈱AVCネットワークス社
三浦工業㈱、
三菱電機㈱冷熱システム製作所 | 笠野興産㈱、恵和㈱、㈱三見空調、
新興プランテック㈱、スガイ化学工業㈱、
㈱竹中土木、中外製薬工業㈱、
D I C㈱、和歌山縣ヘルス工業㈱、
和歌山石油精製㈱ |
| 2010 | 関西電力㈱、㈱スーパーツール2、
住友金属物流㈱、㈱ダイヘン、日建産業㈱、日本車輛製造㈱、
阪神高速技術㈱ | 東京水道サービス㈱、日本製薬㈱、
藤本製薬㈱ |

(出典 平成 23 年度学校要覧 p. 30)

資料 6 - 1 - ③ - 4

職業別・産業別就職先一覧

平成23年度卒業(修了)生 職業別就職者数

| | | | 学科 | | | | 専攻 | | 計 |
|----------------------|---------------|-----|----|----|----|----|----|---|-----|
| | | | A | B | C | D | M | E | |
| 専門的・
技術的
職業従事者 | 製造技術者
(開発) | 機械 | 20 | | | | 1 | | 21 |
| | | 電機 | | 23 | | | 8 | | 31 |
| | | 化学 | | | 20 | | | 6 | 26 |
| | | その他 | | | | 23 | | 3 | 26 |
| | 情報処理・通信技術者 | 1 | 2 | | 1 | | | 4 | |
| 計 | | | 21 | 25 | 20 | 24 | 9 | 9 | 108 |

平成23年度卒業(修了)生 産業別就職者数

| | | | 学科 | | | | 専攻 | | 計 |
|----------------------|-----------------|--|----|----|----|----|----|---|-----|
| | | | A | B | C | D | M | E | |
| 建設業 | | | | 1 | | 3 | | 1 | 5 |
| 製造業 | 食料品・飲料・たばこ・飼料 | | 1 | 4 | 3 | 1 | | | 9 |
| | 繊維工業 | | | 1 | | | | 1 | 2 |
| | 化学工業・石油・石炭製品 | | 6 | 6 | 11 | 4 | 1 | 4 | 32 |
| | 鉄鋼業, 非鉄金属・金属製品 | | 2 | 1 | 1 | | | | 4 |
| | はん用・生産用・業務用機械器具 | | 3 | 1 | 1 | | | | 5 |
| | 電子部品・デバイス・電子回路 | | 1 | | | | | | 1 |
| | 電気・情報通信機械器具 | | 1 | 2 | | | 1 | | 4 |
| | 輸送用機械器具 | | 1 | 2 | | | 1 | | 4 |
| | その他の製造業 | | 1 | | 1 | | 2 | | 4 |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | | | 2 | 2 | | 4 | 1 | 1 | 10 |
| 情報通信業 | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| 運輸業, 郵便業 | | | | 1 | | 3 | | | 4 |
| 卸売業, 小売業 | 小売業 | | 1 | | | | | | 1 |
| 学術研究, 専門・
技術サービス業 | 学術・開発・研究機関 | | | | 2 | | | 1 | 3 |
| | その他の専門・技術サービス | | | 3 | 1 | 8 | 3 | 1 | 16 |
| サービス業 | その他のサービス業 | | 1 | | | 1 | | | 2 |
| 計 | | | 21 | 25 | 20 | 24 | 9 | 9 | 108 |

【学科】 A: 機械工学科, B: 電気情報工学科, C: 物質工学科, D: 環境都市工学科,

【専攻】 M: メカトロニクス工学専攻, E: エコシステム工学専攻

(出典 学生課資料より作成)

(分析結果とその根拠理由)

本校卒業生に対する企業からの評価は高く、例年、就職希望者に対して13～20倍もの求人数を確保できており、各学科・専攻の人材養成目的に適った就職先へ進んでいる。また、進学希望者はほぼ全員が本校専攻科や希望の国立大学に進学している。専攻科修了生も同様の状況となっている。よって、教育の成果や効果が上がっている。

観点 6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本科課程では各授業科目の理解度を授業アンケートの回答項目として学生に評価させている(資料6-1-④-1)。また、卒業時に身に付ける学力等についての自己達成度評価を平成19年度まで実施しており、いずれの学習・教育目標(A～H)においても、達成度は中程度(3)から高い(5)と回答している学生が多く、達成度が低い(2ないし1)と回答した割合は15%以下であった。したがって、大半の学生が学習・教育目標を達成したと判断できる(資料6-1-④-2)。

専攻科課程では学生自身が学習達成度を把握・評価できるように、科目を履修した後に「教育プログラム学習・教育目標の自己達成度評価」表を作成し、自己分析と反省材料にしている(資料6-1-④-3)。この評価表は学習・教育目標別に授業科目が分類されており、各科目の達成度のみならず各学習・教育目標の達成度についても把握できるようになっている。平成23年度エコシステム工学専攻修了生の場合は、各学習・教育目標について3.9～4.4(5段階評価)の達成度であると回答している(資料6-1-④-4(訪問調査時の確認資料))。

資料6-1-④-1

授業アンケート

授業全般について

17. 授業の結果、内容が理解できましたか。
18. 授業の結果、内容に興味を持てますか。
19. この教科の目的や意義を理解できましたか。
20. この授業を総合評価するとあなたはどれくらいに評価しますか。

| | | | | | | |
|-----|----------|---|---|---|---|------------|
| 17. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| | 十分理解できた | | | | | 全く理解できなかった |
| 18. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| | とても持てる | | | | | 全く持てない |
| 19. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| | とても理解できた | | | | | 全く理解できない |
| 20. | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| | 高く評価する | | | | | 全く評価しない |

(出典 学生課資料抜粋)

本科卒業生達成度自己評価

本校では、次の 8 つの項目 (A)～(H)を学生が身につけるべき「学習・教育目標」として掲げ、質の高い教育を目指し、改善に努めています。このような取り組みの一環として、卒業生を対象に、それぞれの「学習・教育目標」がどのくらい達成されているのかを問うアンケートを行うことにしました。下の〔設問欄〕にある問いに答えてください。

和歌山工業高等専門学校 「学習・教育目標」

- (A) 地球環境、国際社会との共生を多面的に理解したうえで持続可能な発展を支える技術の開発を行うための幅広い基礎知識を身につける。
- (B) 自ら作り出す技術が、環境および社会に及ぼす影響を理解し、公衆の安全や利益に配慮出来る知識と意識を身につける。
- (C) 自然科学、情報技術に関する基礎的素養を有し、それぞれの専門分野での問題解決のためにそれを駆使することが出来る能力を身につける。
- (D) それぞれの専門技術に関する深い学問的知識、多くの実験で得た経験を持ち、それらを問題解決のために応用できる能力を身につける。
- (E) 社会および環境に配慮した新技術の開発に取り組むことが出来るだけのデザイン能力を身につける。
- (F) 自分の考えを論理的に文章化する確かな記述力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、情報機器を利用したプレゼンテーション能力を身につける。
- (G) 目先の利益よりも、長期的視野に立ったうえで、計画的に継続して自らの能力を向上させようとする習慣とそれを実現する能力を身につける。
- (H) 与えられた制約条件に対して、状況に応じて自ら解決するだけの柔軟な思考を有し、一つの形として結果を出すことが出来る能力を身につける。

〔設問欄〕

1. ニュースを見たり、新聞を読んだりした時、国際問題の背景が理解できるようになりましたか。
2. 技術者の開発した製品が、地球環境に対して重大な影響を及ぼす可能性があることを理解できるようになりましたか。
3. 技術者の開発した製品が、人々の安全に重大な影響を及ぼす可能性があることを理解できるようになりましたか。
4. 技術者にとって必要な、数学、自然科学に関する知識を身につけましたか。
5. 問題解決のためにコンピューターを使えるようになりましたか。
6. それぞれの専門分野についての深い知識とそれを応用できる力を身につけましたか。
7. それぞれの専門分野で、環境に配慮した新技術開発についての理解を深めましたか。
8. 社会人として相応しい文章を書けるようになりましたか。
9. 多くの人の前で、情報機器を利用し、口頭発表を行うことができるようになりましたか。
10. 会話などを通じて外国人とコミュニケーションをとれるようになりましたか。
11. 卒業研究などで自ら目標を設定し、計画的に実行できましたか。
12. 先生から与えられた課題に対して、自分の力である程度の結果を出せるようになりましたか。
13. 5年間のあなたの学習についての努力を評価するとどうなりますか。

〔回答欄〕該当する番号に○をしてください。

- | | | |
|-----|---------------------------|----------|
| 1. | 5.....4.....3.....2.....1 | |
| | 十分理解できる | 理解できていない |
| 2. | 5.....4.....3.....2.....1 | |
| | 十分理解できる | 理解できていない |
| 3. | 5.....4.....3.....2.....1 | |
| | 十分理解できる | 理解できていない |
| 4. | 5.....4.....3.....2.....1 | |
| | 十分身につけた | 身に付いていない |
| 5. | 5.....4.....3.....2.....1 | |
| | 十分身につけた | 身に付いていない |
| 6. | 5.....4.....3.....2.....1 | |
| | 十分身につけた | 身に付いていない |
| 7. | 5.....4.....3.....2.....1 | |
| | 十分理解できる | 理解できていない |
| 8. | 5.....4.....3.....2.....1 | |
| | 十分できる | できない |
| 9. | 5.....4.....3.....2.....1 | |
| | 十分できる | できない |
| 10. | 5.....4.....3.....2.....1 | |
| | 十分できる | できない |
| 11. | 5.....4.....3.....2.....1 | |
| | 十分できた | できなかった |
| 12. | 5.....4.....3.....2.....1 | |
| | 十分できる | できない |
| 13. | 5.....4.....3.....2.....1 | |
| | 十分評価できる | 評価できない |

(出典 学生課資料より作成)

資料 6 - 1 - ④ - 2 続き

「学習・教育目標」達成度アンケート集計結果（平成 19 年度本科卒業生）

分析： いずれの学習・教育目標（A～H）においても、達成度は中程度（3）～高い（5）と回答している学生が多く、達成度が低い（2ないし1）と回答した割合は15%以下である。したがって、大半の学生が学習・教育目標を達成したと感じていると判断できる。

ただし、学習・教育目標「F」に関する【設問 10】「会話などを通じて外国人とコミュニケーションをとれるようになったか」では、半数弱（46%）ができるようになっていないと回答しており、改善策の検討が必要である。

| 学習・教育目標 | 自己達成度 | 学習・教育目標 | 自己達成度 |
|---------|-------|---------|-------|
| A | | B | |
| | 設問 1 | | |
| C | | D | |
| | 設問 4 | | 設問 5 |
| E | | F | |
| | 設問 7 | | |
| G | | | |
| | 設問 11 | H | |
| 全体 | | | 設問 12 |
| | 設問 13 | | |

（出典 学生課資料より作成）

専攻科生自己達成度評価表

教育プログラム学習・教育目標の自己達成度評価 (1年前期)・(1年後期)・(2年前期)・(2年後期)

エコシステム工学専攻 平成21年度入学 学年 1 番 氏名

| 学習教育目標 | 科目 | 学年 | 必・選 | 単位 | 選択の有無 | 学習・教育目標の達成度の自己判定
5: 80%以上達成している
4: 70~79%達成している
3: 60~69%達成している
2: 50~59%達成している
1: 49%以下しか達成していない | その理由や反省点等あれば記入してください。 |
|--|----------------|-----|-----|----|-------------|--|-----------------------|
| (A) 和歌山県の地域環境、地域社会との共生に関する理解および倫理観を身につけ、公共の安全や利益に配慮したもののづくりの考え方を理解し説明できる。 | 現代アジア論 | 専2年 | 選択 | 2 | | 5 4 3 2 1 | |
| | 技術者倫理 | 専2年 | 必修 | 2 | ✓ | 5 (4) 3 2 1 | |
| | 環境マネジメント | 専2年 | 選択 | 2 | | 5 4 3 2 1 | |
| | 環境アセスメント | 専2年 | 選択 | 2 | ✓ | (5) 4 3 2 1 | |
| (B) 社会のニーズおよび地球環境に配慮したデザイン能力を身につけて技術開発計画を立案でき、長期的な視野に立って自己研鑽を継続できる。 | 工学特別実験 | 専1年 | 必修 | 4 | ✓ | 5 (4) 3 2 1 | |
| | 創造プログラミング | 専2年 | 選択 | 2 | | 5 4 3 2 1 | |
| | 特別研究(1年次) | 専1年 | 必修 | 4 | ✓ | (5) 4 3 2 1 | |
| | 特別研究(2年次) | 専2年 | 必修 | 10 | | 5 4 3 2 1 | |
| (C) 自己の専門分野での深い学問的知識や経験に加え、他分野にまたがる幅広い知識を身につけ、それらを与えられた制約の下で問題解決のために応用できる。 | 数理工学 | 専1年 | 選択 | 2 | ✓ | 5 4 (3) 2 1 | |
| | 数理統計学 | 専1年 | 選択 | 2 | ✓ | (5) 4 3 2 1 | |
| | 線形代数 | 専1年 | 選択 | 2 | ✓ | 5 (4) 3 2 1 | |
| | 量子力学 | 専1年 | 選択 | 2 | ✓ | 5 (4) 3 2 1 | |
| | 物性物理 | 専2年 | 選択 | 2 | | 5 4 3 2 1 | |
| | 数値計算・解析法 | 専1年 | 選択 | 2 | | 5 4 3 2 1 | |
| | 情報理論 | 専1年 | 選択 | 2 | | 5 4 3 2 1 | |
| | 応用材料工学 | 専1年 | 選択 | 2 | | 5 4 3 2 1 | |
| | 環境化学工学 | 専1年 | 選択 | 2 | | 5 4 3 2 1 | |
| | 地域環境工学 | 専2年 | 選択 | 2 | ✓ | 5 (4) 3 2 1 | |
| | 空気力学 | 専1年 | 選択 | 2 | | 5 4 3 2 1 | |
| | 応用地盤工学 | 専1年 | 選択 | 2 | ✓ | (5) 4 3 2 1 | |
| | 水圏工学 | 専1年 | 選択 | 2 | ✓ | (5) 4 3 2 1 | |
| | センサー工学 | 専1年 | 選択 | 2 | ✓ | 5 (4) 3 2 1 | |
| | 応用エネルギー工学 | 専1年 | 選択 | 2 | ✓ | (5) 4 3 2 1 | |
| | 反応有機化学 | 専1年 | 選択 | 2 | | 5 4 3 2 1 | |
| | 遺伝子工学 | 専1年 | 選択 | 2 | | 5 4 3 2 1 | |
| | 細胞工学 | 専1年 | 選択 | 2 | ✓ | 5 (4) 3 2 1 | |
| | 分離工学 | 専1年 | 選択 | 2 | | 5 4 3 2 1 | |
| | 環境分析 | 専1年 | 選択 | 2 | | 5 4 3 2 1 | |
| | 有機機能材料 | 専2年 | 選択 | 2 | | 5 4 3 2 1 | |
| | 生体高分子 | 専2年 | 選択 | 2 | | 5 4 3 2 1 | |
| | 化学反応論 | 専2年 | 選択 | 2 | | 5 4 3 2 1 | |
| | 建設設計工学 | 専2年 | 選択 | 2 | ✓ | (5) 4 3 2 1 | |
| | 社会基盤計画学 | 専2年 | 選択 | 2 | ✓ | (5) 4 3 2 1 | |
| | 工学特別実験 | 専1年 | 必修 | 4 | ✓ | 5 (4) 3 2 1 | |
| | 工学特別ゼミナール(1年次) | 専1年 | 必修 | 2 | ✓ | (5) 4 3 2 1 | |
| | 工学特別ゼミナール(2年次) | 専2年 | 必修 | 2 | | 5 4 3 2 1 | |
| 特別研究(1年次) | 専1年 | 必修 | 4 | ✓ | (5) 4 3 2 1 | | |
| 特別研究(2年次) | 専2年 | 必修 | 10 | | 5 4 3 2 1 | | |
| 社会構造物工学 | 専2年 | 必修 | 2 | ✓ | 5 (4) 3 2 1 | | |
| (D) 自分の考えを論理的に文章化する確かな記述力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション能力を身につける。 | 特別研究(1年次) | 専1年 | 必修 | 4 | ✓ | (5) 4 3 2 1 | |
| | 特別研究(2年次) | 専2年 | 必修 | 10 | | 5 4 3 2 1 | |
| | 時事英語 | 専1年 | 必修 | 2 | ✓ | (5) 4 3 2 1 | |
| | 実用英会話 | 専1年 | 必修 | 2 | ✓ | (5) 4 3 2 1 | |
| | テクニカルライティング | 専1年 | 選択 | 2 | ✓ | (5) 4 3 2 1 | |
| | ビジネスコミュニケーション | 専1年 | 選択 | 2 | ✓ | (5) 4 3 2 1 | |
| | 工学特別ゼミナール(1年次) | 専1年 | 必修 | 2 | ✓ | (5) 4 3 2 1 | |
| 工学特別ゼミナール(2年次) | 専2年 | 必修 | 2 | | 5 4 3 2 1 | | |

| 特別研究成績評価細目(100点法による) | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 |
|--|------|------|------|------|
| 実験計画を立て、その計画に沿って研究を進めることができる(B-e) | 95 | 95 | 85 | 80 |
| 研究に関連する資料・情報を収集・活用できる(B-h) | 90 | 90 | 90 | 80 |
| 研究データを収集・整理、問題点を分析し、解決策を考察できる(B-d(2)c) | 90 | 90 | 90 | 80 |
| 研究成果を整理して成果報告のための資料を作成できる(B-d(2)b) | 95 | 95 | 90 | 80 |
| 研究成果を発表し、討議できる(D-f) | 90 | 90 | 95 | 85 |

(出典 専攻科委員会資料)

専攻科生自己達成度評価集計表

教育プログラム学習・教育目標の自己達成度評価集計(平成23年度エコシステム工学専攻修了生)

| 学習・教育目標 | 科目 | 学年 | 必・選 | 単位 | 学生
1 | 学生
2 | 学生
3 | ... | 科目別
平均 | 学習・教育
目標別
平均 |
|--|----------------|-----|-----|----|---------|---------|---------|-----|-----------|--------------------|
| (A) 和歌山県の地域環境、地域社会との共生に関する理解および倫理観を身につけ、公共の安全や利益に配慮したもののづくりの考え方を理解し説明できる。 | 現代アジア論 | 専2年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 技術者倫理 | 専2年 | 必修 | 2 | | | | | | |
| | 環境アセスメント | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 環境マネジメント | 専2年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | (平均) | | | | | | | | | |
| (B) 社会のニーズおよび地球環境に配慮したデザイン能力を身につけて技術開発計画を立案でき、長期的な視野に立って自己研鑽を継続できる。 | 創造プログラミング | 専2年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 工学特別実験 | 専1年 | 必修 | 4 | | | | | | |
| | 特別研究(1年次) | 専1年 | 必修 | 4 | | | | | | |
| | 特別研究(2年次) | 専2年 | 必修 | 10 | | | | | | |
| | (平均) | | | | | | | | | |
| (C) 自己の専門分野での深い学問的知識や経験に加え、他分野にまたがる幅広い知識を身につけ、それらを与えられた制約の下で問題解決のために応用できる。 | 数理統計学 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 数理工学 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 線形代数 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 数値計算・解析法 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 量子力学 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 物性物理 | 専2年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 情報理論 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | センサー工学 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 応用エネルギー工学 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 環境分析 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 環境化学工学 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 工学特別ゼミナール(1年次) | 専1年 | 必修 | 2 | | | | | | |
| | 工学特別ゼミナール(2年次) | 専2年 | 必修 | 2 | | | | | | |
| | 工学特別実験 | 専1年 | 必修 | 4 | | | | | | |
| | 特別研究(1年次) | 専1年 | 必修 | 4 | | | | | | |
| | 特別研究(2年次) | 専2年 | 必修 | 10 | | | | | | |
| | 反応有機化学 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 化学反応論 | 専2年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 有機機能材料 | 専2年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 遺伝子工学 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 細胞工学 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 分離工学 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 生体高分子 | 専2年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 応用材料工学 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 応用地盤工学 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 建設設計工学 | 専2年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 社会基盤計画学 | 専2年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 水圏工学 | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 地域環境工学 | 専2年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 複合構造工学 | 専2年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| (平均) | | | | | | | | | | |
| (D) 自分の考えを論理的に文章化する確かな記述力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション能力を身につける。 | 時事英語 | 専1年 | 必修 | 2 | | | | | | |
| | 実用英会話 | 専1年 | 必修 | 2 | | | | | | |
| | テクニカルライティング | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | ビジネスコミュニケーション | 専1年 | 選択 | 2 | | | | | | |
| | 工学特別ゼミナール(1年次) | 専1年 | 必修 | 2 | | | | | | |
| | 工学特別ゼミナール(2年次) | 専2年 | 必修 | 2 | | | | | | |
| | 特別研究(1年次) | 専1年 | 必修 | 4 | | | | | | |
| 特別研究(2年次) | 専2年 | 必修 | 10 | | | | | | | |
| (平均) | | | | | | | | | | |

学習・教育目標の達成度の自己判定
 5: 80%以上達成している
 4: 70~79%達成している
 3: 60~69%達成している
 2: 50~59%達成している
 1: 49%以下しか達成していない

特別研究成績評価細目(100点法による)

| | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 実験計画を立て、その計画に沿って研究を進めることができる(B-e) | | | | | | | | | | |
| 研究に関連する資料・情報を収集・活用できる(B-h) | | | | | | | | | | |
| 研究データを収集・整理、問題点を分析し、解決策を考察できる(B-d/2c) | | | | | | | | | | |
| 研究成果を整理して成果報告のための資料を作成できる(B-d/2b) | | | | | | | | | | |
| 研究成果を発表し、討論できる(D-f) | | | | | | | | | | |
| (平均) | | | | | | | | | | |

(出典 専攻科委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本科課程では、授業科目別の達成度(理解度)を評価させている。また、卒業時に身に付ける学力等については、学生による自己達成度評価を平成19年度まで実施しており、教育の成果や効果が上がっていることを確認している。一方、専攻科課程では、授業履修後に「自己達成度評価」を行い、学生自らが達成度を把握・評価している。また、その集計結果から学習・教育目標毎に十分な達成度が確認できる。よって、本科および専攻科課程について教育の成果や効果が上がっていることを確認できている。

観点 6-1-⑤： 卒業(修了)生や進路先等の関係者から、卒業(修了)生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業(修了)後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本校では卒業(修了)生が社会で要求されている資質や能力を身に付けているかどうか、また、本校の「学習・教育目標」が社会の要請に合致したものであるかを把握するために、数年毎に卒業(修了)生を受け入れている企業関係者や卒業(修了)生自身にアンケート調査を行っている(資料6-1-⑤-1, 2)。また、採用活動等で来校される企業担当者に対しても面談の際に本校卒業(修了)生の身に付けた能力等を聴取している(資料6-1-⑤-3)。それらの結果から、本校卒業(修了)生は期待される学力や資質・能力を概ね身につけているとの評価を得ている。

また、外部有識者を委員とする諮問委員会を毎年開催し、本校の教育課程や学習・教育目標が適切か否かについての意見を積極的に聴取し、本校の教育全般の改善を図っている(資料6-1-⑤-4)。

企業アンケート集計結果

- 問1 A.和歌山県の地域環境、地域社会との共生に関する理解及び倫理観を身につけ、公共の安全や利益に配慮したものづくりの考え方を理解し説明できる。
- | | |
|----------|----|
| 1. 適切である | 16 |
| 2. 適切でない | 1 |
- 意見 地域の理解が大前提ではありますが、更に視野を広げて頂ければ更に良いと考えます。和歌山県にこだわる必要は無いと思います。
- 問2 B.社会のニーズおよび環境に配慮し、かつ与えられた制約下で、工学の基礎的な知識・技術を統合して課題を解決するデザイン能力を身につける。
- | | |
|----------|----|
| 1. 適切である | 17 |
| 2. 適切でない | 0 |
- 意見 実践的でよい。発想力が豊かになることも期待したい。
- 社会のニーズをとらえることは、「お客様第一」の精神にもつながります。環境にも配慮しながら社会のニーズもとらえることの大切さを教育いただけたら、企業としても嬉しく思います。
- 問3 C.自主的・継続的な学習を通じて、自己の専門分野で深い学問的知識や経験に加え、他分野にまたがる幅広い知識を身につける。
- | | |
|----------|----|
| 1. 適切である | 16 |
| 2. 適切でない | 1 |
- 意見 知識を身につけることも重要であるが、常に自己を磨き続ける姿勢や習慣も身につけて欲しい。専門分野の深掘りも必要ですが、社会に出て必要となる知識、興味・関心の幅が広い方の育成を期待致します。
- 深い知識と幅広い知識の両立は無理がある。
- 問4 D.自分の考えを論理的に文章化する確かな記述力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション能力を身につける。
- | | |
|----------|----|
| 1. 適切である | 17 |
| 2. 適切でない | 0 |
- 意見 近年、記述力、積極的なコミュニケーション力の低下を痛感している。
- グローバル化が急速になってきております。海外でも通用する能力をつけて頂ければ、今後の社会で通用する方になると考えます。
- 日本が国際競争の中で勝ち抜くには、英語力は必須です。TOEIC基準を掲げた英語教育をお願い致します。
- プレゼン能力は必要。
- 習得レベルや実績に応じた最終プログラムとして必要と思います。
- ご意見
- 毎年、優秀な学生をご推薦頂き厚く御礼を申し上げます。今後とも宜しくお願い申し上げます。
- 最近企業では、コンプライアンスを重視しており、技術面のみならず、社会的倫理観が非常に重要になっております。世の情勢に応じた心の教育を望みます。
- いつもお世話になりありがとうございます。貴校出身のOBは真面目で何事にも真剣に取り組む方が多いように思います。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

(出典 平成 22 年 11 月外部評価委員会資料)

専攻科修了生アンケート集計結果

| | | |
|----|--|---|
| 問1 | 本校で専攻科修了時に身に付けた能力は、現在の業務を行う上で、どの程度、役に立っていますか？ | |
| | 1. 非常に役立つ | 0 |
| | 2. ある程度役立つ | 8 |
| | 3. ほとんど役立たない | 2 |
| | 4. 役立たない | 0 |
| 問2 | 将来を考えた際には、専攻科修了時に身に付けた能力は、将来的には役立つと思いますか？ | |
| | 1. 非常に役立つ | 0 |
| | 2. ある程度役立つ | 8 |
| | 3. ほとんど役立たない | 2 |
| | 4. 役立たない | 0 |
| 問3 | 専攻科修了時に身に付けたの能力で、A～Dのうち、比較的優れているものを選んで、○をつけてください(複数回答可) | |
| | A. 和歌山県の地域環境、地域社会との共生に関する理解及び倫理観を身につけ、公共の安全や利益に配慮したものづくりの考え方を理解し説明できる。 | 1 |
| | B. 社会のニーズおよび環境に配慮し、かつ与えられた制約下で、工学の基礎的な知識・技術を統合して課題を解決するデザイン能力を身につける。 | 7 |
| | C. 自主的・継続的な学習を通じて、自己の専門分野で深い学問的知識や経験に加え、他分野にまたがる幅広い知識を身につける。 | 7 |
| | D. 自分の考えを論理的に文章化する確かな記述力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション能力を身につける。 | 1 |
| 問4 | 専攻科修了時に身に付けたの能力で、A～Dのうち、比較的劣っているものを選んで、○をつけてください(複数回答可) | |
| | A. 和歌山県の地域環境、地域社会との共生に関する理解及び倫理観を身につけ、公共の安全や利益に配慮したものづくりの考え方を理解し説明できる。 | 4 |
| | B. 社会のニーズおよび環境に配慮し、かつ与えられた制約下で、工学の基礎的な知識・技術を統合して課題を解決するデザイン能力を身につける。 | 2 |
| | C. 自主的・継続的な学習を通じて、自己の専門分野で深い学問的知識や経験に加え、他分野にまたがる幅広い知識を身につける。 | 2 |
| | D. 自分の考えを論理的に文章化する確かな記述力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション能力を身につける。 | 5 |
| 問5 | 実際の業務を経験されて、身につける能力で是非とも必要であると感じているものがあれば、ご記入ください。【意見】 | |
| | 考察力 | |
| | 見聞力 | |
| | 語学力 | |
| | 積極性 | |
| | 体力 | |
| | コミュニケーション基礎能力 | |
| | プレゼンテーション能力 | |
| | 文章力 | |
| | 自主的・継続的に学習する能力 | |
| | 自分の考えをまとめ、相手に分かるように伝える能力 | |
| | 電気設計業務ならば、目的とする機能を持つ回路を設計できる力 | |
| | 現在、大学院卒の同期と研修を受けているが、彼らには思考の柔軟性が欠けているように思う。どんな仕事にも柔軟性は必要なので身に付けるべきだ。 | |
| | 実際に用いられる機械を例に挙げ、その機械に起こりうる問題を自分で予測し、討論を試みる。 | |

(出典 平成 23 年 3 月外部評価委員会資料)

資料 6 - 1 - ⑤ - 3

企業面談報告

| | | |
|----------------|---|-----------|
| 会社名 | 株式会社 | 電話 (06) - |
| 面談者 | 企業側 (役職・氏名)
人事部 | 学校側 |
| 日 時 | 12月 10日 14時 40分～ 15時 10分 | |
| 企業概要 | 所在地 1. 本社県内 2. 本社県外・工場等県内 <u>3. 県外</u>
業種
1.機械系製造業 2.電気機器製造業 3.電子系製造業 <u>4.化学系製造業</u>
5.電力・ガス・鉄道 6.建設業 7.情報処理 8.コンサルタント
9.バイオ系製造・開発 10.農業系 11.独立行政法人
(その他:) | |
| 求人数
(採用予定数) | 和高専卒 1名、 専攻科修了 メカ1名 エコ 名
(御社での採用予定数 25名(大卒・院含む) その内高専卒 名) | |
| 求人職種 | 1.施工管理 2.製造 3.設計 4.研究開発 <u>5.生産技術</u> 6.保守管理 7.営業技術
8.ソフトウェア開発 9.システムエンジニア 10.サービスエンジニア 11.営業・販売
12.公務員 12.その他() | |
| 願書〆切 | 指定: 月 日 時 あるいは 随時可能 | |
| 試験日程 | 指定: 4月 1日以降 (一次選考) あるいは 随時可能 | |
| 試験科目 | 1.筆記 <u>2.面接</u> <u>3.適性</u> 4.作文 5.その他 () | |
| 高専卒業生
採用実績 | <u>1.有</u> (分かる範囲で人数 名, その内和高専卒 1名)
2.無 | |
| 専攻科修了生
採用実績 | 1.有 (分かる範囲で採用実績ある場合の人数 名) 和高専 1名
2.無 | |
| 夏期実習受入 | 本年度 1.可 2.検討する 3.不可 | |
| 採用専攻科修了生について | 1. 専攻科修了生は、大学卒に比べて、技術者としての能力 (レベル) はどうでしょうか?
(高い、やや高い、 <u>ほぼ同じ</u> 、 やや低い、 低い)
2. 専攻科修了生は、将来的に海外で活躍できる素養があるでしょうか?
(高い、やや高い、 <u>ほぼ同じ</u> 、 やや低い、 低い) | |
| 2006年エコ修了生1名入社 | 3. 専攻科修了生の総合的な能力は、他の大学卒に比べて、十分であるといえますか?
(高い、やや高い、 <u>ほぼ同じ</u> 、 やや低い、 低い)
4. 高専教育で特に期待されている能力があれば、お教えてください。
(社内教育でしっかりやるので、専攻科生も問題なし) | |
| 備考 | | |

(出典 環境都市工学科資料)

諮問委員会次第

日時 平成 24 年 3 月 6 日 (火) 14:00～16:30

場所 和歌山工業高等専門学校会議室

1. 学内施設案内
2. 開会
3. 校長挨拶
4. 委員及び教職員紹介
5. 委員長挨拶
6. 議事
 1. 『キャリア教育の充実と進路について』
 2. 『学校の防災教育と地域との連携について』
7. 校長挨拶
8. 閉会

配付資料 ①諮問委員会資料

- 【事前配付済】** ・平成 23 年度和歌山工業高等専門学校諮問委員名簿
 ・和歌山工業高等専門学校諮問委員会設置要項
- 【今回配付】** ・平成 23 年度和歌山工業高等専門学校諮問委員会次第
 ・キャリア教育の充実と進路について
 (山川教務主事・福田学生主事報告資料)
 ・学校の防災教育と地域との連携について
 (中本地域共同テクノセンター長報告資料)

②参考資料

- 【事前配付済】** ・平成 22 年度諮問委員会報告書
 ・平成 23 年度学校要覧
 ・和歌山工業高等専門学校 平成 22 年度年報
 ・和歌山工業高等専門学校 地域共同テクノセンター広報 Vol. 20
 ・平成 23 年度和歌山高専 教員シーズ集
- 【今回配付】** ・平成 23 年度和歌山工業高等専門学校諮問委員会座席表
 ・平成 22 年度和歌山工業高等専門学校環境報告書

(出典 平成 23 年度諮問委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

卒業（修了）生の学習達成状況等を聴取する取組として、卒業（修了）生の就職先企業や卒業生（修了）にアンケート調査を実施しており、概ね期待される学力や資質・能力を身につけているとの評価を得ている。さらに諮問委員会等を通じて外部有識者からの意見を頻繁に聴取し、本校の教育全般の見直しを行っている。したがって、教育の成果や効果が上がっている。ただし、卒業（修了）生の就職先企業や卒業生（修了）本人へのアンケート調査の頻度は十分とはいえず、改善の余地がある。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校卒業（修了）生が卒業（修了）時に身につけておくべき能力等については諮問委員会や卒業（修了）生を受け入れている企業に対するアンケート調査を通じて広く外部の意見を聴取できている。学生の学習達成度は、年4回の定期試験を中心に把握している。また、卒業研究や特別研究では複数教員によるきめ細かな指導を実現し、その結果、学生の学外での研究発表件数が増加している。さらに各種英語検定等の外部の資格取得を支援できている。

また、専攻科学生には、授業履修後に自ら「自己達成度評価」表を作成させ達成度を評価させている。

(改善を要する点)

卒業（修了）生に対するアンケート調査の頻度が低く、十分とは言えない。また、本科課程卒業時における学生の自己達成度評価を継続して実施することが必要である。

(3) 基準6の自己評価の概要

本校の教育に対して、外部有識者で構成される諮問委員会や卒業生を受け入れている企業に対するアンケート調査から意見を聴取できている。また、卒業（修了）生自身に対するアンケート調査も実施できている。学生の学習達成度は年4回の定期試験で把握している。卒業研究や特別研究では複数教員でのきめ細かな指導をしており、学生の学外での研究発表件数も増加している。また各種英語検定や資格試験合格者に単位を与える等、外部単位の取得を支援できている。これらの結果、本校卒業（修了）生に対する企業からの評価は高く、例年、就職希望者に対して13～20倍の求人数を確保できている。企業側が必要とする人材を供給できていると判断する。また、進学希望者はほぼ全員が本校専攻科や希望の国立大学に進学しており、本校の教育の成果の一端があらわれているものとする。

基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

本科新入学生には、4月の早い時期に学校近くの県立白崎青少年の家を利用して、宿泊研修（1泊2日）を実施し（資料7-1-①-1）、学生間の理解を深めている。研修では、先輩である専攻科生や教務主事が、学生生活に必要な事柄等を実体験を交えて話し、新入生に伝えている。同時に中学までの学習法と高専での学習法との違いやシラバスの活用法なども説明している。また、教育理念や教育目標、教育課程等が記載された「学生便覧」（資料7-1-①-2）を年度初めに学生に配布し、周知を図っている。

専攻科入学生には、入学式のあとにガイダンスを実施している。（資料7-1-①-3）

各クラスに担任を配置し（資料7-1-①-4）、学生からの学習上の疑問、悩み等に丁寧な対応を行っている。学生相談室においても随時相談を受けている（資料7-1-①-5～6）。また、各教員が昼休みや放課後に随時相談に応じている。

以前、本校でもオフィスアワーを設定していたが、学生は、そのような設定にかかわらず、授業間休憩、昼休み、および放課後を利用して、科目担当教員や学級担任に、勉強、学生生活、進路などあらゆる質問、相談をしてきている。したがってオフィスアワーの設定が無くとも、学生を支援することはできている。

| 平成24年度新入生特別活動の案内 | | 資料7-1-①-1 | |
|---|--------------|-----------------------|--------------|
| 和歌山工業高等専門学校 第1学年 | | | |
| 1. 場所 | | | |
| 白崎青少年の家（日高郡由良町大引 961-1 TEL 0738-65-2351） | | | |
| 女子宿泊所：民宿いわさき（日高郡由良町大引 335 TEL 0738-65-1039） | | | |
| 2. 日程表 | | | |
| ☆印の行事では、5分前に集合し、班長は班の人数を確認して報告すること。 | | | |
| 第1日 4月13日（金） | | 第2日 4月14日（土） | |
| 14:45 バス乗降口で点呼 | | <男子> | <女子> |
| 15:00 出発（バス） | | 6:30 起床 | 6:30 起床 |
| 16:00 白崎青少年の家着 | | 7:10 清掃 | 7:00 民宿出発 |
| 16:10 ☆入所式 | | 7:30 ☆朝の集い | 7:20 青少年の家到着 |
| 17:00 夕食 | | 8:00 朝食 | 7:30 ☆朝の集い |
| 18:15 ☆夜の行事（講演） | | 8:00 朝食 | 8:00 朝食 |
| | | 8:40 ☆午前の行事（講演） | |
| | | 9:30 ☆ウォークラリー（プレイプラザ） | |
| | | （雨天時：DVD鑑賞など） | |
| | | 12:00 昼食 | |
| <男子> | <女子> | 13:00 ☆退所式 | |
| 19:45 入浴 | 19:45 青少年の家発 | 13:30 青少年の家出発 | |
| 21:45 就寝準備 | 20:15 民宿着・入浴 | （御坊駅、市役所前停車） | |
| 22:00 消灯・就寝 | 22:00 消灯・就寝 | 14:30 帰校、解散 | |

（出典 学生課資料）

平成 24 年度版「学生便覧」目次

資料 7 - 1 - ① - 2

| | |
|-------------------------|----|
| 1. 教育理念および学習・教育目標 | 1 |
| 2. 学生生活の手引き | |
| 1. 主な校務分担等（抜粋） | 3 |
| 2. 年間の授業及び行事の予定（本科・専攻科） | 4 |
| 3. 緊急時の連絡について | 5 |
| 4. 科目の履修について | 5 |
| 5. 授業について | 6 |
| 6. 試験・成績・進級及び卒業について | 6 |
| 7. 奨学金について | 7 |
| 8. 授業料免除について | 7 |
| 9. 証明書の発行や各種の申請の手続きについて | 8 |
| 諸手続一覧 | 11 |
| 10. 学生なんでも相談室のご案内 | 13 |

教 育 理 念

本校は、5年間の一貫教育を通じて、エンジニアとしての素養を身につける基礎教育と、実践を重視した専門教育を効果的に行うことにより、工学を社会の繁栄と環境との調和に生かすための創造力と問題解決能力を身につけ、豊かな人間性と国際性を備えた人材の育成を目指す。

とりわけ自然環境に恵まれた和歌山県中南部に位置する本校は、地域社会の特色を生かしつつ、地球環境に配慮した新技術の開発に貢献することにより、新たな課題に挑戦する。

こうした環境と地域連携を考慮した教育・研究活動が、国際社会へもアピールできるよう努力を重ねる。

学 習 ・ 教 育 目 標

- (A) 和歌山県の地域環境、地域社会との共生に関する理解および倫理観を身につけ、公共の安全や利益に配慮したものづくりの考え方を理解し説明できる。
- (B) 社会のニーズおよび環境に配慮し、かつ与えられた制約下で、工学の基礎的な知識・技術を統合して課題を解決するデザイン能力を身に付ける。
- (C) 自主的・継続的な学習を通じて、自己の専門分野で深い学問的知識や経験に加え、他分野にまたがる幅広い知識を身に付ける。
- (D) 自分の考えを論理的に文章化する確かな記述力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション能力を身につける。

(出典 平成 24 年度学生便覧目次（抜粋）および P. 1)

資料7-1-①-3

入学式当日及び新学期当初の日程（専攻科生）

入学式当日及び新学期当初の日程は以下のとおりです。

☆入学式当日の日程について

4月8日（日）

| 時 間 | 新 入 生 | 備 考 |
|-------------|------------------------------|------------------|
| 8:30～9:30 | 受付
各種書類の提出 | 受付場所は正面玄関前。 |
| 9:30 | 集合（正面玄関） | |
| 9:45 | 点呼入場 | |
| 10:00～11:00 | 入学式
（第1体育館） | |
| 11:00～13:00 | 昼食 | 各自、適宜昼食をお取りください。 |
| 13:00～15:00 | 専攻科入学ガイダンス
（専攻科棟マルチメディア室） | |
| 15:00～ | 入寮（入寮生のみ） | |

資料 7-1-①-3 つづき

平成 24 年 4 月 8 日
専攻科長 藤本 晶

専攻科 1 年生の皆さんへ

学修に関するオリエンテーション資料（第 1 回）

資料等一覧

| 資料一覧 | 本資料の
関連項目 | 備考 |
|-----------------------|--------------|------------------|
| オリエンテーション資料 | | |
| 専攻科学修の手引き・シラバス | 2-12 | |
| 学生便覧 | 3 | |
| 新しい学士への途・平成 24 年度版 | 4,10 | |
| 学位授与申請書類・平成 24 年度版 | 4,10 | |
| 選択科目履修届 | 10 | 副専攻科長へ提出 |
| 教科書発注書 | 10 | 書店へ提出 |
| 特別研究実施時間報告書（前期／後期） | 7 | 特研指導教員へ提出 |
| 工学特別ゼミナール選択届 | 8 | 副専攻科長へ提出 |
| 工学特別ゼミナール実施時間報告書（年度末） | 8 | ゼミ指導教員へ提出 |
| インターンシップに関する調査 | 9 | 副専攻科長へ提出 |
| 学生証 | 13 | |
| ロッカーのキー | 14 | 希望者のみ、学生課で手続き |
| 在学証明書 | 15 | |
| 住所等確認表 | 16 | 学生課から配付済み。学生課へ提出 |
| 健康診断票 | 17 | 受診後、学生課へ提出 |

1. 専攻科委員の紹介

| | | | |
|-------|--------|---------|-----------|
| 専攻科長 | 藤本 晶 | M, 電気情報 | |
| 副専攻科長 | 山東 篤 | M, 知能機械 | 1M, 2M 担任 |
| 副専攻科長 | 河地 貴利 | E, 物質 | 1E, 2E 担任 |
| 専攻科委員 | 坂田 光雄 | M, 知能機械 | |
| | 佐久間 敏幸 | M, 電気情報 | |
| | 米光 裕 | E, 物質 | |
| | 鶴巻 峰夫 | E, 環境都市 | |
| | 宮本 克之 | 一般科目 | |

□ M：メカトロニクス工学専攻, E：エコシステム工学専攻

2. 学習教育目標

参照資料：専攻科学修の手引き・シラバス

- (A) 和歌山県の地域環境、地域社会との共生に関する理解および倫理観を身に付け、公共の安全や利益に配慮したもののづくりの考え方を理解し説明できる。
- (B) 社会のニーズおよび環境に配慮し、かつ与えられた制約下で、工学の基礎的な知識・技術を統合して課題を解決するデザイン能力を身につける。
- (C) 自主的・継続的な学習を通じて、自己の専門分野で深い学問的知識や経験に加え、他分野にまたがる幅広い知識を身につける。
- (C-1) 自然科学・情報技術に関する基礎的素養を有し、それぞれの専門分野での問題解決のためにそれらを駆使できる能力を身につける。
- (C-2) それぞれの専門分野に関する深い学問的知識と実験・実習で得た多くの経験を持ち、それらを問題解決のために応用できる能力を身につける。
- (C-3) 長期的視点に立ち、計画的に継続して自らの能力を向上させようとする習慣とそれを実現する能力を身につける。

資料7-1-①-3つづき

(D) 自分の考えを論理的に文章化する確かな記述力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション能力を身につける。

3. 履修および専攻科修了要件

参照資料：専攻科学修の手引き・シラバス

専攻科修了要件

□学則第47条

第47条 専攻科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、62単位以上を修得した者で、かつ、別に定める修了要件を満たした者について、修了を認定する。

□和歌山工業高等専門学校専攻科授業科目の履修に関する規則

(修了に必要な要件)

第8条 専攻科の修了は、学則第47条に規定するもののほか、次の区分による単位を修得し、かつ、原則として、次の各号の要件を満たしていなければならない。

| 専攻 | 科目 | 専 門 科 目 | | 合 計 |
|-------------|-------|---------|--------|--------|
| | | 一般科目 | 専門共通科目 | |
| メカトロニクス工学専攻 | 6単位以上 | 12単位以上 | 36単位以上 | 62単位以上 |
| エコシステム工学専攻 | 6単位以上 | 12単位以上 | 36単位以上 | 62単位以上 |

一 学位取得のための学修成果レポートを大学評価・学位授与機構に提出していること。

二 地域環境デザイン工学教育プログラムにおいて124単位以上修得していること。

三 総学習時間が1800時間以上であること。

四 人文科学・社会科学（語学教育を含む。）等の学習時間が250時間以上であること。

五 数学・自然科学及び情報技術の学習時間が250時間以上であること。

六 専門科目の学習時間が900時間以上であること。

七 別に定める達成度評価基準に合格していること。→学習教育目標A～Dのクリヤ

4. 学位の取得について

参照資料：専攻科学修の手引き・シラバス，新しい学士への途平成24年版
大学評価・学位授与機構へ申請して取得する。

(1) 積み上げ単位の修得 62単位以上（内訳に注意）

(2) 学習成果レポートの作成（特別研究）

(3) 申請時期 2年生の10月第1週頃，一括申請により修了式で学位記を受領可能

(4) 小論文試験（学習成果レポートから2問出題） 2年生の12月中旬

(5) 上記(1)(2)(4)すべてに「可」と判定されると合格 2年生の2月中旬に合否通知

(6) 2年生の特研中間発表会(7月下旬)頃、説明会を開催する予定

5. JABEEについて（「地域環境デザイン工学」教育プログラム）

参照資料：専攻科学修の手引き・シラバス，パワーポイント

平成18年度にJABEE審査を受け、認定された。平成18年度修了生からJABEEプログラム修了生。
平成20年度に中間審査を受け、継続して認定された。平成23年度に継続審査を受け、継続して認定された。

学習・教育目標A～Dを必ず理解する。

「地域環境デザイン工学」プログラムの修了要件

(1) 専攻科の修了生であること

(2) 学士の学位を取得していること。

(3) 「地域環境デザイン工学」プログラムにおいて、124単位以上を修得していること。

(4) 「地球環境デザイン工学」プログラムの学習・教育目標を達成していること（表3「各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価方法および評価基準」を満たしていること）。

(5) 「地域環境デザイン工学」プログラムにおいて、以下の学習時間に相当する科目を履修していること。

□総学習時間 1800時間以上

□人文科学・社会科学等（語学教育を含む）の学習時間 250時間以上

資料7-1-①-3つづき

- 数学・自然科学・情報技術の学習時間 250 時間以上
- 専門科目の学習時間 900 時間以上

6. 工学特別実験について

参照資料：専攻科学修の手引き・シラバス（工学特別実験・創造デザインの資料）

- (1) 最初の9週間は創造デザイン部門を行います。これはデザイン能力を育成するための実験部門であり、必ず合格しなければなりません。
- (2) 第10週以降はテーマ別実験部門を行います。
- (3) 各実験の開始時には実施計画表に記載の実験場所（集合場所）で指示を受けて下さい。ただし、創造デザイン部門の第1回については教室（専攻科棟2階1M講義室）に集まって下さい。
- (4) レポートの期限・提出先などは担当教員の指示に従ってください。
- (5) 学習・教育目標をクリアできるように、到達目標を理解して履修してください。

7. 特別研究について

参照資料：専攻科学修の手引き・シラバス

- (1) 2年間じっくりと取り組む研究です。各テーマ担当教員との直接の懇談などにより、よく考えて決めて下さい。受入れ希望の先生と必ず話をしてください。

4/11(水)3限に1M教室に集合し、その時点での希望を取りまとめます。その後、研究室訪問(3、4限)とします。

- (2) 配属の調整と最終決定のために、2回目の特別研究の時間**4/18(水)3限**に各講義教室に集まって下さい。

当日のコーディネーター

- メカトロニクス工学専攻 → 山東先生
- エコシステム工学専攻 → 河地先生

- (3) 学習・教育目標をクリアできるように到達目標を理解し、研究を進めてください。

8. 工学特別ゼミナールについて

参照資料：専攻科学修の手引き・シラバス

専攻科掲示板：工学特別ゼミナール選択届

- (1) 原則として、特別研究担当教員を選択してください。ただし、関連するテーマで興味のある教員のゼミを選択しても結構です。その場合、特別研究の先生とも相談の上、決定して下さい。
- (2) **4/25(水)までに**「工学特別ゼミナール選択届」を**指導教員**の印をもらって
メカトロニクス工学専攻 → 山東先生
エコシステム工学専攻 → 河地先生 に提出して下さい。
- (3) 学習・教育目標をクリアできるように、到達目標を理解し、学習して下さい。

9. インターンシップについて

参照資料：専攻科学修の手引き・シラバス

専攻科掲示板：インターンシップに関する調査

- (1) 2週間（実質10日80時間）以上で2単位取得できます。大学等でのインターンシップも可能です。ただし、阪大は3月に実施します。
- (2) 履修希望者は、**4/25(水)までに**「インターンシップに関する調査」を
メカトロニクス工学専攻 → 山東先生
エコシステム工学専攻 → 河地先生 に提出して下さい。

10. 科目の履修について

参照資料：専攻科学修の手引き・シラバス、新しい学士への途（平成24年度版）

配付物：選択科目履修届、教科書発注書

- (1) シラバス等の資料を自分で熟読して、どの科目を履修するかを決めて下さい。
- (2) 開講後最初の1週間は全科目を受講して、選択の参考にして下さい。**[4/10(火)~16(月)]**
- (3) 後期科目も含めて選択の仕方を考えて下さい。ただし、後期も第1回授業を聴いた後で申請しま

資料 7-1-①-3 つづき

- す。
- (4) 専攻科の修了要件をすべてクリアできているか、シラバス付録の確認表で各自チェックしてください。
- (5) 開講時期を変更している科目があるので注意してください。
 ・ 応用エネルギー工学(IME) → 後期開講
 ・ 情報理論(IME) → 後期開講(2ME と同時受講)
 ・ 信号処理理論(IM) → 前期開講(2M と同時受講)
 ・ 遺伝子工学(IE) → 25 年度開講
- (6) 選択科目履修届等の提出先と切
 メカトロニクス工学専攻 → 山東先生
 エコシステム工学専攻 → 河地先生
4/16(月)17:00までに上記先生へ提出して下さい。
- (7) 教科書発注書と代金を**4/16(月)12:05-12:45**に専攻科棟1階ホールで書店の方に提出してください。

11. 大学単位（学修単位）について

参照資料：専攻科学修の手引き・シラバス、パワーポイント

専攻科における単位の定義

1 単位の授業科目は 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、①講義及び演習については、15 時間から 30 時間までの範囲で学校が定める時間の授業をもって 1 単位とし、②実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲で学校が定める時間の授業をもって 1 単位とすることができる。

講義科目の場合、学校での 15 時間の授業＋自宅での 30 時間の学習によって 1 単位となる。そのため、

- (1) 2 単位の講義科目で 90 分授業は、半期に 18 コマ分の授業を実施（3 コマ分は別途時間割作成）
 (2) 自宅学習の実施（課題、演習等を行う）→適度の量

12. 年間行事計画，時間割について

参照資料：平成 24 年度行事計画，平成 24 年度前学期時間割

平成 24 年度の授業時間

- 1, 4 限目 110 分授業 2, 3 限目 90 分授業

13. 専攻科棟への出入り等について

配布物：学生証

(1) 専攻科棟入口、MM 教室および登録済の部屋は学生証で解錠できます。専攻科棟入口は右側壁面にある認証装置に、その他の部屋は認証装置を手でなぞって青く光ってから学生証をかざしてください。紛失しないように注意してください（紛失した場合、弁償）。入口は 24 時間防犯カメラが作動しています。

(2) 主に講義を受ける部屋は次の通り。

1M・・・専攻科棟 2 階・講義室 1M

1E・・・・ // // 1E

(3) 各室でのエアコン、照明は退室時電源を切る等、省エネに心がけてください。

(4) 教室を退出する時は、必ず窓を閉めてください。

(5) マルチメディア室は講義や演習などで教員が利用する時間以外は自由に利用できます。レポート作成、進路に関する調べなど有効に活用してください。ただし、授業優先に留意してください。

14. ロッカーのキーについて

専攻科棟 2 階または 3 階の個人用ロッカーを希望者に貸与します。希望者は、学生課で手続きして、キーを受け取ってください。

15. 在学証明書について

配付物：在学証明書

遠隔地保険証の発行など、必要な事項に使ってください。

資料7-1-①-3つづき

16. 住所等確認表について

配付物：住所等確認表（配布済み）

必要事項を記入し、4/9(月)までに学生課へ提出してください。

17. 健康診断について

配付物：健康診断票

(1) 指定された検診日に必ず受診してください。

(2) 受診後は学生課へ診断票を提出して下さい。

18. 学生への連絡について

(1) 原則として、専攻科棟3階の掲示板または専攻科棟屋外の掲示板に掲示します。必ず1日1回は見るようにしてください。

(2) 学内LANの専攻科掲示板に各種書類の手続き、様式ファイルなどもアップします。

(3) マルチメディア室のパソコンのユーザー名とパスワードの初期設定は、メカの出席番号3番の学生は12M03、エコの出席番号12番の学生は12E12、以下同様です。パスワードは各自で再設定してください。

(4) 緊急の連絡などはメーリングリストを活用します。各自の携帯メールアドレスおよび携帯電話番号を副専攻科長にお知らせください。

19. クラス代表の決定

1M →

1E →

20. その他

(1) 教室はいつも整理整頓された状態で講義を受けるように心がけてください。

特に、教室内のごみの搬出（分担）や教室の清掃（分担）は、クラス代表が指示して定期的に行ってください。

(2) 机などへの落書きは絶対にしないこと。

以上

提出物・行事一覧

| No. | 日時・期限 | 行事・提出物 | 場所 |
|-----|--------------------|------------------|-------------|
| 1 | 4/9 | 16.住所等確認票 | 学生係 |
| 2 | 4/11 (3限) | 7.研究室配属 希望調査 | 1M 教室 |
| 3 | 4/16 (12:05-12:45) | 10.教科書発注届・代金 | 専攻科棟 1F ホール |
| 4 | 4/16 (~17:00) | 10.選択科目(履修届略) | 副専攻科長 |
| 5 | 4/18 (3限) | 7.研究室配属 最終決定 | 1M 教室 |
| 6 | 4/25 | 9.インターンシップに関する調査 | 副専攻科長 |
| 7 | 4/25 | 8.特別ゼミナール履修届 | 副専攻科長 |

(出典 学生課資料)

学級担任

資料7-1-①-4

| 学科 | 1年担任 | 2年担任 | 3年担任 | 4年担任 | 5年担任 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 知能機械工学科 | 太古 隆治 | 濱田 俊彦 | 右代谷 昇 | 三原 由雅 | |
| 機械工学科 | | | | | 坂田 光雄 |
| 電気情報工学科 | 山吹 巧一 | 和田 茂俊 | 岡本 和也 | 村田 充利 | 徳田 将敏 |
| 物質工学科 | 奥野 祥治 | 平岡 和幸 | 網島 克彦 | 岸本 昇 | 土井 正光 |
| 環境都市工学科 | 芥河 晋 | 平山 規義 | 伊勢 昇 | 山田 宰 | 三岩 敬孝 |

太字は学年主任

(出典 平成24年度学生便覧P. 3)

2. 10 学生なんでも相談室

学生なんでも相談室って？

どんな悩みでも、ちょっと誰かに話してみることで気持ちが楽になったり、自分では気づけなかった解決策が見つかったりすることもあります。

学生なんでも相談室は、皆さん一人一人が悩みながらも充実した学生生活を送られるようにサポートしていくところです。相談内容については、秘密を固く守りますので安心してください。

スタッフは？

皆さんが授業や学生・寮生活を通じて（たぶん）会ったことのある教員・職員のなかから、今年は下記スタッフが担当します。

また、学外の専門のカウンセラーにもお話を聞いて頂けます。誰に相談してもいいんですよ。

相談場所は？ いつ？

各相談員の部屋は「教室配置図」を参照してください。また、相談時間は原則として「いつでもOK」です。

なお、カウンセラーの先生は、週1日 午後国際交流会館2階の「オレンジルーム」におみえです。カウンセラーの先生に相談のある場合は、時間の調整をしますので、保健室の看護師までご連絡ください。（日程、担当者は事前に掲示します。）

平成24年度学生相談員スタッフ

| 所属等 | 氏名 | 連絡先等 |
|---------------------|-------|------------|
| (相談室長)
知能機械工学科教員 | 溝川 辰巳 | [Redacted] |
| (相談室員)
電気情報工学科教員 | 直井 弘之 | |
| (相談室員)
物質工学科教員 | 西本 真琴 | |
| (相談室員)
環境都市工学科教員 | 林 和幸 | |
| (相談室員)
一般科目教員 | 芥河 晋 | |
| (相談室員)
保健室職員 | 小川 敏子 | |
| (相談室員)
カウンセラー | 坂田 鈴 | |

メールで相談したい時は、相談室のメールアドレスもあります。

soudan@wakayama-nct.ac.jp

毎日相談室長がチェックしていますので、誰に相談して良いかわからない時などに利用して下さい。匿名でもかまいません。

例えば、どんな相談？

☆ 学業について

なんとなくやる気がしない
先生とのトラブルや授業についていけないあせり、など

☆ 進路について

進路変更や、休学・退学に関する悩み
就職や将来のこと
自分の生き方の悩み、など

☆ 性格や対人関係について

人との接触がうまくいかない
本音で話せる友人がいない、など

☆ 健康について

落ち込んで何もしたくない
夜眠れず、食欲もない、など

☆ その他

家庭の事情や親子関係で悩んでいる
アルバイト先のトラブルや経済的なことで困っている
恋愛や性のことで悩んでいる、など

・・・どんなことでもいいんですよ。

遠慮なく気軽に学生相談室を活用して、楽しく実りある学生生活を過ごしてください。

(出典 平成24年度学生便覧P. 13)

H23年度 学生相談 件数

資料7-1-①-6

総計

| 分類 \ 学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 専攻科 | 保護者
卒業生
担任等 | 合計件数 |
|-----------|----|----|----|----|----|-----|-------------------|------|
| ① 学業 | 16 | 1 | 6 | 5 | 0 | 0 | 8 | 36 |
| ② 進路・将来 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| ③ 友人・対人関係 | 26 | 2 | 6 | 6 | 2 | 0 | 10 | 52 |
| ④ クラブ活動 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ⑤ 寮生活 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 7 |
| ⑥ 健康・精神衛生 | 11 | 7 | 31 | 7 | 3 | 0 | 48 | 107 |
| ⑦ 家庭 | 1 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| ⑧ アルバイト | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑨ その他 | 18 | 1 | 6 | 6 | 4 | 0 | 5 | 40 |
| 合計 | 76 | 13 | 51 | 29 | 9 | 0 | 73 | 251 |

臨床心理士

| 分類 \ 学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 専攻科 | 保護者
卒業生
担任等 | 合計件数 |
|-----------|----|----|----|----|----|-----|-------------------|------|
| ① 学業 | 15 | 1 | 0 | 4 | 0 | 0 | 7 | 27 |
| ② 進路・将来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ③ 友人・対人関係 | 17 | 1 | 1 | 5 | 0 | 0 | 10 | 34 |
| ④ クラブ活動 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ⑤ 寮生活 | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 6 |
| ⑥ 健康・精神衛生 | 9 | 3 | 3 | 7 | 1 | 0 | 42 | 65 |
| ⑦ 家庭 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| ⑧ アルバイト | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑨ その他 | 4 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 8 |
| 合計 | 50 | 7 | 5 | 19 | 1 | 0 | 63 | 145 |

保健室

| 分類 \ 学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 専攻科 | 保護者
卒業生
担任等 | 合計件数 |
|-----------|----|----|----|----|----|-----|-------------------|------|
| ① 学業 | 1 | 0 | 6 | 1 | 0 | 0 | 1 | 9 |
| ② 進路・将来 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| ③ 友人・対人関係 | 9 | 1 | 5 | 1 | 2 | 0 | 0 | 18 |
| ④ クラブ活動 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑤ 寮生活 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ⑥ 健康・精神衛生 | 2 | 4 | 28 | 0 | 2 | 0 | 6 | 42 |
| ⑦ 家庭 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ⑧ アルバイト | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑨ その他 | 14 | 0 | 5 | 6 | 4 | 0 | 3 | 32 |
| 合計 | 26 | 6 | 46 | 10 | 8 | 0 | 10 | 106 |

2012/3/21

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

入学当初の合宿研修，低学年への週1回のホームルーム，及び学科主任や担任を通じて必要な事が学生に伝達できる体制ができています。これらのことからガイダンスが整備され，適切に実施されており，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能している

観点7-1-②： 自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

学生が自主的に学習できる環境として，図書館があり，平日（21時まで）及び土曜日に利用できる（資料7-1-②-1）。また情報処理教育センターと専攻科棟のマルチメディア室では，インターネットに繋がったパソコンが利用でき（資料7-1-②-2），学生の自学自習を支援している。これらの端末は許可をとれば時間外も利用できる（資料7-1-②-3）。また学生寮では低学年でもノートパソコンの持ち込みを許可しており（資料7-1-②-4），自学自習できる体制を整えている（資料7-1-②-5）。

福利棟に2階に保健室と「オレンジルーム」と呼んでいる学生相談室，1階には学生食堂が設置されている（資料7-1-②-6）。コミュニケーションスペースとしては玄関横に設置されたオープンラウンジ，環境都市工学科棟の学生会室等が利用されている。

資料7-1-②-1

Library

◀ back to index

■ 図書館概要

図書館
MENU

図書館概要

一般公開

開館カレンダー

蔵書検索システム

本校図書館の蔵書検索が出来ます

和歌山地域
コンソーシアム
図書館

和歌山県内の図書館
にある、蔵書情報と
図書の貸出・配送
サービスを提供

正門を入れて左手奥の建物が図書館棟です。図書室への入り口は2階にあり、貸出・返却をする事務室や、閲覧室、雑誌コーナー、マルチメディアコーナー、書庫などがあります。

自然科学や工学技術等の専門および学習図書が半数を占めていますが、文学や歴史・経済など各分野についても充実しています。

各コーナーでは、啓蒙図書や小説・軽読書、一般雑誌など気軽に手にすることができ、教養を深め、親しみながら図書館を有効に活用してもらえるよう力を入れています。

本校の図書館は一般公開施設でもあり、どなたでも自由に利用していただけます。授業のある平日は夜9時まで開館していますので、一般の方々への貸出件数も増大しています。




図書館に所蔵しているすべての図書は、インターネットを通して検索が可能です。

さらに、県内の大学や公立図書館と連携した蔵書検索システムを利用して、他館に所蔵の図書についても貸出を受け付けています。

視聴覚コーナーでは、学習ソフトの利用、音楽や映画などを楽めるよう、ビデオテープ、CD、LD、DVD等の資料とともに、AV機器を備えています。

開館時間

平日： 9時～21時（試験期間中は、9時～22時）

土曜日： 10時～16時

休館日

日曜日、祝日、年末年始（12月28日～1月4日）

* 長期休業期間中（春季・夏季・冬季）は、開館日・時間が変更になります。
詳しくは、図書館（TEL0738-29-8217）までお問い合わせください。

(出典 本校HP)

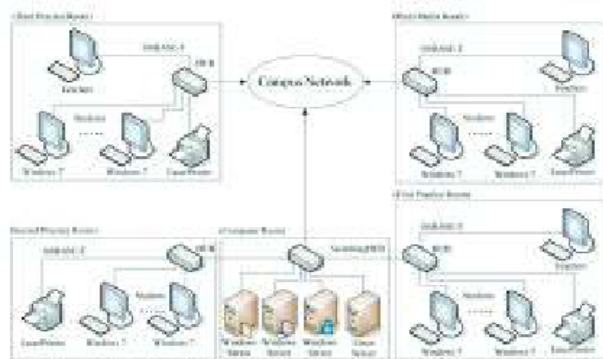
情報処理教育センター

資料 7-1-②-2

情報処理教育センターは、教育用パーソナルコンピュータ140台と、教育用サーバー 4 台、高速並列計算機システムを設置し、本校の教育・研究・地域連携を情報という側面から支えています。

教育用パソコンは、ゲストOSとしてVirtualBOX上でWindowsXP、Ubuntu (Linux) 環境が構築されており、コンピュータ利用の基礎、IT応用ソフトの利用、および各種言語によるプログラミングの学習に活用されます。高速並列計算機システムは、高度な解析が要求される卒業研究・特別研究・教員研究に使用されます。

また、高速ギガビットネットワーク (LAN) により、センター演習室や各学科研究室から学外へ高速回線でアクセスできます。



情報処理教育センター

電子計算機室1

演習室3 (教育用PC……第1演習室49台 第2演習室11台
第3演習室49台)

専攻科棟マルチメディア教室1 (教育用PC……31台)

高速ギガビットネットワーク (LAN) 機器

センター利用時間 平日 午前 8 時30分～午後 5 時

(出典 平成 23 年度学校要覧 P. 26)



資料 7-1-②-3

和歌山工業高等専門学校情報処理教育センター利用の手引き (抜粋)

制 定 平成 8 年4月1日

最近改訂 平成 18 年4月1日

5. センターの利用方法

(1) 利用時間

- ・ 第一演習室及び第二演習室

一般利用時間内はオープン利用できる。一般利用時間内とは、次の通りである。 月～金曜日：8時30分から17時00分まで

(土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日及び年末年始は除く。)

- ・ 第三演習室

原則として授業時間内でのみ利用できる。ただし、授業時間外では、一般利用時間内に限り、情報センターに連絡し許可を得た指導教員が付き添う場合に、利用することができる。

- (2) 一般利用時間外は、メディアセンター長の許可を得て利用できる。ただし、学生は指導教官を経て、学習による情報処理教育センター使用許可願 (センター事務室内) を一般利用時間内の15時30分までに、センター事務室に提出しなければならない。

また、利用後は、利用報告書 (センター事務室内) をセンター事務室に提出するものとする。

(出典平成 24 年度学生便覧 P. 68)

資料7-1-②-4

寮務主事

パソコン持込使用許可願

平成 年 月 日

和歌山工業高等専門学校
寮務主事 殿

工学科 第 学年 学級番号

氏名

下記、パソコンの学寮内自室への持ち込み使用を許可願います。

記

1. 機種名 _____
(ウイルス対策 済 or 未)
2. 製造番号 _____
3. 使用目的 _____
4. 使用期間 自 平成 年 月
至 平成 年 月

以上

※ただし、目的外の使用や、隣室者・同室者の迷惑となる行為があった場合には、許可を取り消す場合がある。

(出典 学生課資料)

資料7-1-②-5

・パソコン持込使用許可願

<持込申請数>

H22…66件

H23…86件

H24…53件 (H24. 6. 13現在)

(出典 学生課資料)

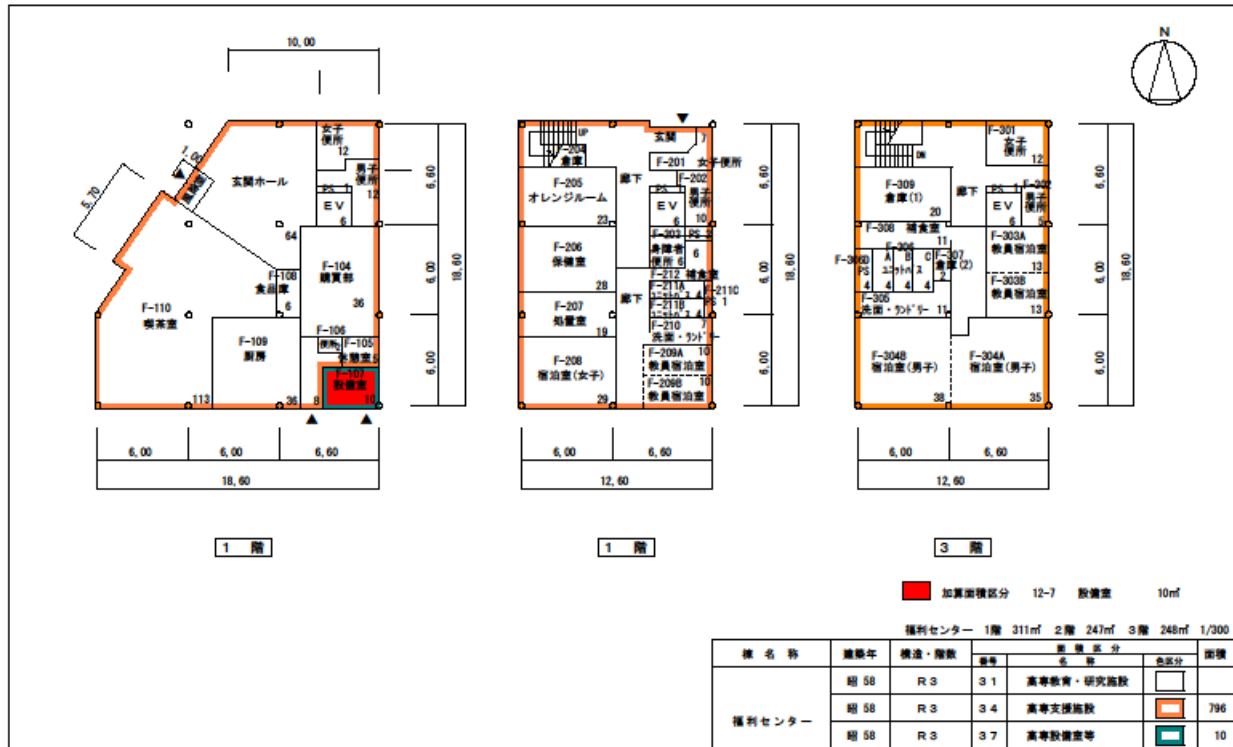
資料 7-1-②-6

福利センター平面図

文部科学省・計画課

| 学校番号 | 学校名 | 所在地番号 | 所在地名 | 施設番号 |
|------|-------------|-------|------|------|
| 6640 | 和歌山工業高等専門学校 | 001 | 野島 | 037 |

国立大学法人等施設実態調査（様式3）



(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

学生は図書館、情報処理教育センター、学生寮の居室等を利用して、自学自習をすることができる。玄関横のオープンラウンジ、福利棟の学生相談室、学生食堂、学生会室等が厚生施設、コミュニケーションスペースとして自由に利用できる。

これらのことから自主的学習環境および福利厚生施設、キャンパスの生活環境等が整備され、効果的に利用されている。

観点 7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また、資格試験や検定試験の受講、外国留学のための支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。

(観点到係る状況)

学習支援に関する学生のニーズは、ホームルームや教務主事・主事補と学生との懇談会等を通じて収集している(資料 7-1-③-1)。学生会では毎年学校への要望についてアンケートをとり、学習に関するものは教務主事が学生総会において回答している(資料 7-1-③-2)。

実用英検、TOEIC、工業英検等の語学検定、及び各種の資格試験については受験情報を掲示して学生に案内している(資料 7-1-③-3~4)。特に実用英検や工業英検では学校を試験会場に提供するなど、学生の受験の便を図っている。専攻科ではTOEIC受験を促すために、学内

で行うIPテストの受験料を後援会費から一部（約1/3）を負担している。さらに資格試験取得者に外部単位として認定できる単位認定規定を整備している（資料7-1-③-5）。これらの支援の結果、多くの学生が資格を取得して単位認定を行っている（資料7-1-③-6）。

また交流協定を締結している上海電機学院への留学生は国際交流委員会が学生の希望を聞く形で募集し（資料7-1-③-7）、平成24年3月には12名の学生が応募し、短期留学を果たしている。その他の外国留学に関しては取扱要項を定めて（資料7-1-③-8）、外国で取得した単位を認定するなどの支援をしている。

| 学生との面談記録 | | 資料7-1-③-1 | |
|--|-------|-----------|-------------------|
| クラス | ■■■■■ | 日時 | 11/19,16:15-16:45 |
| 面談学生 | ■■■■■ | 面談スタッフ | 宮本、樫原 |
| <p>1. 授業について
 クラス全体に雰囲気として静かに授業を受けている。
 ■■■■■先生の元気はいいが、黒板に書かれている内容が整理されていない時もある。
 ■■■■■後日見るとどこが重要なのかよく分からないプリントの内容になっていることがある。
 ■■■■■おもしろく授業をしてくれる。内容も良い。</p> | | | |
| <p>2. 設備面について
 教室にあるプロジェクターのスクリーンの位置が低い。後ろの学生は見えない。
 教室内の廊下側、午後になると日差しがきつく勉強に集中できない。
 駐輪スペースをもう少し拡張してほしい。
 野球場にトイレがない。
 自動ドアの反応が鈍い</p> | | | |
| <p>3. 自主学習について
 ほとんどの学生は宿題、試験前の勉強はやっているようだが、一名を除き、継続的な自習はしていない模様。</p> | | | |
| <p>4. 定期試験について
 試験直前の日に授業をするのは覚える余裕がないので勘弁してほしい。</p> | | | |
| <p>5. その他
 玄関内に設置されている掲示板の画面切り替わりが早い。学校の背景はいらぬのではないか。
 授業変更の案内は、常時、掲示する形にしてほしい。</p> | | | |

(出典 学生課資料)

学生意見調査アンケートによる学生からの要望(抜粋)

資料7-1-③-2

| 要望 | 担当 | 回答(対応の可否および理由) |
|------------------------------|----|---|
| 通学バスを増やしてほしい | 学生 | 10月からダイヤ改正予定に伴う増便 |
| クーラーの温度、風向きを自由に換えられるようにしてほしい | 教務 | 温度設定を自由にした場合、低い温度に設定しコストの増加につながる可能性を心配しています。そのため固定温度で運転する方針です。理解いただきたい。風向きについては調整可能です。教室のリモコンで操作してください。 |
| 授業アンケートをもっと反映してほしい | 教務 | 授業アンケートの集計結果を担当教員に示し、コメントを記入してもらいました。改善策が進んでいると思いますが、具体的にどのようにしてほしいのか示していただければ対応を図ります。 |
| 教室を午後7時まで開けてほしい | 教務 | 委託業者との契約で午後6時に施錠することになっています。午後7時に施錠が可能か施設マネジメント委員会で検討いたします。 |
| 環境都市工学科棟にも緊急掲示板をつけてほしい | 教務 | 設置する方向で検討しています。学寮にも設置を検討中で、2カ所合わせて200万円程度費用がかかります。財源をどうするかなど課題解決に努力しています。もうしばらくお待ちください。 |

(出典 学生課資料)

2012年度 第1回 実用英検受験案内

2012年度 第1回実用英検1次試験を本校を準会場として下記の通り実施の予定です。

1次試験受験会場： 本校（教室未定）

日時: 2012年6月10日(日)

| | |
|-----|-------------|
| 準2級 | 9:30～11:35 |
| 2級 | 13:00～15:15 |
| 3級 | 13:00～14:40 |

※1級と準1級は6/10(日)本会場での受験となります

| 受験料 | 準会場 | 本会場 |
|-----|-------|-------|
| 1級 | — | 7500円 |
| 準1級 | — | 6000円 |
| 2級 | 3900円 | 4100円 |
| 準2級 | 3400円 | 3600円 |
| 3級 | 2300円 | 2500円 |

申込受付: 4月27日(金曜日) 2C 教室 (本館2階)

14:30 ~ 15:00

注意事項:

- 1) 受験希望者はあらかじめ各クラスの英語総合担当教員に受験希望を申し出てください。
- 2) 2級・準2級・3級の1次試験を本会場で受験したい人も本校で申し込みが出来ます。
- 3) 上記の受付日時に来られない人は、4月26日(木曜) 午後5時まで後藤(本館2階 研究室)まで申し込みに来てください。
- 4) 2次試験(面接)は7月8日(日) 本会場でのみで行われます。

(出典 一般科目資料)

資料7-1-③-4
平成24年4月

学生各位

学生課教務係

工業英語能力検定について

来る5月27日（日）に本校にて、工業英語能力検定が行われます。

つきましては、4月26日（木）まで申込みを受け付けますので、受験希望者について、受験料を添えて購買部でお申し込みください。

記

試験日：5月27日（日）

場 所：和歌山工業高等専門学校 図書館棟1階室 視聴覚教室（予定）

受験申込締切：4月26日（木）

受験申込場所：購買部（福利センター棟1階）

受験料：2級 6,400円（記述式）

3級 4,600円（マークシート方式）

4級 2,000円（マークシート方式）

（出典 学生課資料）

資料 7-1-③-5

**他の高等専門学校及び高等専門学校以外の教育施設等で
修得した単位等の認定に関する取扱要項**

制 定 平成 7 年 1 2 月 2 2 日
最近改正 平成 2 4 年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 和歌山工業高等専門学校学則第 1 4 条の 2 及び第 1 4 条の 3 の規定により、単位を認定する場合の要項を定める。

(定義)

第 2 他の高等専門学校及び高等専門学校以外の教育施設等における学修とは、次の学修をいう。

- 一 他の高等専門学校における学修
- 二 大学における学修
- 三 知識及び技能に関する審査における成果に係る学修で、別表に定めるもの
(学修手続)

第 3 第 2 第 1 号及び第 2 号に規定する教育施設において学修しようとするときは、学修しようとする日の 2 か月前までに、別記様式第 1 号による他の教育施設における学修許可願を学級担任教員を経て、校長に提出して、その許可を受けなければならない。

2 校長は、前項による願い出が教務委員会において教育上有益と認められた場合には、許可するものとする。

(単位認定)

第 4 第 2 各号に規定する学修により、和歌山工業高等専門学校(以下「本校」という。)で、単位の認定を受けようとするときは、別記様式第 2 号による他の教育施設等における学修単位申請書に、単位修得証明書、成績証明書又は合格証明書(写)を添え、学級担任教員を経て、校長に提出しなければならない。

2 単位の認定は、教育委員会の議を経て校長が行う。

3 第 2 第 1 号及び第 2 号に規定する学修における総認定単位数の限度は、4 単位を超えない範囲とする。

4 第 2 第 3 号に規定する学修における認定単位数の限度等は、別表に定めるとおりとする。

ただし、同一の試験で複数の級に合格した場合は、既に認定された単位数と当該上位の単位数との差を修得単位として認定するものとする。

5 前項における総認定単位数の限度は、1 0 単位を超えない範囲とする。

6 認定された単位は、他の教育施設等における学修単位申請書が受理された年度の単位とする。

(その他)

第 5 この取扱要項の実施に関する細目は、別に定める。

附 則

(省略)

別表

| 区分 | 資格 | 種類 | 単位数 | | | | 備考 | |
|------------------|------------------|-----------------|-----|----|----|----|---------------------------------|---|
| | | | 機械 | 電気 | 物質 | 環境 | | |
| 専
門
科
目 | 機械設計技術者試験 | 3 級以上 | 2 | | | | | |
| | 品質管理検定 | 3 級以上 | 2 | | | | | |
| | 危険物取扱者 | 甲種 | 1 | | 1 | 1 | ただし、乙種(全 6 類)の資格を全て取得した場合も適用する。 | |
| | 高圧ガス製造保安責任者 | 乙種(機械) | 2 | | | | | |
| | 計算力学技術者(CAE 技術者) | 初級 | 2 | | | | | |
| | CAD 利用技術者 | 2 級以上 | 1 | | | 1 | | |
| | 電気工事士 | 第 1 種 | | | 2 | | | |
| | | 第 2 種 | | | 1 | | | |
| | | 第 1 種 | | | 6 | | | |
| | 電気主任技術者 | 第 2 種 | | | 4 | | | |
| | | 第 3 種 | | | 2 | | | |
| | | 応用情報技術者 | | | 3 | | | |
| | 情報処理技術者試験 | 基本情報技術者 | | 2 | 2 | | 2 | 電気情報工学科において、上位順より「応用情報技術者」、「基本情報技術者」として、第 4 の 4 におけるただし書きを適用する。 |
| | | IT ストラテジスト | | | 1 | | | |
| | | システムアーキテクト | | | 1 | | | |
| | | プロジェクトマネージャ | | | 1 | | | |
| | | ネットワークスペシャリスト | | | 1 | | | |
| | | データベーススペシャリスト | | | 1 | | | |
| | | 情報セキュリティスペシャリスト | | | 1 | | | |
| IT サービスマネージャ | | | | 1 | | | | |
| システム監査技術者 | | | | 1 | | | | |
| ラジオ音響(AR) 技能検定 | | 1 級 | | 1 | | | | |
| デジタル技術検定 | 1 級(情報、制御) | | | 2 | | | | |
| | 2 級(情報、制御) | | | 1 | | | | |
| 電気通信の工事担任者 | AI・DD 総合種 | | | 4 | | | | |
| | AI 1 種 | | | 2 | | | | |
| | AI 2 種 | | | 1 | | | | |
| | DD 1 種 | | | 2 | | | | |
| | DD 2 種 | | | 1 | | | | |

資料7-1-③-5つづき

| 区分 | 資格 | 種類 | 単位数 | | | | 備考 |
|----------|-----------|----------------|-----|----|----|----|----|
| | | | 機械 | 電気 | 物質 | 環境 | |
| 区分 | 電気通信主任技術者 | 伝送交換主任技術者 | | 4 | | | |
| | | 線路主任技術者 | | 4 | | | |
| | 技術士 | 1次試験合格(技術士補) | 4 | 4 | | 4 | |
| | 測量士 | 測量士補 | | | | 1 | |
| | 計量士 | 環境計量士(濃度関係) | | | | 1 | |
| | | 環境計量士(騒音・振動関係) | | | | 1 | |
| | | 一般計量士 | | | | 1 | |
| | 公害防止管理者 | 主任管理者 | | | | 1 | |
| | | 大気関係1~4種 | | | | 1 | |
| | | 水質関係1~4種 | | | | 1 | |
| | | 特定粉塵関係 | | | | 1 | |
| | | 一般粉塵関係 | | | | 1 | |
| | | 騒音振動関係 | | | | 1 | |
| | | ダイオキシン類関係 | | | | 1 | |
| | 土木学会認定技術者 | 2級技術者 | | | | 1 | |
| | 土木施工管理技術者 | 2級 | | | | 1 | |
| 工業英語能力検定 | 2級以上 | 2 | 2 | 2 | 2 | | |
| | 3級 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 一般科目 | 実用英語技能検定 | 1級 | 8 | 8 | 8 | 8 | |
| | | 準1級 | 4 | 4 | 4 | 4 | |
| | | 2級 | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| TOEIC | スコア860点以上 | 8 | 8 | 8 | 8 | | |
| | スコア730点以上 | 4 | 4 | 4 | 4 | | |
| | スコア470点以上 | 2 | 2 | 2 | 2 | | |

(出典 平成24年度学生便覧P. 46~47)

資料7-1-③-6

資格単位取得者数(本科)

| 検定等の種類 | H22 | H23 |
|---------------|-----|-----|
| CAD利用技術者試験2級 | 2 | 2 |
| TOEIC(470点以上) | 8 | 11 |
| TOEIC(730点以上) | 2 | 2 |
| TOEIC(860点以上) | | 4 |
| 応用情報技術者試験 | | 1 |
| 危険物取扱者試験 甲種 | 1 | 2 |
| 基本情報技術者試験 | 3 | 6 |
| 工業英語能力検定3級 | 8 | 12 |
| 実用英語技能検定2級 | 3 | 2 |
| 測量士補 | 1 | |
| 第1種電気工事士 | 1 | |
| 第2種電気工事士 | 2 | 8 |
| デジタル技術検定2級 | 4 | |

(出典 学生課資料)

平成 23 年度上海電機学院との学生 交流プログラムへの参加募集について

今年度も上海電機学院への短期留学を下記により募集いたします。短期留学要項は下記のとおりです。短期留学を希望する学生は、所定の応募用紙に必要な事項を記入の上、学生課窓口へ提出してください。

派遣目的：異国・異文化に触れ、海外の学生との交流や海外の企業生産活動等を知る機会を持つことにより、国際的視野を広げるとともに、コミュニケーションスキル向上の契機とする

派遣先：上海電機学院（中華人民共和国）

派遣期間：平成 24 年 3 月中旬から下旬にかけて 10 日間程度

募集学生：3 年生、4 年生、5 年生で本校専攻科入学予定者
および専攻科 1 年生

募集人員：10 名

募集期間：平成 23 年 12 月 14 日（水）～平成 24 年 1 月 17 日（火）

実施内容：授業、実習の参観、学生交流、上海市見学、中国企業見学会
会 話：コミュニケーション言語は英語ですが、中国語でも可。

派遣学生の決定：平成 24 年 1 月 31 日（火）

ただし応募者多数の場合は、1 月下旬に面接や TOEIC のスコア等で選考する。

引率者：本校教員 2 名

渡航費用：短期留学にかかる旅費については、学校より 2 万円を支給し、それ以外に発生する費用は自己負担とする。

自己負担額 4 万円程度

派遣準備：派遣学生に対しては、引率教員が中心となって事前に十分なオリエンテーションを実施する。

帰国報告：帰国後、短期留学報告書を提出させる。また、学生等を対象とした報告会で発表してもらいます。

応募締切：平成 24 年 1 月 17 日（火）

応募用紙の提出先：学生課窓口（応募用紙は学生課にあります。）

問い合わせ先：学生課学生係

（出典 学生課資料）

和歌山工業高等専門学校外国留学に関する取扱要項

制 定 平成 9 年 1 2 月 3 日

最近改正 平成 1 3 年 1 2 月 1 2 日

(趣旨)

第 1 条 この要項は和歌山工業高等専門学校学則第 2 9 条の 2 第 4 項の規定に基づき、和歌山工業高等専門学校の学生の外国留学（以下「留学」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(留学の許可)

第 2 条 留学は、その目的、事由等が学生にとって教育上有益であると認められ、留学先の学校が正規の教育機関であり、かつ、正規の教育課程で履修することが許可されている場合に、教務委員会の議を経て、校長が許可する。

(留学許可手続)

第 3 条 留学しようとする者は、学級担任及び学科主任を経て、原則として出国の前年度末までに留学願（様式第 1 号）に、次の各号に掲げる書類を添えて校長に願い出なければならない。

- (1) 留学先の学校の教育方針、教育課程等が記載されている書類
- (2) 留学先の学校への入学許可を証明する書類
- (3) その他校長が必要と認める書類

(留学期間等)

第 4 条 留学期間は、1 0 か月以上 1 年以内とする。ただし、特別の事由があると認められる場合は、期間の短縮又は 1 年以内の延長を認めることができる。

2 留学期間を短縮又は延長しようとするときは、留学期間変更願（様式第 2 号）を校長に提出し、その許可を得なければならない。

(留学中の義務)

第 5 条 校長は、留学中の学生に対して、3 か月に 1 回報告書の提出を義務づけ、これに基づき指導及び連絡を行うものとする。

(留学終了報告及び復帰)

第 6 条 学生は、留学を終了したときは、速やかに留学終了報告書（様式第 3 号）、留学先の学校が発行する成績証明書等を校長に提出しなければならない。

2 復帰の際の学年については、教務委員会の議を経て、校長が決定する。

(単位の認定)

第 7 条 留学中の履修に係る単位の認定は、留学先の学校が発行する証明書等に基づき、良好に履修したと認められる場合は、3 0 単位を超えない範囲で一括認定することができる。

2 単位の認定については、教務委員会の議を経て、校長が決定する。

3 第 4 条第 2 項の規定に基づき、留学期間の短縮を許可された場合において、留学期間が 1 0 か月未満になったときは、前項の単位の認定は行わないものとする。

(留学の取消し)

第 8 条 校長は、留学中の学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、留学先の学校と協議の上、留学の許可を取り消すことがある。

- (1) 履修の見込みがないと認められるとき。
- (2) 留学先の学校の規則等に違反し、留学の取消しを求められたとき。
- (3) その他留学の目的に著しく反する行為があると認められたとき。

(その他)

第 9 条 この要項に定めるもののほか、この要項の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(省略)

(出典 平成 24 年度学生便覧 P. 49)

(分析結果とその根拠理由)

ホームルームや学生との懇談、アンケートを通じて学生のニーズを把握している。

実用英検、TOEIC、工業英検等は受験案内や手続きについて便を図っているほか、学校を会場として受験を促している。さらに、多くの資格試験で単位を認定している。

上海電機学院への短期留学の実施や外国での単位を認定するなど、学生の留学を支援している。

これらのことから、学習支援に関する学生のニーズが適切に把握され、検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備されている。

観点7-1-④： 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

(観点に係る状況)

本校では留学生に対し留学生用カリキュラム(資料7-1-④-1)を作成し、特に日本語、日本事情などの科目を取り入れている(資料7-1-④-2~3)。また学生のチューターを配置し学習面と生活面の支援を行う等、配慮している(資料7-1-④-4)。

編入学生に対しては入学前年の夏休みなどに個人面談や指導を行っている(資料7-1-④-5)。また必要な科目の予習等のために課題を与えて提出してもらうなどの指導を行っている(資料7-1-④-6)。

障害者対策としては、現在、車椅子を使用している学生がおり、体育については臨時講師をつけて特別コースを実施している(資料7-1-④-7)。

| 留学生用カリキュラム | | | | | | | 資料7-1-④-1 |
|-------------------------------------|-------|---------|---------|----|----|----|-----------|
| 平成18年度～平成22年度第3学年編入学(機械・物質・環境都市工学科) | | | | | | | 備考 |
| 区分 | 授業科目 | 単位数 | 卒業認定単位数 | | | 備考 | |
| | | | 3年 | 4年 | 5年 | | |
| 必修科目 | 日本語 | 3 | 3 | | | | |
| | 日本事情 | 4 | 2 | 2 | | | |
| | 数学Ⅲα | 3 | 3 | | | | |
| | 数学Ⅲβ | 2 | 2 | | | | |
| | 保健・体育 | 6 | 2 | 2 | 2 | | |
| | 英語 | 2 | | 2 | | | |
| | 英語総合 | 2 | 2 | | | | |
| | 英作文 | 2 | 2 | | | | |
| | 小計 | 24 | 16 | 6 | 2 | | |
| | 選択科目 | 第2外国語AⅠ | 3 | | 3 | | |
| 第2外国語BⅠ | | 3 | | 3 | | | |
| 第2外国語CⅠ | | 3 | | 3 | | | |
| 英語A | | 2 | | | 2 | | |
| 英語B | | 2 | | | 2 | | |
| 第2外国語AⅡ | | 2 | | | 2 | | |
| 第2外国語BⅡ | | 2 | | | 2 | | |
| 第2外国語CⅡ | | 2 | | | 2 | | |
| 知的財産権 | | 1 | | | 1 | | |
| 小計 | | 20 | 0 | 9 | 11 | | |
| 開設単位数 | | 44 | 16 | 15 | 13 | | |
| 修得単位数 | | 75以上 | 51 | 16 | 注 | | |

注 卒業認定単位数(進級規則第10条)
一般科目7.5単位以上、専門科目8.2単位以上、かつ合計16.7単位以上修得すること。

| 平成23年度以降第3学年編入学(知能機械・物質・環境都市工学科) | | | | | | | 備考 |
|----------------------------------|---------|------|---------|----|----|----|----|
| 区分 | 授業科目 | 単位数 | 卒業認定単位数 | | | 備考 | |
| | | | 3年 | 4年 | 5年 | | |
| 必修科目 | 日本語 | 3 | 3 | | | | |
| | 日本事情 | 1 | | 1 | | | |
| | 日本経済論 | 1 | | | 1 | | |
| | 数学Ⅲα | 3 | 3 | | | | |
| | 数学Ⅲβ | 2 | 2 | | | | |
| | 保健・体育 | 6 | 2 | 2 | 2 | | |
| | 英語 | 2 | | 2 | | | |
| | 英語総合 | 2 | 2 | | | | |
| | 英作文 | 2 | 2 | | | | |
| | 小計 | 22 | 15 | 5 | 2 | | |
| 選択科目 | 第2外国語AⅠ | 3 | | 3 | | | |
| | 第2外国語BⅠ | 3 | | 3 | | | |
| | 第2外国語CⅠ | 3 | | 3 | | | |
| | 英語A | 2 | | | 2 | | |
| | 英語B | 2 | | | 2 | | |
| | 第2外国語AⅡ | 2 | | | 2 | | |
| | 第2外国語BⅡ | 2 | | | 2 | | |
| | 第2外国語CⅡ | 2 | | | 2 | | |
| | 知的財産権 | 1 | | | 1 | | |
| | 小計 | 20 | 0 | 9 | 11 | | |
| 開設単位数 | | 42 | 15 | 14 | 13 | | |
| 修得単位数 | | 75以上 | 51 | 15 | 注 | | |

注 卒業認定単位数(進級規則第10条)
一般科目7.5単位以上、専門科目8.2単位以上、かつ合計16.7単位以上修得すること。

(出典 平成24年度シラバス)

日本語シラバス

資料 7 - 1 - ④ - 2

| 科 目 | 必・選 | 担 当 教 員 | 学 年 ・ 学 科 | 単 位 数 | 授 業 形 態 | | | | | | |
|-------------------|--|-------------------|------------------------|-------|----------------------------|-------|-------|---|---|-----|---|
| 日本語
(Japanese) | 必 | 陳 梅穂
和田茂俊 宮本克之 | 3 年 生 (留 学 生)
全 学 科 | 3 | 前 期 週 1 時 間
後 期 週 2 時 間 | | | | | | |
| 授業概要 | 読む、書く、聞く、話す等の基本的な日本語能力をさらに確かなものにし、楽しく日本語を学ぶ。テキストのほか、視聴覚教材も利用しながら、多面的なアプローチで日本語学習を行う。 | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1、基本的な日本語能力を身に付け、学校生活に支障のないようにすること。
2、口頭あるいは記述によって、自分の考えを表現できること。 | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 提出物、小テスト、意見発表によって評価する。60点以上を合格とする。 | | | | | | | | | | |
| 教科書等 | 『日本語総まとめ問題集 文法編』(アスク)、プリント | | | | | | | | | | |
| 内 容 | | | | | 学 習 ・ 教 育 目 標 | | | | | | |
| 第 1 週 ガイダンス | | | | | D | | | | | | |
| 第 2 週 日本語読解演習 I | | | | | D | | | | | | |
| 第 3 週 " | | | | | D | | | | | | |
| 第 4 週 " | | | | | D | | | | | | |
| 第 5 週 " | | | | | D | | | | | | |
| 第 6 週 " | | | | | D | | | | | | |
| 第 7 週 " | | | | | D | | | | | | |
| 第 8 週 テスト | | | | | D | | | | | | |
| 第 9 週 日本語会話演習 I | | | | | D | | | | | | |
| 第 10 週 " | | | | | D | | | | | | |
| 第 11 週 " | | | | | D | | | | | | |
| 第 12 週 日本語作文演習 I | | | | | D | | | | | | |
| 第 13 週 " | | | | | D | | | | | | |
| 第 14 週 " | | | | | D | | | | | | |
| 第 15 週 テスト | | | | | D | | | | | | |
| 第 16 週 日本語読解演習 II | 第 1 週 日本の詩歌 | | | | D D | | | | | | |
| 第 17 週 " | 第 2 週 日本の古典 | | | | D D | | | | | | |
| 第 18 週 " | 第 3 週 日本のアニメ | | | | D D | | | | | | |
| 第 19 週 " | 第 4 週 日本の映画 | | | | D D | | | | | | |
| 第 20 週 " | 第 5 週 漢字の構造 | | | | D D | | | | | | |
| 第 21 週 " | 第 6 週 文章の要約 | | | | D D | | | | | | |
| 第 22 週 " | 第 7 週 メールの書き方 | | | | D D | | | | | | |
| 第 23 週 テスト | 第 8 週 テスト | | | | D | | | | | | |
| 第 24 週 日本語会話演習 II | 第 9 週 季節の言葉 | | | | D D | | | | | | |
| 第 25 週 " | 第 10 週 年中行事、風習 | | | | D D | | | | | | |
| 第 26 週 " | 第 11 週 方言、流行語 | | | | D D | | | | | | |
| 第 27 週 日本語作文演習 II | 第 12 週 文章構成法、手紙の書き方 | | | | D D | | | | | | |
| 第 28 週 " | 第 13 週 " | | | | D D | | | | | | |
| 第 29 週 " | 第 14 週 豊かな言語生活のために | | | | D D | | | | | | |
| 第 30 週 テスト | 第 15 週 テスト | | | | D D | | | | | | |
| (特記事項) | JABEEとの関連 | | | | | | | | | | |
| | JABEE | a | b | c | d1 | d2a)d | d2b)c | e | f | g | h |
| | 本校の学習 | A | A | C-1 | C-1 | C-2 | B | B | D | C-3 | B |
| | ・教育目標 | | | | | | | | ◎ | | |

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。
2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。(例年4回定期試験は総合定期試験は各3回/年/科、25%ずつ)。

(出典 平成 24 年度シラバス)

資料 7 - 1 - ④ - 3

日本事情シラバス

| 科 目 | 必・選 | 担 当 教 員 | 学 年 ・ 学 科 | 単 位 数 | 授 業 形 態 | | | | |
|----------------------------|---|---------|-----------------|-------|------------|---|---|---|---|
| 日本事情
(Japanese Affairs) | 必修 | 古山加津子 | 3年 (留学生)
全学科 | 1 | 通年 | | | | |
| 授業概要 | 日本文化や日本的な事柄について理解するとともに、体験や実習を通して、わが国に関する基本的な知識を習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 日本文化、及び、日本的な事柄についての知識を習得する。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 課題100% | | | | | | | | |
| 教科書等 | 必要に応じて配布する。 | | | | | | | | |
| 内 容 | | | | | 学習・教育目標 | | | | |
| 第 1 週 | 日本の文化や歴史など | | | | A | | | | |
| 第 2 週 | 同じ | | | | A | | | | |
| 第 3 週 | 同じ | | | | A | | | | |
| 第 4 週 | 日本人の風習や習慣など | | | | A | | | | |
| 第 5 週 | 同じ | | | | A | | | | |
| 第 6 週 | 日本の産業 (特に工業) など | | | | A | | | | |
| 第 7 週 | 同じ | | | | A | | | | |
| 第 8 週 | 日本の社会のしくみ (特に政治、経済) など | | | | A | | | | |
| 第 9 週 | 同じ | | | | A | | | | |
| 第 10 週 | 日本文化体験など | | | | A | | | | |
| 第 11 週 | 同じ | | | | A | | | | |
| 第 12 週 | 同じ | | | | A | | | | |
| 第 13 週 | 講演会・きのくにサイエンスセミナー参加など | | | | A | | | | |
| 第 14 週 | 同じ | | | | A | | | | |
| 第 15 週 | 同じ | | | | A | | | | |
| (特記事項) | JABEEとの関連 | | | | | | | | |
| | JABEE | | | | | | | | |
| | a | b | c | d1 | d2a)d2b)c) | e | f | g | h |
| 本校の学習
・教育目標 | ◎ | | | | | | | | |

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。
2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。(例) 4科目試験(満点は100点)の場合、合格は 4科目とも25%以上です。

(出典 平成 24 年度シラバス)

資料7-1-④-4

平成24年4月

チュータを引き受けていただくに当たって

国際交流委員長

山口 利幸

1 心構え

誰でも見知らぬ国、見知らぬ土地に行くときには不安があります。まして言葉が通じにくい、知り合いもないとなると大変です。困ったことがあっても、なかなか知らない人には相談できません。留学生も同じです。

チュータの方には留学生の方の困ったときの相談相手になったり、生活上のアドバイスをしたり、そして時にはノートを見せてあげたり等、最も身近な存在・世話役として働いていただきたいと思います。何よりも親身に、そして誠意を持って接していただくことが大切だと思います。

外国へ行ったとき、身近な方からどのように扱われるかで、その国の印象が決まってしまう。和歌山高専の留学生の方は、この日本と言う国を、和歌山高専を通して見ることとなります。

チュータのやり方次第で、彼らの中の日本が、良い国に映ったり、二度ときたくない国になったりするかもしれません。私が日本を代表して彼らに接しているのだという気構えでやってください。

2 最初にやること

いつも留学生のそばにいて、話し相手になってください。日本語で会話することも彼らの留学の、目的の一つです。そして疑問点があれば、どんなことでもチュータの方に聞けば教えてくれる、という雰囲気を作ってください。

3 留学生の身になって

日本人にすれば当たり前の事でも、文化・習慣の異なる環境で育った留学生には奇異に感じるものがたくさんあります。彼らの言いたいことを、たとえ「ばからしい」と思うことでも、そしてよくわからない日本語でも、時間を掛けて聞いてあげてください。私達が外国に行ったときに、私達の言うことを向こうの人が何とか理解しようと一生懸命になってくれたとき、どれほど嬉しいか、想像してください。

4 誠意は必ず伝わる

私達は誰も留学生のお世話に関するやり方などの教育を受けていません。留学生に対する接し方も、はっきり言えば素人です。チュータの方もそうだと思います。しかし言葉や

資料7-1-④-4つづき

文化が違って同じ人間です。一生懸命やれば必ず心が通じます。誠意を持って彼らに接してやってください。必ずいい結果がついてくるはずですよ。

5 ルーチンワーク

留学生は日本語が話せると言っても、まだたどたどしいところもあります。しかもこのあたりの言葉は標準語ではありません。授業を聞き取るのは大変ですし、先生が漢字混じりで黒板に書いた内容を書き写すのは大変な作業です。そこで彼らの毎日の授業ノート作りを手伝ってあげていただきたい。ノートをみせてあげるのも良いでしょう。彼らのノートを添削するのも良いでしょう。話し合って彼らが満足するように工夫してください。

また、食事や登下校など日常生活を彼らとできるだけ一緒に過ごしてあげてください。一緒に過ごすことで、彼らはいろいろな疑問をぶつけてくれます。それらの疑問に誠意を持って答えることで、彼らは安心してくれるはずですよ。それら疑問を通じて、彼らの視点、彼らから見た日本社会が見えてくるかもしれません。

6 留学生行事

本校は留学生行事の盛んな学校です。留学生とサイクリング・バーベキュー大会、留学生スピーチ大会、世界はファミリーなどいろいろなイベントを企画しています。このようなイベントがある時は、留学生と一緒に参加するように心がけてください。

7 報告書

毎月1度、決まった様式の報告書を提出してください。各項目についてできるだけ詳しく書いてください。日常彼らと接する中で、学校にしてほしいこと、手伝ってほしいこと等があれば、それも書いてください。また、新規のイベントなどを提案してもらっても結構です。できるだけ実現させていこうと思います。

それでは1年間、よろしくお願いします。

(出典 国際交流委員会資料)

編入学予定者との面談の案内

資料7-1-④-5

平成23年7月 日

知能機械工学科
4年次編入学者 各位

和歌山工業高等専門学校
教務主事 山 川 文 徳

入学前の指導等について

この度は合格おめでとうございます。

さて、諸君は4月から本校に入学して頂くこととなりますが、入学までの間の学習方法、高専生活等について下記日時において説明しますのでご来校ください。

なお、入学手続き説明会を平成24年3月22日(木)に予定しています。入学手続き説明会の詳細については2月下旬頃連絡します。

記

1. 日時
平成23年7月29日(金) 13:00～
2. 場所
和歌山工業高等専門学校 機械工学科棟第2ゼミナール室
(和歌山県御坊市名田町野島77)

※参考

路線バス(和歌山方面から)
御坊駅発 12:05 — 学園前着 12:23

(田辺方面から)
印南町役場前発 12:50 — 学園前着 12:58

- ※ 来校の際は、図書館棟1階学生課窓口までお越しください。
- ※ 諸般の事情で出席できない場合は、学生課教務係(0738-29-8241, 8242)までご連絡ください。

以 上

平成23年7月8日

資料7-1-④-5つづき

電気情報工学科
4年次編入学者 各位

和歌山工業高等専門学校
教務主事 山 川 文 徳

入学前の指導等について

この度は合格おめでとうございます。

さて、諸君は4月から本校に入学して頂くこととなりますが、入学までの間の学習方法、高専生活等について下記日時において説明しますのでご来校ください。

なお、入学手続き説明会を平成24年3月22日（木）に予定しています。入学手続き説明会の詳細については2月下旬頃連絡します。

記

1. 日時

平成23年7月25日（月）13:00～

2. 場所

和歌山工業高等専門学校
(和歌山県御坊市名田町野島77)

※参考

路線バス（和歌山方面から）

御坊駅発 12:05 — 学園前着 12:23

（田辺方面から）

印南町役場前発 12:50 — 学園前着 12:58

※ 来校の際は、図書館棟1階学生課窓口までお越しください。

※ 諸般の事情で出席できない場合は、学生課教務係（0738-29-8241, 8242）までご連絡ください。

以 上

物質工学科
4年次編入学者 各位

平成23年7月 日
資料7-1-④-5つづき

和歌山工業高等専門学校
教務主事 山 川 文 徳

入学前の指導等について

この度は合格おめでとうございます。

さて、諸君は4月から本校に入学して頂くこととなりますが、入学までの間の学習方法、高専生活等について下記日時において説明しますのでご来校ください。

なお、入学手続き説明会を平成24年3月22日(木)に予定しています。入学手続き説明会の詳細については2月下旬頃連絡します。

記

1. 日時
平成23年7月26日(火) 13:00～14:30
2. 場所
和歌山工業高等専門学校
(和歌山県御坊市名田町野島77)

※参考

路線バス(和歌山方面から)

御坊駅発 12:05 — 学園前着 12:23

(田辺方面から)

印南町役場前発 12:50 — 学園前着 12:58

- ※ 来校の際は、図書館棟1階学生課窓口までお越しください。
- ※ 諸般の事情で出席できない場合は、学生課教務係(0738-29-8241, 8242)までご連絡ください。

以 上

平成23年7月14日

資料7-1-④-5つづき

環境都市工学科
4年次編入学者 各位

和歌山工業高等専門学校
教務主事 山 川 文 徳

入学前の指導等について

この度は合格おめでとうございます。

さて、諸君は4月から本校に入学して頂くこととなりますが、入学までの間の学習方法、高専生活等について下記日時において説明しますのでご来校ください。

なお、入学手続き説明会を平成24年3月22日(木)に予定しています。入学手続き説明会の詳細については2月下旬頃連絡します。

記

1. 日時

平成23年7月27日(水) 13:30～

2. 場所

和歌山工業高等専門学校
(和歌山県御坊市名田町野島77)

※参考

路線バス(和歌山方面から)

御坊駅発 12:05 — 学園前着 12:23

(田辺方面から)

印南町役場前発 12:50 — 学園前着 12:58

※ 来校の際は、図書館棟1階学生課窓口までお越しください。

※ 諸般の事情で出席できない場合は、学生課教務係(0738-29-8241, 8242)までご連絡ください。

(出典 学生課資料) 以上

編入学生向け入学前課題（1例）

資料 7-1-④-6

課題

酸塩基滴定と緩衝液 提出日 H23 年 8 月 31 日までに郵送

郵送先：〒644-0023 和歌山県御坊市名田町野島 7 7 和歌山高専 物質工学科 林 純二郎宛

酸-塩基平衡

【1】(A)各分子量を $\text{Na}=23.0\text{g/mol}$ 、 $\text{Cl}=35.5\text{g/mol}$ 、 $\text{H}=1\text{g/mol}$ として、図を示しながらまた、数値には単位を示しながら、下記の問いに答えなさい。

- ① 50g の NaCl を完全に溶解させた 0.2L の水溶液がある。この溶液中の $[\text{Na}^+]$ を求めなさい。
- ② 市販の濃塩酸(HCl)は 37 重量%の溶液で、その溶液の密度は 1.20g/ml である。この濃塩酸の容量モル濃度 (mol/L) を求めなさい。
- ③ 5 M(mol/L)濃度の塩酸溶液から、 10^{-2}M の塩酸溶液を 0.2L 作るためには、この塩酸溶液を何 ml 採取すればよいか。

(B)①pH6.3 の溶液中の $[\text{H}^+]$ を求めなさい。

② $[\text{H}^+]=4\times 10^{-9}\text{M}$ の溶液の pH を求めなさい。

③水のイオン積を $[\text{H}^+][\text{OH}^-]=1\times 10^{-14}(\text{M}^2)$ とする。 $[\text{OH}^-]$ が $5\times 10^{-5}\text{M}$ である溶液の pH を求めなさい。

【2】① $1\times 10^{-3}\text{M}$ の HCOOH ($K_a=2.1\times 10^{-4}$) 水溶液中の各種イオン、分子種の濃度を求めよ。

② $1\times 10^{-3}\text{M}$ H_2S 水溶液の $\text{pH}=9$ における各化学種の濃度を計算せよ。(H_2S の $K_{a1}=1\times 10^{-7}$ および $K_{a2}=1\times 10^{-14}$)

【3】①0.1M の NaOH を 20ml ビーカーにとり、0.1M の HCl で滴定した。

滴下量を 0ml、10ml、19ml、19.9ml、19.99ml、20ml、20.01ml、20.10ml、21ml、30ml とした時のビーカー中の溶液の pH を求めて滴定曲線を書きなさい。

②10ml の 0.1M CH_3COOH を 0.1M NaOH で滴定した時の滴定曲線を作成せよ。また、当量点での pH を求めなさい。(CH_3COOH の $\text{p}K_a=2\times 10^{-5}$)

【4】①1 L の純水の pH を求めなさい。さらに、そこに 0.1 モルの NaOH を加えたら、pH の変動はいくらになるか？

②1 モルの酢酸(CH_3COOH)と 1 モルの酢酸ナトリウム(CH_3COONa)を入れた緩衝溶液 1 l の pH を求めなさい。さらに、そこに 0.1 モルの NaOH を加えたら、pH の変動はいくらになるか？

沈殿平衡

資料 7-1-④-6 つづき

1) 10g の Ag_2CrO_4 (分子量=332 g/mol) を水で希釈し 0.25L とした $[\text{Ag}^+]$ と $[\text{CrO}_4^{2-}]$ を求めなさい。また、 Ag_2CrO_4 の溶解度を求めなさい。ここで、 $K_{\text{sp},\text{Ag}_2\text{CrO}_4}=1.9 \times 10^{-12}$ とする。

2) PbCl_2 の溶解度は $1.63 \times 10^{-2}\text{M}$ である。では、 PbCl_2 の溶解度積 $K_{\text{sp},\text{PbCl}_2}$ を求めなさい。

3) $3 \times 10^{-2}\text{M}$ の NaCl 溶液 1 L がある。ここに $\text{Pb}(\text{NO}_3)_2$ を加えてゆき、沈殿生成を行わせようとする。何モルの $\text{Pb}(\text{NO}_3)_2$ を添加すると沈殿は生成するか。溶解度積を $K_{\text{sp},\text{PbCl}_2}=1.73 \times 10^{-5}$ とする。

4) 過剰の Ag_2CrO_4 が入っている溶液に Na_2CrO_4 を 0.1mol 加えた溶液 1L がある。この溶液中の $[\text{Ag}^+]$, $[\text{CrO}_4^{2-}]$ と Ag_2CrO_4 の溶解度を求めなさい。ここで、 $K_{\text{sp},\text{Ag}_2\text{CrO}_4}=1.9 \times 10^{-12}$ とする。

酸化還元反応編

【1】 次の化合物中の各原子の酸化数を求めなさい。

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| ①NO | ②N ₂ |
| ③Fe ²⁺ | ④KMnO ₄ |
| ⑤NO ₃ ⁻ | ⑥CH ₃ OH |
| ⑦H ₂ O ₂ | ⑧HClO |

【2】 次の酸化還元反応式を完成せよ。

- ① $\text{CH}_3\text{OH} + \text{MnO}_4^- + \text{OH}^- \rightleftharpoons \text{CO}_2 + \text{MnO}_4^{2-} + \text{H}_2\text{O}$
 ② $\text{Fe}^{2+} + \text{NO}_3^- + \text{H}^+ \rightleftharpoons \text{Fe}^{3+} + \text{NO} + \text{H}_2\text{O}$

【3】 次の酸化還元反応式を完成しなさい。

- ① Cu^{2+} の溶液に Zn (固体) を加えた。
 ② 酸性条件下で、 KMnO_4 溶液に FeCl_2 溶液を加えた。
 ③ FeCl_3 溶液に SnCl_2 溶液を加えた。

【4】 $a\text{A} + b\text{B} \rightleftharpoons c\text{C} + d\text{D}$ の酸化還元反応において、ネルストの式では、反応の電位 E_{\rightarrow} は、

$$E_{\rightarrow} = E_{\rightarrow}^0 - \frac{0.059}{n} \log \frac{[\text{C}]^c [\text{D}]^d}{[\text{A}]^a [\text{B}]^b}$$

を滴下して酸化還元滴定曲線を求めた。各々の標準酸化還元電位は、 $E_{\text{Fe}^{3+},\text{Fe}^{2+}}^0 = 0.77\text{V}$ 、 $E_{\text{Ce}^{4+},\text{Ce}^{3+}}^0 = 1.61\text{V}$ として以下の間に答えなさい。

- ① この酸化還元反応式を書きなさい。
 ② この反応の平衡定数を求めなさい。
 ③ 当量点での電位を求めなさい。
 ④ 当量点での $[\text{Ce}^{4+}]$ 濃度を求めなさい。

(出典 物質工学科資料)

車椅子学生用体育シラバス

資料 7-1-④-7

| | 必・選 | 担当教員 | 学年・学科 | 単位数 | 授業形態 | | | | | | |
|--|---|-------|-------------------|-----|----------|-------|-------|---|---|---|---|
| 保健体育
Health and Physical
Education | 必 | 孫本 真次 | 5 学年
機械工学科 () | 2 | 通年週 2 時間 | | | | | | |
| 授業概要 | 生涯スポーツにつながる種目の基本練習と発展練習の重複により自主性を重視したインディヴィジュアル・スキル習得形式により授業展開し、個人の運動特性の発展を図る。 | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 生涯スポーツとして、規律を守り、楽しく安全に運動ができるように自ら工夫し、実行する。
生涯スポーツが実践できるようリーダーシップを発揮し、積極的かつ計画的に運動を実施する。 | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 授業への参加状況（出欠、見学、遅刻）70%、学習意欲および態度（授業態度、服装、準備協力等）10%、ツインバスケットボールを基礎として技術、技能、習熟度 20%を加味して評価をする。 | | | | | | | | | | |
| 教科書等 | 保健体育概論 | | | | | | | | | | |
| 内 容 | | | | | 学習・教育目標 | | | | | | |
| 第 1 週 | 保健体育概論 | | | | A | | | | | | |
| 第 2 週 | 保健体育概論 | | | | A | | | | | | |
| 第 3 週 | ツインバスケットボール（基本技術） | | | | A | | | | | | |
| 第 4 週 | ツインバスケットボール（基本技術） | | | | A | | | | | | |
| 第 5 週 | ツインバスケットボール（基本技術） | | | | A | | | | | | |
| 第 6 週 | ツインバスケットボール（基本技術） | | | | A | | | | | | |
| 第 7 週 | ツインバスケットボール（基本技術） | | | | A | | | | | | |
| 第 8 週 | ツインバスケットボール（基本技術） | | | | A | | | | | | |
| 第 9 週 | ツインバスケットボール（基本技術） | | | | A | | | | | | |
| 第 10 週 | ツインバスケットボール（基本技術） | | | | A | | | | | | |
| 第 11 週 | ツインバスケットボール(基本技術、発展練習以下同じ) | | | | A | | | | | | |
| 第 12 週 | ツインバスケットボール | | | | A | | | | | | |
| 第 13 週 | ツインバスケットボール | | | | A | | | | | | |
| 第 14 週 | ツインバスケットボール | | | | A | | | | | | |
| 第 15 週 | ツインバスケットボール | | | | A | | | | | | |
| 第 16 週 | ツインバスケットボール | | | | A | | | | | | |
| 第 17 週 | ツインバスケットボール | | | | A | | | | | | |
| 第 18 週 | ツインバスケットボール | | | | A | | | | | | |
| 第 19 週 | ツインバスケットボール | | | | A | | | | | | |
| 第 20 週 | ツインバスケットボール | | | | A | | | | | | |
| 第 21 週 | ツインバスケットボール | | | | A | | | | | | |
| 第 22 週 | 保健体育概論 | | | | A | | | | | | |
| 第 23 週 | 保健体育概論 | | | | A | | | | | | |
| 第 24 週 | 保健体育概論 | | | | A | | | | | | |
| 第 25 週 | 保健体育概論 | | | | A | | | | | | |
| 第 26 週 | 保健体育概論 | | | | A | | | | | | |
| 第 27 週 | 保健体育概論 | | | | A | | | | | | |
| 第 28 週 | 保健体育概論 | | | | A | | | | | | |
| 第 29 週 | 保健体育概論 | | | | A | | | | | | |
| 第 30 週 | 保健体育概論 | | | | A | | | | | | |
| (特記事項) | JABEEとの関連 | | | | | | | | | | |
| 体調、気温、気候、体育館の使用状況によ
って授業内容を適宜変更します。 | JABEE | a | B | C | d1 | d2a)d | d2b)c | e | f | g | h |
| | 本校の学習
・教育目標 | A | A | C | C | C | B | B | D | C | B |
| | | ○ | | | | | | | | | |

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。(例)年4回定期試験を実施し

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

留学生に対し、入学の事前指導、留学生用カリキュラムの実施、学生寮でのチューターの配置等を行っている。また種々の設備を揃えた留学生指導教室を設置している。編入学生には入学前の夏休みに個人面談や指導を行っている。障害を持つ学生向けには、体育の特別コースを実施している。

これらのことから留学生、編入学生および障害をもつ学生に対する支援体制が整備され、機能している。なお社会人学生は現在専攻科、本科に在籍していない。

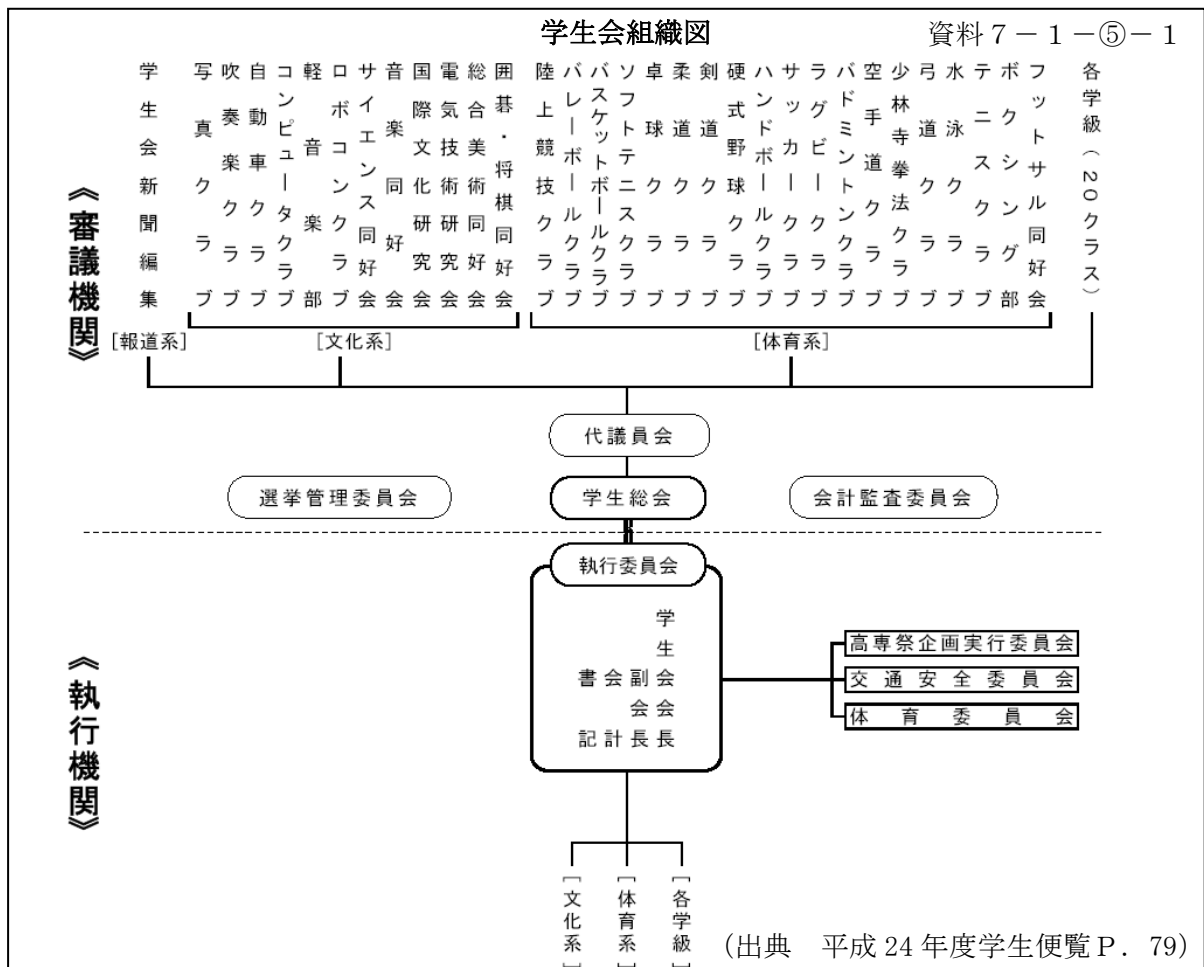
観点7-1-⑤： 学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。

(観点に係る状況)

本校にはクラブ・同好会・サークルが合わせて32あり（資料7-1-⑤-1）、それぞれに教員の中から選ばれた部長と指導教員が配置され（資料7-1-⑤-2）、学生主事の指示の下で学生の指導にあたっている。実技指導のできる教員のいないクラブでは、外部コーチを依頼しているところもある。

クラブ予算は、学生会費から活動実績などを考慮して配分される（資料7-1-⑤-3）。

また学生の自主的活動の場である学生会も組織され（資料7-1-⑤-1）、活発に活動している。これらの活動の相談窓口は、学生主事補1名が担当し、学生主事のもと指導にあたっている。



平成24年度クラブ部長および指導教員

資料 7 - 1 - ⑤ - 2

(体育系クラブ)

| ク ラ ブ 名 | 部 長 | 指 導 教 員 | 指 導 教 員 | 指 導 教 員 | 指 導 教 員 |
|----------|-------|---------|---------|---------|---------|
| 陸上競技 | 芥河 晋 | 直井 弘之 | 佐野 和男 | | |
| バレーボール | 北澤 雅之 | 山田 宰 | 津田 尚明 | 後藤 多栄子 | |
| バスケットボール | 小池 信昭 | 坂田 光雄 | 林 和幸 | 竹下 慎二 | |
| ソフトテニス | 溝川 辰巳 | 大久保 俊治 | 村田 充利 | 西本 真琴 | |
| 卓 球 | 森田 誠一 | 和田 茂俊 | 佐久間 敏幸 | 平山 規義 | |
| 柔 道 | 桑原 伸弘 | 徳田 将敏 | | | |
| 剣 道 | 中本 純次 | 山田 宰 | | | |
| 硬式野球 | 岩本 仁志 | 野村 英作 | 奥野 祥治 | 平岡 和幸 | 徳田 将敏 |
| ハンドボール | 三岩 敬孝 | 山東 篤 | 早坂 良 | | |
| サッカー | 赤崎 雄一 | 森川 寿 | 岸本 昇 | 伊勢 昇 | |
| ラグビー | 森岡 隆 | 中出 明人 | 秋山 聡 | | |
| バドミントン | 西本 圭吾 | 久保井 利達 | 霧巻 峰夫 | 岡本 和也 | |
| 空 手 道 | 山吹 巧一 | 綱島 克彦 | | | |
| 少林寺拳法 | 土井 正光 | 平岡 和幸 | | | |
| 弓 道 | 三原 由雅 | 福田 匡 | 辻原 治 | 森 徹 | |
| 水 泳 | 宮本 克之 | 藤本 晶 | | | |
| テ ニ ス | 櫻原 恵蔵 | 山口利幸 | 山川文徳 | 霧巻 峰夫 | 綱島 克彦 |
| ボクシング | 米光 裕 | 岡本 和也 | | | |
| フットサル同好会 | 秋山 聡 | 重松 正史 | | | |

(文化系クラブ)

| | | | | | |
|----------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 写 真 | 濱田 俊彦 | | | | |
| 吹 奏 楽 | 河地 貴利 | 吉田 芳弘 | 太古 隆治 | 右代谷 昇 | 青山 歆生 |
| 自 動 車 | 山東 篤 | | | | |
| コンピュータ | 森 徹 | 村田 充利 | 青山歆生 | 謝 孟春 | |
| 軽 音 楽 | 重松 正史 | 伊勢 昇 | | | |
| ロボコン | 山口 利幸 | 佐野 和男 | 津田尚明 | 竹下 慎二 | |
| サイエンス同好会 | 林 純二郎 | 岸本 昇 | | | |
| 電気技術研究会 | 山吹 巧一 | | | | |
| 総合美術同好会 | 後藤 多栄子 | | | | |
| 音楽同好会 | 渡邊 仁志夫 | | | | |
| 和の文化研究会 | 謝 孟春 | 佐久間 敏幸 | | | |
| 囲碁・将棋同好会 | 平岡 和幸 | 濱田 俊彦 | | | |

(出典 学生課資料)

| 平成24年度予算案書 | | 学生会予算 | | 資料 7-1-⑤-3 | | |
|-------------|------------|--------------|----------------|------------|-----------|-----------|
| 収入の部 | | クラブ予算 | | | | |
| 前年度繰越金 | 5,482,464 | 運動系 | | 予算額 | | |
| 学生会費 | 6,550,200 | ボクシング | 70,283 | 50,000 | 120,283 | |
| 体育大会補助 | 20,000 | 弓道 | 194,120 | 50,000 | 244,120 | |
| 合計 | 12,052,664 | 剣道 | 173,500 | 50,000 | 223,500 | |
| | | 柔道 | 80,100 | 50,000 | 130,100 | |
| | | 少林寺拳法 | 61,341 | 50,000 | 111,341 | |
| | | 卓球 | 149,756 | 50,000 | 199,756 | |
| | | 水泳 | 46,000 | 50,000 | 96,000 | |
| 支出の部 | 予算額 | 陸上 | 108,087 | 50,000 | 158,087 | |
| 執行委員会費 | 450,000 | 硬式野球 | 396,000 | 50,000 | 446,000 | |
| 交流会費 | 150,000 | 硬式テニス | 176,000 | 50,000 | 226,000 | |
| 体育大会費 | 350,000 | ソフトテニス | 117,070 | 50,000 | 167,070 | |
| クラブ費 | 4,927,116 | バドミントン | 187,822 | 50,000 | 237,822 | |
| クラブ予備費 | 500,000 | ハンドボール | 117,080 | 50,000 | 167,080 | |
| 高専祭費 | 2,900,000 | バレーボール | 69,340 | 50,000 | 119,340 | |
| 予備費 | 2,775,548 | バスケットボール | 170,900 | 50,000 | 220,900 | |
| 合計 | 12,052,664 | サッカー | 275,874 | 50,000 | 325,874 | |
| | | ラグビー | 218,895 | 50,000 | 268,895 | |
| | | 合計 | | | 3,462,168 | |
| 学生会会計 | 印 | 文化系 | 吹奏楽 | 144,606 | 50,000 | 194,606 |
| 会計監査 | 印 | | 軽音楽 | 136,028 | 50,000 | 186,028 |
| | | | 写真 | 61,950 | 50,000 | 111,950 |
| | | | 自動車 | 92,620 | 50,000 | 142,620 |
| | | | コンピュータ | 111,458 | 50,000 | 161,458 |
| | | | ロボコン | 379,172 | 50,000 | 429,172 |
| | | | サイエンス | 49,159 | 50,000 | 99,159 |
| | | | 電気技術研究会 | 19,995 | 50,000 | 69,995 |
| | | | 和の文化研究会 | 19,960 | 50,000 | 69,960 |
| | | | 合計 | | | 1,464,948 |
| | | | クラブ予算総計 | | | 4,927,116 |

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校ではクラブ・同好会・サークルが32あり、学生主事の指示の下で部長（教員）が中心となり指導に当たっている。クラブ予算は、学生会費より活動実績を考慮して配分されている。

また学生会も、学生主事の指導の下に活発に活動している。

これらのことから、学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能している。

観点 7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点到係る状況)

各クラスに担任を配置し、学生の学習面や生活面の指導を行っている（資料 7-1-①-4 参照）。各学年の担任から学年主任を選抜し、担任間の調整等を行っている。これらの担任の業務を手引書に纏めて、担任に配布し、担任の活動を支援している（資料 7-2-①-1）。

さらに学生の悩みや相談に対応するため、教員から選抜された学生相談員とカウンセラーで構成する学生相談室を組織している（資料 7-1-①-5 参照）。また常勤の看護師を配置した保健室を設置し、学生の健康管理や健康や精神面での相談に応じている。さらに職員や学生の人権やセクシャルハラスメントに対応するため、人権教育委員会も設置している（資料 7-2-①-2）。

経済的には授業料免除制度を整備し（資料 7-2-①-3）、学生を支援するとともに、本校独

自の中津基金（資料 7-2-①-4）をはじめ各種奨学金の紹介や申請等も行っている。これらの制度の説明や案内は学生便覧（資料 7-2-①-5）、掲示板、担任を通じて行っている。授業料免除は、毎年予算枠を大きく上回る申請者があり、経済面と学習面を考慮し、教務主事を中心とした選考委員会（資料 7-2-①-3 参照）で推薦学生を決定している。各種奨学金に関しても授業料免除選考と同様に扱っている。授業料免除および奨学金受給実績を資料 7-2-①-6 に示す。

担任の手引き（抜粋）

資料 7-2-①-1

1 学級担任の基本的役割

工業高専の学生の多くは、将来工科系の技術開発職に就くという夢をもって入学してきているはずである。学生がそのようなモチベーションを持ち続け、さらに自己を向上・確立させていくためには、勉学する意義を早く見出せるように教員がきめ細かな指導を行なう必要がある。特に学級担任は学生諸君に一番近い存在であり、個々の学生の志望を把握し、ホームルームなどを通じて適切に指導・援助していかねばならない。また、彼らは感受性豊かな思春期にあたることから、色々な悩みや不安を持つことがあり、日頃から集団としての仲間意識や良好な友人関係を築くよう助言していくことも肝要である。さらに、学習指導上や生活指導上の問題が生じた場合にも、担任は、前担任や科目担当教員などから情報を入手し、主事および学科主任や保護者の方々と密接な連携を取りながら、個々人に応じて、学生諸君が納得した形で解決していくように方向付けることも求められる。一方、学級担任は、学校の教育方針をよく理解し、学生諸君にそれを理解してもらうよう啓蒙するのも、重要な役割である。

2 学級担任の基本姿勢

(1) 学級運営の心得

1. 学級担任は、学生との人間的な触れ合いを大切にし、できる限り接触の時間を多くとるよう心掛ける。その際、問題によっては毅然たる態度も必要であるが、偏見にとらわれず公平な態度で、受容の心をもって接する。
2. 学級担任は、個々の学生の特質をよく理解し、発達過程を見守りながら、きめ細かい適切な指導を進める。ことに学業や生活面で問題を抱えている学生には積極的に働きかけ、学習意欲の育成・向上に努める。
3. 学級担任は、『学生便覧』等の配布物をよく読むよう指導し、諸手続の仕方、学校の規則などを理解させる。同時に、『シラバス』の活用を奨励し、それを通して自学自習の習慣を確立するよう、積極的な学習態度の育成に努める。
4. 学級担任は、担当クラスを有機的な集団、すなわち学生相互の健全な連帯感に支えられた集団へと育成する。そのためには、学級のリーダーやムードメーカーとなりうる学生をいち早く見抜き、その活動を積極的に方向付け、支援していくことも有効な手段の一つである。

(2) HRや学校行事への取り組み

担任活動がもっとも発揮されるのは、特別活動（以下HRと略記）および高専祭や校内体育大会などの学校行事の場であるから、高専教育におけるHRや学校行事の位置付けを改めて認識しておく。

(3) 保護者との関係

保護者とより良い協力関係を形成していくため、定期試験の成績を報告する際や保護者懇談会の際に、高専教育の特質について周知徹底する必要がある。また、保護者との円滑な関係を確保しなければならない。例えば、長期にわたる欠席のときはもちろん、欠課や欠席が生じるたびに、保護者に連絡することなども重要である。

(4) 学校全体の中での位置付け

1. 学級担任の独自性を発揮しつつも、学校全体として統一ある指導を展開するために各学年間で十分な連絡を図りながら指導にあたる。そのためには学年の特質を生かした指導計画、指導方針を学年会で話し合うことが必要である。
2. 学級担任は、「横の連続性」だけでなく、「縦の連続性」を確保するために、学科の教育理念を常に念頭に置き、学生に早くから将来目標とする技術者像をイメージさせる。そのためには学科主任をはじめ他の教員との情報交換を密にし、5年間を通した一貫性のある学生指導体制の推進に積極的に参画する。
3. こうして担任の個性や独自性を発揮しつつ、学年そして学校全体として、統一性のある指導を展開することが、一人一人の学生を大切に育て、ひいては学生および保護者から学校への信頼を高めることにつながる。

（出典 担任の手引き P. 1）

資料7-2-①-2

和歌山工業高等専門学校人権教育委員会規則（抜粋）

制 定 平成5年4月1日

最近改正 平成23年4月1日

（設置）

第1条 和歌山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、人権教育委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目的）

第2条 委員会は、本校人権教育方針に基づき、人権教育及び学生間のハラスメントの防止を推進することを目的とする。

（審議事項）

第3条 委員会は、前条の目的を達成するため、必要な事項を審議する。

（組織）

第4条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 学生主事
- 二 学生主事補
- 三 学科教員各1名
- 四 総務課長
- 五 学生課長

（任期）

第5条 前条第3号の委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第6条 委員会に委員長を置き、学生主事をもって充てる。

2 委員長は会議を招集し、その議長をなる。

3 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。なお、副委員長を置いていない場合は、第4条第2号の委員がその職務を代行する。

（副委員長）

第7条 委員会に副委員長を若干名置くことができる。

2 副委員長は委員長が指名するものとする。

3 副委員長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 副委員長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

5 年度途中において副委員長を指名する場合の任期については、第4条第3号の委員の終期までとする。

（委員以外の者の出席）

第8条 委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。

（事務）

第9条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

（出典 本校HP）

和歌山工業高等専門学校入学料、授業料の免除 資料 7-2-①-3 及び徴収猶予並びに寄宿料免除規則（抜粋）

制 定 昭和50年7月14日
最近改正 平成19年3月20日

第1章 総則

(目的)

第1条 和歌山工業高等専門学校学則第37条の規定に基づく入学料、授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料の免除（以下「授業料等の免除及び徴収猶予」という。）に関する取扱いについては、他の法令などに定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(選考機関)

第2条 授業料等の免除及び徴収猶予に関する選考は授業料等の免除及び徴収猶予委員会（以下「選考委員会」という。）において行う。

2 選考委員会は次に掲げる者をもって組織する。

- 一 教務主事
- 二 学生主事
- 三 寮務主事
- 四 専攻科長
- 五 各学科主任

3 選考委員会の委員長は、学生主事とし、その事務は学生課において処理する。

4 選考に関する基準その他授業料免除等に関し必要な事項は、選考委員会の議を経て、校長が定める。

第2章 入学料の免除及び徴収猶予

(免除の対象)

第3条 入学料の免除は、次の各号のいずれかに該当する特別な事情により、納付が著しく困難であると認められる者について、本人の申請に基づき、選考の上、独立行政法人国立高等専門学校機構理事長の承認を得て校長が許可することができる。

- 一 入学前1年以内において、入学する者の学費を主として負担している者（以下「学費負担者」という。）が死亡し、又は入学する者若しくは学費負担者が風水害等の災害を受けた場合
- 二 前号に準ずる場合であつて、校長が相当と認める理由がある場合

(申請手続)

第4条 入学料の免除を申請する者は、入学手続終了の日までに、次に掲げる書類を校長に提出しなければならない。

- 一 入学料免除願（様式第1号）
- 二 市区町村長の所得証明書（様式第4号）
- 三 死亡を証明する書類又は市区町村長の罹災証明書
- 四 その他参考となる証明書

(免除の額)

第5条 入学料免除の額は、入学料の全額又は半額とする。

(徴収猶予の対象)

第5条の2 入学料の徴収猶予は、次の各号のいずれかに該当する場合において、本人の申請に基づき、選考の上、校長が許可することができる。

- 一 経済的理由により納付期限までに納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合
- 二 入学前1年以内において、入学する者の学費負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学費負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに納付が困難と認められる場合
- 三 その他やむを得ない事情があると認められる場合

(申請手続)

第5条の3 入学料の徴収猶予を申請をする者は、入学手続終了の日までに、次に掲げる書類を校長に提出しなければならない。

- 一 入学料徴収猶予願（様式第8号）
- 二 家庭状況調書（様式第3号）
- 三 市区町村長の所得証明書（様式第4号）
- 四 死亡を証明する書類又は市区町村長の罹災証明書（該当する場合）
- 五 その他参考となる証明書

(免除申請者に係る徴収猶予)

第5条の4 入学料免除の申請をした者については、免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して14日以内に徴収猶予の申請を行うことができる。

(徴収猶予の期間)

第5条の5 徴収猶予の期間は、入学年の9月末日までとする。

(申請に伴う徴収の猶予等)

(資料7-2-①-3つづき)

第6条 入学料の免除、又は徴収猶予を申請した者について、免除の可否又は徴収猶予が決定するまでの間は、入学料の徴収を猶予する。

2 免除若しくは徴収猶予を不許可とした者及び半額免除の許可をした者(第5条の4により徴収猶予を申請したものを除く。)については、それを告知した日から起算して14日以内に、納付すべき入学料を納付しなければならない。

3 免除若しくは徴収猶予を不許可とした者及び半額免除の許可をした者が、前項に規定する納付期限までに、入学料を納付しない場合は、学則第28条第5号の規定により除籍する。

(除籍による免除)

第7条 入学料の免除又は徴収猶予を申請した者について、次の各号のいずれかに該当する場合は、未納の入学料の全額を免除することができる。

一 徴収猶予期間内において死亡したことにより除籍した場合

二 免除若しくは徴収猶予を不許可とした者又は半額免除の許可をした者で、前条第2項の期間内において死亡したことにより除籍した場合

三 免除若しくは徴収猶予を不許可とした者又は半額免除の許可をした者で、納付すべき入学料を納付しないことにより除籍した場合

第3章 授業料の免除及び徴収猶予

(経済的理由による免除)

第8条 授業料の免除は、経済的理由により納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる学生について、本人の申請に基づき、選考の上、許可することができる。

(申請手続)

第9条 授業料の免除を申請する者は、年度を2期に分け、各期ごとに、その都度公示する期日までに、次に掲げる書類を校長に提出しなければならない。

一 授業料免除額(様式第2号)

二 家庭状況調査書(様式第3号)

三 市区町村長の所得証明書(様式第4号)

四 その他参考となる証明書

(免除の額)

第11条 授業料免除の額は、各期に納付すべき授業料の全額又は半額とする。

(特別な事情による免除)

第12条 学資負担者が、授業料の各期ごとの納期前6月以内(新入学者の最初の期分にあつては入学前1年以内)に死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が著しく困難と認められる場合は、本人の申請に基づき、選考の上、校長が当該事由発生翌期に納付すべき授業料の免除を許可することができる。ただし、当該事由発生時期が当該期の授業料の納付期限前である場合においては、当該期分の授業料について免除することができる。

2 前項の免除を受けようとする者は、次に掲げる書類を校長に提出しなければならない。

一 授業料免除額(様式第2号)

二 死亡を証明する書類又は市区町村長の罹災証明書

三 その他参考となる証明書

(免除の取消し)

第13条 授業料免除の許可を受けた者が、次の各号のいずれかに該当した場合は、選考委員会の議を経て校長はその許可を取り消す。

一 免除の理由が消滅した場合

二 免除の申請について虚偽の事実が判明した場合

2 前項第1号により許可を取り消された場合は、月割計算により取り消した当月以降の授業料を、同項第2号の場合には、免除を許可された期分の授業料の全額を、直ちに納付しなければならない。

(休学による免除)

第14条 学生が休学の許可を受けた場合は、月割計算により、休学当月の翌月から復学当月の前月までの授業料を免除する。

ただし、徴収猶予の許可を受けていない者で納付期限経過後において休学の許可を受けた場合は、当該期の授業料については、この限りではない。

(除籍による免除)

第15条 学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、未納の授業料の全額を免除することができる。

一 死亡又は行方不明のため除籍された場合

二 納付すべき入学料を納付しないことにより除籍された場合

三 授業料の未納を理由に除籍された場合

(退学による免除)

第16条 授業料の徴収猶予を許可された者が、願い出により退学を許可された場合は、月割計算により退学の翌月以降に納付すべき授業料の全額を免除することができる。

(徴収の猶予)

第17条 授業料の徴収猶予(以下「猶予」という。)は、次の各号のいずれかに該当する場合において本人(本人が行方不明の場合は保証人)の申請に基づき、選考の上、校長が許可することができる。

一 経済的理由により納付期限までに授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合

二 行方不明の場合

三 学生又は当該学生の学資負担者が、風水害などの災害を受け授業料の納付が困難と認められる場合

四 その他やむを得ない事情があると認められる場合

資料 7-2-①-3 つづき

(申請手続)

第 18 条 授業料の猶予を申請する者は、年度を 2 期に分け、各期ごとに、その都度公示する期日までに、次に掲げる書類を校長に提出しなければならない。

- 一 授業料延納(分納)申請書(様式第 5 号及び様式第 6 号)
- 二 家庭状況調書(様式第 3 号)
- 三 市区町村長の所得証明書(様式第 4 号)
- 四 前条第 3 号に該当する場合は、市区町村長の罹災証明書

(猶予の種類)

第 19 条 猶予は、納期の延期(以下「延納」という。)又は月割分納(以下「分納」という。)とする。

- 2 延納の期限は、前期については 9 月 15 日、後期については 2 月末日までとする。
- 3 分納は、授業料年額の 1/2 分の 1 に相当する額を毎月 20 日までに納付するものとする。ただし、休業期間中の分については休業期間の開始前までに、後期 3 月分については、2 月末日までに納付を完了しなければならない。
- 4 前項の規定にかかわらず、2 か月分以上を一括して納付することができる。

(猶予の取り消し)

第 20 条 第 13 条の規定は、授業料猶予についても準用する。

第 4 章 寄宿料の免除

(除籍による免除)

第 21 条 寄宿料の免除は、次の各号のいずれかに該当する場合に、未納の寄宿料全額を免除することができる。

- 一 死亡又は行方不明のため除籍された場合
- 二 納付すべき入学金を納付しないことにより除籍された場合
- 三 授業料の未納を理由に除籍された場合

(特別な事情による免除)

第 22 条 学生又は学資負担者が、風水害等の災害を受け、寄宿料の納付が著しく困難と認められる場合は、本人の申請に基づき、選考の上、校長が、罹災当月の翌日から起算して 6 月間の範囲内において必要と認める期間免除を許可することができる。

(申請手続)

第 23 条 寄宿料免除を申請する者は、次に掲げる書類を校長に提出しなければならない。

- 一 寄宿料免除額(様式第 7 号)
- 二 市区町村長の罹災証明書

(免除の取消し)

第 24 条 第 13 条の規定は、寄宿料の免除についても準用する。

附 則

(省略)

(出典 平成 24 年度学生便覧 P. 61~63)

○和歌山工業高等専門学校後援会中津基金奨学金貸与規則（抜粋）

(平成18年4月1日)

資料 7 - 2 - ① - 4

第1章 総則

(目的)

第1条 和歌山工業高等専門学校後援会中津基金奨学金（以下「奨学金」という。）は、和歌山工業高等専門学校（以下「和歌山高専」という。）に在学し経済的理由により修学困難で、学業に真摯に取り組んでおり卒業の意志強固な者に貸与し、有用な人材を育成することを目的とする。

2 奨学金の貸与を受ける者を「奨学生」という。

(貸与期間)

第2条 奨学金を貸与する期間は和歌山高専在学期間とする。

(貸与金額)

第3条 奨学金の貸与額は、授業料年額の二分の一に相当する額として、毎年度前期及び後期に貸与する。

第2章 奨学生の採用等

(願書の提出)

第4条 奨学金の貸与を希望する学生は、連帯保証人と連署した奨学生願書（様式1）に次の各号に掲げる書類を添えて指定の期日までに提出しなければならない。

- (1) 和歌山高専校長（以下「校長」という。）の推薦書（様式2）
- (2) 保護者の家計状態を知ることのできる市区町村長の証明書
- (3) 和歌山高専後援会長（以下「後援会長」という。）が必要と認めた書類

(採用)

第5条 奨学生の採用は、次の各号に定める基準により後援会長が決定する。

- (1) 家計については、独立行政法人日本学生支援機構の定める基準によるものとする。なお、収入基準額については、高等専門学校第1種を適用する。
- (2) 学業に真摯に取り組んでおり卒業の意志強固な者

(採用の通知)

第6条 後援会長は、奨学生の採用を決定したときは、校長に採用結果を報告（様式3）するとともに、本人及び連帯保証人に通知（様式4）する。

(誓約書の提出)

第7条 前条の通知を受けた奨学生は、直ちに連帯保証人と連署した誓約書（様式5）を提出しなければならない。

第3章 奨学金の交付等

第8条 奨学金は各期郵便局学校納付金自動引落口座に振り込むものとする。

(奨学生の異動等)

第9条 奨学生は、次の各号の一に該当するときには、連帯保証人と連署のうえ直ちに届け出（様式6）しなければならない。

- (1) 奨学金を辞退するとき。
- (2) 休学、復学または退学したとき。
- (3) 連帯保証人を変更したとき。
- (4) 本人または、連帯保証人の氏名、住所その他重要な事項に変更があったとき。

(奨学金借用証書の提出)

第10条 奨学生が次の各号の一に該当するときには、連帯保証人と連署のうえ奨学金借用証書（様式7）を提出しなければならない。

- (1) 卒業したとき。
- (2) 退学したとき。
- (3) 奨学金を辞退したとき。

(奨学金の利息)

第11条 奨学金は無利息とする。

(以下、省略)

(出典 学生課資料)

2. 7 奨学金について

資料 7-2-①-5

1) 日本学生支援機構奨学金

学業、人物ともにすぐれ、健康であって学資の支弁が困難と認められる者に対しては、選考の上、奨学金が貸与されます。

(1) 貸与月額

| 入学年度 | 学年 | 第一種（無利子） | | 第二種（有利子） |
|------|------|-------------------------|-------------------------|----------------------|
| | | 自宅 | 自宅外 | |
| 24 | 1 | 10,000円、21,000円
から選択 | 10,000円、22,500円
から選択 | |
| 23 | 2 | 〃 | 〃 | |
| 22 | 3 | 〃 | 〃 | |
| 21 | 4 | 30,000円、45,000円
から選択 | 30,000円、51,000円
から選択 | 3万、5万、8万、10万、12万から選択 |
| 20 | 5 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 24 | 専攻科1 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 23 | 専攻科2 | 〃 | 〃 | 〃 |

(2) 出願方法

中学校在学中に予約されるものと、入学後に応募するものがあります。前学期の初めに学生課学生係で申込みを受け付けます。家庭の経済状況の急変の場合には随時申し込む事ができます。

2) その他の奨学金

| 奨学金の名称 | 応募資格等 | 奨学金の金額 | 支給別 |
|-----------|--|--------------------------------------|-----|
| 大阪府育英会 | 大阪府在住者 | 年（授業料年額+100,000円の範囲内） | 貸与 |
| 和歌山県修学奨励金 | 和歌山県在住者 | 自宅月額 18,000円
自宅外月額 23,000円 | 貸与 |
| 中西奨学金 | 2学年 1名校長推薦 | 月額 13,000円 | 給与 |
| 交通遺児育英会 | 学支負担者が交通事故により死亡等 | 月額 20,000円・30,000円・
40,000円の中から選択 | 貸与 |
| あしなが育英会 | 病気遺児・災害遺児 | 月額 25,000円 | 貸与 |
| レントオール奨学金 | 大阪府在住者のうち、
（知能）機械工学科・
環境都市工学科在籍者 | 月額 20,000円（1～3年）
30,000円（4～5年） | 給与 |

この表に載っていない奨学金もあります。詳しくは学生係の窓口にお問い合わせください。

2. 8 授業料等の免除について

1) 入学料の免除及び猶予

入学料免除の制度は、入学する者の学資を負担していた者が、入学前1年以内に死亡、又は、風水害・地震等の災害を受けた事により、入学料の納付が著しく困難な場合、所定の手続きにより審査のうえ免除する制度です。

入学料徴収猶予の制度は、経済的理由により入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者又は前記「入学料免除」に該当する場合など特別な事情により入学料の納付が困難であると認められる場合、所定の手続きにより審査のうえ9月末日まで徴収猶予する制度です。

2) 授業料の免除

経済的理由によって、授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる学生や、その他やむを得ない事情があると認められる学生に対し、所定の手続きにより審査のうえ 授業料の全額または半額を免除する制度です。

3) 寄宿料の免除

経済的理由によって、寄宿料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる学生や、その他やむを得ない事情があると認められる学生に対し、所定の手続きにより審査のうえ寄宿料を免除する制度です。

（出典 平成24年度学生便覧P. 7～8）

授業料免除者数

資料7-2-①-6

平成22後期授業料免除者数

| | 授業料免除 | 家計急変 |
|-------|-------|------|
| 免除者 | 21名 | 6名 |
| 超過申請者 | 14名 | |
| 不許可者 | 8名 | |
| 取下 | 1名 | |

平成23前期授業料免除者数

| | 授業料免除 | 家計急変 |
|-------|-------|------|
| 免除者 | 25名 | |
| 超過申請者 | 12名 | |
| 不許可者 | 9名 | |

平成23後期授業料免除者数

| | 授業料免除 | 家計急変 |
|-------|-------|------|
| 免除者 | 25名 | |
| 超過申請者 | 12名 | |
| 不許可者 | 4名 | |

奨学金受給実績

中津基金採用者数

| | H21 | | H22 | | H23 | |
|------|-----|----|-----|----|-----|----|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 奨学生数 | 3 | 7 | 2 | 3 | 1 | 1 |
| 計 | 10 | | 5 | | 2 | |

H24は前期授業料免除判定が7月にあるため、6月21日現在未定です

奨学生数

| | H21 | H22 | H23 | H24 |
|-------|------|------|------|-----------------|
| 奨学生数 | 156名 | 145名 | 129名 | 126名
(申請者含む) |
| 奨学団体数 | 15団体 | 12団体 | 11団体 | 12団体 |

H24は6月14日現在の数字です。

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

各クラスに担任を配置し、学年主任を選抜して、学生との連絡を密にしている。学生相談教員で構成する学生相談室を組織し、学生の悩みや相談に対応している。また学生の健康管理のため、保健室に常勤の看護婦を配置している。職員や学生の人権を守るために人権教育委員会を設置している。学生の経済面での支援のためには、授業料免除制度を整備し、各種奨学金の申請の便も図っている。

これらのことから学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能している。

観点7-2-②：特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

(観点に係る状況)

本校では留学生に対してチューター制度を整備している。チューターは原則として同級生から選抜し、学生寮での生活面、学習面、精神面での支援者として活躍している。チューターは月に一度報告書を作成し、留学生の状況を担任に報告している(資料7-2-②-1)。学生寮では留学生のために専用の補食室を設け(資料7-2-②-2)、冷蔵庫、電子レンジ等の調理器具を設置している。また、留学生専用のシャワー室を設置し(資料7-2-②-2)、大浴場と併せて利用できるようにしている。さらに留学生専用の指導教室を設け(資料7-2-②-3)、「日本事情」等の留学生のための授業を実施している。この指導教室は留学生の交流や憩いの場としても機能している。

障害を持つ学生に対しては、玄関等入り口でのスロープ(資料7-2-②-4)、エレベータ(本館、福利センター、専攻科棟)、身障者用トイレ(本館2階)を設置し、車椅子の学生用に体育は別メニューになっている(資料7-1-④-7参照)。

別紙様式

資料7-2-②-1

留学生相談員指導報告書（平成 年 月分）

平成 年 月 日

和歌山工業高等専門学校 殿

留学生指導員 学科・学年・氏名

_____学科____学年_____

基本指導事項に基づき、指導を行いましたので報告します。

対象留学生 学科・学年・氏名

_____学科____学年_____

健康面

生活面

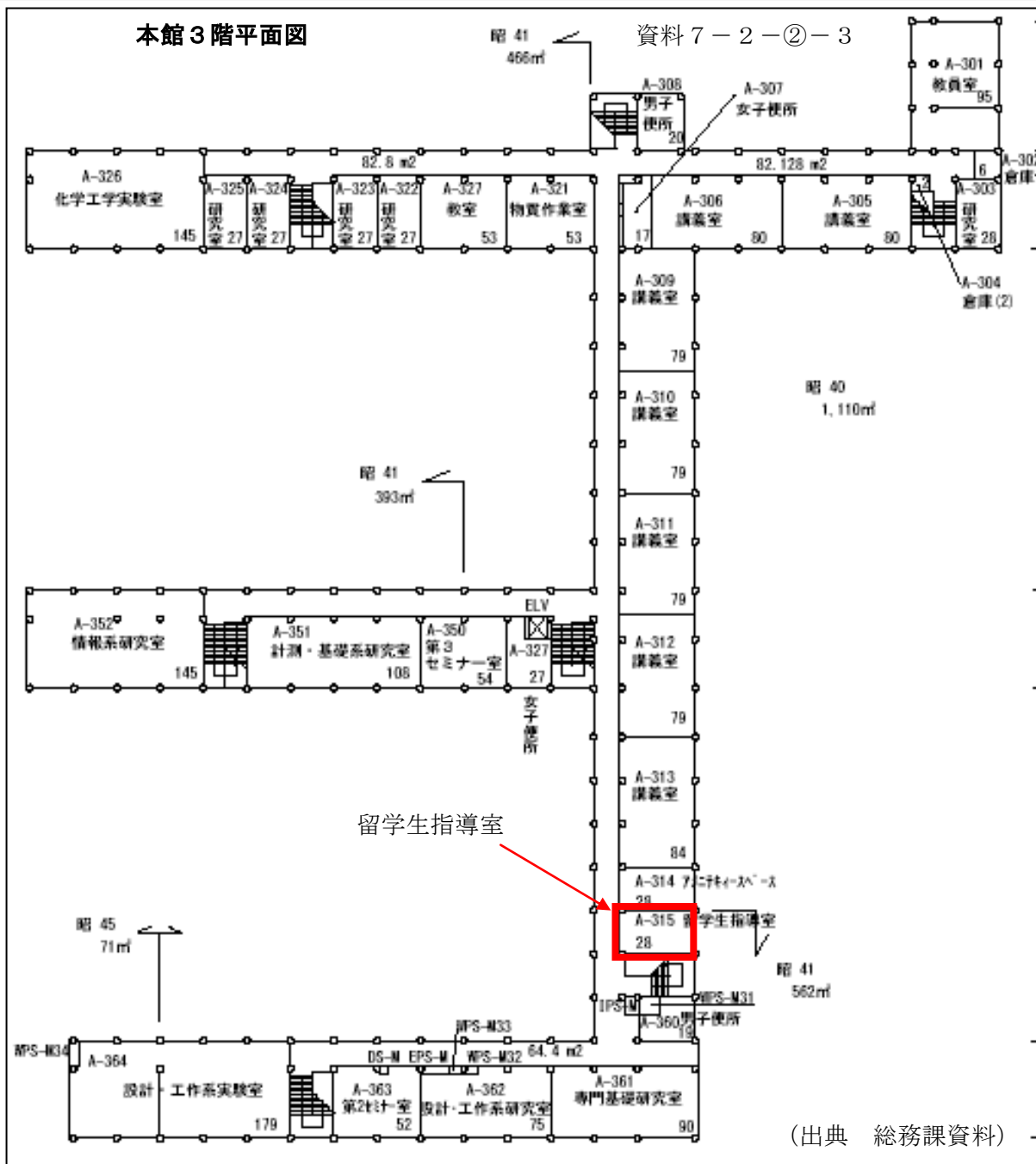
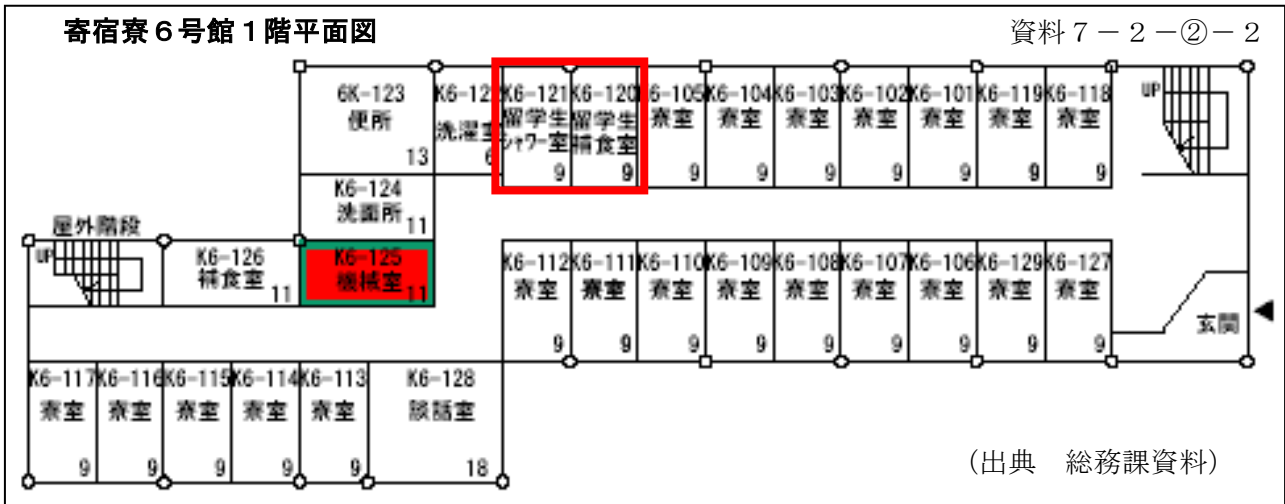
学業面

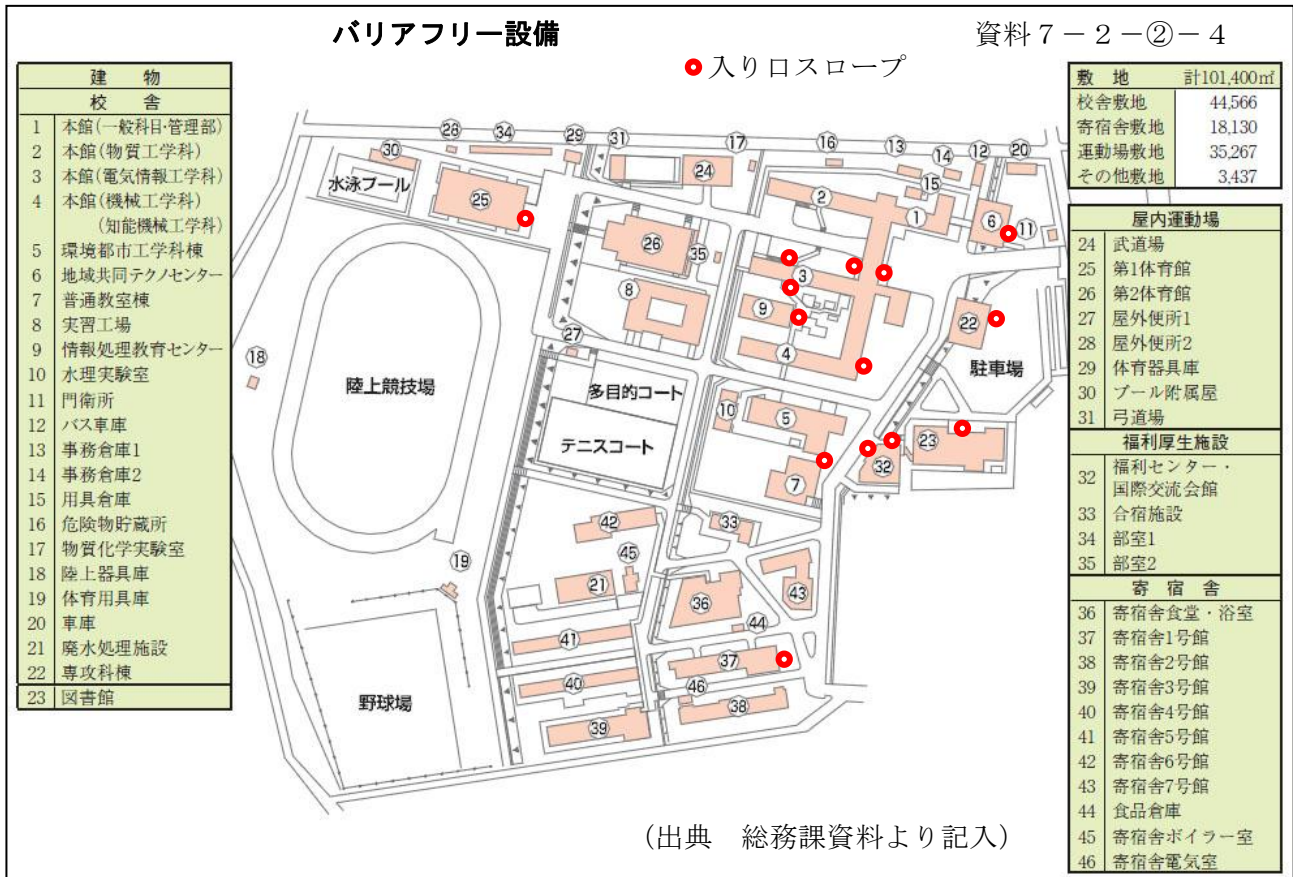
その他

以上の指導がなされたことを認めます。

留学生担当教員_____⑩

(出典 学生課資料)





(分析結果とその根拠理由)

留学生に対して、同級生のチューターを配置し、学生寮での生活、および学習面、精神面で支援している。学生寮には留学生専用の補食室やシャワー室を設置している。また留学生専用の指導教室を設け、日本語事情等の授業を実施するとともに、留学生の交流や憩いの場としている。

障害を持つ学生については、スロープ、エレベータ、身障者用トイレを設置し、体育も別メニューで実施している。

これらのことから特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことができる状況にあり、まだ、必要に応じて生活支援等が行われている。

観点 7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

本校には学生寮(男子寮6棟、女子寮1棟)が設置されている(資料7-2-③-1)。運営は寮務主事を中心とした寮務委員会(資料7-2-③-2)が、指導寮生(資料7-2-③-3)および寮生会(資料7-2-③-4)を指導しながら適切に行われている。朝・夜の点呼は指導寮生がとり、宿直教員のもとに点呼表(資料7-2-③-5)を持ってくる。

入寮生に対しては、寮の運営規則、生活状況を詳しく説明した「学寮のしおり」(資料7-2-③-6)を配布し、周知を図っている。また寮生の生活指導のために、教職員による寮生を対象と

した生活指導を適宜開催している（資料7-2-③-7）。さらに寮生自身の活動を活発にするため、指導寮生、副指導寮生の研修会（資料7-2-③-8）や、寮周辺の環境改善のための「グリーンキーパー」と名付けたボランティア活動も行っている。

施設・設備面では各階に補食室や洗濯場を設置している。また各居室にはインターネットに接続できる電話回線と電話機、エアコンを設置し（資料7-2-③-1）、快適な寮生活を支援している。学習面では、平日の夜間に自習時間（19:30～21:30）を設定し、学寮指導教員が巡回して指導している（資料7-2-③-6）。

学生寮（^{こうきりょう}相紀寮）

資料7-2-③-1

集団生活を通じて人間形成を図る教育の場として、和歌山高専は学生寮（相紀寮）を設置しています。特に、第1、2学年の男子学生に対しては、原則として全寮制が採用されています。

協力と信頼に基づく集団生活から、自立と協調の精神や豊かな人間性が養われます。寮生活や学習の指導には、上級生の指導寮生があたり、寮生で組織された寮生会が、学寮生活に彩りを添える、さまざまな行事を開催します。

男子寮6棟（男子学生448名）

女子寮1棟（女子学生77名）

合計525名（留学生・専攻科生・研究生を含む。）

各室定員 低学年2～3名 高学年1～2名

各室備品 学習机・書棚・ベッド・ロッカー・電話機

補食室備品 冷蔵庫・電子レンジ・IHコンロ

洗濯室備品 洗濯機・乾燥機

談話室備品 テレビ・ビデオ・エアコン



女子寮室内



寮食堂



女子寮から中庭を望む



食事は2種類のメニューから選べる

入寮状況

2011年5月1日現在

| 本 科 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 計 |
|---------|-------------|-------------|-------------------|-------------------|-------------------|---------------------|
| 機械工学科 | | | | (0)
15
<1> | (0)
15
<3> | (0)
30
<4> |
| 知能機械工学科 | (1)
40 | (0)
37 | (0)
18
<2> | | | (1)
95
<2> |
| 電気情報工学科 | (3)
39 | (2)
31 | (1)
20 | (4)
20
<1> | (2)
16
<2> | (12)
126
<3> |
| 物質工学科 | (12)
39 | (10)
32 | (7)
32
<2> | (5)
19
<1> | (6)
15
<1> | (40)
137
<4> |
| 環境都市工学科 | (4)
34 | (4)
36 | (4)
23
<1> | (3)
17 | (4)
17
<2> | (19)
127
<3> |
| 計 | (20)
152 | (16)
136 | (12)
93
<5> | (12)
71
<3> | (12)
63
<8> | (72)
515
<16> |

| 専 攻 科 | 1年 | 2年 | 計 |
|-------------|----------|----------|----------|
| メカトロニクス工学専攻 | (0)
2 | (0)
0 | (0)
2 |
| エコシステム工学専攻 | (2)
4 | (3)
3 | (5)
7 |
| 計 | (2)
6 | (3)
3 | (5)
9 |

研究生 1 (0)
<1> () 内は女子内数
< > は外国人留学生内数

(出典 平成23年度学校要覧P. 34)

和歌山工業高等専門学校学寮管理運営規則（抜粋）

資料 7-2-③-2

制 定 昭和 43 年 4 月 1 日

最近改正 平成 19 年 4 月 1 日

(目的)

第 1 条 この規則は、和歌山工業高等専門学校（以下「本校」という。）における学寮の管理運営について必要な事項を定め、その円滑かつ適正な運用を図ることを目的とする。

(学寮の意義)

第 2 条 学寮は、学生の勉学に適する環境において規律ある共同生活を体験させ、これを通じて人間形成に資する課外教育施設とする。

(取容)

第 3 条 前項の目的を達成し、かつ、学生の学園生活への適応を促進させるため、学寮に第 1 学年及び第 2 学年学生の全員（女子学生及び第 16 条第 1 項ただし書の規定による学生を除く。）を収容する。

2 女子学生及び第 3 学年以上の男子学生（専攻科生を含む。以下同じ。）に対しては、選考により収容する。

(管理運営責任者)

第 4 条 学寮に寮務主事を置く。

2 寮務主事は、校長の命を受け、学寮管理運営の責任者として寮生の指導に当たる。

3 寮務主事は、常に学生主事と緊密な連絡を保ち、寮生の指導に遺漏のないように努める。

4 寮務主事は、教授又は准教授をもって充てる。

(寮務主事補)

第 5 条 学寮に寮務主事補を置く。

2 寮務主事補は、寮務主事の下にあつて、寮生活の補導及び寮生会その他諸活動の指導に当たる。

(寮監)

第 6 条 学寮に寮監を置く。

2 寮監は、寮生の訓育指導に当たる。

(寮母)

第 7 条 学寮に寮母を置く。

(当直)

第 8 条 教員は、校長の命を受けて当直し、寮生の指導に当たる。

(学寮委員会)

第 9 条 本校の学寮の管理運営に関し具体的な方策を審議し、その円滑な運営を図るため、校長の諮問機関として学寮委員会を置く。

2 学寮委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、寮務主事が議長となる。

- 一 寮務主事
- 二 寮務主事補
- 三 寮監
- 四 各学科の教員各 1 名
- 五 その他校長が必要と認める職員

3 前項第 4 号の委員の任期は、1 年とする。ただし、再任を妨げない。

4 学寮委員会には、次の幹事を置く。

- 一 学生課長
- 二 総務課長

5 学寮委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(入寮命令)

第 10 条 校長は、新入学生全員（女子学生及び第 16 条第 1 項ただし書の規定による学生を除く。）を入学と同時に入寮させ、事前に保証人と連帯した入寮誓約書（様式第 1 号）を提出させる。

(出典 本校HP)

22年度学寮指導寮生・副指導寮生名簿

資料7-2-③-3

指導寮生委員長 5 D [REDACTED]
 指導寮生副委員長 5 A [REDACTED]、5 D [REDACTED]

| 号館 | 号館長 | 前期 | | | | 号館長 | 後期 | | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | 階 | 指導寮生 | 副指導寮生 | 階 | | 指導寮生 | 副指導寮生 | | | | |
| 1 | 5 D | 1 | 4 C | [REDACTED] | 4 C | [REDACTED] | 1 | 4 C | [REDACTED] | 3 B | [REDACTED] | |
| | | | 5 D | [REDACTED] | 4 D | [REDACTED] | | 2 | 4 D | [REDACTED] | 3 D | [REDACTED] |
| | | | 5 D | [REDACTED] | 3 C | [REDACTED] | | | 5 D | [REDACTED] | 3 C | [REDACTED] |
| | | 3 | 5 D | [REDACTED] | [REDACTED] | 3 D | [REDACTED] | 3 | 5 D | [REDACTED] | 4 C | [REDACTED] |
| | | | [REDACTED] | [REDACTED] | 3 B | [REDACTED] | 5 D | | [REDACTED] | [REDACTED] | [REDACTED] | |
| | | | [REDACTED] | [REDACTED] | [REDACTED] | [REDACTED] | [REDACTED] | [REDACTED] | [REDACTED] | [REDACTED] | | |
| 2 | 5 C | 1 | 4 A | [REDACTED] | 3 A | [REDACTED] | 1 | 4 C | [REDACTED] | 3 C | [REDACTED] | |
| | | | 5 A | [REDACTED] | 3 D | [REDACTED] | | 5 A | [REDACTED] | 3 D | [REDACTED] | |
| | | 2 | 4 B | [REDACTED] | 3 B | [REDACTED] | 2 | 4 B | [REDACTED] | 3 C | [REDACTED] | |
| | | | 4 A | [REDACTED] | 3 B | [REDACTED] | | 4 B | [REDACTED] | 3 C | [REDACTED] | |
| | | 3 | 5 C | [REDACTED] | 3 C | [REDACTED] | 3 | 5 C | [REDACTED] | 3 B | [REDACTED] | |
| | | | 4 D | [REDACTED] | 3 C | [REDACTED] | | 4 A | [REDACTED] | 3 B | [REDACTED] | |
| 3 | 5 D | 1 | 4 C | [REDACTED] | 3 D | [REDACTED] | 1 | 4 A | [REDACTED] | 3 D | [REDACTED] | |
| | | | 4 B | [REDACTED] | 3 C | [REDACTED] | | 4 D | [REDACTED] | 3 A | [REDACTED] | |
| | | 2 | 4 B | [REDACTED] | 4 D | [REDACTED] | 2 | 4 D | [REDACTED] | 4 A | [REDACTED] | |
| | | | 5 D | [REDACTED] | 4 A | [REDACTED] | | 5 C | [REDACTED] | [REDACTED] | [REDACTED] | |
| | | 3 | 4 C | [REDACTED] | 4 D | [REDACTED] | 3 | 4 C | [REDACTED] | 4 D | [REDACTED] | |
| | | | 5 D | [REDACTED] | [REDACTED] | [REDACTED] | | 5 D | [REDACTED] | [REDACTED] | [REDACTED] | |
| 4 | 5 D | 1 | 5 C | [REDACTED] | 5 C | [REDACTED] | 1 | 5 C | [REDACTED] | 4 A | [REDACTED] | |
| | | | 4 D | [REDACTED] | 4 D | [REDACTED] | | 4 D | [REDACTED] | 4 D | [REDACTED] | |
| | | 2 | 5 B | [REDACTED] | 5 D | [REDACTED] | 2 | 5 B | [REDACTED] | 3 D | [REDACTED] | |
| | | | 4 A | [REDACTED] | 4 A | [REDACTED] | | 4 A | [REDACTED] | 4 A | [REDACTED] | |
| | | 3 | 5 D | [REDACTED] | 4 C | [REDACTED] | 3 | 5 D | [REDACTED] | 4 C | [REDACTED] | |
| | | | [REDACTED] | [REDACTED] | 4 A | [REDACTED] | | 4 A | [REDACTED] | 4 A | [REDACTED] | |
| 5 | 5 C | 1 | 5 D | [REDACTED] | 4 D | [REDACTED] | 1 | 5 D | [REDACTED] | 4 D | [REDACTED] | |
| | | | 4 D | [REDACTED] | 4 D | [REDACTED] | | 4 D | [REDACTED] | 4 D | [REDACTED] | |
| | | 2 | 5 D | [REDACTED] | 4 B | [REDACTED] | 2 | 5 D | [REDACTED] | 4 B | [REDACTED] | |
| | | | 4 B | [REDACTED] | 4 B | [REDACTED] | | 4 B | [REDACTED] | 4 B | [REDACTED] | |
| | | 3 | 5 C | [REDACTED] | 4 D | [REDACTED] | 3 | 5 C | [REDACTED] | 4 D | [REDACTED] | |
| | | | 4 D | [REDACTED] | 4 D | [REDACTED] | | 4 D | [REDACTED] | 4 D | [REDACTED] | |
| 6 | 5 A | 1 | 5 A | [REDACTED] | 4 B | [REDACTED] | 1 | 5 A | [REDACTED] | 4 B | [REDACTED] | |
| | | | 5 D | [REDACTED] | 4 A | [REDACTED] | | 4 A | [REDACTED] | 4 A | [REDACTED] | |
| | | 専 | [REDACTED] | 5 C | [REDACTED] | 2 | 専 | [REDACTED] | 5 C | [REDACTED] | | |
| | [REDACTED] | [REDACTED] | 5 C | [REDACTED] | 5 C | | [REDACTED] | 5 C | [REDACTED] | | | |
| | 5 B | 3 | 5 D | [REDACTED] | 5 D | [REDACTED] | 3 | 5 D | [REDACTED] | 5 D | [REDACTED] | |
| | | [REDACTED] | [REDACTED] | 5 D | [REDACTED] | 5 D | | [REDACTED] | 5 C | [REDACTED] | | |
| 4 | | 5 B | [REDACTED] | 4 A | [REDACTED] | 4 | | 5 B | [REDACTED] | 4 A | [REDACTED] | |
| [REDACTED] | [REDACTED] | 5 A | [REDACTED] | 5 A | [REDACTED] | | 5 A | [REDACTED] | | | | |
| 5 C | 5 | 5 C | [REDACTED] | 5 B | [REDACTED] | 5 | 5 C | [REDACTED] | 5 B | [REDACTED] | | |
| | [REDACTED] | [REDACTED] | 5 B | [REDACTED] | 5 B | | [REDACTED] | 5 B | [REDACTED] | | | |
| 7 | 5 A | 1 | 5 A | [REDACTED] | 3 B | [REDACTED] | 1 | 5 A | [REDACTED] | 3 B | [REDACTED] | |
| | | | [REDACTED] | [REDACTED] | 3 B | [REDACTED] | | 4 B | [REDACTED] | 3 B | [REDACTED] | |

(出典 平成22年度年報P. 42)

資料 7 - 2 - ③ - 4

和歌山工業高等専門学校寮生会会則 (抜粋)

制 定 昭和 41 年 10 月 1 日
最近改正 平成 20 年 4 月 1 日

第 1 章 総則

第 1 条 和歌山工業高等専門学校学生寮（以下「学寮」という。）に寮生会（以下「本会」という。）を置く。

第 2 条 本会は和歌山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の指導の下に寮の規律ある共同生活を自治的に推進し、人間形成の助長をはかり、本校教育の目的達成に資することを目的とする。

第 3 条 本会は前条の目的を実現するために、次に掲げる目標の達成に努めるものとする。

- (1) 学寮生活を楽しく豊かに規律正しいものにし、学寮のよい伝統を育てる。
- (2) 学寮生活を通じ集団生活において自主的かつ民主的に行動する能力を養い、公民としての資質を向上する。

第 4 条 本会は学寮に在籍の学生（以下「寮生」という。）全員をもって構成する。

第 2 章 機関

第 5 条 本会は第 2 条の目的を達成するために、次の機関をおく。

- (1) 寮生総会
- (2) 代表委員会
- (3) 執行委員会
- (4) 潮風委員会
- (5) 広報委員会
- (6) レクリエーション委員会
- (7) HP 作成委員会
- (8) 環境委員会
- (9) 食堂委員会
- (10) 監査委員会

第 3 章 役員

第 6 条 本会に次の役員をおく。

- (1) 寮生会長 1 名
- (2) 代表委員長 1 名
- (3) 執行委員長 1 名
- (4) 副執行委員長 若干名
- (5) 代表委員 学寮各階から 1 名
- (6) 書記 若干名
- (7) 会計委員 1 名
- (8) 監査委員 若干名
- (9) 潮風委員
- (10) 広報委員
- (11) レクリエーション委員
- (12) HP 作成委員
- (13) 環境委員
- (14) 食堂委員

ただし、文化委員、環境委員及び食堂委員（以下「各種委員」という。）については、特に定員を設けない。

第 7 条 役員の仕事は次のとおりとする。

- (1) 寮生会長
本会の長として全寮生を代表するものとし、会務を総括する。
- (2) 代表委員長
寮生会長を補佐し、代表委員会を総括する。
- (3) 執行委員長
寮生会長を補佐し、執行委員会を総括する。
- (4) 副執行委員長
執行委員長を補佐する。
- (5) 代表委員
学寮各階を代表し、その総意を代表委員会に反映させるものとする。
- (6) 書記
寮生総会、代表委員会、執行委員会及び各種委員会の記録及び整理にあたる。
- (7) 会計委員
本会の予算及び決算並びに出納に関することをつかさどる。
- (8) 監査委員
第 18 条に定めるところによる。
- (9) 各種委員
第 26 条に定めるところによる。

(出典 平成 24 年度学生便覧 P. 80)

点呼表 ホチキス

資料 7 - 2 - ③ - 5

1

1号館1階

平成____年____月____日(____) 朝 or 夜

報告者 _____

点呼は正確に報告します。

| 号室 | 氏名 | 在
不在 | ○
× | 掃除 | 備考 |
|-----|----|---------|--------|----|----|
| 101 | | | | | |
| 102 | | | | | |
| 103 | | | | | |
| 104 | | | | | |
| 105 | | | | | |
| 106 | | | | | |
| 107 | | | | | |
| 108 | | | | | |
| 109 | | | | | |

(出典 学生課)

平成24年4月14日 作成

1

資料 7 - 2 - ③ - 6

学寮(柑紀寮)の しおり

— 平成24年度 —



和歌山工業高等専門学校

資料7-2-③-6 つづき

柑紀寮へようこそ

2012年3月

寮務主事 野村英作

和歌山高専学生寮（柑紀寮）へ入寮される皆さん、入寮おめでとうございます。

柑紀寮は全7棟からなる定員520名の、全国有数の規模を誇る学生寮です。毎年、定員を超える男女寮生が生活をしています。新入生を含む低学年は2,3人の仲間と同じ部屋で生活することになります。また、留学生や高学年の寮生とも一緒に寮生活を送ります。これまでの自宅での生活とは大きく変わる点は、異なる環境で育った人たちと集団生活をしていくということです。この生活を通して、将来社会に出て行くための多くの経験を積めるものと思います。例えば、寮生活、学校生活、クラブ活動などを通じて多くの友人を作っていたきたいと思います。クラスの仲間だけではなく他学科の学生や先輩学生とも仲良くなるのが将来にとってかけがえのない財産となるかと思えます。

お互いに気持ちよくこの寮生活を過ごすために、多くの約束事や注意事項があります。以下に示しますので、よく読んで自己管理をしっかりと行行動をして下さい。

指導寮生

各号館、各階にそれぞれ指導寮生・副指導寮生を配置しています。指導寮生・副指導寮生は校長任命で毎日の点呼や低学年の指導など多くの重要な事柄を依頼しています。そのためみんなの模範となれる、信頼できる寮生に、指導寮生・副指導寮生をお願いしています。何か困ったことがあれば、気軽に指導寮生や副指導寮生に相談してください。

食 事

寮には寮生専用の寮食堂があり、ここで朝、昼、夕の食事をしてもらいます。食費は1日665円です。献立によっては口に合わないものもあるかもしれませんし、味付けも家庭とは少し違うかもしれません。まずいと感じる人もいるかもしれません。しかし、毎日のメニューは、学校の栄養士が栄養価やカロリーをチェックしていますので、安心して食べてください。特に朝食は1日のエネルギー源ですから、寝坊することなく、きちりと食べましょう。休日や休日の前日の夕食については、事前に校内購買部（国際交流会館1階）で寮食券を購入すれば、平日同様に寮食堂を利用できます（費用は平日と同じ）。もちろん寮食券を購入せず外食してもかまいません。

喫 煙

寮内はすべて禁煙です。寮生の大半は未成年ですから、法律で喫煙は禁じられています。20歳を超えていても寮内では認めていません。これまでもタバコが原因でボヤも発生しています。大火事になったら大変なことです。もちろん身体にも良くありません。喫煙は絶対にしないでください。

飲 酒

資料7-2-③-6 つづき

喫煙同様、飲酒も禁止です。未成年は法律でも禁止されています。たとえ20歳を超えていても寮内では認めていません。

門 限

寮には門限があります。午後10時（女子は午後9時55分）です。特に18歳未満については和歌山県条例で午後10時以降外出禁止となっています。男子寮生の中には、門限以降も近くのコンビニや自販機に買い物に行く者がいます。以前、門限以降に外出した寮生が暴力事件等のトラブルに巻き込まれるということもありました。買い物などは門限以前に済ませて、門限以降は外出しないようにしてください。

点 呼

寮の重要な日課の一つに、朝と夜、2回の点呼があります。これはその時刻に「私は元気である」ことを知らせる手段なのです。うっとうしく、また無駄だと感じる人もいるかもしれませんが。しかし520名の寮生全員の無事を確認する方法が他にありません。これまでも交通事故などのトラブルで門限までに帰寮できなかった寮生もいます。このような寮生を確認するためにも、点呼は重要です。集団生活の基本であることを理解し、必ず点呼を受けてください。

外 泊 届

帰省その他で外泊するときには、事前に書面での届出が必要です。無届けで外泊すると、自分の意志で外泊したのか、あるいは不慮の事故に遭遇したのかが判らず、寮の関係者に多大な迷惑を掛ける事になります。家でも外泊するときには家の人の了解を取ると思います。寮でも同様です。必ず事前に届け出てください。

掃除と土足

寮の廊下、談話室、階段、補食室、便所などは寮生が自分たちで掃除しており、廊下などはピカピカです。寮は自分たちの生活の場です。進んで掃除をするように心がけてください。掃除の行き届いたところで生活するのは気持ちのよいものです。仲間がきれいに掃除をした廊下を土足で汚すことはもってのほかです。

防犯カメラと巡回

寮生の安全を確保する意味で、各号館の玄関に防犯カメラを設置しています。防犯カメラの映像を一定期間保存することで、もし不審者が侵入してトラブルを起こした場合などに備えています。また、寮生の安全のために寮の教職員が不定期に寮内を巡回します。時には部屋に立ち入ることもあります。過去に外部の者が寮内に潜んでいたこともあります。教職員が巡回するときは、快く協力するようにしてください。

当直教員

寮には教員が毎日交替で詰めています。

平日の場合、午後5時00分から翌朝の8時30分までは当直教員1名と指導補助員1名の計2名が、またそれに加えて午後5時15分から午後9時15分までは学寮指導教員1名も寮内にいます。

休日の場合、午前8時30分から翌朝の8時30分までは当直教員1名と指導補助員1名の計2名がいます。体調の悪いときやトラブルがあったとき、そして悩み事などがあるときは、気軽に相談してください。

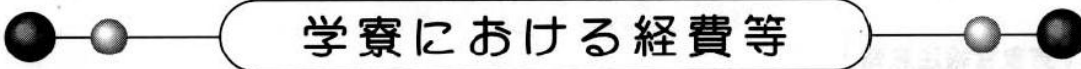
入寮選考

資料7-2-③-6つづき

交通の便の悪さ等も相まって、本校の寮には例年定員を60～80名上回る入寮希望者がいます。そのため年度末に女子と2年生以上に対して入寮選考を実施し、次年度の入寮者を決めています。選考の判断材料は、寮運営への貢献の度合い、通学距離、学校生活の状況など多くの観点から評価します。具体的には、指導寮生・副指導寮生として低学年寮生の指導をしてもらえるか、寮生会で寮の運営に貢献してくれるか、グリーンキーパー等の活動に参加して寮の環境改善に努力してくれるか、などです。個々の経済的な問題も考慮しています。一方では、喫煙・飲酒など寮や学校の規則を破ったとか、欠課時数が多いなどというマイナス面も考慮します。また、1、2年生は希望者を全員受け入れる全寮制であるため高学年になるほど寮に残るのが困難になります。

もし寮に残らなければならない事情があるなら、早くから種々の活動に参加してください。活動の場は出来る限り多く用意しようと思います。入寮選考に漏れてからではなく、漏れる前に寮に残りたいという姿勢が目に見える形で示してください。

以上いろいろと書きましたが、寮は520名の仲間が生活しています。みんなが快適に過ごすためには、多少の制約は仕方ありません。「他の人はどう感じるだろう?」というちょっとした気配りをし、また逆に困ることは「やめてください」とはっきり言ってください。そして5年間の寮生活で、たくさんの楽しい思い出を作ってくれることを望みます。



学寮における経費等

1. 学寮で寮生が生活するために必要な経費（給食費・光熱水費等）は、次のとおりです。

(1) 学寮経費 約26,000円（1ヶ月）（8月は不要）

各々の経費の納入については、毎月指定日に届出ている自動引落口座から引落します。

・給食費 約19,000円（業者との契約口座）

材料費665円×20日（1日3食 土・日・休日及びそれらの前日の夕食を除く）

諸経費6,100円

・学寮寮生負担金 8,000円（学校との契約口座）

材料費のみ日割り計算するため金額は当該月によって異なります。

(2) 土・日・休日に在寮する場合の給食について

土・日・休日とその前日の夕食の食券は、購買部で各自指定日に購入することになっています。（朝食135円、昼食255円、夕食275円）

土・日・休日をすべて在寮すれば、上記給食費の外に6,000円（1ヶ月）程度必要です。

(3) 寮生会費 720円（120円×6ヶ月）×2回（4、10月に学寮経費と共に自動引落）

(4) 寄宿料 月額700円、ただし、個室は800円（毎月自動引落）

2. 欠食給食材料費の返還について

授業日に連続3食以上欠食しようとするときは、欠食になる3授業日前の13時までに欠食願を寮務係に提出し、許可されれば給食材料費を年度末に業者との契約口座へ振替返還します。

<欠食許可例>

・就職試験、特別教育活動、学外実習、クラブ活動、病休、忌引、停学、その他

資料7-2-③-6 つづき

● 日 課 ●

規律ある生活は、日課を正しく守ることから始まり、日課を守ることによって気持ちよい一日が得られる。

| | | |
|----|-----------------|----------------------------------|
| 起床 | 7:20 | |
| 清掃 | 7:20～07:40 | |
| 点呼 | 7:40(女子は7:25) | (休日はなし) |
| 朝食 | 7:30～08:30 | (ただし、休日は7:30～9:30) |
| 登校 | 8:30 | |
| 昼食 | 12:00～13:00 | |
| 夕食 | 17:00～19:00 | |
| 入浴 | 17:30～21:30 | (ただし、12月1日から3月31日までは17:00～21:30) |
| 自習 | 19:30～21:30 | (ただし、休日の前日には特に設定しない) |
| 門限 | 22:00(女子は21:55) | |
| 点呼 | 22:15(女子は22:00) | |
| 消灯 | 23:00(室内灯) | |

(出典 平成24年度学寮のしおり 表紙, P. 1～3, 12, 6)

生活指導案内

資料7-2-③-7

<本日の行事>

生活指導(女子)

日程: 6月20日(月)

時間: 16:20から

場所: 階段教室

(出典 学生課資料)

平成24年度 和歌山高専柑紀寮 指導寮生・副指導寮生研修会

資料7-2-③-8

1. 目的

- ・指導寮生・副指導寮生が学寮での指導的立場を認識する。
- ・指導寮生・副指導寮生が一致団結して学寮運営に臨めるようにする。
- ・学寮生活上での問題点を挙げ、解決策について討論する。

2. 日程

4月13日(金曜日)

| | |
|--------|---|
| 16:20～ | 階段教室集合
指導寮生任命式 |
| 16:40～ | 委員長・先生挨拶 |
| 17:00～ | 寮食堂へ移動
夕食 |
| 18:30～ | 体育館へ移動
ディスカッション用班分け
<u>各テーマについてディスカッション(※1)</u> |
| 20:00 | 解散 |

4月14日(土曜日)

| | |
|--------|-----------------------------|
| 8:00～ | 寮食堂にて朝食 |
| 9:00～ | 先輩のお話 |
| 9:30～ | 階段教室集合
各テーマごとに5分～10分程度発表 |
| 11:00～ | 指導寮生副委員長・先生の評価 |
| 11:30～ | 写真撮影 |
| 12:00～ | 解散 |

※1 フロア単位でくじを引き、8グループに分ける。

号館長がリーダー(号館長のフロアはそのまま号館長のグループに入る)。

3. 研修内容

8つのグループに分かれて、各グループで話し合い、4月14日(土)に発表してもらう。発表方法は各号館長に任せるものとする。(例、模造紙・パワーポイント・劇・・・)

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

525名と多くの入寮者が在寮しており、寮生活の状況を詳しく説明した「学寮のしおり」を配布する等、寮生活の支援もできている。さらに指導寮生、副指導寮生の研修会の実施やボランティア活動の支援等、寮生の自主的活動も育んでいる。施設・設備面では補食室や洗濯場を設置し、またインターネットに接続できる電話回線と電話機、エアコンを各居室に備える等、快適な寮生活を支援している。

以上のことから、学生の生活及び勉学の間として有効に機能している。

観点7-2-④： 就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学生の進路指導のために、学生主事の下-5年生クラス担任、各専門学科主任を中心に構成された進路対策委員会を設置している(資料7-2-④-1)。年度末には、次年度に5年生となる学生の保護者に対して進路指導説明会を実施するとともに(資料7-2-④-2)、紀陽銀行の支援のもと企業合同説明会も同時に開催し、就職活動への理解を深めてもらっている。

学生に対しては、低学年からHR等を通して将来の進路の説明し、5年生に対してはクラス担任と学科主任、卒業研究指導教員が協力して進路指導を行っている。また進学希望者に対しては学内で各大学の説明会も適宜実施している。進路に関する資料は学生進路指導室に備えられるほか、WEBからも一覧を閲覧できる(資料7-2-④-3)。これら進路に関する事務作業は、学生課に専門の職員を配置して学生の便を図っている。これらの活動の結果、毎年、就職や進学希望者の全員が希望を叶えている。

資料7-2-④-1

和歌山工業高等専門学校進路対策委員会規則 (抜粋)

制 定 平成15年4月1日

最近改正 平成16年4月1日

(設置)

第1条 和歌山工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、和歌山工業高等専門学校進路対策委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の事項を審議する。

- 一 学生の求職調査に関する事。
- 二 学生の就職先の開拓に関する事。
- 三 学生の就職あっせん、就職指導に関する事。
- 四 学生の進学指導に関する事。
- 五 学生の受入れ大学等の調査に関する事。
- 六 その他学生の就職、進学に関する事。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 教務主事及び学生主事
- 二 専攻科長
- 三 5 学年学級担任
- 四 その他校長が必要と認めた者
(委員長)

資料 7-2-④-1 つづき

第 4 条 委員会に委員長を置き、学生主事をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、教務主事はその職務を代行する。

(以下略)

(出典 本校HP)

資料 7-2-④-2

平成 23 年 11 月 29 日

進路対策委員
各学科主任・専攻科長 各位
1～4 年学級担任・副専攻科長

進路対策委員長 福田 匡

進路指導説明会及び企業合同説明会の開催について

標記のことについて、下記のとおり説明会を開催しますので、学生への周知等よろしくお願いたします。

記

開催日 平成 23 年 12 月 10 日 (土)

進路指導説明会 (対象：本科 4 年生保護者)

| 日 程 | 事 項 | 場 所 |
|-------------|-------------------|------------------|
| 12:30～13:00 | 受付 | 本館正面入口 |
| 13:00～13:45 | 全体説明会 (専攻科を含む) | 100 番教室 |
| 13:45～16:45 | 各学科別説明会 (個人面談を含む) | |
| | 機械工学科 | 機械工学科棟 2F 多目的実験室 |
| | 電気情報工学科 | 100 番教室 |
| | 物質工学科 | 専攻科棟 2F 講義室 |
| | 環境都市工学科 | 階段教室 |

企業合同説明会 (対象：就職セミナーは本科 4 年生全員 (必須)、企業個別説明会は、本科 4 年生全員 (必須)、本科 1 年生～3 年生及び専攻科 1 年生の希望者、本科 4 年生保護者の希望者および高等学校 (紀央館、田辺工業、箕島) の希望者)

| 日 程 | 事 項 | 場 所 |
|-------------|--------------------|-------|
| 12:45～13:45 | 就職セミナー (本科 4 年生全員) | 階段教室 |
| 14:00～16:45 | 企業個別説明会 (学生・保護者) | 第一体育館 |

※ 14:00～16:45 まで、企業合同説明会を第 1 体育館で開催しますので、4 年生は全員参加させていただきます。3 年生以下及び専攻科 1 年生については、希望者を参加させていただきます。

以上

(出典 学生課資料)

資料 7-2-④-3

(出典 : <http://www1.wakayama-nct.ac.jp/sinro/>)

(校内専用)

(分析結果とその根拠理由)

学生主事の下に進路対策委員会を設置し、関係教員一丸となって進路指導にあたっている。進路指導に関連する資料を閲覧できる進路指導室のほかWEBからも情報を入手できるようにし、学生の便を図っている。これらの結果、毎年就職進学希望者のほぼ全員が希望を叶えて社会に出ている。以上のことから就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校では学生が学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されている。また学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能している。さらに学生のための自主的学習環境及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されている。学習支援に関する学生のニーズも適切に把握されている。学生に対する支援体制が整備され、資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制も整備され、機能している。

特別な学習支援が必要な者が在籍しており、そのための学習支援体制が整備され、機能している。また学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能している。さらに学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能している。また留学生、編入学生に対しては、生活面での支援が適切に行われている。キャンパス内には大規模な学生寮が整備されており、学生の生活及び勉学の場として有効に機能している。就職や進学などの進路指導を行う体制も整備され、機能している。

(改善を要する点)

社会人学生は現在本科、専攻科とも在籍していないが、今後該当者が出てきた時のために環境を整える努力が必要である。

(3) 基準7の自己評価の概要

学習を進める上でのガイダンスが整備されるとともに、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能している。またそのための自主的学習環境及び厚生施設、コミュニケーションスペース等、キャンパスが整備されて効果的に利用されている。さらに学生の学習支援に関するニーズも適切に把握され、資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能している。

学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制、および学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能している。また通学困難な学生のための大規模な学生寮も整備され、学生の生活及び勉学の場として有効に機能している。さらに就職や進学などの進路指導を行う体制も整備され、機能している。

基準8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点8-1-①： 学校において編成された教育研究組織の実現にふさわしい施設・設備が整備され、適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

本校の敷地面積は101,400㎡、建物延面積は29,917㎡であり、設置基準に定められている基準値を満足している。施設配置図を資料8-1-①-1に、それぞれの延面積を資料8-1-①-2示す。

平成19～21年度にかけて、懸案だった耐震改修、老朽改修、狭隘の解消を目的に本館（教室部分、電気情報工学科棟、物質工学科棟）改修を実施し、今年度も実習工場に改修が入る。

施設の利用規則については、毎年配布する「学生便覧」（資料8-1-①-3）で周知している。図書館および情報処理教育センターは、授業時間外の利用も認めている（資料8-1-①-4～5）。しかし、実習工場については、いまだ利用規則が定まっておらず、改修が完了するまでには整備する予定である。また、体育館や陸上競技場等も休日など授業の無い日には、地域住民に積極的に開放している。

教室は、本館2階3階を基本に配置し、上級生を環境都市工学科棟および普通教室棟に、専攻科は専攻科棟に配置している。（資料8-1-①-6）現在、全ての教室に液晶プロジェクタおよびスクリーンを設置、エアコンも完備している。

大講義室、階段教室、視聴覚教室は、第2外国語、知的財産権など複数のクラスにまたがり、多人数となる授業、音楽、講演会、卒業研究発表会などに利用される。（資料8-1-①-7）

安全管理については、安全衛生委員会を設置し（資料8-1-①-8）、月に1回、学内の施設点検を分担して行い（資料8-1-①-9）、お互いにより安全な環境を整備していくよう努めている。

バリアフリー対策、現在、車椅子の学生が在籍していることもあり、平成19年度～21年度にかけて、本館、図書館および福利センターを中心にエレベータやスロープの設置が行われている（資料8-1-①-10）。

環境面への配慮としては、校舎改修の際にエアコンをガスを利用するタイプに変更したり、太陽光発電パネルを本館屋上に設置するなど、CO₂排出削減に努めている。

校舎配置図

資料 8-1-①-1

| 建 物 | |
|-----|------------------------|
| 校 舎 | |
| 1 | 本館(一般科目・管理部) |
| 2 | 本館(物質工学科) |
| 3 | 本館(電気情報工学科) |
| 4 | 本館(機械工学科)
(知能機械工学科) |
| 5 | 環境都市工学科棟 |
| 6 | 地域共同テクノセンター |
| 7 | 普通教室棟 |
| 8 | 実習工場 |
| 9 | 情報処理教育センター |
| 10 | 水理実験室 |
| 11 | 門衛所 |
| 12 | バス車庫 |
| 13 | 事務倉庫1 |
| 14 | 事務倉庫2 |
| 15 | 用具倉庫 |
| 16 | 危険物貯蔵所 |
| 17 | 物質化学実験室 |
| 18 | 陸上器具庫 |
| 19 | 体育用具庫 |
| 20 | 車庫 |
| 21 | 廃水処理施設 |
| 22 | 専攻科棟 |
| 23 | 図書館 |



| 敷 地 | | 計101,400㎡ |
|-------|--|-----------|
| 校舎敷地 | | 44,566 |
| 寄宿舎敷地 | | 18,130 |
| 運動場敷地 | | 35,267 |
| その他敷地 | | 3,437 |

| 屋内運動場 | |
|-------|--------|
| 24 | 武道場 |
| 25 | 第1体育館 |
| 26 | 第2体育館 |
| 27 | 屋外便所1 |
| 28 | 屋外便所2 |
| 29 | 体育器具庫 |
| 30 | プール附属屋 |
| 31 | 弓道場 |

| 福利厚生施設 | |
|--------|---------------|
| 32 | 福利センター・国際交流会館 |
| 33 | 合宿施設 |
| 34 | 部室1 |
| 35 | 部室2 |

| 寄 宿 舎 | |
|-------|----------|
| 36 | 寄宿舎食堂・浴室 |
| 37 | 寄宿舎1号館 |
| 38 | 寄宿舎2号館 |
| 39 | 寄宿舎3号館 |
| 40 | 寄宿舎4号館 |
| 41 | 寄宿舎5号館 |
| 42 | 寄宿舎6号館 |
| 43 | 寄宿舎7号館 |
| 44 | 食品倉庫 |
| 45 | 寄宿舎ボイラー室 |
| 46 | 寄宿舎電気室 |

(出典 平成 23 年度学校要覧 P. 37)

延面積

資料 8-1-①-2

| 和歌山工業高等専門学校 | |
|-------------|------|
| 棟名称 | 延面積㎡ |
| 本館 | 8520 |
| 環境都市工学科棟 | 1944 |
| 地域共同テクノセンター | 853 |
| 普通教室棟 | 662 |
| 実習工場 | 755 |
| 情報処理センター | 300 |
| 水理実験室 | 160 |
| 門衛所 | 24 |
| バス車庫 | 49 |
| 事務倉庫1 | 49 |
| 事務倉庫2 | 32 |
| 用具倉庫 | 51 |
| 危険物貯蔵所 | 39 |
| 物質化学実験室 | 17 |
| 陸上器具庫 | 22 |
| 体育用具庫 | 30 |
| 車庫 | 105 |
| 廃水処理施設 | 177 |
| 専攻科棟 | 979 |

| 棟名称 | 延面積㎡ |
|--------|------|
| 図書館 | 1680 |
| 武道場 | 437 |
| 第1体育館 | 966 |
| 第2体育館 | 879 |
| 屋外便所1 | 8 |
| 屋外便所2 | 11 |
| 体育器具庫 | 49 |
| プール附属屋 | 87 |
| 弓道場 | 72 |

| 棟名称 | 延面積㎡ |
|--------|------|
| 福利センター | 806 |
| 合宿施設 | 198 |
| 部室1 | 126 |
| 部室2 | 85 |

| 棟名称 | 延面積㎡ |
|----------|------|
| 寄宿舎食堂・浴室 | 768 |
| 寄宿舎1号館 | 1460 |
| 寄宿舎2号館 | 1382 |
| 寄宿舎3号館 | 1560 |
| 寄宿舎4号館 | 1037 |
| 寄宿舎5号館 | 1037 |
| 寄宿舎6号館 | 1950 |
| 寄宿舎7号館 | 414 |
| 食品倉庫 | 20 |
| 寄宿舎ボイラー室 | 95 |
| 寄宿舎電気室 | 22 |

(出典：総務課資料)

学生便覧目次（抜粋）

資料 8-1-①-3

V. 各種施設に関する規則

- ・ 図書館利用規則…………… 65
- ・ 地域共同テクノセンター利用細則…………… 67
- ・ 情報処理教育センター利用の手引き…………… 68
- ・ 合宿施設使用規則…………… 69
- ・ 合宿施設使用心得…………… 69
- ・ 体育施設使用規則…………… 70
- ・ 体育準備室使用内規…………… 70
- ・ 水泳プール使用細則…………… 71
- ・ 水泳プール使用心得…………… 71

VI. 学寮に関する規則 (出典 平成 24 年度学生便覧目次)

資料 8-1-①-4

和歌山工業高等専門学校図書館利用規則（抜粋）

制 定 平成 5 年 4 月 1 日
最近改正 平成 23 年 4 月 1 日

(目的)

第 1 条 この規則は、和歌山工業高等専門学校図書館規則第 8 条の規定に基づき、和歌山工業高等専門学校図書館（以下「図書館」という。）の利用に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(利用者の資格)

第 2 条 図書館を利用することのできる者は、次のとおりとする。

- 一 本校の教職員及び学生
- 二 図書館の利用を申し出た一般の利用者（以下「一般利用者」という。）

(開館時間)

第 3 条 図書館の開館時間は、次のとおりとする。ただし、必要のある場合は、変更することがある。

- 一 平 日 9 時から 21 時まで
- 二 土曜日 10 時から 16 時まで

(休館日)

第 4 条 次の日は、休館日とする。ただし、必要がある場合は、変更することがある。

- 一 日曜日
- 二 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日
- 三 開校記念日
- 四 年末年始（12 月 28 日から翌年 1 月 4 日までの日）
- 五 その他図書館長が必要と認めた日

(出典 平成 24 年度学生便覧 P. 65)

資料 8-1-①-5

和歌山工業高等専門学校情報処理教育センター利用の手引き（抜粋）

制 定 平成 8 年 4 月 1 日
最近改訂 平成 18 年 4 月 1 日

5. センターの利用方法

(1) 利用時間

- ・ 第一演習室及び第二演習室
一般利用時間内はオープン利用できる。一般利用時間内とは、次の通りである。 月～金曜日：8 時 30 分から 17 時 00 分まで
(土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日及び年末年始は除く。)
- ・ 第三演習室
原則として授業時間内でのみ利用できる。ただし、授業時間外では、一般利用時間内に限り、情報センターに連絡し許可を得た指導教員が付き添う場合に、利用することができる。

(2) 一般利用時間外は、メディアセンター長の許可を得て利用できる。ただし、学生は指導教官を経て、学習による情報処理教育センター使用許可願（センター事務室内）を一般利用時間内の 15 時 30 分までに、センター事務室に提出しなければならない。

また、利用後は、利用報告書（センター事務室内）をセンター事務室に提出するものとする。

(出典 平成 24 年度学生便覧 P. 68)

資料 8 - 1 - ① - 6

2. 1 1 建物及び講義室等の配置



(出典 平成 24 年度学生便覧 P. 14)

特別教室利用状況 (抜粋)

資料 8 - 1 - ① - 7

| 曜日 | 記入例 | 収容人数 | 備品 | 8:55~10:25 | 10:35~12:05 | 12:05~12:55 | 12:55~14:25 | 14:35~16:05 | 16:05~17:00 | 17:00~18:00 | 18:00~19:00 | 19:00~ |
|------------|------------------|------|---------------|------------------------------|--------------------------------|-------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------|-------------|-------------|--------|
| | | | | 授業(環境と社会) 英語 | --- ※同左の意味 | | | | | 教務委員会 学生課 | | |
| 月
5月7日 | 視聴覚教室 | 84 | スクリーン
AV機器 | 8:55~10:25 | 10:35~12:05 | 12:05~12:55 | 12:55~14:25 | 14:35~16:05
環境工学(5D)
小西 | 16:05~17:00
補習
森岡 | | | |
| | 階段教室 | 180 | スクリーン
TV | | | | | | | | | |
| | 大講義室
(100番教室) | 180 | スクリーン
AV機器 | | | | | | | | | |
| 火
5月8日 | 視聴覚教室 | 84 | スクリーン
AV機器 | 8:55~10:25
知的財産権
後藤 | 10:35~12:05 | 12:05~12:55 | 12:55~14:25 | 14:35~16:05 | 16:05~17:00 | 17:00~18:00 | 18:00~19:00 | 19:00~ |
| | 階段教室 | 180 | スクリーン
TV | | | | | | | | | |
| | 大講義室
(100番教室) | 180 | スクリーン
AV機器 | | | | | | | | | |
| 水
5月9日 | 視聴覚教室 | 84 | スクリーン
AV機器 | 8:55~10:25
知的財産権
後藤 | 10:35~12:05 | 12:05~12:55 | 12:55~14:25
第2外国語B I
木吉 | 14:35~16:05 | 16:05~17:00 | 17:00~18:00 | 18:00~19:00 | 19:00~ |
| | 階段教室 | 180 | スクリーン
TV | | | | | | 生活指導(1年)
斎藤 | | 寮生会
学生課 | |
| | 大講義室
(100番教室) | 180 | スクリーン
AV機器 | | 音楽
高澤 | --- | --- | | | | | |
| | 図書館棟 | 12 | | | | | | | | | | |
| 木
5月10日 | 視聴覚教室 | 84 | スクリーン
AV機器 | 8:55~10:25
第2外国語B I
木吉 | 10:35~12:05
第2外国語C II
藤 | 12:05~12:55 | 12:55~14:25 | 14:35~16:05 | 16:05~17:00 | 17:00~18:00 | 18:00~19:00 | 19:00~ |
| | 階段教室 | 180 | スクリーン
TV | | 第2外国語C II
藤 | | | | | | | |
| | 大講義室
(100番教室) | 180 | スクリーン
AV機器 | | 音楽
高澤 | --- | --- | | | | | |
| 金
5月11日 | 視聴覚教室 | 84 | スクリーン
AV機器 | 8:55~10:25
英語A
木吉 | 10:35~12:05
環境と社会(1C)
市瀬 | 12:05~12:55 | 12:55~14:25 | 14:35~16:05 | 16:05~17:00 | 17:00~18:00 | 18:00~19:00 | 19:00~ |
| | 階段教室 | 180 | スクリーン
TV | | | | | | | | | |
| | 大講義室
(100番教室) | 180 | スクリーン
AV機器 | 英語A
森岡 | | | | | | | | |
| 月
5月14日 | 視聴覚教室 | 84 | スクリーン
AV機器 | 8:55~10:25 | 10:35~12:05 | 12:05~12:55 | 12:55~14:25 | 14:35~16:05 | 16:05~17:00 | 17:00~18:00 | 18:00~19:00 | 19:00~ |
| | 階段教室 | 180 | スクリーン
TV | | | | | | 補習
森岡 | | | |
| | 大講義室
(100番教室) | 180 | スクリーン
AV機器 | | | | | | | | | |
| 火
5月15日 | 視聴覚教室 | 84 | スクリーン
AV機器 | 8:55~10:25
知的財産権
後藤 | 10:35~12:05 | 12:05~12:55 | 12:55~14:25 | 14:35~16:05 | 16:05~17:00 | 17:00~18:00 | 18:00~19:00 | 19:00~ |
| | 階段教室 | 180 | スクリーン
TV | | | | | | 学生会・代議員会
佐野 | | | |
| | 大講義室
(100番教室) | 180 | スクリーン
AV機器 | | | | | | | | | |
| 水
5月16日 | 視聴覚教室 | 84 | スクリーン
AV機器 | 8:55~10:25 | 10:35~12:05 | 12:05~12:55 | 12:55~14:25 | 14:35~16:05 | 16:05~17:00 | 17:00~18:00 | 18:00~19:00 | 19:00~ |
| | 階段教室 | 180 | スクリーン
TV | | | | | | | | | |
| | 大講義室
(100番教室) | 180 | スクリーン
AV機器 | | | | | | | | | |
| 木
5月17日 | 視聴覚教室 | 84 | スクリーン
AV機器 | 8:55~10:25
第2外国語B I
木吉 | 10:35~12:05
第2外国語C II
藤 | 12:05~12:55 | 12:55~14:25 | 14:35~16:05 | 16:05~17:00 | 17:00~18:00 | 18:00~19:00 | 19:00~ |
| | 階段教室 | 180 | スクリーン
TV | | 第2外国語C II
藤 | | | | 生活指導(2年男子)
李 | | | |
| | 大講義室
(100番教室) | 180 | スクリーン
AV機器 | | 音楽
高澤 | --- | --- | | | | | |
| 金
5月18日 | 視聴覚教室 | 84 | スクリーン
AV機器 | 8:55~10:25
英語A
木吉 | 10:35~12:05 | 12:05~12:55 | 12:55~14:25 | 14:35~16:05 | 16:05~17:00 | 17:00~18:00 | 18:00~19:00 | 19:00~ |
| | 階段教室 | 180 | スクリーン
TV | | | | | | | | | |
| | 大講義室
(100番教室) | 180 | スクリーン
AV機器 | 総務企画課 | | | | | | | | |

(出典 学生課資料)

和歌山工業高等専門学校安全衛生管理規則(抜粋)

資料 8 - 1 - ① - 8

制 定 平成 16 年 4 月 1 日

最近改正 平成 18 年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 和歌山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教職員の安全及び衛生管理に関しては、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員安全衛生管理規則（以下「安全衛生管理規則」という。）及びその他の法令に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(総括)

第 2 条 校長は、教職員の安全及び衛生管理の業務を総括する。

2 副校長は、教職員の安全及び衛生管理の業務に関し、校長を補佐する。

(衛生管理者及び安全管理者等の指名)

第 3 条 校長は、安全衛生管理規則に規定する衛生管理者、安全管理者、衛生管理担当者、安全管理担当者及び作業主任者を別表に掲げる区分によりそれぞれ指名するものとする。ただし、指名された者に事故等がある場合は、校長が別に指名する。

2 前項の指名及び解除は、別記様式第 1 号により行うものとする。

(安全衛生委員会の設置)

第 4 条 本校に安全衛生管理規則第 13 条に規定する安全衛生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第 5 条 委員会は、本校における教職員の安全衛生に関し、次の各号に掲げる事項を調査審議する。

- 一 教職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること。
- 二 教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること。
- 三 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に係るものに関すること。
- 四 前 3 号に掲げるもののほか、教職員の健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項

2 委員会は、次の各号に掲げる事項を調査審議することができる。

- 一 教職員の危険を防止するための基本となるべき対策に関すること。
- 二 労働災害の原因及び再発防止対策で、安全に係るものに関すること。
- 三 前 2 号に掲げるもののほか、教職員の危険の防止に関する重要事項

3 委員会は、前 2 項に掲げるもののほか、校長が必要と認める事項について調査審議することができる。

(組織)

第 6 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもつて組織する。

- 一 副校長
- 二 校長が指名した衛生管理者

三 校長が指名した安全管理者

資料 8-1-①-8 つづき

四 校長が指名した産業医

五 安全・衛生に関し経験を有する教職員のうちから校長が指名した者

六 総務課長

2 前項第 2 号から第 6 号までの委員の半数については、労働者の過半数を代表する者の推薦に基づき校長が指名する。

(委員の任期)

第 7 条 前条第 2 号、第 4 号及び第 5 号の委員の任期は、1 年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 8 条 委員会に委員長を置き、副校長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名する委員が職務を代行する。

(会議)

第 9 条 委員会は、毎月 1 回開催するものとする。ただし、必要がある場合は臨時に開催することができる。

2 委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立する。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第 10 条 委員長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め意見を聴取することができる。

(事務)

第 11 条 委員会に関する事務は、総務課人事係において行う。

(就業禁止交付書)

第 12 条 安全衛生管理規則第 24 条第 2 項に規定する文書の交付は、別記様式第 2 号により行うものとする。

(雑則)

第 13 条 この規則に定めるもののほか、衛生管理及び安全管理に関し必要な事項は、校長が別に定める。

(以下略)

(出典 本校HP)

平成24年度第1回安全衛生委員会議事概要(抜粋)

資料8-1-①-9

日 時 平成24年4月18日(水) 16:15～16:45

出席者 大久保(委員長)、桑原(衛生管理者)、徳永(安全管理者)、西本(産業医)、
椿野(総務課長)、奥野(委員)、山田(委員)、岡本(委員)

欠席者 小川(委員)

陪席者 黒田(総務課課長補佐(施設担当))、城台(人事係長)

議題に入る前に、委員長が司会進行することとした。

(議題)

1. 学科等によるパトロール実施結果について

学科等によるパトロールでの安全衛生管理チェックシートの結果について、報告がなされた。各パトロール場所において、書架・棚等の転倒防止についての指摘事項が多いが、これについては一昨年度より計画的に改善を進めており、今年度も継続する事、及び、電気室(H-106)については関西電気保安協会の保守時に点検する旨、黒田課長補佐に依頼した。8月からは工事の為、実習工場が管理外となる旨、黒田課長補佐より報告があった。

2. 学科等によるパトロール巡回場所の変更について

毎月実施している学科等によるパトロールは、半年ごと(毎年5月および11月)に巡回場所を変更することとなっているため、5月からの新たな巡回場所を決定し、各学科主任・課長等に連絡することとした。

3. 平成24年度の実施業務等について

安全衛生委員会において、平成23年度に行われた下記事項を、24年度においても引き続き実施することとした。

・毎月1回の学科等によるパトロールの遂行

安全衛生委員会にて状況を把握し、改善策を検討・指示。

・衛生管理者および各種安全管理に関する資格取得の奨励

資格取得に向けた費用等を負担。資格取得者の増大を図る。

各学科等においての衛生管理者配置を、昨年度目標の最低1名以上から、2名以上に変更することとした。

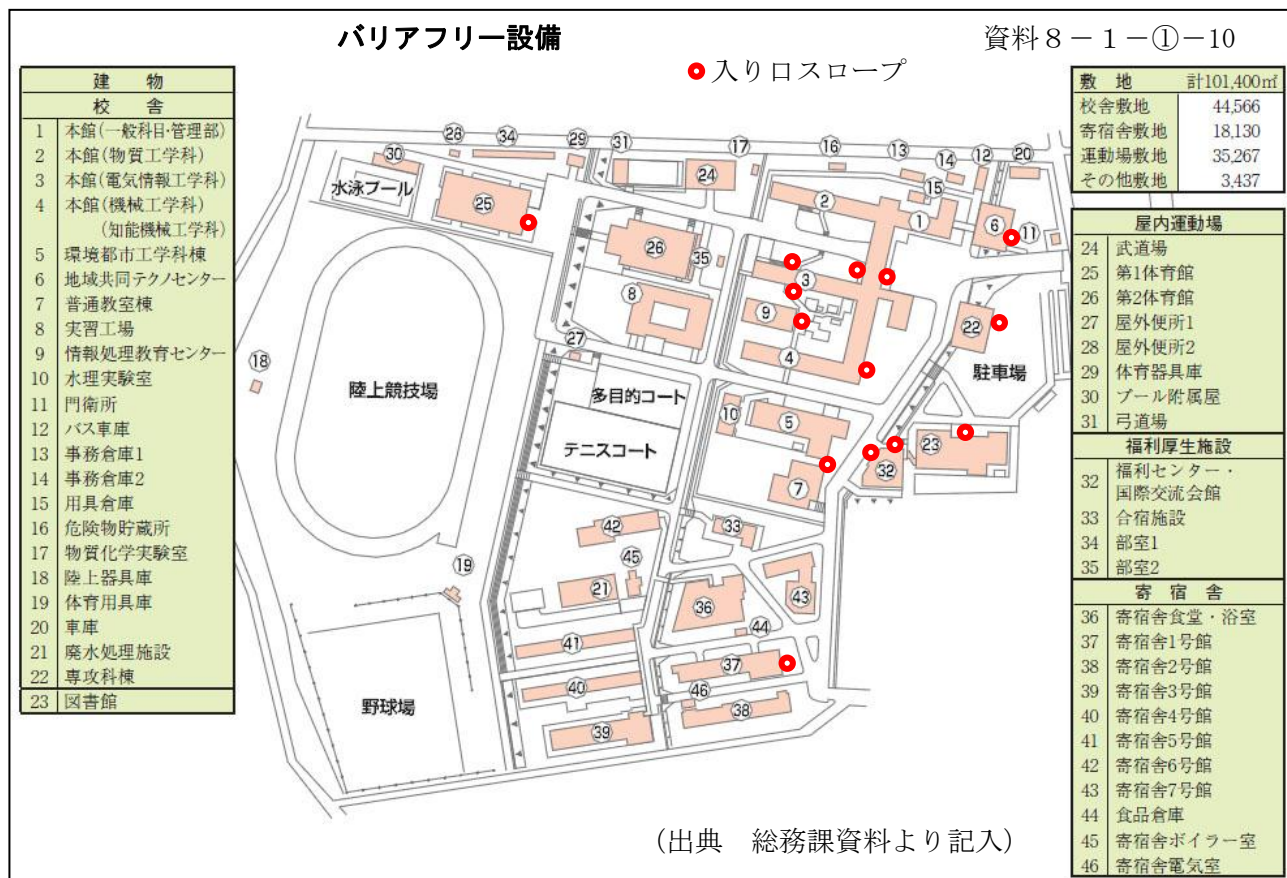
・普通救急救命講習(AED講習含む)の開催

開催時期は9月期末試験時の午後を予定。

・教職員対象のメンタルヘルス講演会の開催

開催時期は秋～冬頃を予定。

(出典 総務課資料)



(分析結果とその根拠理由)

本校は設置基準に合致した校地面積を有し、設置基準に定められている運動場等の各施設を完備している。それらの施設は地域に広く開放されている。また、校舎の耐震補強や狭隘教室の解消、エアコン、プロジェクタの整備が行われている。更に、各施設のバリアフリー化も十分に進められている。

以上のことから、実習工場の利用規則が整備されていない面を除いて、おおむね各施設が適切な安全管理の下に有効に活用されている。

観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす ICT 環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

本校では、情報処理教育センターを設置し、ICTを用いた教育を進めている。情報処理教育センターは、情報処理教育センター棟に第1演習室(パソコン49台)と第2演習室(パソコン11台)、図書館棟に第3演習室(パソコン49台)を有している。(資料 8-1-②-1) 第1演習室と第3演習室は授業での使用を優先し、第2演習室は授業に関係なく自由に使用できる。さらに、専攻科棟のマルチメディア室にパソコン31台を設置し、専攻科生の授業および自学自習用に活用している。各演習室の授業での利用状況を資料 8-1-②-2 に、授業時間外での利用者数を資料 8-1-②-3 に示す。情報処理教育センターの管理運営は、情報処理教育センター委員会が行っている(資料 8-1-②-4)。

校内ネットワークの構成を資料 8-1-②-5 に示す。事務用、教員用、学生用は VLAN で分離しており、学生用から事務用にはアクセスできないように設定している。平成 23 年度に情報セキュリティ管理規定が制定され (資料 8-1-②-6), 技術管理業務は情報セキュリティ推進委員会が行う。現在, 情報処理教育センター委員会が情報セキュリティ推進委員会を兼務している (資料 8-1-②-7)。

教職員への情報処理関係の講習会としては, 平成 23 年度に情報セキュリティ講演会を実施するなど (資料 8-1-②-8), セキュリティの啓蒙に努めている。

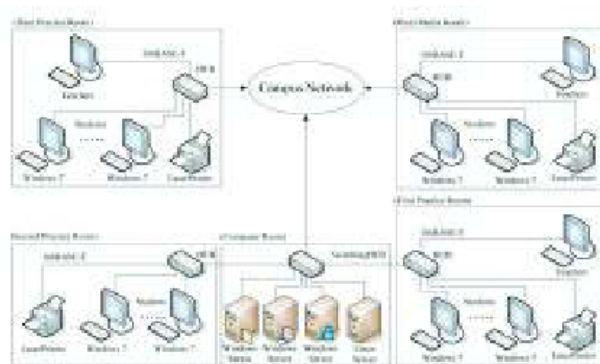
情報処理教育センター

資料 8-1-②-1

情報処理教育センターは、教育用パーソナルコンピュータ 140 台と、教育用サーバー 4 台、高速並列計算機システムを設置し、本校の教育・研究・地域連携を情報という側面から支えています。

教育用パソコンは、ゲスト OS として VirtualBOX 上で WindowsXP、Ubuntu (Linux) 環境が構築されており、コンピュータ利用の基礎、IT 応用ソフトの利用、および各種言語によるプログラミングの学習に活用されます。高速並列計算機システムは、高度な解析が要求される卒業研究・特別研究・教員研究に使用されます。

また、高速ギガビットネットワーク (LAN) により、センター演習室や各学科研究室から学外へ高速回線でアクセスできます。



情報処理教育センター

電子計算機室 1

演習室 3 (教育用 PC …… 第 1 演習室 49 台 第 2 演習室 11 台 第 3 演習室 49 台)

専攻科棟マルチメディア教室 1 (教育用 PC …… 31 台)

高速ギガビットネットワーク (LAN) 機器

センター利用時間 平日 午前 8 時 30 分 ~ 午後 5 時

(出典 平成 23 年度学校要覧 P. 26)



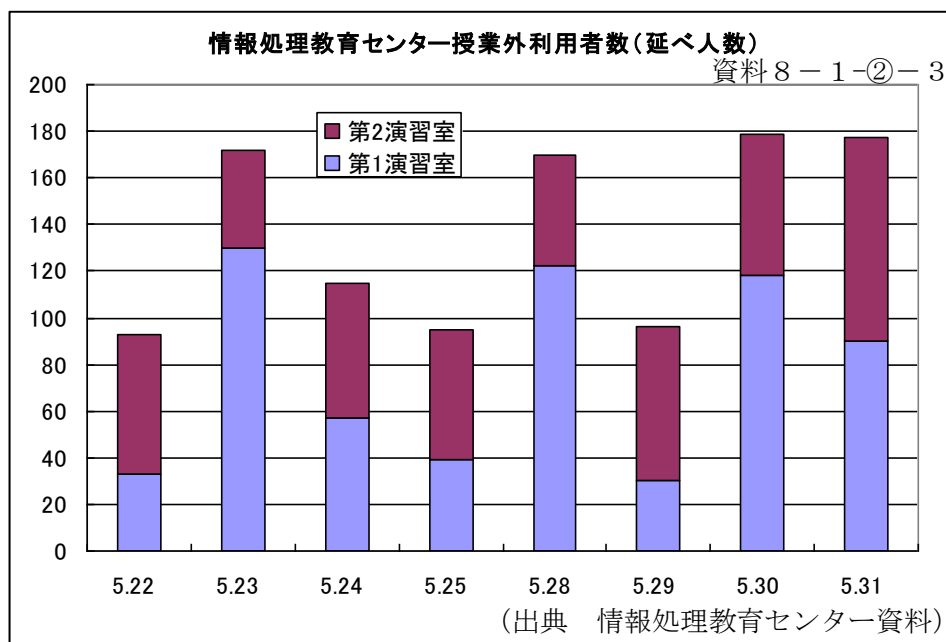
平成 24 年度前期時間割 (抜粋)

資料 8-1-②-2

| | 月 | | | | 火 | | | | 水 | | | | | | | | | | | | | |
|---------|----|----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|----|----|-----|-----|----|----|----|----|----|--|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | | | | | | | |
| 大講義 | | | | | | | | | | | 1D | 1D | 1B | 1B | | | | | | | | |
| 第 1 演習室 | 4A | 4A | | 5B | 5B | 3D | 3D | 3D | 3D | 3A | 3A | 3A | | | | | | | | | | |
| 第 3 演習室 | 2C | 2C | | 2D | 2D | 4D | 4D | | 1C | 1C | | 3B | 3B | 2B | 2B | 5C | 5C | 1A | 1A | 4B | 4B | |
| MM | | | ME1 | ME1 | E2 | E2 | M2 | M2 | E2 | E2 | M12 | M12 | | | ME2 | ME2 | | | | | | |
| 製図 | | | | | | | 3D | 3D | 3D | 3D | | | | | 1D | 1D | 4D | 4D | | | | |
| 化学実験 | | | | 2C | 2C | 2C | | | | | 2A | | | | 2D | 2D | 2B | 2B | 1C | 1C | | |

| | 木 | | | | 金 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--|--|--|--|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 1C | 1C | 1A | 1A | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 3B | 3B | | 3A | 3A | 4A | 4A | 4B | 4B | 4B | | 4B | 4B | 5A | 5A | | | | | | |
| | | 5B | 5B | 3D | 3D | | | | 2D | 2D | 1B | 1B | 1D | 1D | 2A | 2A | 4D | 4D | | | | |
| | | M2 | M2 | ME1 | ME1 | ME1 | ME1 | ME1 | ME1 | | | | | | 2D | 2D | 2D | | | | | |
| | | | 1D | 1D | | | | | | | | | | | 1A | 1A | 1B | 1B | | | | |

(出典 学生課資料)



和歌山工業高等専門学校情報処理教育センター管理運営規則

資料 8-1-②-4

制 定 昭和 59 年 4 月 1 日

最近改正 平成 19 年 3 月 20 日

(目的)

第 1 条 この規則は、和歌山工業高等専門学校情報処理教育センター（以下「情報処理教育センター」という。）の円滑な管理運営を図ることを目的とする。

2 和歌山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の情報処理教育センターの管理運営に関しては、他に定めのあるもののほか、この規則の定めるところによる。

(業務)

第 2 条 情報処理教育センターは、本校の情報処理教育を推進するため、次に掲げる業務を行う。

- 一 情報処理教育についての検討
- 二 情報処理教育センターの管理運営、計算業務及び共同利用大型計算機センターとの連絡業務
- 三 プログラム相談
- 四 情報処理についての啓蒙
- 五 その他情報処理教育センター委員会において必要と認めたこと。

(情報処理教育センター長及び情報処理教育副センター長)

第 3 条 情報処理教育センターに情報処理教育センター長（以下「センター長」という。）を置く。

2 情報処理教育センターに情報処理教育副センター長（以下「副センター長」という。）を置くことができる。

3 センター長及び副センター長は、本校教員のうちから校長が任命する。

4 センター長は、情報処理教育センターの業務を掌理する。

5 副センター長は、センター長を補佐する。

6 センター長の任期は 2 年、副センター長の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、センター長及び副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

資料 8-1-②-4 つづき

(委員会)

第 4 条 本校に情報処理教育センターの管理運営に関する事項を審議するため、情報処理教育センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は次に掲げる者をもって構成し、センター長が議長となる。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 各科から選出され、校長が命ずる者 各 1 名
- 四 情報処理教育センター配置技術専門職員

3 前項第 3 号の委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第 5 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 情報処理教育センターの管理運営の基本方針に関すること。
- 二 情報処理教育センターの運用に関すること。
- 三 情報処理教育センターの業務計画に関すること。
- 四 情報処理教育センターの維持経費に関すること。
- 五 その他必要と認められる事項

(専門員)

第 6 条 情報処理教育センターの業務遂行のため、センター長は、必要に応じて専門員を委嘱することができる。

(事務)

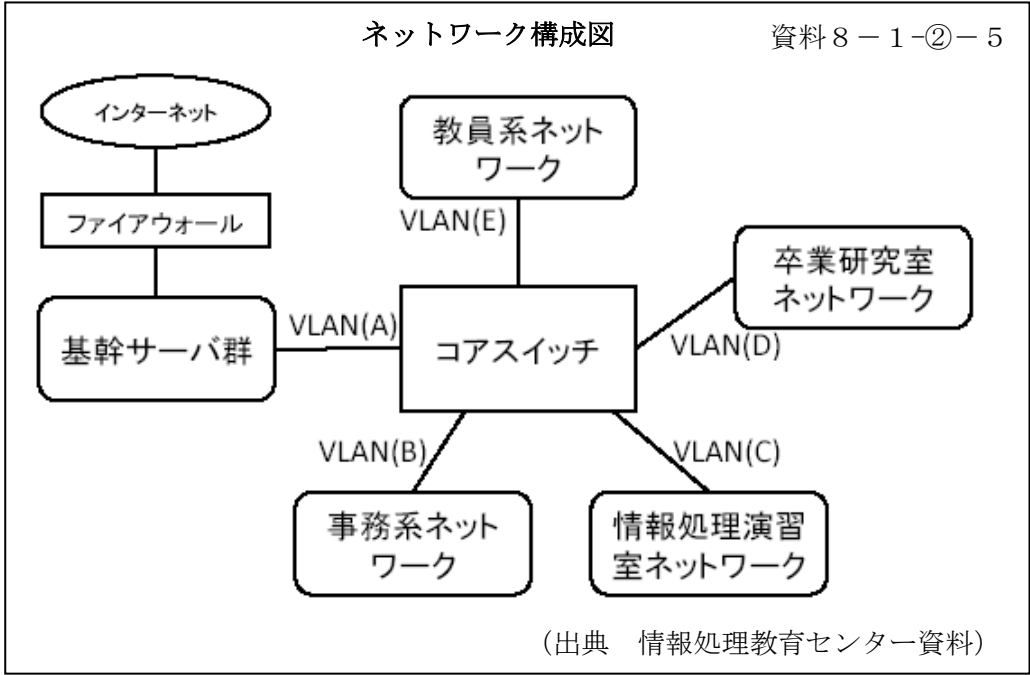
第 7 条 委員会及び情報処理教育センターの事務は、学生課が行う。

(その他)

第 8 条 情報処理教育センターの利用その他必要な事項は、別に定める。

(出典：本校HP)

附 則 (省略)



和歌山工業高等専門学校情報セキュリティ管理規則(抜粋)

制定 平成23年7月13日

資料8-1-②-6

目次

- 第1章 総則 (第1条-第7条)
- 第2章 情報システムの利用 (第8条-第12条)
- 第3章 情報の取扱い (第13条-第16条)
- 第4章 物理的及び環境的セキュリティ対策 (第17条-第23条)
- 第5章 教育 (第24条・第25条)
- 第6章 情報セキュリティインシデント対応及び非常時行動計画 (第26条-第30条)
- 第7章 調達, ソフトウェア開発及び外部委託 (第31条-第42条)
- 第8章 違反と例外措置 (第43条・第44条)
- 第9章 評価, 見直し及び監査協力 (第45条-第50条)
- 第10章 その他 (第51条-第53条)

第1章 総則

(目的)

- 第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構和歌山工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ対策に関する全般的事項および管理的事項を定めることにより、情報セキュリティの維持向上に資することを目的とする。
- 2 情報セキュリティ対策に関する専門的及び技術的な事項については、別に定める情報セキュリティ推進規則による。 (出典 本校HP)

校務分掌 (抜粋)

資料8-1-②-7

| | | | | | |
|-----------------|---------|---------|--|---|-------|
| メディアセンター
委員会 | 森川センター長 | 吉田 (図書) | 図書委員会 | 機械新任, 直井, 綱島, 久保井, 平岡, 図書係長 | 図書係 |
| | | 青山 (情報) | 情報処理教育センター委員会
(情報セキュリティ推進
委員会兼務) | 青山, 津田, 森, 村田, 岩本, 小池, 右代谷, 眞田,
寺西信, 学生課代表 (窪田), 情報担当事務 (吉野) | 総務企画係 |

(出典 総務課資料)

平成23年度情報セキュリティ講演会



主催：和歌山工業高等専門学校

あなたのパソコン 大丈夫？

テーマ

「情報セキュリティをとりまく情勢と、
身近な危険」

パソコンのウイルス被害やネット詐欺など
身近に潜むトラブルを知りましょう

【開催日時】 平成24年2月27日（月） 午後2時～4時
（入場無料）

【開催場所】 和歌山工業高等専門学校 階段教室
（御坊市名田町野島77）

【講演者】 伊貝 耕 参事官補佐
（内閣官房情報セキュリティセンター）

（申込み・問合せ）

申込み用紙に記入し、FAXまたはEメールでお申し込み下さい。

TEL:0738-29-8212 FAX:0738-29-8216

E-mail: s-soumu@wakayama-nct.ac.jp

和歌山工業高等専門学校 総務課

(分析結果とその根拠理由)

情報処理教育センターを中心に3つの演習室を有し、授業だけでなく学生の自学自習にも活用されている。また、学生用、事務用など校内ネットワークをVLANで分離してセキュリティにも配慮し、セキュリティに関する講習会も実施している。

以上のことから、ICT環境は十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効活用されている。

観点8-2-①： 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

図書館には平成24年4月1日現在、蔵書88,247冊(和書76,427冊、洋書11,820冊)、雑誌・論文誌448種(和雑誌212種、洋雑誌236種)、視聴覚教材780タイトルを揃えており(資料8-2-①-1)、それらは分野毎に整理され、書架に整然と並べている。蔵書は本校ホームページからも自由に検索でき、学生の学習、教職員の教育研究活動に広く利用されている。また平成14年度からコンソーシアム図書館に加盟し、和歌山大学等の教育機関や各自自体の図書館等、加盟図書館の蔵書の検索も可能になっている(資料8-2-①-2)。平日は昼間だけでなく時間外も開館し、利用者の便を図っている(資料8-1-①-4参照)。さらに平成12年度からは図書館を広く地域に開放し、学外の利用者の便を図っている。資料8-2-①-3に図書館の利用実績を示す。

| 図書館蔵書数等 | | 資料8-2-①-1 | |
|-------------------|--------|-----------|--------|
| 蔵 書 (平成24年4月1日現在) | | | |
| 分 類 | 和書(冊) | 洋書(冊) | 計(冊) |
| 0 総 記 | 3,796 | 236 | 4,032 |
| 1 哲 学 | 3,030 | 883 | 3,913 |
| 2 歴 史 | 7,269 | 227 | 7,496 |
| 3 社会科学 | 7,265 | 213 | 7,478 |
| 4 自然科学 | 15,146 | 4,283 | 19,429 |
| 5 技 術 | 19,475 | 2,474 | 21,949 |
| 6 産 業 | 1,597 | 20 | 1,617 |
| 7 芸 術 | 3,323 | 118 | 3,441 |
| 8 言 語 | 3,772 | 1,816 | 5,588 |
| 9 文 学 | 11,754 | 1,550 | 13,304 |
| 計 | 76,427 | 11,820 | 88,247 |

| 分 類 | 和 書 (種) | 洋 書 (種) | 計 (種) |
|-----|---------|---------|-------|
| 雑 誌 | 212 | 236 | 448 |

(出典 本校HP)

図書館
MENU

図書館概要

一般公開

開館カレンダー

蔵書検索システム

本校図書館の
蔵書検索が出来ます

和歌山地域
コンソーシアム
図書館

和歌山県内の図書館
にある、蔵書情報と
図書の貸出・配送
サービスを提供

◀ back to index

資料の検索

資料 8-2-①-2

- * 館内では、端末コンピュータ(タッチパネル式)で所蔵検索ができます。
 - * 館外からは、インターネット上で本校ホームページ(<http://www.wakayama-nct.ac.jp>)にアクセスすることにより、いつでもどこからでも所蔵検索ができます。
 - * 和歌山県下の図書館で組織する「和歌山地域コンソーシアム図書館」の蔵書検索システムのホームページ(<http://www.lib.wakayama-u.ac.jp/renkei/con.html>)からも所蔵検索ができます。
- 「和歌山地域コンソーシアム図書館」は、県下の図書館が所蔵する蔵書の情報を提供し、県下全域に貸出・配送するサービスです。(本校ホームページからもアクセスできます。)

(出典 図書館利用案内)

入館者数

図書館利用実績

資料 8-2-①-3

| | 平成 19 年度 | 平成 20 年度 | 平成 21 年度 | 平成 22 年度 | 平成 23 年度 |
|----------------------|-------------------|-------------------|-------------------|---------------------|-------------------|
| 昼 間
(8:30~17:00) | 18,100 人
(601) | 16,906 人
(674) | 13,656 人
(454) | 14,943 人
(1,061) | 14,705 人
(540) |
| 夜 間
(17:00~21:00) | 3,959 人
(325) | 4,782 人
(236) | 4,406 人
(189) | 4,287 人
(148) | 4,679 人
(96) |
| 合 計 | 22,059 人
(926) | 21,688 人
(910) | 18,062 人
(643) | 19,230 人
(1,209) | 19,384 人
(636) |

* ()は、一般利用者(内数)

* 定期試験期間中の夜間開館は、17:00~22:00

貸出冊数

| 分類(NDC) | 平成 19 年度 | 平成 20 年度 | 平成 21 年度 | 平成 22 年度 | 平成 23 年度 |
|---------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 0 総 記 | 180 冊 | 141 冊 | 85 冊 | 81 冊 | 103 冊 |
| 1 哲 学 | 136 | 81 | 92 | 69 | 75 |
| 2 歴 史 | 126 | 148 | 117 | 168 | 128 |
| 3 社会科学 | 267 | 221 | 196 | 215 | 233 |
| 4 自然科学 | 1,144 | 940 | 713 | 1,071 | 1,068 |
| 5 技 術 | 1,164 | 897 | 736 | 888 | 677 |
| 6 産 業 | 40 | 37 | 29 | 35 | 22 |
| 7 芸 術 | 706 | 736 | 455 | 722 | 736 |
| 8 言 語 | 279 | 318 | 229 | 324 | 739 |
| 9 文 学 | 1,486 | 1,119 | 892 | 1,408 | 1,500 |
| 図書合計 | 5,528 | 4,638 | 3,544 | 4,981 | 5,281 |
| 雑 誌 | 482 | 458 | 303 | 283 | 299 |
| 合 計 | 6,010 | 5,096 | 3,847 | 5,264 | 5,580 |

一般開放に伴う学外利用者入館者数

資料8-2-①-3つづき

平成21年度

| 利用時間 | 平日 | 土曜日 | 合計 |
|---------|------|-----|------|
| 9時～17時 | 402人 | | 402人 |
| 17時～21時 | 189人 | | 189人 |
| 10時～16時 | | 52人 | 52人 |
| 合計 | 591人 | 52人 | 643人 |

平成22年度

| 利用時間 | 平日 | 土曜日 | 合計 |
|---------|--------|------|--------|
| 9時～17時 | 913人 | | 913人 |
| 17時～21時 | 148人 | | 148人 |
| 10時～16時 | | 148人 | 148人 |
| 合計 | 1,061人 | 148人 | 1,209人 |

平成23年度

| 利用時間 | 平日 | 土曜日 | 合計 |
|---------|------|------|------|
| 9時～17時 | 420人 | | 420人 |
| 17時～21時 | 96人 | | 96人 |
| 10時～16時 | | 120人 | 120人 |
| 合計 | 516人 | 120人 | 636人 |

(出典 平成23年度年報(原稿))

(分析結果とその根拠理由)

多くの蔵書、雑誌・論文誌、視聴覚教材を揃え、分野毎に整理されている。蔵書の検索はホームページから可能で、コンソーシアム図書館に加盟している図書館の蔵書検索もできる。また放課後も開館し利用者の便を図っている。さらに地域にも開放している。

これらのことから、教育研究上必要な資料が系統的に収集・整理され、有効に活用されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

図書館は休日や夜間にまで開館し利用者の便宜を図っている。また早くから地域に開放されており、学外の利用者も多い。

(改善を要する点)

実習工場の利用規則を整備する必要がある。

(3) 基準8の自己評価の概要

設置基準に定められている施設・設備が整備されている。また各施設は地域にも広く開放されている。

図書館は十分な書籍等を有しているうえ、平日も夜間も開館して、学生の学習、教職員の教育研究活動だけでなく地域の人たちにも広く利用されている。

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①: 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点到係る状況)

期間を通じての授業計画や評価方法等はシラバスに記載されている。シラバス通りに授業が行われたかどうかについては平成17年から毎年定期試験前に、「授業進捗報告書」(資料 9-1-①-1)を教務係に提出している。また授業改善の成果の確認や今後の改善点の検討資料として利用できるように、答案やレポートなどの資料を、全学年について平成17年度分から保存している。

(分析結果とその根拠理由)

授業の概要が記載されたシラバスが公表され、シラバス通りに授業が行われたかをチェックするシステムが存在し、機能している。また教員と保護者による授業参観も実施し、授業改善と開かれた授業を実現させている。さらに授業改善の成果の確認や今後の改善点の検討資料として利用できるように、答案やレポートなどの資料を保存している。よって評価を適切に実施できる体制が整備されている。

資料 9-1-①-1

授業進捗報告書例

| | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| 学級担任 | 教務委員 | 教務主事 |
| Web閲覧可
により省略 | Web閲覧可
により省略 | Web閲覧可
により省略 |

授業進捗報告書

学科(専攻) 機械 電気情報(電気) 物質 環境都市
一般科目 メカトロニクス エコシステム
提出 24年 2月22日
氏名 XXXXXXXXXX

第 24 週～第 30 週の進捗状況を下記の通り報告します。

| クラス | 3 B | 科目名 | アルゴリズムとデータ構造 |
|-----|-------|--------------------|---------------------------------------|
| 週 | 月日 | シラバス(予定) | 実績 |
| 24 | 12/13 | スタックの基本・配列でスタックの実現 | スタックの基本・配列でスタックの実現(小テスト) |
| 25 | 12/20 | 連結リストによるスタックの操作 | 連結リストによるスタックの操作(小テスト) |
| 26 | 1/10 | スタックの演習 | スタックの演習 |
| 27 | 1/24 | キュー・配列によるキューの実現 | キュー・配列によるキューの実現 |
| 28 | 1/31 | リングバッファによるキューの実現 | リングバッファによるキューの実現
演習(配列キュー・リングバッファ) |
| 29 | 2/7 | 連結リストによるキューの操作 | 連結リストによるキューの操作
演習 |
| 30 | 2/14 | キューの演習 | 後期分(データ構造)全体の復習 |
| 備考 | | | |

注: 中間試験までの8週分を記入の上、クラス担任に提出してください。
クラス担任の方は内容をチェックの上、各科(1年生は一般科目)教務委員に回してください。
教務委員の方は当該学科(一般科目は1年生)の提出状況をチェックの上、教務主事までお願いします。

(出典 学生課資料)

観点 9-1-②: 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が、学校として策定した基準に基づいて、適切に行われているか。

(観点到係る状況)

毎年授業毎に学生へのアンケート(資料 9-1-②-1)を実施し、授業への要望等を聞き、その内容を科目担当者に伝えてコメントを依頼している。アンケートの結果と担当教員のコメントはホームページ上に公表して、授業改善に用いている(資料 9-1-②-2)。授業等に対して出された意見は関係者に通知し、授業改善に役立っている。また隔年で各学科の半数に当たる教員の授業の様子

授業アンケート用紙

授業アンケート設問

【設問欄】

あなたの授業に対する取り組みについて

1. 出席状況はどうでしたか。
2. 科目に興味を持ってのぞみましたか。
3. 先生に質問しましたか。
4. 予習をしていますか。
5. 復習をしていますか。
6. ノートを取っていますか。

授業の様子について

7. 成績評価や授業の進め方について説明がありましたか。
8. 授業内容はよく準備されていると思えますか。
9. 説明は分かりやすいですか。
10. 授業中、教員の声や言葉は明瞭で聞き取りやすいですか。
11. 黒板の字は見やすいですか。
12. 授業の理解を深めるような演習、小テスト、宿題は行われていますか。
13. 教員の授業に対する熱意を感じますか。
14. 授業の進み具合は適当ですか。

成績について

15. 試験の内容はどうでしたか。
16. 成績評価は適切ですか。

授業全般について

17. 授業の結果、内容が理解できましたか。
18. 授業の結果、内容に興味が持てましたか。
19. この教科の目的や意義を理解できましたか。
20. この授業を総合評価するとあなたはどれくらいに評価しますか。

【回答欄】該当する番号に○をしてください。

1. 5.....4.....3.....2.....1
90%以上 90~80 80~70 70~60 60%以下
2. 5.....4.....3.....2.....1
興味あり 興味なし
3. 5.....4.....3.....2.....1
よく質問した ときどきした 全くしなかった
4. 5.....4.....3.....2.....1
いつもしている ときどきしている したことがない
5. 5.....4.....3.....2.....1
いつもしている ときどきしている したことがない
6. 5.....4.....3.....2.....1
いつもとっている ときどきとっている とったことがない
7. 5.....4.....3.....2.....1
説明があった 説明がなかった
8. 5.....4.....3.....2.....1
よく準備されている 全く準備されていない
9. 5.....4.....3.....2.....1
とても分かりやすい とても分かり難い
10. 5.....4.....3.....2.....1
とても聞き取りやすい とても聞き取りにくい
11. 5.....4.....3.....2.....1
とても見やすい とても見にくい
12. 5.....4.....3.....2.....1
十分行われている 全く行われていない
13. 5.....4.....3.....2.....1
とても感じる 全く感じない
14. 5.....4.....3.....2.....1
早い 適当 遅い
15. 5.....4.....3.....2.....1
難しすぎる 適当 易しすぎる
16. 5.....4.....3.....2.....1
厳しい 適切 甘い
17. 5.....4.....3.....2.....1
十分理解できた 全く理解できなかった
18. 5.....4.....3.....2.....1
とても持てる 全く持てない
19. 5.....4.....3.....2.....1
とても理解できた 全く理解できない
20. 5.....4.....3.....2.....1
高く評価する 全く評価しない

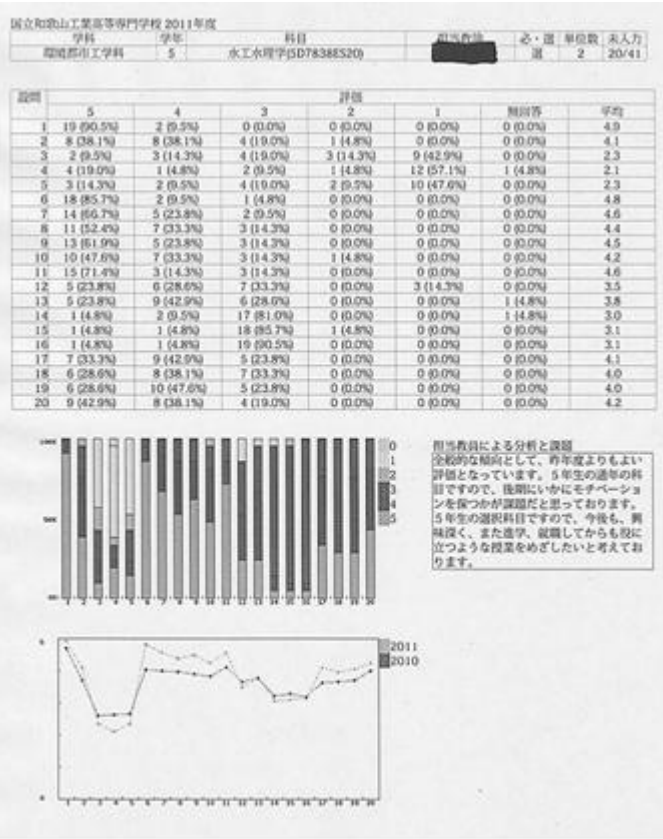
(出典 教務委員会資料)

を、教員が相互に参観し、その後授業担当者
と授業改善について懇談している（資料
3-2-①-1, 3-2-①-2 参照）。さらに教
務関係者が学生と直接面談し、意見を聴取
している。（資料7-1-③-1 参照）

専攻科においては科目終了時に学生がど
のくらいその授業に取り組めたかの自己評
価を「自己達成評価表」に纏めて提出させ
ている（資料6-1-④-3 参照）。

さらに毎年保護者授業参観を実施し、授
業に関するアンケート調査を実施し、意見
を収集している（資料3-2-①-3, 3-2-
①-4 参照）。年に数回、学生の保護者で構
成される後援会教育部会、後援会下宿通学
生部会、後援会寮生部会を開催し、保護者
の視点からの意見を聞くと同時に、学校の
教育方針を説明し、周知を図っている。ま
た卒業生に対してもアンケートを行い（資
料6-1-⑤-2 参照）、学校への意見・要望
を聞いている。さらに卒業生の就職先にも
アンケートを行い（資料6-1-⑤-1 参照）、

授業アンケートのまとめ (例)



(出典 授業アンケート集計システム)

卒業生の身につけているべき能力等を教示してもらっている。また学外有識者で構成される諮問委員会を開催し（資料6-1-⑤-4参照）、本校の運営や将来展望等に意見をいただき、その内容を冊子として公表している。諮問委員会以外にも、学科毎のカリキュラムの検討や数学、国語等の教科、専攻科の教育等についての検討会を、外部の識者を入れて適宜実施している。

（分析結果とその根拠理由）

学生へのアンケートを実施し、学生の意見や要望等を聞いて、改善に反映させている。専攻科においては科目終了時に「自己達成評価表」を提出させて、教員、学生双方の改善に役立てている。よって学生の意見の聴取が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

学生の保護者、卒業生、卒業生の就職先等、学外の意見を定期的に聞いている。外部有識者で構成される諮問委員会を開催し意見をもらい、内容を公表している。また個別の事項においても適宜学外有識者の意見を聞いており、学外関係者の意見が教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

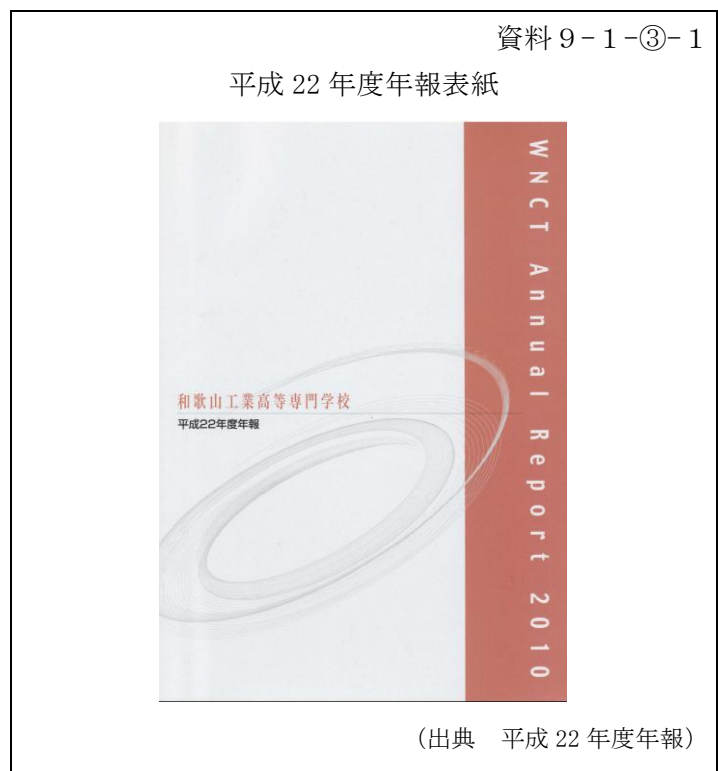
観点9-1-③： 各種の評価の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

学校の教育研究活動全般は、年報に纏めて公表している（資料9-1-③-1）。また学生のアンケート結果、企業からのアンケート結果等については、各学科の委員で構成される教務委員会や専攻科委員会で検討し、各学科等で改善している。また教育全般に渡る評価や改善のための対策は、教務委員会や専攻科委員会および教育点検委員会で検討し、改善策を立案、実行している。

（分析結果とその根拠理由）

教育研究活動やアンケート結果を広く公表している。それらの結果を教務委員会や専攻科委員会、教育点検委員会等で検討し、改善策を立案、実行している。よって各種の評価の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられている。



観点 9-1-④： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

全教員に対して、年度始めに「教育」、「研究」、「校務」面での当該年度の目標を記入した業務調査表(資料3-2-①-7参照)を提出してもらい、業務調査表を基にした面談を行って、学校として教員個々の目標や改善を要する点を把握すると共に、必要な支援を行っている。日々の授業の進捗状況や、授業の問題点等は、7～8週間毎に報告を求めている(資料9-1-①-1参照)。また授業内容は年に一度、教務相互による授業参観と、担当教員との懇談を実施し、授業の優れている点や改善すべき点について話し合いを行い、授業改善に繋げている(資料9-1-④-1)。また学生からの授業アンケートを行い(資料9-1-②-1, 9-1-②-2参照)、その結果を担当教員に示して、改善策等のコメントを書いてもらい、それらを学内に公表し、授業改善に役立てている。また年に1回、授業参観日を設定して、保護者の授業参観アンケートも実施している(資料9-1-④-2)。

(分析結果とその根拠理由)

全教員を対象に業務調査表の提出を求め、それを基に面談を行って、教員個々の目標を設定し、支援している。授業の進捗状況は進捗報告書で確認し、授業内容は教員相互による授業参観や担当教員との懇談で改善している。また学生対象の授業アンケートを実施し授業改善に役立てている。さらに保護者対象の授業参観日を設定して、授業を公開している。これらのことから教授技術等の継続的改善が行われ、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握している。

資料 9-1-④-1

教員授業参観実施要領

教員授業参観実施要領

1. 実施目的
教員相互に授業参観することにより、学生に分かりやすい授業の実現に資する教育力の向上をはかる。
2. 実施要領
 - (1) 各科、原則として所属教員の半数に対して授業参観を実施する。
(ただし、各教員とも2年に1度は授業参観をうけるものとする。)
 - 非常勤教員(嘱託を含む)についても参観を行う。
 - (2) 参観を受ける授業は、担当科目のうち1科目とする。
 - (3) 授業参観は、原則として被参観教員の所属学科の教員2名で実施する。
 - (4) 参観教員は、授業アンケートの結果を授業参観および後の面談の参考とすること。また、参観の際は、学生の授業態度にも留意すること。
 - (5) 授業参観後、被参観教員と参観教員で面談を実施し、授業参観教員は授業参観報告書を作成し、各科教務委員に提出する。
被参観教員が非常勤(嘱託を含む)の場合は、面談を行わなくともよい。
 - (6) 各科教務委員は、各学科の授業参観報告書をとりまとめて、教務委員会に提出する。
3. 授業参観実施の流れ


```

graph TD
    A["【教務委員会】  
授業参観実施期間の決定"] --> B["【教務委員】  
所属学科で相談の上、  
被授業参観者、科目、参観日、クラス  
を決定し、参観教員2名を選出する。"]
    B --> C["【参観教員】  
授業参観"]
    C --> D["【参観教員および被参観教員】  
面談を実施し、授業参観報告書を作成し、教務委員に  
提出する  
(報告書には、改善すべき点と対応策を記載すること)"]
            
```

(出典 学生課資料)

平成24年度保護者による授業参観アンケート結果

平成24年度保護者授業参観アンケート

来校者数：603名 アンケート回答数：350名
(延べ617名)

参観された授業での教員の様子、学生の様子、教室の様子についてお答えください。

参観された授業の基本情報

学年、クラスをお答えください。

| 24年度 | | | | | | | |
|------|----|----|----|----|----|----|----|
| 1A | 1B | 1C | 1D | 2A | 2B | 2C | 2D |
| 41 | 50 | 20 | 36 | 22 | 21 | 22 | 22 |
| 3A | 3B | 3C | 3D | 4A | 4B | 4C | 4D |
| 10 | 25 | 11 | 13 | 8 | 10 | 11 | 12 |
| 5A | 5B | 5C | 5D | | | | |
| 4 | 2 | 8 | 2 | | | | |

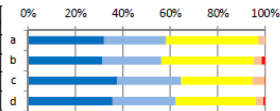
参観に掛けられた時間を、次の中からお選びください。

| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 30分程度 | 20分程度 | 15分程度 | 10分程度 | 15分程度 |
| 45 | 32 | 44 | 89 | 44 |

1 参観された教員の授業について

- a. 教員の授業全般について、どのような印象を受けましたか。
- b. 授業内容の説明はわかりやすいですか。
- c. 声、言葉は明瞭で聞き取りやすいですか。
- d. 板書は見やすいですか。
- e. その他、お気づきの点があれば、ご自由にお書きください。

| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|-----|----|-----|----|---|
| a | 110 | 89 | 133 | 10 | 0 |
| b | 105 | 83 | 130 | 11 | 5 |
| c | 127 | 91 | 101 | 17 | 1 |
| d | 112 | 84 | 106 | 10 | 2 |

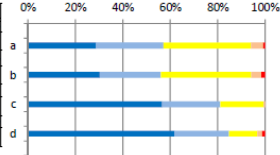


別紙に記載

2 授業中の学生の様子について

- a. 授業中の学生の様子全般について、どのような印象を受けましたか。
- b. 熱心にノートをとっていましたか。
- c. 居眠りをしていませんでしたか。
- d. 携帯電話等の操作や私語等をしていませんでしたか。
- e. その他、お気づきの点があれば、ご自由にお書きください。

| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|-----|----|-----|----|---|
| a | 97 | 96 | 125 | 17 | 3 |
| b | 93 | 79 | 117 | 13 | 5 |
| c | 189 | 82 | 61 | 2 | 0 |
| d | 207 | 77 | 40 | 7 | 4 |

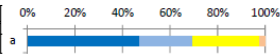


別紙に記載

3 参観された教室の様子について

- a. 教室はきれいに清掃されていますか。
- b. その他、お気づきの点をお書きください。

| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|-----|----|----|---|---|
| a | 153 | 73 | 91 | 7 | 0 |



別紙に記載

授業参観は一年に何回ぐらい実施するのがよいとお答えください。

| 1回 | 1~2回 | 2回 | 2~3回 | 3回 | 3~4回 | 4回以上 |
|-----|------|----|------|----|------|------|
| 158 | 5 | 68 | 2 | 5 | 0 | 1 |

授業参観の時期はいつ頃がよいとお答えください。

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|-----|-----|-----|----|----|----|
| 131 | 56 | 8 | 2 | 0 | 7 |
| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 25 | 17 | 7 | 1 | 4 | 0 |

(出典 学生課資料)

観点9-1-⑤： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

各教員には平成11年度から研究業績調査を実施し、結果を研究業績報告書に纏めて公表している。平成13年度分からは年報に衣替えし(資料9-1-③-1参照)、現在まで公表を続けている。また研究活動の活発な教員には、競争原理を導入した教育研究奨励助成(資料9-1-⑤-1)を配分し、研究活動をサポートしている。これらの研究は、本科の卒業研究、専攻科の特別研究と連携して行われるため、学生による学会での発表も増加している。平成23年度には学生の研究発表が30件以上に達しており(資料6-1-②-5, 6-1-②-6参照)、教員の研究活動の成果が教育に反映出来ている。

資料9-1-⑤-1

教育研究奨励助成採択テーマ一覧表

| 教育研究奨励助成申請書(個人研究:研究領域A) | 教育研究奨励助成申請書(個人研究:研究領域B) |
|--|--|
| バルクナノメタルの超微細粒組織形成に及ぼす初期方位の影響 | 担任主導によるQ-Uを用いた学級経営の全学的な実践 |
| 重合メッシュ法における不連続関数の三重積分を厳密に計算するための新しい領域分割法 | 携帯情報端末に対応したe-Learningシステムの開発 |
| 新規Ⅲ-V族半導体混晶のバンドギャップエネルギーに関する研究 | 可視光空間通信を用いた移動ロボットの移動制御に関する研究 |
| ヘンタンパク質反応中間体の構造の解明を目指した高酸化ヘムの振動分光学的研究 | 大気圧プラズマを用いた表面洗浄、表面改質、殺菌への応用基礎研究 |
| フラボノイド類の薬物代謝酵素阻害機構の解明 | イオン選択性電極を用いたタンパク質-麻酔薬間の相互作用研究 |
| 多官能基化シンクロファン類の新規合法性の開発 | 持続可能な地域公共交通の実現に向けた協働及び利用行動促進のための提供情報の有効性評価 |
| 過熱水蒸気による新規吸着剤の開発・探索 | 高専祭でのクラブイベント(映画製作上映)についての実証的研究 |
| 静水圧を用いた植物培養細胞株保存方法の開発 | 情報技術と電子制御技術の統合実験システムの構築 |
| 親水性イオン液体中の含水量に依存したナノ粒子サイズ7制御とその反応場としての特性 | メンタルヘルス不調への気づき
—身体症状をとおして— |
| 酸化ストレス条件下における細胞膜構造の変化とアミロイド線維形成のモニタリング | 効果的防災教育に向け繰返し実演が可能な液状化再現装置の開発 |
| 最適な津波計の配置計画についての研究 | Positive Organizational Scholarship(POS)理論研究と和歌山高専におけるその応用事例 |
| 2方向地振動を受けるはり崩壊型鋼製ラーメンの新しい弾塑性地震応答解析手法の開発 | |

(出典 地域共同テクノセンター資料)

(分析結果とその根拠理由)

各教員には平成11年度から研究業績調査を実施し、結果を研究業績報告書に纏めて公表している。平成13年度分からは年報に衣替えし、現在まで公表を続けている。また競争原理を導入した教育研究奨励助成を配分し、研究活動をサポートしている。これらの結果の一端として、平成23年度には学生の研究発表が30件以上に達しており、教員の研究活動の成果が教育に反映出来ている。よって研究活動が教育の質の改善に寄与している。

観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

カリキュラムの検討等の際には、学内での議論のみならず、学外の有識者を講師に招いた検討会を適宜実施し、外部有識者の意見を改善に反映させている(資料 9-2-①-1)。また学校全体の事項については、学外有識者で構成される諮問委員会で適宜意見を聴いている。このような検討会や諮問委員会は教職員に公開され、教職員の資質向上に役立っている(資料 9-2-①-2)。また希望する教員を積極的に他大学に派遣し、学位の取得等、教員の資質向上に努めている。さらにこれらの事項を学校全体として積極的に推進すべく、平成17年度にFD委員会を設置し、もっとも最近では平成21年から規則を改正した。(資料 9-2-①-3)。

FD講演会では、学級運営の改善や科研費獲得の方法、情報セキュリティ改善等をテーマに、適宜教員対象の研修会を実施し、教員の資質向上に努めている(資料 9-2-①-4)。また教務相互や保護者による授業参観、全教科を対象にした学生による授業アンケート等により授業改善と教員の教育力向上を図っている(資料 9-1-②-1 参照)。これらの結果の多くは、その内容をホームページ上で、学内に公表している。さらに学外の研究会や研修会に積極的に教員を派遣し、資質向上に努めている。

(分析結果とその根拠理由)

種々の問題について適宜外部の有識者の意見を聴き、内容は学内外に公表されている。また教職員の他機関への派遣も積極的に推進している。これらの事項を全学的に推進するためにFD委員会を設置している。よってファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されている。

適宜教員対象の研修会を実施し、教員の資質

資料 9-2-①-1

電気情報工学科の数学検討会報告

(出典 学生課資料)

資料 9-2-①-2

諮問委員会報告書表紙

(出典 平成 22 年度諮問委員会報告書)

向上に努めている。また教員相互や保護者による授業参観や学生による授業アンケートを実施し、その内容を公開している。さらに学外の研究会や研修会に教員を派遣している。よってファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。

観点9-2-②：教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

実験・実習などの技術的な教育を支援するスタッフとして技術職員がおり、すべて技術支援室に所属している。技術支援室は、平成17年度に組織の見直しにより技術支援室が発足し、技術に関する業務を組織的かつ効率的に行うとともに、その職務遂行に必要な能力、資質の向上を図り、教育・研究に関する技術的支援と専門的業務を円滑かつ効果的に行うことを目的としている。

平成23年度の研修では、西日本地域高等専門学校技術職員特別研修、情報システム統一研修、国立高等専門学校機構IT担当研修会、国立高等専門学校機構ネットワーク管理者研修会への参加、近畿地区国立高等専門学校技術職員懇談会、近畿地区高専情報処理教育連絡協議会に参加、個人の研究も行われポスター発表が行われている。

(分析結果とその根拠理由)

研修会等にも数多く参加し、技術職員の技術の向上に積極的に取り組んでいる。また研修会に参加した技術職員には報告書の提出を義務づけ(資料9-2-②-1)、技術支援室ミーティングで情報を共有し、全員で技術の向上を図っている。

資料9-2-①-3

FD委員会規則

和歌山工業高等専門学校ファカルティ・ディベロップメント委員会規則

制定 平成17年7月27日
最近改正 平成21年4月1日

(設置)

第1条 和歌山工業高等専門学校(以下「本校」という。)の教育研究理念の達成に向けて、ファカルティ・ディベロップメント(本校及び本校の教員が、教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動をいう。以下「FD」という。)の推進を図るため、ファカルティ・ディベロップメント委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる活動を行う。

- 一 FDの啓発及び推進に関すること。
- 二 FDに係る研究会及び研修会等に関すること。
- 三 FDに係る調査・研究に関すること。
- 四 その他FDに関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 教務主事
- 二 校長が指名する教員 若干名
- 三 総務課長
- 四 学生課長

(任期)

第4条 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営)

第5条 委員会に委員長を置き、副校長をもって充てる。

- 2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故が生じた場合は、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
- 4 委員会は、必要に応じて委員以外者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(事務)

第6条 委員会の事務は、総務課総務・企画係において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員会が別に定める。

(出典 規則集資料)

資料9-2-①-4

平成23年度FD講演会

平成23年度FD講演会実施状況

- 新任教職員研修
平成23年5月16日(月)16:15～ 本館第1会議室
「新任教職員研修」
講師：大久保副校長、山川教務主事、福田学生主事、野村寮務主事、平井課長、窪田学生課長補佐
参加者：10名
- FD講演会
第1回 平成23年5月11日(木)16:15～17:15 100番教室
「津波を中心とした防災講座」
講師：環境都市工学科 辻原主任・教授、小池准教授、林助教
参加者：31名
- 第2回 平成23年6月13日(月)15:00～16:20 階段教室
「在外研究員について」人事交流について
講師：津田准教授、岸本准教授
参加者：41名
- 第3回 平成23年10月7日(金)16:15～ 階段教室
「科研究獲得について」
講師：山口教授、三ツ木財務企画係員
参加者：30名
- 第4回 平成23年10月19日(水)16:20～ 視聴覚教室
「磁石の製造と海外工場展開」
講師：佐々木俊明氏 (本校非常勤講師)
参加者：18名
- 第5回 平成24年2月27日(月)14:00～ 階段教室
「情報セキュリティをとりまく情勢と、身近な情報漏洩やウイルス被害の例」
(最近の情勢セキュリティを巡る情勢と、身近な情報漏洩やウイルス被害の例)
講師：伊貝 隆 参事官補佐(内閣官房情報セキュリティセンター)
参加者：49名
(※ 情報セキュリティ推進委員会と共同案内)
- 第6回 平成24年3月16日(金)13:30～ 本館第1会議室
「Q-Uを用いた学級経営入門」
講師：石丸准教授
参加者：38名

(出典 総務課資料)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

詳しいシラバスを作成し、さらにシラバスに沿った授業が行われているかを、全教員が提出する「授業進捗報告書」で定期的にチェックしている。授業改善や成果の確認のために、成績の根拠となる答案やレポートを保存している。また学生に「授業アンケート」や「自己達成評価表」に記入して貰い、要望や意見を集めている。さらに卒業生、及び卒業生を受け入れている企業関係者にもアンケート調査を行い、本校の教育に対する意見を集めて改善の一助としている。全教員の授業は教員相互が参観し、担当者と懇談を行うことで授業改善に繋げている。また保護者の参観日を設定し、開かれた授業を目指している。さらに授業改善を支援するため、授業法に関する講演会等も実施している。これらの活動は「年報」に纏め、冊子およびホームページで広く公開している。

(改善を要する点)

なし

(3) 基準 9 の自己評価の概要

詳しいシラバスを作成し、シラバスに沿った授業が行われているかを、全教員が提出する「授業進捗報告書」で定期的にチェックしている。授業改善や成果の確認のために、成績の根拠となる答案やレポートを保存している。学生には「授業アンケート」や「自己達成評価表」に記入して貰い、要望や意見を集めている。さらに卒業生、及び卒業生を受け入れている企業関係者にもアンケートを行い、本校の教育に対する意見を集めている。全教員の授業は教員相互が参観し、担当者と懇談を行うことで授業改善に繋げている。また保護者の参観日を設定し、開かれた授業を目指している。さらに授業改善を支援するため、授業法に関する講演会等も実施している。これらの活動は「年報」に纏め、冊子およびホームページで広く公開している。

資料 9-2-②-1

研修会報告書

平成 24 年 6 月 6 日
技術支援室

平成 24 年度第 1 回ネットワーク管理者研修会の報告

主催：独立行政法人国立高等専門学校機構

日時：平成 24 年 6 月 4 日(月)9:00～6 月 5 日(火)11:30

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)

受講対象者：情報ネットワークシステムの運用管理に携わる教職員

〔本研修の目的〕

情報ネットワークシステム管理業務の適切かつ効率的な運用を推進するために、情報共有を図り必要な技術的知識の習得を目的とします。

〔本研修の内容〕

研修は、別紙の日程表のように行われた。

この研修会は、各校に導入される情報ネットワークシステムに関する研修です。特に、ファイアウォールと認証サーバは、全国高専一括導入されるもので、その運用管理に関する知識を高めるための研修内容でした。

〔所感等〕

機構本部が一括導入した装置(ファイアウォール、認証サーバ)の運用管理に関する知識を高めることが出来た。また、来年度 4 月には、ネットワークリプレイスを行わなければならないが、そのための有用な情報を各校で共有できた研修会であった。

研修中に、機構本部より、各高専に対して、今月中に認証サーバを稼働するようにと伝えられた。情報系の業務は、ますます増加しているが、研修で得た知識を活かして対応していきたいと考えている。

機構本部事務局より、ファイアウォールに関する実務研修を 8 月か 9 月に、ネットワークに関する研修を 8 月に、また、本研修 2 回目を 12 月に行う計画があることが伝えられた。

(出典 技術支援室資料)

基準10 財務

(1) 観点ごとの分析

観点10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。
また、債務が過大ではないか。

(観点到に係る状況)

平成16年度4月に独立行政法人国立高等専門学校機構和歌山工業高等専門学校となったことに伴い、平成15年度まで国の制度下で高等専門学校として教育活動を行ってきた校地・施設・設備等の資産を国から承継しており、安定して教育活動を遂行する環境を整備している(資料10-1-①-1～4)。さらに老朽化した施設もまだ若干残っているが、平成23年度末時点で、多くの施設の改修が完了し、また平成24年度は実習工場の改修も予定しており、実験施設なども次々と新しいものに更新されるなど、安定して教育活動を遂行できる環境整備を進めている。

債務については、確実に教育を実施し授業料債務は残っておらず、過大な債務は持っていない。校地は、和歌山県からの借地が99,986.67㎡あるが、借地料の27,354,783円は別途予算措置されており問題はない。

(分析結果とその根拠理由)

学校の目的に添った資産を国から承継している。さらにほとんどの施設の改修が完了する等、安定して教育活動を遂行できる環境整備を進めている。また確実に教育を実施し授業料債務は残っておらず、過大な債務は持っていない。また和歌山県からの借地料も別途予算措置されており問題はない。よって資産保有状況は良好であり、過大な債務はない。

貸借対照表 (その1)

平成19年度～平成23年度 貸借対照表

(単位:円)

| 勘定科目表示名称 | 平成19年度
明細金額 | 平成20年度
明細金額 | 平成21年度
明細金額 | 平成22年度
明細金額 | 平成23年度
明細金額 |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 【資産の部】 | 2,345,371,820 | 2,467,215,588 | 2,825,813,734 | 2,615,686,352 | 2,479,454,992 |
| 流動資産 | 23,344,932 | 25,815,166 | 134,235,711 | 31,877,098 | 12,308,525 |
| 現金及び預金 | 22,413,720 | 25,153,014 | 27,546,705 | 31,571,668 | 11,236,739 |
| 現金 | 0 | 60,949 | 12,905 | 0 | 0 |
| 当座預金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 普通預金 | 22,413,720 | 25,092,065 | 27,533,800 | 31,571,668 | 11,236,739 |
| 定期預金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他預金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 有価証券 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 有価証券 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 受取手形 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 受取手形 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 未収学生納付金収入 | 761,400 | 624,900 | 592,200 | 253,800 | 592,200 |
| 未収学生納付金収入(授業料) | 0 | 117,300 | 0 | 0 | 0 |
| 未収学生納付金収入(入学金) | 761,400 | 507,600 | 592,200 | 253,800 | 592,200 |
| 棚卸資産 | 0 | 0 | 0 | 0 | 212,634 |
| 未成研究支出金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 212,634 |
| 未成事業支出金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 貯蔵品 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 未収入金 | 0 | 0 | 106,056,944 | 0 | 216,293 |
| 未収入金 | 0 | 0 | 106,056,944 | 0 | 216,293 |
| 前渡金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 前渡金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 前払費用 | 49,812 | 37,252 | 37,752 | 51,630 | 50,659 |
| 前払費用 | 49,812 | 37,252 | 36,686 | 34,814 | 38,593 |
| 法定福利費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 未経過賃借料 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 未経過保険料 | 49,812 | 37,252 | 36,686 | 34,814 | 38,593 |
| 未経過支払利息 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他の前払費用 | 0 | 0 | 1,066 | 16,816 | 12,066 |
| 未収収益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 未収収益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 短期貸付金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 短期貸付金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他の流動資産 | 120,000 | 0 | 2,110 | 0 | 0 |
| 仮払金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 仮払消費税 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 旅費仮払 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 立替金 | 120,000 | 0 | 2,110 | 0 | 0 |
| その他流動資産 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 徴収不能引当金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 徴収不能引当金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 貸倒引当金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 貸倒引当金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 固定資産 | 2,322,026,888 | 2,441,400,422 | 2,691,578,023 | 2,583,809,254 | 2,467,146,467 |
| 有形固定資産 | 2,321,295,070 | 2,440,761,981 | 2,690,968,328 | 2,582,804,768 | 2,466,073,532 |
| 建物 | 2,478,464,234 | 2,709,787,531 | 2,925,565,345 | 2,925,565,345 | 2,979,116,156 |
| 建物 | 2,072,630,398 | 2,178,000,928 | 2,241,660,517 | 2,241,660,517 | 2,241,660,517 |
| 建物附属設備 | 405,833,836 | 531,786,603 | 683,904,828 | 683,904,828 | 737,455,639 |
| 建物減価償却累計額 | -305,617,024 | -407,503,907 | -517,111,797 | -644,827,457 | -773,294,758 |
| 建物減損損失累計額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 構築物 | 176,075,327 | 184,571,612 | 196,787,962 | 199,097,962 | 199,905,412 |
| 構築物減価償却累計額 | -124,478,214 | -129,556,768 | -133,471,399 | -137,718,496 | -142,040,279 |
| 構築物減損損失累計額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 機械装置 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 機械装置減価償却累計額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 機械装置減損損失累計額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 船舶 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 船舶減価償却累計額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 船舶減損損失累計額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 車両運搬具 | 5,005,502 | 5,005,502 | 5,005,502 | 5,005,502 | 5,005,502 |
| 車両運搬具減価償却累計額 | -4,053,168 | -4,783,196 | -5,005,500 | -5,005,500 | -5,005,500 |
| 車両運搬具減損損失累計額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 工具器具備品 | 201,780,784 | 221,104,984 | 384,818,629 | 419,326,231 | 431,960,959 |
| 工具器具備品減価償却累計額 | -116,090,871 | -145,646,777 | -173,403,414 | -214,763,569 | -265,698,710 |
| 工具器具備品減損損失累計額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 土地 | 5,653,000 | 5,653,000 | 5,653,000 | 5,653,000 | 5,653,000 |
| 土地減損損失累計額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 建設仮勘定 | 2,425,500 | 0 | 0 | 28,341,750 | 28,341,750 |
| その他の有形固定資産 | 2,130,000 | 2,130,000 | 2,130,000 | 2,130,000 | 2,130,000 |

資料 10-1-①-2

貸借対照表 (その2)

| 勘定科目表示名称 | (単位:円) | | | | |
|----------------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | 平成19年度
明細金額 | 平成20年度
明細金額 | 平成21年度
明細金額 | 平成22年度
明細金額 | 平成23年度
明細金額 |
| その他の有形固定資産減価却累計額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他の有形固定資産減損損失累計額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 無形固定資産 | 709,346 | 616,535 | 589,661 | 983,516 | 1,052,177 |
| 特許権 | 688,346 | 595,535 | 502,724 | 409,913 | 317,102 |
| 借地権 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 商標権 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 実用新案権 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 意匠権 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ソフトウェア | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 電話加入権 | 21,000 | 21,000 | 21,000 | 21,000 | 21,000 |
| その他の無形固定資産 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 著作権 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特許権仮勘定 | 0 | 0 | 65,937 | 552,603 | 714,075 |
| 投資その他の資産 | 22,472 | 21,906 | 20,034 | 20,970 | 20,758 |
| 投資有価証券 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長期貸付金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長期前払費用 | 8,992 | 8,426 | 6,554 | 7,490 | 7,278 |
| 未収財源措置予定額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長期性預金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 敷金・保証金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長期未収入金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 破産債権、再生債権、更正債権その他これらに類する債権 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他の投資その他の資産 | 13,480 | 13,480 | 13,480 | 13,480 | 13,480 |
| 貸倒引当金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 貸倒引当金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [資産の部]合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [本支店勘定] | 474,049,544 | 469,789,270 | 293,141,629 | 129,583,045 | 73,311,299 |
| [本支店]機構本部(統括) | | | -4,972,079 | -4,050,435 | -8,218,851 |
| [本支店]機構本部 | 7,865,979 | -6,209,818 | | | |
| [本支店]機構本部(支店) | | | 0 | 0 | 0 |
| [本支店]機構本部 管理課 | 466,183,565 | 475,999,088 | 298,113,708 | 133,633,480 | 81,530,150 |
| [本支店勘定]合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [負債の部] | 646,434,544 | 688,953,937 | 740,549,564 | 497,550,788 | 445,067,083 |
| 流動負債 | 520,014,613 | 523,665,819 | 453,779,325 | 187,631,846 | 113,616,984 |
| 運営費交付金債務 | 0 | 0 | 0 | 0 | 86,400 |
| 授業料債務 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 承継剰余金債務 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 預り施設費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 預り補助金等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 預り寄附金 | 13,407,522 | 17,061,046 | 20,017,637 | 19,205,246 | 28,499,210 |
| 前受受託研究費等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 前受受託研究費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 国又は地方公共団体 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 前受共同研究費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 国又は地方公共団体 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 前受受託事業費等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 国又は地方公共団体 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 短期借入金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 1年以内返済予定長期借入金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 未払金 | 471,384,331 | 467,587,701 | 391,825,879 | 99,833,129 | 42,390,512 |
| 退職金 | 88,759,242 | 186,671,498 | 92,249,793 | 41,183,652 | 0 |
| リース債務 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他未払金 | 382,625,089 | 280,916,203 | 299,576,086 | 58,649,477 | 42,390,512 |
| 未払消費税等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 未払費用 | 30,843,137 | 13,739,372 | 14,963,604 | 30,457,507 | 26,356,509 |
| 給与 | 4,360,610 | 4,615,222 | 5,938,337 | 5,728,097 | 2,854,405 |
| 法定福利費 | 152,356 | 195,241 | | | |
| 社会保険料 | | | 221,516 | 338,888 | 58,953 |
| 労働保険料 | | | 0 | 0 | 0 |
| 賃借料 | 17,327,153 | 823,198 | 723,011 | 15,722,499 | 15,042,745 |
| 水道光熱費 | 3,122,367 | 3,447,084 | 3,045,959 | 3,117,358 | 2,104,902 |
| 未払利息 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他未払費用 | 5,880,651 | 4,658,627 | 5,034,781 | 5,550,665 | 6,295,504 |
| 前受金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 預り金 | 3,819,308 | 24,612,884 | 26,473,775 | 38,135,964 | 16,284,353 |
| 科学研究費 | 0 | 0 | 753,340 | 56,160 | 1,198,924 |
| 社会保険料 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 労働保険料 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 源泉所得税 | 32,298 | 6,474 | 4,770 | 3,254 | 0 |

資料 10-1-①-3

貸借対照表 (その3)

(単位:円)

| 勘定科目表示名称 | 平成19年度
明細金額 | 平成20年度
明細金額 | 平成21年度
明細金額 | 平成22年度
明細金額 | 平成23年度
明細金額 |
|-----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 住民税 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 職員宿舍貸付料 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 補助金等返還 | 0 | 0 | 0 | 756,268 | 584,146 |
| その他預り金 | 3,787,010 | 24,606,410 | 25,715,665 | 37,320,282 | 14,501,283 |
| 前受収益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 前受利息 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他前受収益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 引当金 | 560,315 | 664,816 | 498,430 | 0 | 0 |
| 賞与引当金 | 560,315 | 664,816 | 498,430 | 0 | 0 |
| 修繕引当金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 損害補償損失引当金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他の引当金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他の流動負債 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 仮受金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他の流動負債 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 固定負債 | 126,419,931 | 165,288,118 | 286,770,239 | 309,918,942 | 331,450,099 |
| 資産見返負債 | 126,299,581 | 165,060,178 | 286,425,479 | 309,918,942 | 330,318,853 |
| 資産見返運営費交付金等 | 96,905,770 | 145,066,889 | 200,969,935 | 208,702,871 | 240,608,478 |
| 資産見返運営費交付金 | 75,952,506 | 115,839,570 | 161,637,780 | 160,849,687 | 194,128,924 |
| 資産見返授業料 | 20,953,264 | 29,227,319 | 39,332,155 | 47,853,184 | 46,479,554 |
| 資産見返補助金等 | 0 | 3,667,212 | 74,457,044 | 63,154,133 | 51,194,877 |
| 資産見返寄附金 | 8,267,967 | 6,345,727 | 4,423,487 | 5,521,110 | 8,055,355 |
| 資産見返物品受贈額 | 18,700,344 | 9,980,350 | 6,509,076 | 3,646,475 | 1,404,318 |
| 建設仮勘定見返運営費交付金等 | 0 | 0 | 0 | 28,341,750 | 28,341,750 |
| 建設仮勘定見返運営費交付金 | 0 | 0 | 0 | 28,154,000 | 28,154,000 |
| 建設仮勘定見返授業料 | 0 | 0 | 0 | 187,750 | 187,750 |
| 建設仮勘定見返施設費 | 2,425,500 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 建設仮勘定見返補助金等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 建設仮勘定見返寄附金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特許権仮勘定見返運営費交付金等 | 0 | 0 | 65,937 | 552,603 | 714,075 |
| 特許権仮勘定見返運営費交付金 | 0 | 0 | 0 | 463,000 | 610,000 |
| 特許権仮勘定見返授業料 | 0 | 0 | 65,937 | 89,603 | 104,075 |
| 特許権仮勘定見返補助金等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特許権仮勘定見返寄附金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長期預り補助金等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長期預り寄附金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長期前受受託研究費等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,131,246 |
| 長期前受受託研究費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 654,546 |
| 国又は地方公共団体 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 654,546 |
| 長期前受共同研究費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 476,700 |
| 国又は地方公共団体 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 476,700 |
| 長期前受受託事業費等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 国又は地方公共団体 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長期借入金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長期未払金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 引当金 | 120,350 | 227,940 | 344,760 | 0 | 0 |
| 退職給付引当金 | 120,350 | 227,940 | 344,760 | 0 | 0 |
| 追加退職給付引当金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他の引当金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 資産除去債務 | | | | 0 | 0 |
| その他の固定負債 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [負債の部]合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [純資産の部] | 2,172,986,820 | 2,248,050,921 | 2,378,405,799 | 2,247,718,609 | 2,107,699,208 |
| 資本金 | 1,856,307,000 | 1,856,307,000 | 1,856,307,000 | 1,856,307,000 | 1,856,307,000 |
| 政府出資金 | 1,856,307,000 | 1,856,307,000 | 1,856,307,000 | 1,856,307,000 | 1,856,307,000 |
| その他出資金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 資本剰余金 | 311,143,544 | 392,981,660 | 523,020,443 | 387,243,193 | 252,228,666 |
| 資本剰余金 | 824,058,260 | 1,031,505,898 | 1,288,882,814 | 1,288,882,814 | 1,288,882,814 |
| 資本剰余金施設費 | 806,858,260 | 1,014,305,898 | 1,271,682,814 | 1,271,682,814 | 1,271,682,814 |
| 資本剰余金運営費交付金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 資本剰余金授業料 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 資本剰余金補助金等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 資本剰余金寄附金 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 資本剰余金目的積立金 | 15,000,000 | 15,000,000 | 15,000,000 | 15,000,000 | 15,000,000 |
| 資本剰余金譲与 | 1,200,000 | 1,200,000 | 1,200,000 | 1,200,000 | 1,200,000 |
| その他の資本剰余金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 損益外減価償却累計額 | -444,747,278 | -551,647,697 | -661,934,153 | -797,711,403 | -932,725,930 |
| 損益外減損損失累計額 | -49,000 | -49,000 | -49,000 | -49,000 | -49,000 |
| 損益外固定資産除売却差額 | -68,118,438 | -86,827,541 | -103,879,218 | -103,879,218 | -103,879,218 |

資料 10-1-①-4

貸借対照表（その4）

| 勘定科目表示名称 | (単位:円) | | | | |
|---------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | 平成19年度
明細金額 | 平成20年度
明細金額 | 平成21年度
明細金額 | 平成22年度
明細金額 | 平成23年度
明細金額 |
| 損益外利息費用累計額 | 5,536,276 | | | | 0 |
| 利益剰余金 | 0 | -1,237,739 | -921,644 | 4,168,416 | -836,458 |
| 前中期目標期間繰越積立金 | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 目的積立金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 教育研究・福利厚生・地域貢献充実積立金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 目的積立金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 目的積立金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 積立金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 当期末処分利益 | 5,536,276 | -1,237,739 | -921,644 | 4,168,416 | -836,458 |
| 繰越欠損金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 当期末処理損失 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他の有価証券評価差額金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [純資産の部]合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 資本・負債の部合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

財務会計システム「貸借対照表(報告式)」より

観点10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

自己収入としての授業料，入学料及び検定料，講習料，学校財産貸付料，寄宿料は，国立の時代より，経常的に確保しており（資料10-1-②-1），この状況は，独立行政法人化した平成16年度以降にいたっても継続している．また，国の制度下で歳出予算として配分されていた額と自己収入との差額は，運営費交付金として予算措置されている．

(分析結果とその根拠理由)

自己収入について安定した状況を維持している．独立行政法人化後は，安定した教育活動を維持するため高専機構本部から運営費交付金が措置されるシステムが整備され，財源としての収入を確実に確保している．よって経常的収入が継続的に確保されている．

資料 10-1-②-1

収入金比較表

収入金比較表

円

| | 平成23年度 | 平成22年度 | 平成21年度 | 平成20年度 | 平成19年度 |
|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 授業料収入 | 197,342,650 | 199,151,950 | 188,872,550 | 187,621,350 | 187,504,050 |
| 入学金収入 | 15,312,600 | 16,606,700 | 16,437,500 | 16,666,200 | 15,904,800 |
| 検定料収入 | 5,636,300 | 5,400,400 | 6,027,400 | 5,560,500 | 5,412,000 |
| 寄宿料収入 | 4,566,900 | 4,567,700 | 4,539,200 | 4,465,200 | 4,585,800 |
| 職員宿舍貸付料収入 | 5,869,226 | 6,630,066 | 6,488,936 | 7,161,804 | 7,635,092 |
| その他収入 | 4,233,684 | 3,551,529 | 694,388 | 4,177,699 | 7,149,859 |
| 計 | 232,961,360 | 235,908,345 | 223,059,974 | 225,652,753 | 228,191,601 |

(出典 総務課財務企画係資料)

観点10-1-③： 学校の目的を達成するために、外部の財務資源の活用策を策定し、実行しているか。

(観点に係る状況)

外部資金等も、共同研究費、受託研究費、奨学寄附金及び科学研究費補助金を継続的に確保している(資料10-1-③-1)。

(分析結果とその根拠理由)

外部資金等についても、共同研究費、受託研究費、奨学寄附金及び科学研究費補助金等の外部資金を積極的に受け入れている。

資料 10-1-③-1

外部資金等一覧表

外部資金等一覧表

| | 平成23年度 | | 平成22年度 | | 平成21年度 | | 平成20年度 | | 平成19年度 | |
|--------------|--------|------------|--------|------------|--------|------------|--------|------------|--------|------------|
| | 件数(件) | 金額(円) | 件数(件) | 金額(円) | 件数(件) | 金額(円) | 件数(件) | 金額(円) | 件数(件) | 金額(円) |
| 受託研究 | 7 | 10,003,660 | 4 | 9,051,351 | 7 | 16,587,327 | 1 | 8,000,000 | 5 | 15,340,000 |
| 共同研究 | 8 | 2,281,700 | 5 | 1,150,000 | 9 | 2,609,000 | 8 | 5,005,925 | 7 | 2,512,250 |
| 寄附金 | 11 | 21,480,000 | 19 | 12,942,924 | 14 | 12,799,500 | 33 | 13,812,418 | 24 | 14,744,097 |
| 受託事業等 | 3 | 14,185,693 | 1 | 12,000,000 | 1 | 13,000,000 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 科学研究費(分担金含む) | 13 | 13,050,000 | 12 | 11,020,000 | 10 | 7,000,000 | 10 | 7,400,000 | 11 | 15,300,000 |
| その他補助金 | 0 | 0 | 2 | 10,042,632 | 2 | 11,355,540 | 1 | 5,892,347 | 0 | 0 |
| 計 | 42 | 61,001,053 | 43 | 56,206,907 | 43 | 63,351,367 | 53 | 40,110,690 | 47 | 47,896,347 |

(出典 総務課財務企画係資料)

観点10-2-①： 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

設備整備マスタープラン、営繕要求に関しては、3年間の計画を立案している。また独立行政法人国立高等専門学校機構本部においても、中期計画(5カ年)を策定している。また学内では収支計画は機構本部から示される当初予算に基づき、運営委員会で年間を通じての予算配分の考え方及び配分額について審議し決定している。また、年度中に緊急に必要となる経費については、校長はその必要性を勘案し、校長裁量経費にて執行する体制を整備している(資料10-2-①-1)。このように決定した学内予算配分は、教員にメールで連絡し、さらに学内ネットワーク掲示板で周知を図っている。さらに、限られた資源の中で、より有効な教育研究が実施できるように競争原理を取り入れた「教育研究活性費」、「教育研究奨励助成」及び「戦略的研究助成」の制度を整備し、効果的に運用している。これらの予算についても運営委員会で公表して全構成員に予算をオープンにしている(資料10-2-①-2)。

(分析結果とその根拠理由)

適切な収支に係る計画としての予算を策定している。さらに、限られた資源の中で、より有効な教育研究が実施できるように「教育研究活性費」、 「教育研究奨励助成」及び「戦略的研究助成」のしくみを導入し、競争的環境の整備もしている。また、運営委員会での公表とともに全構成員に予算をオープンにしている。よって適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されている。

資料 10-2-①-1

校長裁量経費

平成22年9月8日
校長 裁定

校長裁量経費について

校長裁量経費は、本校の教育・研究活動の活性化や国際交流の推進など、本校の一層の発展に資するための戦略的・重点的な経費とし、下記の事項について配分するものとする。配分した経費は、臨時経費の配分と併せて、本校掲示板に掲載して周知するものとする。

記

1. 入学者の確保に関する取組
2. 教育力の向上及び教育の質の向上への取組の推進
3. 学生支援・生活支援の充実
4. 教育環境の整備のための施設・設備等の整備
5. 研究活動の活性化
6. 社会との連携や国際交流の推進
7. その他、校長が必要と認めた事項

以上

(出典 平成22年度第17回運営委員会資料)

資料 10-2-①-2

第6回運営委員会議事概要

- 1 日時 平成23年6月1日(水) 9:30~10:55
- 2 場所 特別会議室
- 3 出席者 堀江 振一郎(校長) 大久保俊治(副校長) 徳永富士夫(事務部長)
山川文徳(教務主事) 福田 匡(学生主事) 野村英作(寮務主事)
藤本 晶(専攻科長) 北澤雅之(知能機械工学科主任) 佐久間敏幸(電気情報工学科主任)
米光 裕(物質工学科主任) 辻原 治(環境都市工学科主任) 宮本克之(一般科科主任)
中本純次(機械制御センター長) 森川 寿(メディアセンター長) 山口利幸(技術支援室長)
- (陪席者) 平井良昌(総務課長) 坂本義孝(総務課長補佐) 黒田茂友(総務課長補佐)
森川 潔(学生課長) 窪田 仁(学生課長補佐) 真田 順(技術支援室技術長)
吉野真一(総務・企画係長)

4 議事

(1) 平成23年度学内予算配分について

副校長及び総務課長補佐(財務担当)から、資料1及び資料1(参考資料)に基づき、平成23年度学内予算配分について説明があり、昨年度からの主な変更点として、各科配分を行う教育研究費において旅費を分けないこととなったこと、及び人件費は機構本部で対応するため予算項目から無くなった旨、併せて説明があり、審議の結果承認された。

(出典 平成23年度第6回運営委員会議事概要)

観点10-2-②： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点に係る状況)

平成23年度の決算（資料10-2-②-1）および損益計算（資料10-2-②-2～6）において収入と支出は均衡しており、支出超過とはなっていない。校長は本校としての支出の必要性を企画会議に諮問するなどして、その緊急性、重要度を常に把握し、予算の範囲内で、適切な支出を確保している。

(分析結果とその根拠理由)

平成23年度の決算および損益計算において、収入と支出は均衡している。また校長が予算の範囲内で、適切な支出を確保しており、過大な支出超過となっていない。

資料10-2-②-1

平成23年度決算書

平成23年度

| 収入 | 決算額 | 支出 | 決算額 |
|-----------|-------------|-----------|--------------|
| 運営費交付金 | 157,447,955 | 業務費 | 394,192,337 |
| 自己収入 | 232,961,360 | 教育研究経費 | 304,295,316 |
| 授業料収入 | 197,342,650 | 一般管理費 | 89,897,021 |
| 入学金収入 | 15,312,600 | (内 人件費) | (54,895,991) |
| 検定料収入 | 5,636,300 | | |
| 雑収入 | 14,669,810 | 産学連携等研究経費 | 23,223,735 |
| 産学連携等研究収入 | 28,886,053 | 寄附金事業費 | 12,186,036 |
| 寄附金収入 | 21,480,000 | その他補助金 | 0 |
| その他補助金 | 0 | 施設整備費 | 0 |
| 施設整備費補助金 | 0 | | |
| 施設費交付事業費 | 0 | | |
| 計 | 440,775,368 | 計 | 429,602,108 |

本部提出「決算報告書」より

資料 10-2-②-2

損益計算書（その1）

平成19年度～平成23年度 損益計算書

(単位:円)

| 勘定科目表示名称 | 平成19年度
明細金額 | 平成20年度
明細金額 | 平成21年度
明細金額 | 平成22年度
明細金額 | 平成23年度
明細金額 |
|------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 〔経常費用〕 | 1,346,618,300 | 1,464,964,172 | 1,418,322,589 | 1,216,629,711 | 428,130,374 |
| 業務費 | 1,244,102,197 | 1,377,373,903 | 1,328,039,521 | 1,130,225,309 | 337,975,309 |
| 教育・研究経費 | 253,228,655 | 282,163,555 | 372,720,304 | 235,058,537 | 240,450,584 |
| 消耗品費 | 70,096,995 | 85,152,807 | 100,536,387 | 60,551,480 | 54,747,053 |
| 備品費 | 23,219,852 | 26,928,356 | 41,703,188 | 7,071,770 | 17,939,811 |
| 印刷製本費 | 5,261,294 | 5,054,263 | 4,457,244 | 4,143,958 | 4,777,833 |
| 水道光熱費 | 17,178,048 | 23,695,173 | 22,210,217 | 29,974,640 | 26,733,314 |
| 電気料 | 13,959,174 | 18,415,169 | 16,613,345 | 18,756,949 | 19,378,205 |
| ガス料 | 998,204 | 2,323,679 | 2,237,353 | 5,439,483 | 4,691,301 |
| 水道料 | 2,220,670 | 2,956,325 | 3,359,519 | 5,778,208 | 2,663,808 |
| 旅費交通費 | 29,550,082 | 24,667,609 | 20,539,617 | 25,461,997 | 25,766,522 |
| 通信運搬費 | 4,259,100 | 4,994,036 | 5,631,018 | 5,938,605 | 5,894,880 |
| 賃借料 | 2,161,830 | 1,475,464 | 2,430,359 | 2,928,429 | 700,982 |
| 車両燃料費 | 79,741 | 58,341 | 77,177 | 66,290 | 67,862 |
| 福利厚生費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 保守費 | 6,986,174 | 10,251,154 | 11,335,246 | 9,484,746 | 10,641,861 |
| 修繕費 | 39,009,930 | 39,579,328 | 99,105,784 | 20,471,697 | 20,936,445 |
| 損害保険料 | 9,900 | 203,900 | 157,250 | 133,980 | 0 |
| 広告宣伝費 | 112,980 | 21,000 | 157,500 | 21,000 | 219,870 |
| 行事費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 諸会費 | 526,439 | 1,442,263 | 1,022,019 | 871,392 | 912,529 |
| 会議費 | 77,520 | 202,475 | 257,300 | 245,239 | 274,325 |
| 報酬・委託・手数料 | | | 8,084,700 | 9,621,394 | 6,943,520 |
| 委託調査研究費 | 0 | 0 | 0 | 1,345,000 | 0 |
| 文献複写費 | 11,481 | 12,985 | 0 | 0 | 15 |
| 支払派遣費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| プログラム開発費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 業務委託費 | 4,668,213 | 6,054,216 | 6,225,864 | 4,328,571 | 3,259,447 |
| 支払報酬・諸謝金 | 1,270,502 | 1,433,908 | 1,858,836 | 3,822,823 | 2,371,558 |
| 支払手数料 | | | 0 | 125,000 | 1,312,500 |
| 奨学費 | 13,665,450 | 13,750,050 | 14,414,400 | 7,708,650 | 8,308,800 |
| 奨学交付金(授業料) | 13,665,450 | 13,665,450 | 14,076,000 | 7,370,250 | 7,989,000 |
| 奨学交付金(入学金) | 0 | 84,600 | 338,400 | 338,400 | 253,800 |
| 奨学交付金(検定料) | | | 0 | 0 | 66,000 |
| 奨学交付金(その他) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 留学生給与 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 減価償却費 | 21,693,534 | 24,528,527 | 26,612,975 | 44,706,913 | 50,458,568 |
| 貸倒損失 | 0 | 0 | 0 | 0 | 19,550 |
| 貸倒引当金繰入額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 徴収不能引当金繰入額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 雑費 | 13,389,590 | 12,657,700 | 13,987,923 | 5,656,357 | 5,106,859 |
| 備給料 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特許出願費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 環境整備費 | 0 | 4,441,732 | 1,399,018 | 3,290,793 | 3,601,206 |
| 移設撤去費 | 11,416,332 | 7,057,648 | 12,188,505 | 1,069,490 | 422,952 |
| 損害賠償費 | 0 | 0 | 0 | 671,234 | 528,707 |
| 雑役務費 | 1,973,258 | 1,158,320 | 400,400 | 624,840 | 553,994 |
| 教育研究支援経費 | 25,441,194 | 18,611,068 | 22,022,760 | 19,019,463 | 19,617,633 |
| 消耗品費 | 10,861,668 | 4,484,123 | 6,030,583 | 5,414,960 | 5,674,155 |
| 備品費 | 0 | 936,600 | 2,131,500 | 1,061,550 | 666,750 |
| 印刷製本費 | 470,852 | 457,813 | 334,129 | 467,579 | 419,286 |
| 水道光熱費 | 1,840,385 | 1,150,559 | 1,058,851 | 1,379,200 | 1,160,400 |
| 電気料 | 1,527,439 | 902,503 | 819,359 | 892,656 | 841,892 |
| ガス料 | 97,040 | 108,669 | 95,407 | 235,509 | 202,774 |
| 水道料 | 215,906 | 139,387 | 144,085 | 251,035 | 115,734 |
| 旅費交通費 | 461,690 | 181,420 | 174,970 | 363,860 | 271,280 |
| 通信運搬費 | 361,727 | 203,611 | 223,858 | 232,313 | 219,491 |
| 賃借料 | 8,664,026 | 8,575,854 | 8,512,854 | 7,827,592 | 7,825,744 |
| 車両燃料費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 福利厚生費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 保守費 | 282,265 | 231,664 | 219,812 | 135,541 | 204,385 |
| 修繕費 | 1,068,395 | 1,035,510 | 1,887,270 | 380,184 | 1,782,395 |
| 損害保険料 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 広告宣伝費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 行事費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 諸会費 | 14,000 | 14,000 | 10,000 | 12,000 | 27,475 |
| 会議費 | 232,050 | 0 | 0 | 2,100 | 7,500 |
| 報酬・委託・手数料 | | | 261,900 | 287,100 | 123,600 |
| 支払派遣費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| プログラム開発費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 業務委託費 | 0 | 0 | 207,900 | 94,500 | 0 |
| 支払報酬・諸謝金 | 84,000 | 60,000 | 54,000 | 192,600 | 123,600 |

資料 10-2-②-3

損益計算書 (その2)

| 勘定科目表示名称 | (単位:円) | | | | |
|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | 平成19年度
明細金額 | 平成20年度
明細金額 | 平成21年度
明細金額 | 平成22年度
明細金額 | 平成23年度
明細金額 |
| 支払手数料 | | | 0 | 0 | 0 |
| 減価償却費 | 1,006,890 | 1,091,866 | 1,127,733 | 1,322,551 | 1,086,840 |
| 貸倒損失 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 貸倒引当金繰入額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 徴収不能引当金繰入額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 雑費 | 93,246 | 188,048 | 49,300 | 132,933 | 148,332 |
| 環境整備費 | 0 | 188,048 | 49,300 | 132,933 | 148,332 |
| 移設撤去費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 損害賠償費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 雑務費 | 93,246 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 受託研究費 | 15,339,997 | 7,999,999 | 16,587,324 | 6,954,401 | 8,202,226 |
| 国又は地方公共団体 | 1,300,000 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 謝金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 旅費交通費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 人件費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 物件費 | 1,227,300 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 減価償却費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 租税公課 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他の受託研究費 | 72,700 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 14,039,997 | 7,999,999 | 16,587,324 | 6,954,401 | 8,202,226 |
| 謝金 | 7,182 | 0 | 347,660 | 86,000 | 60,000 |
| 旅費交通費 | 1,136,230 | 204,220 | 662,460 | 234,720 | 404,780 |
| 人件費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 物件費 | 5,572,897 | 3,603,508 | 11,375,277 | 6,396,803 | 7,734,446 |
| 減価償却費 | 5,617,497 | 3,464,999 | 2,874,372 | 232,578 | 0 |
| 租税公課 | 15,021 | 0 | 17,383 | 4,300 | 3,000 |
| その他の受託研究費 | 1,691,170 | 727,272 | 1,310,172 | 0 | 0 |
| 共同研究費 | 2,512,250 | 5,005,925 | 2,609,000 | 1,150,000 | 1,714,091 |
| 国又は地方公共団体 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 謝金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 旅費交通費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 人件費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 物件費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 減価償却費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 租税公課 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他の共同研究費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 2,512,250 | 5,005,925 | 2,609,000 | 1,150,000 | 1,714,091 |
| 謝金 | 0 | 117,000 | 110,080 | 0 | 0 |
| 旅費交通費 | 688,170 | 1,218,080 | 583,300 | 147,640 | 267,910 |
| 人件費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 物件費 | 1,824,080 | 3,539,991 | 1,846,906 | 1,002,360 | 1,363,490 |
| 減価償却費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 租税公課 | 0 | 26,344 | 5,504 | 0 | 7,165 |
| その他の共同研究費 | 0 | 104,510 | 63,210 | 0 | 75,526 |
| 受託事業費 | 0 | 0 | 13,000,000 | 12,000,000 | 13,094,784 |
| 国又は地方公共団体 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,156,293 |
| 謝金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 旅費交通費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 176,060 |
| 人件費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,636,423 |
| 物件費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 219,988 |
| 減価償却費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 租税公課 | 0 | 0 | 0 | 0 | 78,571 |
| その他の受託事業費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 45,251 |
| その他 | 0 | 0 | 13,000,000 | 12,000,000 | 10,938,491 |
| 謝金 | 0 | 0 | 481,810 | 400,240 | 462,760 |
| 旅費交通費 | 0 | 0 | 772,440 | 394,560 | 453,580 |
| 人件費 | 0 | 0 | 3,843,779 | 5,240,190 | 5,381,227 |
| 物件費 | 0 | 0 | 3,512,163 | 2,887,066 | 1,505,657 |
| 減価償却費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 租税公課 | 0 | 0 | 198,656 | 266,388 | 274,027 |
| その他の受託事業費 | 0 | 0 | 4,191,152 | 2,811,556 | 2,861,240 |
| 教員人件費 | 609,320,466 | 623,435,884 | 604,687,398 | 571,831,141 | 21,172,900 |
| 常勤教員給与 | 584,860,261 | 600,543,897 | 578,925,569 | 548,171,083 | 0 |
| 常勤教員給与 | 385,017,391 | 376,078,596 | 370,427,470 | 365,563,856 | 0 |
| 常勤教員賞与 | 151,442,575 | 148,099,890 | 134,786,079 | 125,762,896 | 0 |
| 常勤教員賞与引当金繰入額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 常勤教員退職給付費用 | 41,118,984 | 69,292,001 | 68,653,329 | 50,668,268 | 0 |
| 常勤教員法定福利費 | 7,281,311 | 7,073,410 | 5,058,691 | 6,176,063 | 0 |
| 非常勤教員給与 | 24,460,205 | 22,891,987 | 25,761,829 | 23,660,058 | 21,172,900 |
| 非常勤教員給与 | 23,947,160 | 22,312,180 | 25,464,980 | 23,387,608 | 21,172,900 |
| 非常勤教員賞与 | 243,858 | 365,787 | 228,068 | 203,948 | 0 |
| 非常勤教員賞与引当金繰入額 | 165,924 | 114,182 | 0 | 0 | 0 |
| 非常勤教員退職給付費用 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 非常勤教員法定福利費 | 103,263 | 99,838 | 68,781 | 68,502 | 0 |

資料 10-2-②-4

損益計算書 (その3)

| 勘定科目表示名称 | (単位:円) | | | | |
|-----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | 平成19年度
明細金額 | 平成20年度
明細金額 | 平成21年度
明細金額 | 平成22年度
明細金額 | 平成23年度
明細金額 |
| 職員人件費 | 338,259,635 | 440,157,472 | 296,412,735 | 284,211,767 | 33,723,091 |
| 役員報酬 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 役員報酬 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 役員賞与 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 役員賞与引当金繰入額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 役員退職給付費用 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 役員法定福利費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 常勤職員給与 | 315,401,430 | 406,161,010 | 263,109,393 | 246,374,552 | 0 |
| 常勤職員給与 | 193,747,654 | 191,995,618 | 183,097,321 | 181,390,623 | 0 |
| 常勤職員賞与 | 65,322,914 | 63,364,507 | 54,044,386 | 50,965,619 | 0 |
| 常勤職員賞与引当金繰入額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 常勤職員退職給付費用 | 52,849,035 | 147,346,366 | 23,596,464 | 10,635,144 | 0 |
| 常勤職員法定福利費 | 3,481,827 | 3,454,519 | 2,371,222 | 3,383,166 | 0 |
| 非常勤職員給与 | 22,858,205 | 33,996,462 | 33,303,342 | 37,837,215 | 33,723,091 |
| 非常勤職員給与 | 19,935,552 | 28,525,290 | 29,091,245 | 32,479,222 | 32,194,992 |
| 非常勤職員賞与 | 569,194 | 1,727,141 | 1,042,396 | 1,407,816 | 1,526,576 |
| 非常勤職員賞与引当金繰入額 | 394,391 | 550,634 | 498,430 | 0 | 0 |
| 非常勤職員退職給付費用 | 0 | 192,663 | 0 | 238,980 | 0 |
| 非常勤職員退職給付引当金繰入額 | 65,030 | 116,880 | 116,820 | 0 | 0 |
| 非常勤職員法定福利費 | 1,894,038 | 2,883,854 | 2,554,451 | 3,711,197 | 1,523 |
| 一般管理費 | 102,516,103 | 87,590,269 | 90,283,068 | 86,404,402 | 90,154,680 |
| 一般管理費 | 102,516,103 | 87,590,269 | 90,283,068 | 86,404,402 | 90,154,680 |
| 消耗品費 | 10,959,194 | 7,064,374 | 8,086,959 | 8,564,750 | 9,294,416 |
| 備品費 | 3,915,745 | 747,285 | 521,850 | 0 | 777,000 |
| 印刷製本費 | 4,701,837 | 2,446,342 | 2,964,512 | 2,851,054 | 3,485,752 |
| 水道光熱費 | 5,521,103 | 4,723,281 | 2,042,614 | 2,604,711 | 2,191,479 |
| 電気料 | 4,582,287 | 3,704,974 | 1,598,783 | 1,685,849 | 1,589,970 |
| ガス料 | 291,134 | 446,132 | 165,905 | 444,785 | 382,963 |
| 水道料 | 647,682 | 572,175 | 277,926 | 474,077 | 218,546 |
| 旅費交通費 | 7,087,952 | 8,964,458 | 8,214,791 | 9,018,079 | 7,935,982 |
| 通信運搬費 | 2,135,252 | 1,465,951 | 888,230 | 1,369,258 | 859,513 |
| 賃借料 | 34,467,314 | 32,808,239 | 31,517,224 | 30,961,878 | 29,381,487 |
| 車両燃料費 | 576,731 | 624,935 | 434,882 | 625,782 | 598,396 |
| 福利厚生費 | 1,017,183 | 1,299,230 | 1,055,904 | 1,171,040 | 1,605,504 |
| 保守費 | 6,529,776 | 7,547,119 | 8,091,940 | 9,912,723 | 10,172,394 |
| 修繕費 | 5,741,321 | 6,074,167 | 7,640,260 | 3,959,889 | 10,168,821 |
| 損害保険料 | 280,051 | 62,926 | 54,238 | 49,836 | 49,413 |
| 広告宣伝費 | 1,552,000 | 1,163,400 | 614,716 | 325,348 | 207,091 |
| 行事費 | 110,300 | 93,500 | 41,500 | 118,750 | 88,500 |
| 諸会費 | 1,058,785 | 979,000 | 629,000 | 797,900 | 737,300 |
| 会議費 | 184,158 | 10,070 | 45,100 | 189,187 | 63,790 |
| 報酬・委託・手数料 | | | 5,085,290 | 6,757,984 | 5,210,826 |
| 委託調査研究費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 支払派遣費 | 1,659,120 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| プログラム開発費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 業務委託費 | 3,519,640 | 4,334,773 | 4,624,035 | 6,477,662 | 4,960,665 |
| 諸謝金 | 464,000 | 364,460 | 382,400 | 190,000 | 190,000 |
| その他報酬 | | | 0 | 26,250 | 10,500 |
| 支払手数料・銀行手数料 | 122,115 | 24,568 | 58,435 | 38,602 | 29,661 |
| 支払手数料・その他手数料 | 21,575 | 20,000 | 20,420 | 25,470 | 20,000 |
| 租税公課 | 1,549,050 | 1,551,050 | 1,529,220 | 1,515,020 | 1,560,100 |
| 自動車重量税 | 132,900 | 132,900 | 132,900 | 108,200 | 122,500 |
| 固定資産税 | 1,410,850 | 1,410,850 | 1,390,020 | 1,390,020 | 1,427,400 |
| 収入印紙代 | 5,300 | 7,300 | 6,300 | 16,800 | 10,200 |
| 消費税等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他の租税公課 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 減価償却費 | 1,149,307 | 1,358,371 | 1,358,371 | 1,352,946 | 1,318,821 |
| 貸倒損失 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 貸倒引当金繰入額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 徴収不能引当金繰入額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 雑費 | 8,192,594 | 3,862,770 | 9,466,467 | 4,258,267 | 4,448,095 |
| 環境整備費 | 4,470,855 | 2,749,060 | 7,437,694 | 3,724,218 | 3,941,932 |
| 移設撤去費 | 3,058,944 | 840 | 315 | 0 | 63,850 |
| 雑役務費 | 662,795 | 1,112,870 | 2,028,458 | 534,049 | 442,313 |
| 財務費用 | 0 | 0 | 0 | 0 | 385 |
| 財務費用 | 0 | 0 | 0 | 0 | 385 |
| 支払利息 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他の財務費用 | 0 | 0 | 0 | 0 | 385 |
| 雑損 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 雑損 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [経常費用]合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [経常収益] | 1,359,351,865 | 1,469,313,685 | 1,436,375,170 | 1,215,007,458 | 424,918,760 |
| [経常収益]運営費交付金収益 | 1,034,919,744 | 1,175,843,491 | 1,045,629,018 | 896,481,676 | 101,619,394 |
| [経常収益]授業料収益 | 189,526,244 | 188,940,533 | 187,078,588 | 189,362,369 | 196,009,263 |

資料 10-2-②-5

損益計算書 (その4)

(単位:円)

| 勘定科目表示名称 | 平成19年度
明細金額 | 平成20年度
明細金額 | 平成21年度
明細金額 | 平成22年度
明細金額 | 平成23年度
明細金額 |
|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| [授業料収益] 授業料収益 | 189,379,244 | 188,793,533 | 186,918,988 | 189,202,769 | 195,874,863 |
| [授業料収益] 講習料収益 | 147,000 | 147,000 | 159,600 | 159,600 | 134,400 |
| [経常収益] 入学金収益 | 16,666,200 | 16,497,000 | 16,860,500 | 16,606,700 | 15,904,800 |
| [経常収益] 検定料収益 | 5,412,000 | 5,560,500 | 6,027,400 | 5,400,400 | 5,702,300 |
| [経常収益] 受託研究等収益 | 17,852,250 | 13,005,925 | 19,196,327 | 10,201,351 | 11,154,114 |
| 受託研究収益 | 15,340,000 | 8,000,000 | 16,587,327 | 9,051,351 | 9,349,114 |
| 国又は地方公共団体 | 1,300,000 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 14,040,000 | 8,000,000 | 16,587,327 | 9,051,351 | 9,349,114 |
| 共同研究収益 | 2,512,250 | 5,005,925 | 2,609,000 | 1,150,000 | 1,805,000 |
| 国又は地方公共団体 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 2,512,250 | 5,005,925 | 2,609,000 | 1,150,000 | 1,805,000 |
| [経常収益] 受託事業等収益 | 0 | 0 | 13,000,000 | 12,000,000 | 14,185,693 |
| 国又は地方公共団体 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,156,293 |
| その他 | 0 | 0 | 13,000,000 | 12,000,000 | 12,029,400 |
| [経常収益] 補助金等収益 | 0 | 2,185,847 | 44,173,084 | 9,463,504 | 0 |
| [経常収益] 寄附金収益 | 16,288,842 | 12,445,464 | 12,610,680 | 14,454,467 | 14,969,971 |
| [経常収益] 施設費収益 | 34,311,568 | 11,902,362 | 50,862,184 | 0 | 0 |
| [経常収益] 資産見返負債戻入 | 23,111,266 | 25,754,150 | 27,874,465 | 44,341,296 | 48,845,335 |
| 資産見返運営費交付金等戻入 | 11,732,331 | 15,072,628 | 20,031,384 | 27,298,579 | 33,151,418 |
| 資産見返運営費交付金戻入 | 9,257,751 | 10,853,416 | 14,172,595 | 18,711,593 | 22,315,923 |
| 資産見返授業料戻入 | 2,474,580 | 4,219,212 | 5,858,789 | 8,586,986 | 10,835,495 |
| 資産見返補助金等戻入 | 0 | 39,288 | 2,449,568 | 11,882,039 | 11,959,256 |
| 資産見返寄附金戻入 | 1,313,583 | 1,922,240 | 1,922,240 | 2,298,078 | 1,492,505 |
| 資産見返物品受贈額戻入 | 10,065,352 | 8,719,994 | 3,471,273 | 2,862,600 | 2,242,156 |
| 特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特許権仮勘定見返運営費交付金戻入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特許権仮勘定見返授業料戻入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特許権仮勘定見返補助金等戻入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特許権仮勘定見返寄附金戻入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [経常収益] 財務収益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 受取利息 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 有価証券利息 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他の財務収益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [経常収益] 雑益 | 21,263,751 | 17,178,413 | 13,062,924 | 16,695,695 | 16,527,890 |
| 財産貸付料収入 | 12,595,186 | 11,968,778 | 11,413,339 | 11,692,282 | 10,903,863 |
| 寄宿料収入 | | | 4,539,200 | 4,567,700 | 4,566,900 |
| 職員宿舍貸付料収入 | | | 6,488,936 | 6,630,066 | 5,869,226 |
| 学校財産貸付料収入 | | | 385,203 | 494,516 | 467,737 |
| 文献複写料 | 9,065 | 1,170 | 1,585 | 685 | 1,599 |
| 物品受贈益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 債権受贈益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 承継剰余金債務戻入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 間接経費収入 | 2,040,000 | 1,530,000 | 1,500,000 | 2,106,000 | 2,415,000 |
| 科学研究費補助金等間接経費収入 | | | 1,500,000 | 2,106,000 | 2,415,000 |
| 補助金等間接経費収入 | | | 0 | 0 | 0 |
| 刊行物売払代 | | | 0 | 0 | 0 |
| 不用物品売払代 | | | 0 | 0 | 136,840 |
| 弁償及び違約金 | | | 0 | 0 | 0 |
| 受取保険料 | | | 0 | 0 | 1,470,588 |
| 版權及び特許権等収入 | | | 0 | 0 | 0 |
| 助成金等収入 | | | 0 | 0 | 1,600,000 |
| その他の雑益 | 6,619,500 | 3,678,465 | 148,000 | 2,896,728 | 0 |
| [経常収益] 合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 経常利益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [臨時損失] | -7,197,296 | -5,596,542 | -18,974,226 | 12,338 | 18,301 |
| [臨時損失] 固定資産除却損 | 7,197,296 | 5,596,542 | 18,974,226 | 1 | 18,301 |
| 固定資産除却損(固定資産簿価) | | | 1 | 1 | 2 |
| 固定資産除却損(躯体撤去費) | | | 18,974,225 | 0 | 18,299 |
| [臨時損失] 固定資産売却損 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [臨時損失] 災害損失 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [臨時損失] 減損損失 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [臨時損失] 国庫納付金 | | | | | 0 |
| [臨時損失] その他の臨時損失 | 0 | 0 | 0 | 12,337 | 0 |
| [臨時損失] 合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [臨時利益] | 7 | 9,290 | 1 | 5,803,007 | 2,393,457 |
| [臨時利益] 固定資産売却益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [臨時利益] 貸倒引当金戻入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [臨時利益] 徴収不能引当金戻入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [臨時利益] 退職給付引当金戻入 | 0 | 9,290 | 0 | 344,760 | 0 |
| [臨時利益] 資産見返負債戻入 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 資産見返運営費交付金等戻入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 資産見返運営費交付金戻入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 資産見返授業料戻入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 資産見返補助金等戻入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

資料 10-2-②-6

損益計算書（その5）

| 勘定科目表示名称 | (単位:円) | | | | |
|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | 平成19年度
明細金額 | 平成20年度
明細金額 | 平成21年度
明細金額 | 平成22年度
明細金額 | 平成23年度
明細金額 |
| 資産見返寄附金戻入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 資産見返物品受贈額戻入 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 |
| [臨時利益]その他引当金戻入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [臨時利益]運営費交付金収益 | | | | | 0 |
| [臨時利益]授業料収益 | | | | | 0 |
| [臨時利益]補助金等収益 | | | | | 0 |
| [臨時利益]施設費収益 | | | | | 0 |
| [臨時利益]その他の臨時利益 | 7 | 0 | 0 | 5,458,246 | 2,393,455 |
| [臨時利益]合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [当期純利益(純損失)] | 5,536,276 | -1,237,739 | -921,644 | 4,168,416 | -836,458 |
| [前中期目標期間繰越積立金取崩額] | | | 0 | 0 | 0 |
| [目的積立金取崩額] | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| [当期総利益(総損失)] | 5,536,276 | -1,237,739 | -921,644 | 4,168,416 | -836,458 |

財務会計システム「損益計算書(報告式)」より

観点10-2-③： 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

（観点到係る状況）

競争的環境の創出として、教育研究活動を支援するため、基本経費で配分するとともに、各学科等の教育充実のため運営委員会で選考する「教育研究活性費」と、各教員の研究を奨励するため地域共同テクノセンター委員と運営委員会委員で選考する「教育研究奨励助成」という経費を設けて資源配分を行っている。また平成17年度から優れた教育方法の試行を支援する「教育奨励費」制度を導入している。

平成23年度は、全国的に台風、地震といった災害に見舞われたため、本校においても老朽建物のメンテナンスを踏まえつつ、狭隘教室の解消等、教育活動の効率化のための経費を配分している。

（分析結果とその根拠理由）

資源配分についての考え方や仕組みは、運営委員会で審議しており、その中で教育研究費に競争原理を導入し適切に配分している。また、概算要求による大型改修が必要な施設を多数保有しているが、その中で効率的な施設メンテナンスにも努めている。よって適切に資源配分していると判断する。

観点10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点到係る状況）

国立の時代には、歳入及び歳出の決算書を作成していたが、公表はしていなかった。独立行政法人化後の財務諸表は、学校要覧及びホームページで適切に公表している（資料10-3-①-1）。

(分析結果とその根拠理由)

独立行政法人となった平成16年度以降の決算については、財務諸表を学校要覧及びホームページに掲載し、適切な形で公表している。

観点10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

(観点に係る状況)

本校は国立時代より会計法令等にとつた、適正な執行を図るべく、内部監査を実施してきた。平成19年度までは近畿地区国立高専相互会計監査を、平成20年度以降は機構全体としての高専相互会計内部監査を実施している(資料10-3-②-1)。科学研究費補助金に係る内部監査についても毎年実施している(資料10-3-②-2)。また、平成21年度は会計検査院による実地検査(資料10-3-②-3)、平成22年度は会計監査人による外部監査(資料10-3-②-4)、平成23年度は監事監査が実施されている(資料10-3-②-5)。なお、機構本部として全国の高専の財務データをとりまとめ、財務諸表、事業報告書及び決算報告書に基づく会計監査人監査を受けている。

(分析結果とその根拠理由)

本校において高専相互会計内部監査、科学研究費補助金内部監査、会計検査院実地検査、監事監査及び会計監査人監査が実施されている。また、決算についての会計監査人監査は機構本部が受けており、本校は適切な決算手続きを行い、

資料 10-3-①-1

学校ホームページ公表の財務諸表



(出典 本校ホームページ)

(出典 学校ホームページ)

資料 10-3-②-1

高専相互会計内部監査

23高機財第68号
平成23年 9月30日

各国立高等専門学校長 殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
理事長 林 勇 二郎

平成23年度 高専相互会計内部監査の実施について (通知)

このことについて、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第45条及び独立行政法人国立高等専門学校機構における研究費等の管理・監査の実施方針第11の2に基づき、別紙のとおり実施しますのでご協力願います。
なお、監査の実施に関し必要な事項については、機構本部事務局財務課より担当者へ別途通知します。

(出典 機構本部からの通知文書)

本部と連絡を密にして対応している。

(2) 優れた点及び改善を要する点
(優れた点)

資源配分については、国立の時代から進めてきている競争的環境の創出として、教育研究費における「教育研究活性費」及び「研究奨励費」を充実させている。さらに平成17年度には「教育奨励費」制度も新たに設けている。

また、校長のリーダーシップをより明確にするため、平成22年度に校長裁量経費の用途を定め、教育や研究活動等に配分することとし、臨時経費要求書により校長が経費の必要性等を判断している。

(改善を要する点)

外部資金の確保はより一層拡大する必要がある。

資料 10-3-②-2

科学研究費補助金内部監査

平成23年9月22日

平成22年度科学研究費補助金受給者 各位

事務部長

科学研究費補助金内部監査の実施について

このことについて、下記のとおり実施しますのでお知らせします。
つきましては、貴殿の平成22年度科学研究費補助金で購入した物品の使用状況の把握、旅行及び謝金等の実施確認のため資料の提示を求めることがありますのでご協力をお願いします。

記

実施日時 平成23年10月24日(月) 9時～15時
実施場所 会議室

以上

(出典 総務課財務企画係資料)

資料 10-3-②-3

会計検査院による実地検査

和歌山工業高等専門学校会計実地検査日程表(平成21年7月22～23日)

第4局文部科学検査第2課

| | 7月22日(水) | 7月23日(木) | 7月24日(金) | 備 考 |
|------|------------------|-------------|----------|--|
| 総括副長 | 和歌山工業高等専門学校
A | 和歌山工業高等専門学校 | / | |
| 調査官 | 和歌山工業高等専門学校
A | 和歌山工業高等専門学校 | / | |
| | | | | [連絡先]
和歌山工業高等専門学校
玉木 様
TEL 0738-29-8211 |

(出典 総務課資料)

(3) 基準10の自己評価の概要

平成16年度以降，国立高等専門学校においては独立行政法人化され，独立行政法人としての財務は，従来の国の会計処理から大きな転換が図られている．国立高等専門学校の独立行政法人化は国立の高等専門学校として行ってきた事業をより効率的に実施できるようにするための改革であり，国立の時代の資産は確実に承継され，かつ，予算的な裏づけもある．本校においても財務諸表上安定した財務基盤となっている．さらに資源配分については，競争的資金として「教育研究活性費」，「研究奨励費」を整備している．また平成17年度からは優れた教育の支援のための「教育奨励費」制度も整備している．財務に係る監査については，高専相互会計内部監査等を実施し，決算時においては各校で適正な決算手続きを行った後，機構本部が会計監査人による外部監査を受けている．

資料 10-3-②-4

会計監査人による外部監査

事務連絡
平成22年12月24日和歌山工業高等専門学校
事務部長 殿国立高等専門学校機構本部事務局
財務課長 飯田 雄介

会計監査人の監査について

今般，平成22年度会計監査人として有限責任監査法人トーマツが文部科学大臣から選任されました。独立行政法人通則法第39条の規定に基づき会計監査人の監査を受けるにあたって，有限責任監査法人トーマツから監査計画について連絡がありましたので，下記のとおり通知します。

会計監査人の監査は，従来のいわゆる監査とは異なり，会計経理等について指摘を目的とするものではなく，適正な財務諸表等を作成するための指導的な意味合いのものであります。この点にご留意いただくとともに，日頃の疑問点の解決の場とする等積極的な対応をお願いします。

なお，日程は変更される場合もありますのでご了承ください。

また，詳細な日程及び準備資料等については，追ってご連絡いたします。

記

平成23年1月17日(月)～19日(木)

(出典 機構本部からの通知文書)

資料 10-3-②-5

監事監査

平成23年 8月 5日
事務連絡

和歌山工業高等専門学校事務部長 殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
監査室長 宮倉 尚之

平成23年度監事監査(内部監査)実施時期の変更について(通知)

平成23年度監事監査(内部監査)について，下記のとおり監査の実施時期を変更しますのでお知らせします。

なお，情報セキュリティ監査についても同じく変更いたします。

記

監査実施時期 平成23年 9月 7日(水)～ 9月 9日(金)

(通知した監査の実施時期 平成23年7月20日～ 7月22日)

(出典 機構本部からの通知文書)

基準11 管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点到係る状況)

高等専門学校では、校長は学校運営のすべての責任を負っており、本校でも学内のすべての委員会等の決定には、校長の同意が必須となっている等、すべての決定権を校長が持っていることが明確になっている。校長を補佐するために校長が指名した副校長を配置している。実務に関しては、教務、学生、寮務の各主事がそれぞれの分野を担当しているが、それらの事項に関しても校長が最終的に決定する。

校長の意思決定を助けるために、副校長と主事、事務部長、それに校長が指名した教授数名で構成される企画会議(資料11-1-①-1)と、これらメンバーに学科主任(一般科目を含む)、技術支援室長を加えた運営委員会(資料11-1-①-2)とが設置されている。企画会議では教員人事について審議するとともに、将来構想等重要案件の原案を作成し運営委員会に提案している。運営委員会では企画会議より提案された案件を含む学校運営全般に関することについて審議している。

各主事の下には教務委員会、厚生補導委員会、学寮委員会が配置され、それぞれの担当分野に関する議論を行っている。また、専攻科長、各センター長の下にはそれぞれ専攻科委員会、各センターの委員会が配置されている。(資料2-2-①-1参照)

資料11-1-①-1 企画会議規則

和歌山工業高等専門学校企画会議規則

制 定 平成11年4月1日

最近改正 平成18年4月1日

(趣旨)

第1条 この規則は、和歌山工業高等専門学校組織規則第9条第2項に基づき、和歌山工業高等専門学校企画会議(以下「企画会議」という。)の設置等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 企画会議は、校長の諮問に応じ、教員人事に関する事項について審議し、校長の決定のもとに運営委員会に報告するものとする。

2 その他学校運営に関する重要事項について審議し、運営委員会に提案するものとする。

(組織)

第3条 企画会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 校長
- 二 副校長
- 三 教務主事
- 四 学生主事
- 五 寮務主事
- 六 専攻科長
- 七 事務部長
- 八 校長が必要と認めた者

(会議)

第4条 企画会議は、校長が招集し、その議長となる。

2 校長に事故あるときは、副校長がその職務を代行する。

(事務)

第5条 企画会議の事務は、総務課において処理する。

附 則

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成14年6月5日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年9月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 和歌山高専規則集 HP 掲載)

(分析結果とその根拠理由)

学内のすべての委員会等の決定には、校長の同意が必須となっている等、校長が学校運営のすべての責任を負っていることが明確になっている。校長を補佐するために副校長および教務、学生、寮務の主事を配置し、校長の了解の下で各分野を担当している。企画会議では教員人事について審議するとともに、重要案件の原案を作成して運営委員会に提案している。運営委員会では企画会議から提案されたことを含め学校運営全般に関することについて審議している。そしてこれらの審議・決定事項のすべては校長の承認の下に実行に移されている。よって校長、各主事、委員会等の役割が明確で効果的な意思決定を行なっていると同時に、校長がリーダーシップをとれる状況が実現されている。

資料 11-1-①-2 運営委員会規則

和歌山工業高等専門学校運営委員会規則

制 定 平成 5 年 1 月 2 6 日
最近改正 平成 1 8 年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、和歌山工業高等専門学校組織規則第 7 条第 2 項の規定に基づき、和歌山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、校長の諮問に応じ、本校の円滑な運営を図るため、次の重要事項について具体的方策を審議する。

- 一 学生の入学（入学者選抜に関することを含む。）及び卒業に関すること。
- 二 学生の教育及び生活に関すること。
- 三 学寮に関すること。
- 四 各学科及び一般科目並びに専攻科の運営に関すること。
- 五 中期目標・中期計画に関すること。
- 六 諸規則の制定及び改廃に関すること。
- 七 予算に関すること。
- 八 施設及び設備に関すること。
- 九 その他、学校運営に関すること。

2 委員会は、特に必要ある場合は、各専門委員会等の意見を聴することができる。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 校長
- 二 副校長
- 三 教務主事、学生主事及び寮務主事
- 四 専攻科長
- 五 学科主任及び一般科目主任
- 六 メディアセンター長
- 七 地域共同テクノセンター長
- 八 事務部長
- 九 校長が必要と認めた者

(会議)

第 4 条 委員会は、校長が招集し、その議長となる。

2 校長に事故あるときは、副校長がその職務を代行する。

(委員以外の出席)

第 5 条 委員会は、必要に応じ委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(幹事)

第 6 条 委員会に幹事を置き、総務課長及び学生課長をもって充てる。

(出典 和歌山高専規則集 HP 掲載)

観点11-1-②： 管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。また、危機管理に係る体制が整備されているか。

(観点到に係る状況)

本校は「和歌山工業高等専門学校管理運営規則」に従って、主に教員で構成する委員会と事務組織で管理運営を行っている(資料2-2-①-1参照)。運営委員会は企画会議から提案されたことを含め学校運営全般に関することについて審議している。企画会議は教員人事を審議するとともに、将来展望等の重要案件の原案を作成して運営委員会に提案している。学内の主な委員会としては、各主事が主宰する教務委員会、厚生補導委員会、学寮委員会、専攻科長が主宰する専攻科委員会、各センター長が主宰する地域共同テクノセンター委員会、メディアセンター委員会、ロボット教育センター運営委員会があり、その他には安全衛生委員会、国際交流委員会、人権教育委員会など学校運営を円滑に行うための各種委員会が設置されている。そして、例えば運営委員会は総務課総務企画係が、また教務主事が主催する教務委員会は学生課教務係が担当するといったように、学内のすべての委員会には事務担当が定められており、資料作成や記録作成等適切に業務を分担している(資料11-1-②-1)。また予想外の事態が生じたときに、速やかな意思決定と対応ができるように、平成23年には企画会議

資料11-1-②-1 校務分掌表と所掌(抜粋)

| H24年度校務分掌(その2) | | | | |
|--------------------|------|--------|--|--------|
| 委員会名 | 委員長 | 主事補・副等 | 委員名 | 所掌 |
| 企画会議
(リスク管理室兼務) | 堀江校長 | 大久保副校長 | 山川教務主事, 福田学生主事, 野村寮務主事, 藤本専攻科長,
中本テクノセンター長, 森川メディアセンター長, 徳永事務部長 | 総務課長 |
| 運営委員会 | 堀江校長 | | 大久保副校長, 山川教務主事, 福田学生主事, 野村寮務主事,
藤本専攻科長, 北澤知能機械工学科主任, 佐久間電気情報工学科主任,
米光物質工学科主任, 辻原環境都市工学科主任, 宮本一般科目主任,
中本テクノセンター長, 森川メディアセンター長, 山口技術支援室長,
徳永事務部長 | 総務・企画係 |
| 施設マネジメント
委員会 | 堀江校長 | 大久保副校長 | 企画会議メンバー, 総務課長 | 施設係 |
| | | | 施設マネジメント部会
大久保部会長, 坂田, 山吹, 林純, 林和, 中出
総務課長, 総務課長補佐, 施設係長 | |
| 環境マネジメント
委員会 | 堀江校長 | 大久保副校長 | 運営委員会メンバー | 施設係 |
| | | | 環境マネジメント部会
大久保部会長, 中本テクノセンター長, 津田,
竹下, 岸本, 轟巻, 森岡
総務課長, 総務課長補佐, 施設係長,
総務・企画係長, 学生課長, 学生課長補佐 | |

(出典 総務課資料)

のメンバーを構成員としたリスク管理室が発足し(資料11-1-②-2), 不慮の事故等に対応している。さらに年々増している情報に関する危険に対処するために, 情報セキュリティに関する規則を制定し, メディアセンターが担当している(資料11-1-②-3)。

(分析結果とその根拠理由)

本校管理運営規則に従って管理運営を行っている。運営委員会は学校運営全般に関することについて審議している。企画会議は教員人事を審議するとともに, 将来展望等の重要案件の原案を作成して運営委員会に提案している。学内の委員会は所轄事務が定められており, 適切に業務を分担している。

また不測の事態に迅速に対応できるように, 企画会議のメンバーで構成されたリスク管理室を設置し, 情報関連のトラブルに関しても情報セキュリティ管理規則を定め, メディアセンターで一元的に運用している。これらのことから

資料11-1-②-2

和歌山工業高等専門学校危機管理規則

制 定 平成23年5月11日

(目的)

第1条 この規則は、和歌山工業高等専門学校(以下「本校」という。)において発生する様々な事象に伴う危機に迅速かつ的確に対処するため、本校における危機管理体制、対処方法等を定めることにより、本校の学生、職員及び近隣住民等(以下「学生等」という。)の安全確保を図るとともに、本校の社会的な責任を果たすことを目的とする。

(危機管理の対象)

第2条 前条の目的を達成するため、この要領に定める危機管理の対象とする事象(以下「危機事象」という。)は、次の各号の一に該当するものであって、組織的・集中的に対処することが必要な事態とする。

- 一 学生等の安全にかかわる重大な事態
- 二 本校の教育研究等の活動の遂行に重大な支障がある事態
- 三 社会的影響の大きな事態
- 四 本校に対する社会的信頼を損なう事態
- 五 施設管理上の重大な事態
- 六 その他全各号に類するような事態

(危機管理のための校長等の責務)

第3条 校長は、本校における危機管理を統括する責任者であり、危機管理を推進するとともに、必要な措置を講じなければならない。
2 副校長は、校長を補佐し、危機管理の推進に努めなければならない。
3 職員は、危機管理意識をもって、その職務の遂行にあたるものとする。

(リスク管理室の設置)

第4条 本校にリスク管理室を設置する。
2 リスク管理室は、本校の危機管理に関して総括し、危機管理体制の充実に努め、対処に必要な危機管理にあたる。
3 リスク管理室の構成は、次のとおりとする。
一 室長は、校長をもって充て、リスク管理室の業務を統括する。
二 副室長は、副校長をもって充て、室長を補佐する。
三 室員は事務部長及び室長が指名する者をもって充てる。

(リスク管理室の業務等)

第5条 リスク管理室は、次に掲げる業務を行うものとする。
一 想定される危機に関する危機事象に関する情報(校内外の動向等の情報を含む。)の収集及び分析
二 想定される危機事象の検討、対応策の立案及び実施

(出典 規則集 本校ホームページ)

管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しており、また危機管理に係る体制が整備されており、効果的に活動している。

資料 11-1-②-3

和歌山工業高等専門学校情報セキュリティ管理規則

制定 平成23年7月13日

目次

- 第1章 総則（第1条～第7条）
- 第2章 情報システムの利用（第8条～第12条）
- 第3章 情報の取扱い（第13条～第16条）
- 第4章 物理的及び環境的セキュリティ対策（第17条～第23条）
- 第5章 教育（第24条～第25条）
- 第6章 情報セキュリティインシデント対応及び非常時行動計画（第26条～第30条）
- 第7章 調達、ソフトウェア開発及び外部委託（第31条～第42条）
- 第8章 違反と例外措置（第43条～第44条）
- 第9章 評価、見直し及び監査協力（第45条～第50条）
- 第10章 その他（第51条～第53条）

第1章 総則

（目的）

- 第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構和歌山工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ対策に関する全般的事項および管理的事項を定めることにより、情報セキュリティの維持向上に資することを目的とする。
- 2 情報セキュリティ対策に関する専門的及び技術的な事項については、別に定める情報セキュリティ推進規則による。

（定義）

- 第2条 この規則における用語の定義は、この規則で定めるものを除き、独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第98号。以下「対策規則」という。）別表及び独立行政法人国立高等専門学校機構情報格付規則（機構規則第99号）の定めるところによる。

（適用範囲）

- 第3条 この規則を適用する情報資産の範囲は、機構が扱う情報及び本校の情報システムとする。
- 2 本校の情報システムの範囲は、別表1のとおりとする。
- 第4条 本校の教職員の範囲は、別表2のとおりとする。
- 2 本校の学生の範囲は、別表3のとおりとする。
- 3 本校の教職員、学生、及び第9条第1項に基づき情報資産を本校の業務遂行を目的

1

（出典 規則集 本校ホームページ）

観点11-2-①： 自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、その結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

日々の教育については教務委員会が所掌し、学生により良い教育を提供できるように計画（シラバス）、実施（授業）、点検（進捗報告書、試験）、修正（教務委員会）のPDCAループを形成し、日々改善に努めている。このループが機能しているかどうかをチェックするために、和歌山高専教育点検委員会規則（資料11-2-①-1）を制定し、それに基づいて外部識者を含むメンバーで構成された教育点検委員会を設置して日々点検活動を行っている（資料11-2-①-2）。この点検結果は、点検委員会議事録および運営委員会議事録として学内LAN上の掲示板に載せて、学内から自由に閲覧で

きるようにしている。

また年度毎の各部署の活動状況、および反省点等の自己点検・評価結果を纏めた年報を毎年発行しており、学内はもとより、広く関係者に配布している（資料11-2-①-3）。また冊子のままの状態ホームページ上に掲載し、自由に閲覧出来るようにして広く社会に公開している（資料11-2-①-4）。

（分析結果とその根拠理由）

教育点検委員会が設置され、学内の教育の状況を常に点検している。その結果は学内の掲示板に掲載され、自由に閲覧できる。また毎年各部署の活動を年報に纏めて、自己点検・評価を行っている。そしてその結果は冊子に纏めて広く配布するとともに、ホームページ上にも掲載誌、その全文を広く社会に公開している。よって基準を満たしている。

資料 11-2-①-1

和歌山工業高等専門学校教育点検委員会規則

制 定 平成18年4月26日
最近改正 平成19年3月20日

（趣旨）
第1条 和歌山工業高等専門学校に教育システム及び教育活動を点検するため教育点検委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（業務）
第2条 委員会は、次の各号に掲げる点検を実施する。
一 教育システムに関する点検
二 教育活動に関する点検
三 その他、委員会が必要と認める点検

（組織）
第3条 委員会は、校長が必要と認めたる者をもって組織する。

（任期）
第4条 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）
第5条 委員会に委員長を置き、校長が任命した者をもって充てる。
2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。（委員以外の者の出席）

第6条 委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。

（事務）
第7条 委員会に関する事務は、学生課教務係において処理する。

（雑則）
第8条 この規則に定めるもののほか、運営に関して必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則
この規則は、平成18年4月26日から施行する。

附 則
この規則は、平成19年3月20日から施行する。

（出典 規則集 本校ホームページ）

資料 11-2-①-2

平成23年度第2回教育点検委員会概要

日 時 平成24年3月13日（火）11時00分～12時00分
場 所 図書館棟2階 第3ゼミナール室
出席者 久保井委員長、溝川教員、若野教員、富上彌託教授、森川学生課長
陪席者 上山教務係長

議 題

1. 今後における委員会の在り方について
久保井委員長より、前回の委員会において意見が挙がった、本委員会において審議すべき事項及び委員会の位置付けについて、校長に相談した結果等（運営委員会の報告）がおこなわれた。
24年度以降の委員会の方針としては、全ての委員会の内容を本委員会で確認するのは困難であるため、24年度からは各委員会より本委員会で点検していただきたい内容を文書形式でご提案いただき、その内容を審議していきたい旨、久保井委員長より提案があり、審議の結果、了承された。なお、現在の状況では、本委員会で審議した内容を反映させるところが全くないことから、審議の都度、校長に報告することとし、本委員会の意見に重きを置いていただくよう依頼することとした。
以上で決定した、委員会システムの流れについて、次回の委員会において審議することとした。また、本委員会には規則が無いことから、委員会規則の制定についても、それを基に今後検討を重ねていくこととした。

2. 成績について
学年末成績判定会の結果により、審議した結果、成績判定会における進級の判定基準と進級規則との間に整合性が取れていないのではないか、また、規則の表現が曖昧であるため、先生方によって理解が違っている現状等について問題提起があった。
以上の問題を解消するためにも、規則の見直しをすべきではとの意見が挙がったが、規則で数値等を明確にしたため、教育上における裁量の余地が残らないような規則になってしまうと、それも相応しいものであるとはいえないため、今後、慎重に規則等の見直しについて検討をしていただくよう依頼をおこなうことが決定された。

3. 24年度第1回の教育システム点検委員会を、4月頃に開催することにした。

以 上

（出典 総務課資料）

資料 11-2-①-3 年報配布先リスト

平成22年度アニュアルレポート配布先一覧

| 宛先 | 部数 | 備考 |
|---------------|-------|------------|
| 文部科学省専門教育課 | 3 | |
| 高専機構本部 | 3 | |
| 長岡技術科学大学 | 1 | |
| 豊橋技術科学大学 | 1 | |
| 和歌山県企画部 | 3 | |
| 和歌山県工業技術センター | 3 | |
| 国立国会図書館 東京本館 | 5 | |
| 国立国会図書館 関西館 | 5 | |
| 和歌山県立図書館 | 3 | |
| 御坊市総務課 | 3 | |
| 御坊商工会議所 | 3 | |
| 和歌山高専産官学技術交流会 | 50 | |
| 南紀熊野産官学技術交流会 | 50 | |
| 国立私立高等専門学校 | 61 | |
| 近畿地区国立大学等 | 15 | |
| 名誉教授(非常勤講師除く) | 23 | |
| 非常勤講師 | 62 | |
| 学内(非常勤職員除く) | 123 | |
| その他 | 27 | 新聞社等 |
| 来客用 | 150 | |
| 父兄 | 881 | 留学生含む、兄弟重複 |
| 予備 | 25 | |
| 、合計 | 1,500 | |

（出典 総務課資料）

資料 11-2-①-4 ホームページに掲載した年報（抜粋）

刊行物

Information

 Annual Report 2010
(平成22年度年報)

 平成23年度学校要覧

 Annual Report 2009
(平成21年度年報)

 平成22年度学校要覧

 平成22年度環境報告書

 Annual Report 2008
(平成20年度年報)

 平成21年度学校要覧

 平成21年度環境報告書

(出典 本校ホームページ)

観点11-2-②： 自己点検・評価の結果について、外部有識者等による検証が実施されているか。
(観点に係る状況)

和歌山大学システム工学部長を委員長とし、地元企業関係者等、外部の有識者で構成する諮問委員会（資料11-2-②-1）を毎年開催しており（資料11-2-②-2）、その際には年報を事前に配布し、年報の内容を含む学校活動の種々の事柄について意見を求めている（資料11-2-②-3）。

資料 11-2-②-1

平成23年度和歌山工業高等専門学校諮問委員名簿

| (敬称略・五十音順) | | | |
|--------------------|-------------------------------|--------|----|
| | 所属・役職 | 氏名 | 備考 |
| 委員長 | 和歌山大学 システム工学部長 | 木村 恵一 | |
| 委員 | 和歌山工業高等専門学校同窓会 会長 | 上野山 博実 | |
| | 和歌山県工業技術センター 所長 | 諸川 孝治 | ※ |
| | クオリティ株式会社 代表取締役会長 | 浦 聖治 | ※ |
| | 印南町立印南中学校 教頭 | 大野万 里子 | |
| | 和歌山県中学校長会 会長
和歌山市立西浜中学校長 | 岡 利 敬 | ※ |
| | 大阪大学大学院 工学研究科長 | 掛下 知行 | ※ |
| | 和歌山県 企画部長 | 柏原 康文 | ※ |
| | 御坊市長 | 柏木 征夫 | ※ |
| | 本州化学工業㈱ 取締役(研究・知的財産担当、総合研究所長) | 塩見 泰一 | |
| | 和歌山工業高等専門学校後援会 会長 | 野村 英雄 | |
| | 中紀精機株式会社 代表取締役社長 | 林 俊 男 | |
| | 精島精機製作所 取締役 総務人事部長 | 藤 田 紀 | |
| 精紀陽銀行 専務取締役営業推進本部長 | 米 坂 享 | | |
| 豊橋技術科学大学 学長補佐 | 若 原 昭 浩 | ※ | |

※印は都合により委員会を欠席される委員

(出典 総務課資料)

資料 11-2-②-2 諮問委員会開催案内

和 高 専 総 第 9 号
平 成 24 年 2 月 21 日

和歌山大学 システム工学部長
木 村 恵 一 様

和歌山工業高等専門学校長
堀江 振一郎

平成23年度和歌山工業高等専門学校諮問委員会の開催について（ご案内）

お忙しい中、本校の諮問委員をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。
つきましては、下記のとおり平成23年度和歌山工業高等専門学校諮問委員会を開催いたしますので、ご出席をお願いいたします。委員会当日は下記の項目について学校より説明申し上げた上で、委員の皆様にご意見をいただきたいと思っております。
なお、本件にかかる旅費につきましては、本校にて負担いたしますことを申し添えます。お手数ですが、添付の「交通手段確認票」及び「代金銀行口座振込請求書」に必要事項を記載の上、本校総務課総務・企画係あてにご返送願います。

記

【日 時】 平成24年3月6日(火) 14:00~14:20 校内見学
14:30~16:30 諮問委員会

【場 所】 和歌山工業高等専門学校 会議室

【テーマ】 1.『キャリア教育の充実と進路について』
2.『学校の防災教育と地域との連携について』

【学校側出席予定者】

校長、副校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、地域共同テクノセンター長、メディアセンター長、事務部長

(陪席者)

知能機械工学科主任、電気情報工学科主任、物質工学科主任、環境都市工学科主任、国際交流委員会委員長、総務課長、総務課長補佐、学生課長、学生課長補佐

【同封資料一覧】

・平成23年度和歌山工業高等専門学校諮問委員名簿

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

自己点検結果を記載した年報を外部の有識者で構成される諮問委員会委員に送付している。出された意見や改善点は運営委員会に報告し、改善等、必要な対策を行い、その結果を運営委員会に報告しており、自己点検・評価の結果は外部有識者による検証が行われている。

資料 11-2-②-3 諮問委員会案内と送付資料

事務連絡
平成 24 年 2 月 1 日

国立大学法人大阪大学
総務部人事課 御中

平成 23 年度和歌山工業高等専門学校諮問委員会委員の委嘱依頼及び兼業依頼について送付しますので、よろしくお取り計らい願います。
また、下記の本校関係資料を併せて送付させていただきますので、掛下知行 工学研究科長・工学部長にお渡し下さるよう、よろしくお取り計らい願います

記

- 1 和歌山高専の概要
- 2 和歌山工業高等専門学校諮問委員会設置要項
- 3 平成 23 年度和歌山工業高等専門学校諮問委員名簿 (案)
- 4 諮問委員会報告書 (平成 22 年度)
- 5 学校要覧
- 6 教員シーズ集 (平成 23 年度)
- 7 和歌山高専平成 22 年度年報

(本件担当)
和歌山工業高等専門学校
総務課 総務・企画係 吉野眞一
〒644-0023 御坊市名田町野島 77
TEL 0738-29-8212
FAX 0738-29-8216
s:soumu@wakayama-nct.ac.jp

(出典 総務課資料)

観点11-2-③： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

(観点に係る状況)

諮問委員会や教育点検委員会で指摘された事項は、運営委員会で報告され(資料11-2-③-1)、早急に改善する必要がある事柄や、緊急ではないが改善しなければならない事柄等に分けて、担当部署で対処している。必要な対策や改善を行った後に、再び運営委員会に報告される。またその結果は次回の諮問委員会の冒頭で諮問委員にも報告されている(資料11-2-③-2)。この様子は諮問委員会報告書として冊子に纏めて、学内外に広く公開している。

(分析結果とその根拠理由)

外部有識者の意見を聞くための諮問委員会規定を策定し、年に1回以上委員会を開催している。諮問委員からの指摘事項は、運営委員会をはじめ、学内の委員会等で報告され、各担当部署で検討、改善を行い、運営委員会へ報告している。それらの結果は次回の諮問委員会で諮問員に報告している。このシステムで幾つかの改善が既に行われており、評価結果がフィードバックされるシステムが構築され、有効に運営されている。

資料 11-2-③-1

第23回運営委員会議事概要

- 1 日 時 平成24年2月1日(水) 9:30~11:35
- 2 場 所 特別会議室
- 3 出席者 堀江 振一郎(校長) 大久保俊治(副校長) 徳永富士夫(事務部長)
 山川文徳(教務主事) 福田 匡(学生主事) 野村英作(寮務主事)
 藤本 晶(専攻科長) 北澤雅之(知能機械工学科主任) 佐久間敏幸(電気情報工学科主任)
 米光 裕(物質工学科主任) 辻原 治(環境都市工学科主任) 宮本克之(一般科目主任)
 中本純次(総務課テクニカルセンター長) 森川 寿(メディアセンター長) 山口利幸(技術支援室長)

特別出席者 久保井 利達(教育システム点検委員会委員長:議題8のみ)

～～中略～～

(8) 教育システム点検委員会における議論について

教育システム点検委員会委員長が出席し、資料8に基づき、次の事項につき、意見交換をした。

① JABEE 対応策について

PDCA のチェックはされるがアクションがされているか疑問であること、また当委員会へ関連する資料の提出がないためチェックが出来ないとの意見があったと報告された。

これに対し、提出物のチェックなど各委員会と同じ作業を行うのではなく、各委員会のチェック機構が正常に働いているかのチェックをすることが重要なのでは、との意見があった。

② 教育システム点検委員会の本校での位置づけについて

昨年度に当委員会から提案した事項の回答が無く、本校としての位置づけとして不明確であり、規則など修正が必要ではないかとの意見があったと報告された。

これについて、教育システム点検委員会からの意見が各委員会に伝わっていなかったことを、運営委員会として反省し、今後各委員会への反映を検討することが確認された。

なお、学生相談室及び学生指導支援室の位置づけについて、厚生補導委員会と教育システム点検委員会での扱いが異なることから、今後の検討が必要であることが併せて確認された。

(出典 運営委員会議事録)

観点11-3-①： 外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点到に係る状況)

外部の有識者で構成される諮問委員会(資料11-2-②-1)を年に1回以上開催し(資料11-2-②-2)、学校に対して自由な意見を出して貰っている。また教育点検委員会に教員OBを中心とした外部委員にも入ってもらって、より客観的な意見を貰えるように配慮している(資料11-3-①-1)。さらに企業との面談時には、意見交換の内容を企業面談時には、企業担当者からの意見を記録して共有している(資料11-3-①-2)。諮問委員会で出された意見や学生からのアンケート結果、それに保護者からの意見等は運営委員会で報告され(資料11-3-①-3)、担当部署で検討・改善を行っている。

資料 11-3-②-2 諮問委員会報告書抜粋
(表紙)

平成22年度
和歌山工業高等専門学校
諮問委員会報告書

平成23年9月
和歌山工業高等専門学校

(前回指摘事項に対する報告箇所)

堀江校長から、昨年度出された意見への学校の対応状況等が説明された。

【堀江校長】
私は昨年と同様に、前回の諮問委員会における委員の先生からの意見について、どのように動いたかについて説明しますが、今日のそれぞれの主事からの説明はそれ自体が今動いている内容になっていますので、私からは包括的に簡単にまず昨年いらした先生方に思い出して頂くという意味で、短く話させていただきます。

- 6 -

(出典 第2回諮問委員会報告書)

資料 11-3-①-1 平成24年度校務分掌

| | | | | |
|---------------------|---------|------------|---------------------------|--------|
| 学生相談室
(男女共同参画担当) | 後藤室長 | | 学生相談室員(除カウンセラー)、総務課長、学生課長 | 学生課長補佐 |
| 教育システム点検委員会 | 久保井委員長 | | 溝川、若野囑託教授、高木名誉教授、学生課長 | 教務係 |
| ロボット教育
WG | 山口センター長 | 西本主、徳永事務部長 | 岩本、岡本、伊勢、吉田、眞田 | 総務・企画係 |

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

諮問委員会を通じて、外部有識者の意見を積極的に取り入れており、それに対する改善を行っている。また企業担当者との面談時にも企業担当者からの意見を記録し、共有している。さらに教育点検委員に外部委員を入れて、より客観的な意見を得られるようにしている。これらのことから、外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されている。

資料 11-3-①-2

企業面談記録 (専攻科)

| | | | | |
|-----------------|---|--|--------|-----|
| 会社名 | D株式会社 | | 電話(06) | — |
| 面談者 | 企業側(役職・氏名) | 人事部 | 学校側 | 大久保 |
| 日時 | 12月10日 | 14時40分~ | 15時10分 | |
| 企業概要 | 所在地 | 1.本社県内 2.本社県外・工場等県内 3.県外 | | |
| | 業種 | 1.機械系製造業 2.電気機器製造業 3.電子系製造業 4.化学系製造業
5.電力・ガス・鉄道 6.建設業 7.情報処理 8.コンサルタント
9.バイオ系製造・開発 10.農業系 11.独立行政法人
(その他:) | | |
| 求人人数
(採用予定数) | 和高等学校 1名、専攻科修了生 1名、メカ1名、エコ 名
(脚注での採用予定数2名(大卒・院含む) その内和高等学校 名) | | | |
| 求人職種 | 1.施工管理 2.製造 3.設計 4.研究開発 5.生産技術 6.保守管理 7.営業技術
8.ソフトウェア開発 9.システムエンジニア 10.サービスエンジニア 11.営業・販売
12.公務員 12.その他() | | | |
| 願書〆切 | 指定: 月 日 時 | あるいは 随時可能 | | |
| 試験日程 | 指定: 4月1日以降(一次選考) | あるいは 随時可能 | | |
| 試験科目 | 1.筆記 2.面接 3.適性 4.作文 5.その他() | | | |
| 高専卒業生
採用実績 | 1.有(分)から範囲で人数 名、その内和高等学校 1名
2.無 | | | |
| 専攻科修了生
採用実績 | 1.有(分)から範囲で採用実績ある場合の人数 名)和高等学校 1名
2.無 | | | |
| 夏期実習受入 | 本年度 1.可 2.検討する 3.不可 | | | |
| 採用専攻科修了生について | 1.専攻科修了生は、大学卒に比べて、技術者としての能力(レベル)はどうでしょうか?
(高い、やや高い、 <input type="checkbox"/> ほぼ同、 やや低い、 低い)
2.専攻科修了生は、将来的に海外で活躍できる業種があるでしょうか?
(高い、やや高い、 <input type="checkbox"/> ほぼ同、 やや低い、 低い)
3.専攻科修了生の総合的な能力は、他の大学卒に比べて、十分であるといえますか?
(高い、やや高い、 <input type="checkbox"/> ほぼ同、 やや低い、 低い)
4.高等教育で特に期待されている能力があれば、お教えください。
(社内教育でしかりやるので、専攻科生も問題なし) | | | |
| 備考 | | | | |

(出典 専攻科委員会資料)

資料 11-3-①-3

第6回運営委員会議事概要

- 日時 平成23年6月1日(水) 9:30~10:55
- 場所 特別会議室
- 出席者 堀江 振一郎(校長) 大久保俊治(副校長) 徳永富士夫(事務部長)
山川文徳(教務主事) 福田 匡(学生主事) 野村英作(寮務主事)
藤本 晶(専攻科長) 北澤雅之(知能機械工科学主任) 佐久間敏幸(電気情報工科学主任)
米光 裕(物質工科学主任) 辻原 治(環境都市工科学主任) 宮本克之(一般科目主任)
中本純次(健康開発センター長) 森川 寿(メディアセンター長) 山口利幸(技術支援室長)

〜〜中略〜〜

- (2) 平成23年度保護者授業参観アンケート結果について
教務主事から、資料4に基づき、昨年度に比べ、授業参観に参加した保護者は79名増え、アンケート回答数は130以上増えた旨、授業に対する悪い印象が減った旨、報告があった。

(出典 運営委員会議事録)

観点11-3-②: 学校の目的を達成するために、外部の教育資源を積極的に活用しているか。
(観点に係る状況)

和歌山高専の地元の和歌山大学をはじめ、大阪大学、近畿大学九州理工学部等と協定を結び、卒業生および修了生の便宜を図っている。また地元和歌山県教育委員会と協定を結び、県立高等学校からの編入学生を積極的に受け入れている。さらに学生が海外の文化に触れ、国際性を養えるように、中国上海市の上海電機学院と協定を結び、毎年短期留学を相互に行っている(資料11-3-②-1)。

またOBに登録して貰っ

資料 11-3-②-1 協定一覧

| No. | 管理 | 対象機関 | 種別 | 締結日 | 協定期間 | 満了日 |
|-----|----|--|------|------------|-------|------------|
| | | 協定書正式名称 | | | | |
| | | 上海電機学院 | 協定書 | 2011/3/23 | 5力年 | 2016/3/22 |
| 1 | 1 | 和歌山工業高等専門学校と上海電機学院との学生交流に関する協定書 | | | | |
| | | 成都電子機械高等専科学校および成都航空職業技術学院 | 協定書 | 2011/9/13 | 5力年 | 2016/9/12 |
| 2 | 2 | 近畿4高専と成都2校との間の学術交流協定書 | | | | |
| | | 大阪大学工学部・大学院工学研究科 | 協定書 | 2011/3/29 | 5力年 | 2016/3/28 |
| 3 | 11 | 大阪大学工学部・大学院工学研究科と和歌山工業高等専門学校との間における教育研究交流に関する協定書 | | | | |
| | | 大阪大学工学部・大学院工学研究科 | 覚書 | 2009/3/19 | 5力年 | 2014/3/31 |
| 4 | 11 | 大阪大学工学部・大学院工学研究科から和歌山工業高等専門学校への実習生派遣に関する覚書 | | | | |
| | | 大阪大学基礎工学部・大学院基礎工学研究科 | 協定書 | 2007/10/30 | 5力年 | 2012/10/29 |
| 5 | 12 | 和歌山工業高等専門学校と大阪大学基礎工学部・大学院基礎工学研究科との間における教育研究交流に関する協定書 | | | | |
| | | 大阪大学基礎工学部・大学院基礎工学研究科 | 覚書 | 2007/10/30 | 4.5力年 | 2012/3/31 |
| 6 | 12 | 和歌山工業高等専門学校から大阪大学基礎工学部・大学院基礎工学研究科への実習生派遣に関する覚書 | | | | |
| | | 京都大学工学部 | 協定書 | 2007/3/28 | 5力年 | — |
| 7 | 13 | 京都大学工学部と近畿地区国立高等専門学校との間における教育研究交流に関する協定書 | | | | |
| | | 京都大学工学研究科 | 協定書 | 2007/3/28 | 5力年 | — |
| 8 | 14 | 京都大学工学研究科と近畿地区国立高等専門学校との間における教育研究交流に関する協定書 | | | | |
| | | 和歌山大学システム工学部 | 協定書 | 2012/3/22 | 5力年 | 2017/3/31 |
| 9 | 15 | 和歌山大学システム工学部と和歌山工業高等専門学校との第3年次編入学の情報提供に関する協定書 | | | | |
| | | 和歌山大学システム工学研究科 | 協定書 | 2012/3/22 | 5力年 | 2017/3/31 |
| 10 | 16 | 和歌山大学大学院システム工学研究科と和歌山工業高等専門学校との大学院入学者選抜の学校推薦に関する協定書 | | | | |
| | | 和歌山大学システム工学研究科 | 取扱要領 | 2012/3/22 | — | — |
| 11 | 16 | 和歌山大学大学院システム工学研究科と和歌山工業高等専門学校との大学院入学者選抜の学校推薦に関する取扱要領 | | | | |
| | | 早稲田大学大学院情報精算システム研究科 | 覚書 | 2008/3/31 | 5力年 | 2013/3/30 |
| 12 | 17 | 早稲田大学大学院情報精算システム研究科と和歌山工業高等専門学校の推薦入学に関する覚書 | | | | |
| | | (財)大阪科学技術センターと近畿地区高専 | 覚書 | 2011/3/31 | 1力年 | — |
| 13 | 30 | (財)大阪科学技術センターと近畿地区高専との産学連携事業実施に係る覚書 | | | | |
| | | 高等教育機関コンソーシアム和歌山 | 協定書 | 2004/3/5 | — | — |
| 14 | 31 | 単位互換に関する包括協定書 | | | | |
| | | 高等教育機関コンソーシアム和歌山 | 覚書 | 2004/3/5 | 5力年 | 2009/3/4 |
| 15 | 31 | 単位互換に関する包括協定書についての覚書 | | | | |
| | | 紀陽銀行 | 協定書 | 2008/3/3 | 1力年 | — |
| 16 | 32 | 連携協力に関する協定書 | | | | |
| | | 和歌山県教育委員会 | 協定書 | 2007/11/8 | 5力年 | 2012/11/7 |
| 17 | 33 | 和歌山工業高等専門学校と和歌山県教育委員会との連携協力に関する協定書 | | | | |

(出典 総務課資料)

資料11-3-②-2 企業実践講座の講師陣（平成22年度 1～7回）

| 講義日 | 【第1回】
10月5日(水) | 【第2回】
10月12日(水) | 【第3回】
10月19日(水) | 【第4回】
10月26日(水) | 【第5回】
11月12日(水) | 【第6回】
11月9日(水) | 【第7回】
11月16日(水) |
|--------|--|--------------------------|-----------------------------|--|---------------------------|--------------------------|----------------------------|
| 講義テーマ | 和歌山県の現状
(業種別景気動向等) | 企業活動の概要
(企業理念・公益性) | 企業組織の概要(取締役会、
事業部制・部課制等) | 起業するには
(資金、従業員、届け出等) | 製品開発の手法と実際(Ⅰ) | 製品開発の手法と実際(Ⅱ) | 工場生産の実際 |
| 企業名 | (財)和歌山社会経済研究所 | 中野BC株式会社
代表取締役社長 中野幸生 | 協和プレス工業株式会社
代表取締役社長 野村社吾 | 株式会社エスアールアイ
代表取締役社長 浦聖治 | 株式会社紀州ほそ川
代表取締役社長 細川清 | 大洋工業株式会社
代表取締役社長 細江美則 | 紀州技研工業株式会社
代表取締役社長 釜中甫干 |
| 企業所在地 | 〒640-8033
和歌山市本町2丁目1番地
フォルテレジマ6階 | 〒642-0034
海南市藤白758-45 | 〒649-6503
紀の川市長田中345-7 | 〒649-2211
西牟婁郡白浜町83-68
株式会社エスアールアイ | 〒645-0022
日高郡みなべ町晩稲889 | 〒640-8390
和歌山市有本661 | 〒641-0015
和歌山市布引1466 |
| 講師職・氏名 | 主任研究員 藤代 正樹 | 代表取締役社長 中野幸生 | 代表取締役社長 野村社吾 | 代表取締役社長 浦聖治 | 研究開発室長 切目安昭 | 研究開発部次長 浅井頼明 | 専務取締役 釜中眞次 |

(出典 学生課資料)

て、公開講座や出前授業等への支援をして貰う「和歌山高専人材バンク」を立ち上げて、活動を続けている。さらに地元企業のトップを講師に招聘した「企業実践講座」を第4学年に配置し（資料11-3-②-2）、企業からの生の声を学生に伝えられるように配慮している。

(分析結果とその根拠理由)

和歌山大学等の大学と交流協定を結び、卒業生、修了生の便宜を図っている。また和歌山県教育委員会とも協定を結び、編入学生の受け入れを積極的に行っている。またOBに登録して貰い、種々のイベント等を支援して貰う人材バンクを立ち上げて、運用を続けている。さらに企業のトップを講師に招いた授業を行い、企業の声が学生に直接届くように配慮している。

観点11-4-①： 高等専門学校における教育研究活動等の状況や、その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

(観点到に係る状況)

学校の教育・研究等のすべての活動は、毎年年報に纏めて各方面に配布するとともに（資料11-2-①-3参照）ホームページ上からもすべての内容を閲覧できるようにしている（資料11-2-①-4参照）。また「地域共同テクノセンター広報」、「図書館だより」等各部門で活動を冊子に

資料11-4-①-1 平成22年度の本校関係の記事件数（本校確認分）

平成22年度新聞記事掲載実績（平成23年4月1日本校確認分）

| 平成 | 月 | 文教
ニュース | 文教
速報 | 文教
計 | 朝日
新聞 | 毎日
新聞 | 読賣
新聞 | 産経
新聞 | 全国紙
計 | 紀州
新聞 | 日高
新報 | 2・1
紀州 | 紀伊
民報 | わかや
ま新報 | 地元紙
計 | 熊野
新聞 | 紀南
新聞 | 生活
ニュース | 紀南
計 | その他 | 合計 | |
|-----|-----|------------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|----------|------------|----------|----------|----------|------------|---------|-----|----|----|
| 22年 | 4 | 2 | 8 | 10 | | 1 | | | 1 | 10 | 12 | 2 | 1 | 2 | 27 | | 7 | | 7 | | 45 | |
| | 5 | 4 | 8 | 12 | 3 | 1 | 2 | 2 | 8 | 14 | 14 | 2 | 2 | 5 | 37 | | 5 | | 5 | | 62 | |
| | 6 | 1 | 6 | 7 | 1 | | 2 | 1 | 4 | 15 | 15 | | 1 | 7 | 38 | | 8 | | 8 | | 57 | |
| | 7 | 1 | 9 | 10 | | 2 | 4 | 1 | 7 | 18 | 18 | | 2 | 1 | 39 | | 5 | | 5 | | 61 | |
| | 8 | | 6 | 6 | 1 | | | | 1 | 11 | 12 | 1 | 3 | 1 | 28 | | 10 | | 10 | 1 | 46 | |
| | 9 | 1 | 6 | 7 | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 | 7 | 9 | 2 | 1 | 1 | 20 | 1 | 4 | | 5 | | 40 | |
| | 10 | 2 | 5 | 7 | | | | | 1 | 10 | 18 | 1 | 1 | 4 | 34 | | 3 | | 3 | | 45 | |
| | 11 | 2 | 18 | 20 | | | | | 0 | 11 | 13 | 2 | 1 | | 27 | | 5 | | 5 | | 52 | |
| | 12 | 2 | 8 | 10 | 1 | | 2 | | 3 | 10 | 11 | | 1 | 2 | 24 | | 3 | | 3 | | 40 | |
| | 23年 | 1 | 1 | 5 | 6 | 1 | 1 | 2 | 2 | 6 | 14 | 17 | | | 6 | 37 | | 9 | | 9 | | 58 |
| | | 2 | | 6 | 6 | | | | | 0 | 5 | 10 | | 3 | 2 | 20 | | 2 | | 2 | | 28 |
| | | 3 | | 3 | 3 | | | | | 1 | 9 | 9 | | | | 18 | | 2 | | 2 | | 24 |
| 合計 | 16 | 88 | 104 | 9 | 7 | 14 | 10 | 40 | 134 | 158 | 10 | 16 | 31 | 349 | 1 | 63 | | 64 | 1 | 558 | | |

*南紀州新聞は、22.5.1に熊野新聞に改称された。

(出典 平成22年度年報)

資料 11-4-①-2 じゃばらスイーツに同封されている葉

| | | | |
|---|--|---|--|
| <p>和歌山高専とじゃばら</p> <p>「じゃばら」の名前を知って聞いたとき、「乾煎」をイメージしました。果実の「じゃばら」は、そのくらい乾燥のものでした。そのじゃばらにアレルギー性鼻炎や花粉症等に効果のある成分が含まれていると聞き、興味を持ったのが始まりです。</p> <p>この果実成分はじゃばらの皮に多く含まれていますが、皮には独特の苦みや酸味があり、ほとんど利用されては来ていません。この苦みや酸味を取り除いて、菓子に利用したのが「わかゆいぬ」と「ナルリッチ」です。やや独特な味で、好まれる人もありますが、「じゃばら」を食べることでじゃばらの効果である「邪を払う」ことができ、そして鼻炎や花粉症にも効果があるとなれば、試してみたい価値は十分ありそうです。わかゆいぬ」や「ナルリッチ」菓子を食べていたことで保護者も生かすこともできる効果。開発に関わった者として、和歌山高専を助けたことに感謝し、思いを込めて「じゃばら」をこめて作っています。</p> <p>和歌山工業高等専門学校 藤本 晶</p> | <p>製造元</p> <p>焼きたてのパン サンタ</p> <p>〒649-5331 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町朝日 2-239
TEL. 0120-043-274
HP http://www.pan-santa.jp/</p> <p>開発協力</p> <p>和歌山工業高等専門学校</p> <p>〒644-0023 和歌山県東牟婁郡市田町野島 77
TEL. 0738-29-2301 FAX. 0738-29-8216
http://www.wakayama-nct.ac.jp/</p> |  <p>Wakayama National College of Technology</p> | <p>じゃばらのお話</p> <p>紀伊半島の中部部、奥深い山あいの和歌山県北山村にしかない果実です。じゃばらとは、ユズやダイダイ、カボチャの仲間。柑橘類。ユズよりも果汁が豊富で、ユズやダイダイとは違った風味があり、酸味と酸味のバランスのとれた、まろやかな風味が特徴です。「邪（あく）を払う」ところからこの名前がつけられており、村では昔から正月料理に欠かせないものです。</p> <p>じゃばらとスイーツ</p> <p>独自の製法で、じゃばら皮の苦味を軽減し酸味を生かして厳選された材料にこだわり、素材の新しい風味を引き出し今までにない焼きのスイーツが出来上がりました。ぜひお菓子のじゃばらワールドをお楽しみ下さい。</p> |
|---|--|---|--|

(出典 焼きたてのパンサンタ資料)

資料 11-4-①-3 南紀田辺のうつつぼくしマップ

美味×美肌=うつつぼ!?

コラーゲンたっぷり! うつつぼ料理

うつつぼは和歌山県南部では古くから食され、滋養強壮に良いと言われていました。そして最近の実験結果から、うつつぼの皮にはコラーゲンが約20%とたくさん含まれていることが分かってきました。食品や化粧品などに広く利用されている「フィッシュコラーゲン」は、一般に希少でとても高価なものです。それに比べうつつぼの場合は、安くても美味しくコラーゲンを摂取することができます。

一方、橙（だいだい）の果汁は酸味が強く、加熱殺菌をしてもビタミンCの多くが残ります。ビタミンCはコラーゲンと関わりが深く、体内で正常なコラーゲンを合成するためには不可欠なものです。つまり、うつつぼと橙と一緒に食べると「フィッシュコラーゲン」が補えるばかりが、体内のコラーゲンをきれいにするにつながりやす。

和歌山工業高等専門学校 教授 土井 正光

美味さを創る橙-ダイダイ-

70 品種以上の柑橘類を生産する田辺市上秋津地区。橙（だいだい）も数多く栽培され、全国トップクラスの生産量を誇ります。多くはお正月のしめ飾りや鏡餅のお飾り用として出荷されますが、一部はポン酢などの酢みかん等として果汁が利用される他、マーマレード原料としても使われています。最近では果汁を焼酎や梅酒に合わせると、酸味と風味がとても美味しいということで人気が出ています。熟した果実は落ちにくく、次の年まで残ることがあることから、ダイダイ(代々) 続く縁起物として古くから珍重されてきた果実です。

※1996年の統計によると和歌山県が生産量日本一。県内では田辺市が一番多く、多くが上秋津で生産されています。



● うつつぼの旬の時期はおおむね11月～3月です。取り扱いは、紹介されているお店にお問い合わせ下さい。
田辺商工会議所 地域資源⇨全国展開プロジェクト 〒646-0033 和歌山県田辺市新屋敷町1番地 TEL.0739-22-5069 FAX.0739-25-2783
協力/南紀みらい株式会社 〒646-0031 和歌山県田辺市湊 919-6 TEL.0739-25-8230 (平日9:00～17:00) ホームページ <http://nanki-mirai.jp> Eメール info@nanki-mirai.jp

(出典 田辺商工会議所パンフレット)

纏めて積極的に公表している。さらに学内の出来事やイベント等の情報は、広報委員会が積極的に外部に向かって発信しており、平成22年度には558件の本校関係の記事が新聞紙面に掲載されている(資料11-4-①-1)。

和歌山県特産果実である「じゃばら」の果皮を使ったスイーツを企業と共同開発し、和歌山高専ブランドである「ナルリッチ」ブランドで販売し(資料11-4-①-2)、また同じく和歌山県の特産であるウツボに含まれる「フィッシュコラーゲン」を用いて商品開発を行う等(資料11-4-①-3) 研究成果を積極的に外部に発信している。

(分析結果とその根拠理由)

和歌山大学他の大学と交流協定を結び、卒業生、修了生の便宜を図っている。また和歌山県教育委員会とも協定を結び、編入学生の受け入れを積極的に行っている。またOBに登録して貰い、種々のイベント等を支援して貰う人材バンクを立ち上げて、運用を続けている。さらに企業のトップを講師に招いた授業を行い、企業の声が学生に直接届くように配慮している。

また企業との共同研究の成果を商品に結びつけて、学校ブランドで販売する等、研究開発の成果も積極的に外部に発信しており、学内の教育研究活動の成果や情報を広く社会に発信できている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

校長が学校運営のすべての責任を負い、それを補佐する副校長、教務、学生、寮務の各主事の役割が規則や規程で明確になっている。諮問委員会および教育点検委員会を通じて外部有識者の意見を求めて、それらを公表するとともに運営委員会等で検討し、改善に繋げている。

地元の産業界とも広く交流し、共同研究を推進し、具体的な成果を挙げている。また企業のトップを講師に招いた授業を開講し、交流を続けている。さらにOBに人材バンクに登録して貰い、種々のイベント等を支援して貰っている。

学内の教育研究活動は年報に纏めて、広く社会に公開している。また学内の情報を積極的に報道機関に提供している。さらに企業との共同研究の青果物を学校ブランドで販売する等、教育研究活動を広く社会に発信できている。

(改善を要する点)

諮問委員会等、外部の有識者の意見を改善に繋げる仕組みの図式化がされていない。

(3) 基準11の自己評価の概要

校長が学校運営のすべての責任をおっており、その下で実務を担当する副校長、主事、事務の役割や責任の分担が明確になっている。管理運営に関する規則や規定、各委員会が所掌すべき規則や規定も定められており、大きな問題は見あたらない。教育カリキュラム等について外部有識者の意見を求め、改善に繋げるシステムが整備され、適切に機能している。また企業実践講座や人材バンクを通じて外部の教育資源を有効に活用できている。

さらに学内の教育研究活動を年報等の冊子で公表するとともに学内の情報を報道機関に提供するとともに、共同研究の成果を商品として発売する等、学内の教育研究活動の情報を広く社会に公表し、開かれた学校を実現している。